国立大学法人
東京医科歯科大学
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY

歯学部包括臨床実習 PhaseⅡの手引き

二〇二二年一月

東京医科歯科大学歯学部歯学科

資料4

歯学部包括臨床実習 Phase Ⅱの手引き

2022年11月

東京医科歯科大学歯学部歯学科

目　次

1．はじめに　主席副病院長　　歯学科教育委員長…… 1

2．包括臨床実習心得…… 3
患者個人情報取扱ガイドライン…… 7
医療安全について…… 22
歯科診療部門の手引き…… 29

3．包括臨床実習　PhaseⅡ　実施要領
歯科総合診療科…… 49
歯科放射線科（歯科放射線診断・治療学）…… 51
むし歯科（う蝕制御学）…… 55
歯周病科（歯周病学）…… 57
むし歯科（歯髄生物学）…… 63
義歯科（咬合機能健康科学）…… 76
義歯科（部分床義歯補綴学・全部床義歯補綴学）…… 79
口腔外科外来及び歯科病棟（顎口腔腫瘍外科学・顎顔面外科学）…… 93
歯科麻酔科（歯科麻酔・口腔顔面痛制御学）…… 94
歯科ペインクリニック（歯科麻酔・口腔顔面痛制御学）…… 95
小児歯科（小児歯科学・障害者歯科学）…… 96
矯正歯科（咬合機能矯正学・顎顔面矯正学）…… 97
障害者歯科外来（小児歯科学・障害者歯科学）…… 98
高齢者歯科外来（高齢者歯科学）…… 99
摂食嚥下リハビリテーション科（摂食嚥下リハビリテーション学）…… 100
顎関節症外来（歯科麻酔・口腔顔面痛制御学）…… 101
歯科心身医療科（歯科心身医学）…… 103
口腔インプラント科（口腔再生再建学）…… 104
息さわやか外来（健康推進歯学）…… 105
顎顔面補綴外来（生体補綴歯科学）…… 106
スポーツ歯科外来（咬合機能健康科学）…… 107
医系診療部門放射線治療科（歯科放射線診断・治療学）…… 108
口腔健康管理科（口腔保健学科口腔保健衛生学・歯科衛生保健部）…… 109
薬剤部…… 113
D6－OH4連携実習 …… 114
CAD/CAM実習（口腔保健工学）…… 117
D6－M6連携実習 …… 118

4．包括臨床実習PhaseⅡ履修条件 …… 121

5．包括臨床実習PhaseⅡを進める上での注意点 ……123

6．第１総合診療室……125

7．材料室……129

8．受付および会計……131

1．は　じ　め　に

包括臨床実習は、本学歯学部の創立時から行われてきたカリキュラムであり、平成23年度から始まった新カリキュラムにおいても中核となっています。実習の中でも、第５学年後期のPhaseⅠおよびPhaseⅡ(A)、引き続いて行われる第６学年前期後期のPhaseⅡ(B) はそのほとんどが東京医科歯科大学病院歯系診療部門で行われます。歯科医師免許取得前に行う包括臨床実習として、歯科診療の知識と技術を統合してこれを実践し、さらに患者さんや医療スタッフとのコミュニケーションを経験してその能力を高めることは、卒後における歯科医師としての資質を養うためにも不可欠な課程です。直接患者さんに触れることを通じて歯科医師としての自覚と責任感、さらに将来にわたる職業人としての展望が開けてくることでしょう。なお、第６学年後期のPhaseⅢを含めて、授業計画、履修と試験の規定、および修了認定に関しては各年度の「専門科目教育要項」に記載されるので留意して下さい。

皆さんは、臨床実習開始前の共用試験に合格して包括臨床実習に進みます。平成30年度からは「Student Dentist」の称号を与えることとし、ネームカードにもその称号が付与されています。また、臨床実習の修了要件の一つとして、PhaseⅡ(B)期間に診療参加型臨床実習後共用試験（臨床実地試験、一斉技能試験）が実施されます。身を引き締めて包括臨床実習に臨んで下さい。

また、現在も世界がCOVID-19の渦中にあることは周知の通りであり、病院での実習ではこれまでの授業以上の高いレベルで感染拡大防止対策を講じる必要があります。皆さんが実習に臨むにあたり、拡大防止のためのさまざまなルールを理解し、病院の一員として遵守、実践することを強く強く望みます。

包括臨床実習は、患者さんのご理解と献身的な心によって支えられ、多くの教員や病院スタッフの配慮と指導の下に初めて可能になるカリキュラムです。皆さんはこのことを心に留めて実習に精進して下さい。

東京医科歯科大学病院首席副病院長
歯学科教育委員長

２．包括臨床実習　心得

第１章　全般的心得

第１節　一　般

１．大学病院内において、本学諸規定は勿論、本心得を守り、教職員の指示に従うこと。

第２節　服装・身だしなみ等

１．服装・身だしなみは常に清潔を旨とし、次の諸項を守ること。守らない学生は実習停止とする。

（１）頭髪の色

男性：染色しない。

女性：患者が学生にふさわしいと感じる色にする（いわゆる茶髪にしない）。

（２）頭髪の長さ

男性：側毛は耳にかからないように、後ろ髪は襟にかからないように、きれいに散髪する。

女性：長い髪は束ね、診療中に患者の顔にかからないようにする。

（３）ヒゲは剃り、伸ばさない。

（４）身体は清潔にし、服装は清楚なものとする。臨床実習に協力頂く患者さんの信頼を得やすい服装とすること。避けるべき服装の例：汚れた白衣、洗濯していてもシミが残っている白衣、シワの多い白衣、白衣のボタンをきちんとかけていない。透ける素材のシャツやブラウス、ジーンズ、派手な色の衣類、ミニスカート、ショートパンツ等。医療用パンツを推奨する。着座した時を含み、足の肌が見えないようにする（短いソックスは着用しないこと）。

（５）ピアス、イヤリング、指輪、ネックレス等アクセサリーは着用しない。患者が歯学部学生にふさわしいと感じる眼鏡を着用する。

（６）化粧品は過度に用いない。香水・オーデコロン等は使用を禁止する。

（７）治療室では、実習衣を必ず着用し、実習衣は清潔なスクラブ（黒、紺等の地味な色とすること）・ケーシーとする。また、所定の名札を着用する。スクラブ等の準備ができない場は、暫定的に白の無地のTシャツの着用も認める。但し、Tシャツの上には清潔な白衣ガウンを着用する。白衣の袖は長いものは折り曲げ、肘を出す。白衣ガウンの下にワイシャツ、ネクタイ、ブラウス等の着用を禁止する。（ワイシャツ、ネクタイ、ブラウス等は白衣ガウンを着用していても襟元が露出してしまい、汚染する可能性があるため。）汚染された衣服による院内感染拡大を防止するため、診療時に着用していたスクラブ等は毎日交換すること。

（８）院内では上履きを着用する。但し、サンダル、ハイヒール、ブーツなど診療にふさわしくないものは禁止する。

（９）白衣及び上履きのまま大学の敷地内から出ない。

上記以外の必要項目が生じた場合は、別に連絡する。

第３節　掲示・連絡

１．本院歯系診療部門４階第１総合診療室受付および５階総合技工室にある掲示板やWebClass、メールによる連絡に常に注意し、掲示事項を守ること。

第４節　実習期間および時間

１．包括臨床実習期間ならびに時間はこれを別に定める。

２．技工室、その他各科の施設の利用時間は別に定める。

第５節　出欠・遅刻・早退・外出

1．毎朝通学前に、体温測定（腋窩）を行ない、体温および各種症状の有無をWebClass上の体温・体調報告質問票を用いて報告すること。37.0度以上の発熱があり、さらに。喉の痛み、咳/痰/鼻水/息切れ等の呼吸器症状、倦怠感のいずれか1つ以上ある場合には、本学出席停止基準に抵触するため、速やかに教務係にメールまたは電話連絡し、自宅で療養すること。
2．講義および担当患者の有無を問わず、病院には毎日出席する。
3．包括臨床実習phaseⅡの出欠の確認は、出席表（タイムカード）を用いること。
4．他人の出席表をもって偽証をしてはならない。
5．遅刻・早退は原則認めない。
6．早退は午後２時以降とし、それ以前の早退は欠席とする。
7．早退する者は、指導ライターの許可を受けた後退出すること。
8．授業時間中の無断外出を許可しない。
9．やむをえない事故、病気等で欠席する際は、必ず受付または指導ライターに電話等で連絡すること。遅刻・早退も同様とすること。
10．正規の欠席届は、前項の連絡にかかわらず、必ず総務部歯学系教務掛へ提出すること。
11．やむをえない理由以外の欠席が多い学生は、実習停止とする。
12．COVID-19の拡大時においては別途の暫定規則を用いることがある。

第６節　器具および材料

1．病院備付けの器具、器材は丁寧に取扱い、紛失又は破損することがないよう特に注意すること。紛失または破損が各自の責任に起因するときはこれを弁償させる。
2．病院備付けの特殊な器具、器材を借用するときは所定の手続を取ること（各自の貸与物品は実習開始時に借用書にて書類・数を確認し、実習終了時に借用書を返却する）。
3．各自の所持すべき所定の器具、器材を所持しないものは臨床実習をさせない。
4．学生相互間で、器具、器材および実習用材料の交換または貸与をしてはならない。
5．実習期間中、各自の所持する器具、器材、実習用材料は所定の場所に保管すること。

第２章　臨床実施上の心得

第１節　接　遇

1．患者に対しては懇切丁寧を旨とし、怠慢または不親切により患者に迷惑をかけてはならない。
2．当日の治療が終わったときは、必ず次回治療日時を約束し、その約束を遵守すること。
3．常に担当患者の来院に注意し、必要以上に患者を待たせないようにすること。
4．患者を治療椅子に誘導する際、患者に対し手回り品を診療室内に持ち込みキャビネットの荷物棚に収めるよう案内すること。
5．患者の連絡は病院内の所定の電話機を用いて行うこと。自分の携帯電話やメールなどを用いて連絡してはならない。

第２節　診　療

1．清潔域と不潔域の区別を明らかにすること（手袋着用での電話の使用や頭髪をさわった手での診療は禁じる）。

2．診療時は原則として手袋を着用すること。
3．診療時はマスク、フェイスシールドを着用すること。
4．8ページから18ページの歯病外来における新型コロナウイルス感染対策指針等を遵守すること。

第３節　診療録・電算機入力等

1．電子カルテの診療録は診療時に遅滞なく記載する。診療部位、症状の変化、処置内容等はもちろんのこと、１号用紙の病名欄も常に正確に記載する。必ず指導ライターのチェックを受けること。
2．患者からの診断書等の交付を求められたときは、指導ライターの指示に従うこと。
3．不診の扱いは指導ライターの指示もしくは了解の下に行うこと。
4．引き継ぎもしくは配当で、初めて患者を担当する際には、協力依頼の同意書の説明を行い、患者、指導ライター、担当学生が署名すること。
5．診療後の電子カルテ入力は算定もれや誤りのないよう細心の注意を払い、必ず所定の画面まで閉じてから１階の会計窓口へ向かわせること。
6．私費診療では、診療を開始する前に患者に同意書を提出してもらう。私費の処置を行った場合は、必ず私費再診料を電子カルテに入力する。同日に保険診療の算定はできないので注意すること。

第３章　懲　罰

1．学則ならびに諸規定に違反した者及び学生の本分に反する行為があったと認められた者は、学則第58条により訓告、停学または退学処分に付されることもあるので臨床実習期間は特に注意する。
2．臨床実習期間中、下記の各号のひとつに該当する場合には、退学処分に付せられることがある。
（1）大学病院の患者に対し院外において治療行為をしたとき。
（2）電子カルテの診療録、診療プロトコール、処方せん、料金カード等の記載事項を故意に変更したとき。
3．臨床実習期間中、下記の各号のひとつに該当する場合には、停学処分に付せられることがある。
（1）各自の責による事由により弁償を命ぜられたにもかかわらず、その義務を履行しないとき。
（2）指導ライターの指導によらず独断で実習を行った結果、患者に損害を与えたとき。
（3）各自所持すべき器具、器材の補充を命ぜられたにもかかわらず、これに応じないとき。
（4）指導ライターの許可なく、自己又は患者若しくは第三者の所持する材料を加工し、これを患者に使用したとき。
（5）交付を受けた貴金属の取扱いに不正行為があると認められたとき。
（6）他人の出席表をもって出席の偽証をしたとき、またはさせたとき。
（7）患者に謝礼を渡して治療を行ったとき。
4．臨床実習期間中、下の各号のひとつに該当する場合には、実習停止処分に付せられることがある。
（1）所定の服装をしないとき。
（2）許可なく時間外の実習をしたとき。
（3）無断にて欠席、遅刻、早退又は実習時間中、外出したとき（やむをえない理由以外の事後報告は認めない）。
（4）所定の器具、器材を有しないとき。
（5）患者に迷惑をかけたとき。
（6）正当な理由なく患者の配当を拒んだとき。

（7）指導ライターの許可なく、相互に患者の交換授受又はその製作物の代作をしたとき。
（8）製作物の再製作を命ぜられたにもかかわらず、これに応じないとき。
（9）指導ライターの指導に反して、独断で治療したとき。
(10) 各科の実習を無断で欠席したとき。
(11) 患者をインターネットなどの広告や、SNS等により募ったとき。
(12) タイムカードによる出欠の確認で欠席回数が非常に多いとき。
(13) 毎週提出するポートフォリオを期限内に提出しなかったとき。
(14) 後述の患者個人情報取扱ガイドラインに反して、患者を特定可能な個人情報（以下の例参照）を紛失、もしくは盗難により流失したとき。
なお、個人情報を公開、流出した場合は、停学・退学処分の対象となる。
例：故意にカルテ、ホワイト等の紙媒体資料、もしくはその複写物、患者名の分かる写真等のデジタルファイル、それを含むUSBメモリー、ノートPC等。患者を特定可能な歯列模型等。

医療情報ネットワーク

情報セキュリティガイドライン

（第１．４版）

東京医科歯科大学病院
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY HOSPITAL

医療情報ネットワーク

情報セキュリティガイドライン

（第１．４版）

東京医科歯科大学病院
TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY HOSPITAL

はじめに

情報セキュリティ対策をいかに厳しく定めていたとしても、利用者が理解し遵守していなければ、セキュリティトラブルはなくなりません。

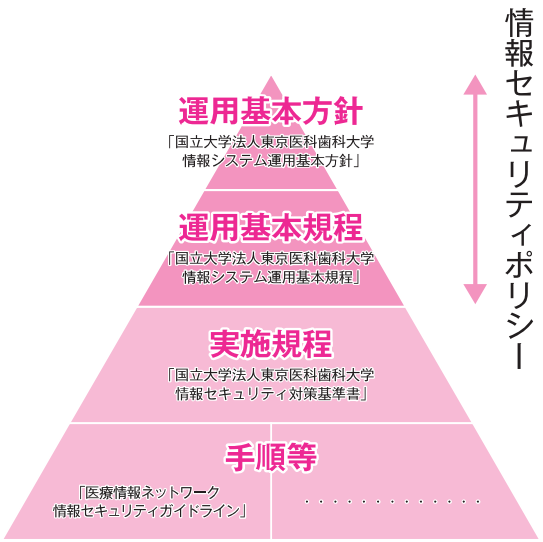
医療情報ネットワーク上で稼動しているシステムでは、大学病院の患者個人情報を多く扱っております。本学の利用者は、これらの情報を適切に取扱っていく必要があります。

そのため、医療情報ネットワークの利用者に向けて、東京医科歯科大学セキュリティポリシーの対策基準のうち、遵守すべき具体的なルールを医療情報ネットワーク情報セキュリティガイドラインとしてまとめました。

医療情報ネットワーク情報セキュリティガイドラインは、日々の活動の場面ごとに、それぞれ遵守すべきルールを定めています。実際にパソコン等の取扱いで対応方法に困った時には、本ガイドラインを参照して下さい。

本学の職員一人一人が本学の情報セキュリティ対策の内容を理解し遵守することで、東京医科歯科大学としてのセキュリティ水準が維持され、セキュリティトラブルの未然防止につながります。

2014 年 1 月
東京医科歯科大学　医学部附属病院運営会議
　　歯学部附属病院運営会議



東京医科歯科大学セキュリティポリシーの構成

目次

はじめに

第１章　医療情報ネットワーク利用手続き・利用方法
医療情報ネットワークとは …… 8
東京医科歯科大学病院
医療情報システム利用規則 …… 10

第２章　セキュリティ上のルール
１．利用者の役割・責任
チェック①　ポリシー等の遵守 …… 14
チェック②　情報の格付け …… 16
チェック③　情報の取扱い① …… 18
チェック④　情報の取扱い② …… 20

２．PC 取扱編
チェック⑤　パソコンの導入 …… 22
チェック⑥　ソフトウェアのインストール …… 24
チェック⑦　外部記憶媒体の利用について …… 26
チェック⑧　パスワードの認証について …… 28
チェック⑨　盗難防止 …… 30

３．病院編
チェック⑩　ネットワークへの接続について …… 32
チェック⑪　クリアデスク・クリアスクリーン …… 34
チェック⑫　コピー機、FAX 機の扱い …… 36
チェック⑬　機器の持込み・設定変更 …… 38
チェック⑭　共有スペースにおけるセキュリティ …… 40
チェック⑮　個人情報の取扱い …… 42

４．人事異動編
チェック⑯　人事異動の際のセキュリティ設定の
確認・変更申請書の提出 …… 44
チェック⑰　資産の返却 …… 46

５．トラブル編
チェック⑱　利用者証 (IC カード) を紛失したら …… 48
チェック⑲　ウィルス感染の警告画面が出たら …… 50
チェック⑳　情報を紛失・盗難されたら …… 52
チェック㉑　ルール違反した場合 …… 54
６．附則　補足資料 …… 56

※参考

◎国立大学法人東京医科歯科大学情報システム運用基本方針
http://www.tmd.ac.jp/cmn/rules/houki/7hen/4shou/2setsu/74201houshin.pdf

◎国立大学法人東京医科歯科大学情報システム運用基本規程
http://www.tmd.ac.jp/cmn/rules/houki/7hen/4shou/2setsu/74202kitei.pdf

◎ 国立大学法人東京医科歯科大学情報セキュリティ対策基準書
http://www2.tmd.ac.jp/cmn/rules2/houki/gakunai/nai742207johosecurity.pdf

◎キャンパス・事務情報ネットワーク 情報セキュリティガイドライン
http://www2.tmd.ac.jp/cmn/rules2/houki/gakunai/nai742201securityguideline.pdf

◎国立大学法人東京医科歯科大学個人情報管理規則
http://www.tmd.ac.jp/cmn/rules/houki/3hen/1shou/2setsu/31205kozin.pdf

◎利用者パスワードガイドライン
http://www2.tmd.ac.jp/cmn/rules2/houki/gakunai/nai742203passwordguideline.pdf

◎厚生労働分野における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン等（厚生労働省ホームページ）
http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/seisaku/kojin/

第１章
医療情報ネットワークの利用手続き・利用方法

医療情報ネットワークを利用するにあたっての
利用申請手続き等を理解しましょう

「第１章」では、医療情報ネットワークを解説しています。また、その利用申請が定められていますので、内容を理解して正しい手続き・正しい利用をしましょう。

医療情報ネットワークとは

◆はじめに

東京医科歯科大学には、医療情報ネットワーク、キャンパス情報ネットワーク、事務情報ネットワークの３つのネットワークがあります。医療情報ネットワークは、医療情報処理システムを扱うためのネットワークです。患者個人情報など重要なデータが大量に保存されていますので、機密保持のため他のネットワークとは別になっており、医療従事者のみが使用できるネットワークです。

本ガイドラインでは、医療情報ネットワークを利用するために必要な情報セキュリティのルールについて説明いたします。

本ガイドラインの対象者は、医療情報ネットワークを使用するすべての利用者（派遣職員、請負業者を含む）です。

東京医科歯科大学病院医療情報システム利用規則より

平成１６年４月１日制定

◆利用者の資格

医療情報システムを利用できる者は、次に掲げる者とする。

（1）本院において医療に従事する者

（2）本院において医療事務に従事する者

（3）その他病院長の承認を得た者

◆登録

医療情報システムの利用する者は、所定の書類を提出しなければならない。

◆登録内容変更

利用者は、登録内容に変更が生じたときは速やかに所定の書類を提出すること。また、カードを紛失したときは、速やかに病院長に届け出なければならない。

◆登録者の義務

登録者個人のパスワードは、自ら管理し、第三者の利用に供してはならない。

蓄積データに関し、守秘義務を負うものとする。

医療情報システム及び蓄積データは、定められた目的以外に利用してはならない。

利用者が義務を課された講習等を受講しなかった場合は、一時的に利用を停止させることがある。

◆機器利用上の禁止事項

利用者は、医療情報システムを他のシステム等に接続し又は医療情報システムに接続されたパソコンを無断で移動してはならない。

◆情報の安全確保

病院長は、蓄積データの漏洩、滅失、き損の防止措置を講じなければならない。

◆損害補償

利用者が、故意又は重大な過失により医療情報システム及び蓄積データを汚損、損傷又は滅失したときは、その原状回復に必要な費用を弁償しなければならない。

◆登録の取り消し

病院長は、登録者がこの規則に違反したときは、その者に係る登録を抹消することができる。

◆蓄積データの利用

蓄積データの利用については、病院長が定める。

第２章
セキュリティ上のルール

利用シーンごとの安全対策と
便利な利用方法を知ろう！

「第２章」では、日頃からどんな点に注意を払わなければならないのか、日常の業務などで起こりやすい事項を取り上げています。

各ページには東京医科歯科大学のルールを記載しています。内容を把握し、セキュリティに対する理解を高めましょう。

チェック① ポリシー等の遵守

利用者は本学情報セキュリティポリシーと、本ガイドラインなどの実施手順を遵守しなければなりません。

ポイント

◎本学情報セキュリティポリシーおよび本ガイドラインに定められている事項を遵守することが、本学の情報セキュリティ水準を維持するために重要です。

本学情報セキュリティポリシーと本ガイドラインを利用者全員が十分に理解し実践することが非常に重要です。

全利用者が本学情報セキュリティポリシーおよび本ガイドラインを遵守することにより、本学の情報セキュリティの安全が保たれます。

また、一人の利用者でもルールを遵守せずにセキュリティ上の重大なトラブルを起こしますと、本学の風評や社会的責任にも影響します。

ルール

- ●利用者は、本学情報セキュリティポリシーおよび本ガイドラインを理解し、情報セキュリティ上の問題が生じないようにすること。
- ●利用者は、本学情報セキュリティポリシーおよび本ガイドラインを遵守しているかを定期的に自己点検すること。
- ●利用者は、定期的に開催する本学情報セキュリティ教育（講習会等）を受講すること。

チェック② 情報の格付け

本学では、
情報に対する格付けが決められています。

ポイント

◎情報の格付けに応じた取扱いが必要です。
◎自分達が扱っている情報がどの格付けに該当するかを認識しましょう。
◎患者さんなどの個人情報は機密性３に該当します。

本学における情報の格付けの考え方

機密性３情報	本学情報システムで取り扱う情報のうち、秘密文書に相当する機密性を要する情報。漏洩した場合に、法的に守秘義務が課せられているもの。漏洩により重要な影響を及ぼすもの。（患者さんなどの個人情報、極秘、丸秘扱いのものなど）
機密性２情報	本学情報システムで取り扱う情報のうち、機密性３に相当する機密性は要しないが、その漏洩により利用者の権利が侵害され又は本学活動の遂行に支障を及ぼすおそれがある情報。（取扱い注意情報など）
機密性１情報	機密性２情報又は機密性３情報以外の情報。

完全性２情報	本学情報システムで取り扱う情報（書面を除く）のうち、改ざん、誤びゅう又は破損により、利用者の権利が侵害され又は本学活動の適確な遂行に支障を及ぼすおそれがある情報。
完全性１情報	完全性２情報以外の情報（書面を除く）。

可用性２情報	本学情報システムで取り扱う情報（書面を除く）のうち、その滅失、紛失を含め当該情報が利用不可能であることにより、利用者の権利が侵害され又は本学活動の安定的な遂行に支障（軽微なものを除く。）を及ぼすおそれがある情報。
可用性１情報	可用性２情報以外の情報（書面を除く）。

重要な情報…機密性、完全性、可用性のいずれかが２以上の情報資産を重要な情報（要機密情報）とする。

チェック③ 情報の取扱い①

情報の格付けに応じた取扱いが
決まっているので注意しましょう。

ポイント

◎情報の格付けに応じた安全対策を実施しましょう。
◎医療機関で扱う患者個人情報などの重要情報を学外へ持ち出すことは、原則禁止です。

情報を持ち出すことはリスクを伴うため、情報の持ち出しについて制限することが一般的です。正当な理由があり、許可を得て、持ち出す場合にも、必要最小限のものにとどめる必要があります。それぞれの病院の個人情報管理規則を参照して下さい。

面倒だからといってフォルダを丸ごとコピーしたりしてはいけません。また、情報が漏洩した場合、持ち出し者の責任になりますので、利用者一人一人の心がけが非常に重要です。

ルール

- ●機密性の高い情報資産を入手する場合は、機密性の程度に応じて、情報資産の入手時に、相手方に対して情報資産の暗号化またはパスワードの設定を要請すること。
- ●情報の作成時に当該情報の機密性、完全性、可用性に応じて格付けを行い、あわせて取扱制限の必要性の有無を検討すること。
- ●機密性２以上の情報を学外に持ち出すことは原則禁止です。持ち出す際は、事前に許可手続きをし所属長の許可を得ること。
- ●所属長の許可を得ても機密性３情報を必要以上に複製しないこと。また、機密性３および機密性２情報を必要以上に配付しないこと。また保存する際は適切に管理すること。
- ●要保護情報を放置しないこと。離席する際には、ロック付きスクリーンセーバーを起動するか、ログオフして、画面に情報を表示しないこと、また、机の上に書類を放置して長時間離席しない、印刷した書面を速やかに回収し出力トレイに放置しないことなどを徹底すること。
- ●患者情報などの機密性３情報を持ち出しする際は、データの仮名化を行いファイルの暗号化とパスワードの設定をすること。

チェック④ 情報の取扱い②

情報を持ち運ぶ場合、破棄する場合に
は安全対策をしましょう。

ポイント

◎取扱いの各局面に応じたリスク対策を実施しましょう。
◎どんな情報を扱っているかを認識した上で、情報の取扱いに注意しましょう。

パソコンなどの盗難や廃棄ミスによる情報漏洩事件の事例があります。また、運搬時に鞄を紛失する、盗難されるといった事件事例も数多く見受けられます。一人一人が自分達が取扱っている情報の重要性を認識して行動することが求められます。

ルール

- ●利用者は、情報の格付けに応じて、情報が保存された外部記録媒体を適切に管理すること。
- ●パソコン等に入力された情報もしくは、出力した情報を記載した書面のうち要機密情報を記載した書面を適切に管理すること。
- ●パソコン等又は外部記録媒体に保存された情報の保存期間が定められている場合には、当該情報を保存期間が満了する日まで保存し、保存期間を延長する必要性がない場合は、速やかに消去すること。
- ●許可を得て機密性３の情報資産を持ち出す場合は、鍵付きのケースなどに格納するか、暗号化またはパスワードの設定を行うなど、情報資産の不正利用を防止するための措置を講じること。機密性２の情報については、必要に応じ同様とすること。
- ●パソコン等の機器を廃棄、リース返却する場合、機器内部の記憶・記録装置から、すべての情報を消去の上、復元不可能な状態にする措置を講じること。
- ●利用者は、要機密情報が記録された書面を廃棄する場合には、シュレッダーにかけるなど、復元が困難な状態にすること。

チェック⑤ パソコンの導入

許可なくパソコンやプリンタなどを設置してはなりません。

ポイント

◎パソコンやプリンター等を導入する時は、必要なセキュリティ対策を実施してから使用しましょう。
◎大学の資産以外のパソコンなどの利用は禁止です。

セキュリティ対策を実施していないパソコンなどを利用することにより高まるリスクとして次の点が挙げられます。

・第三者の不正使用による情報の盗難・破壊など
・ウィルス感染による情報漏洩など

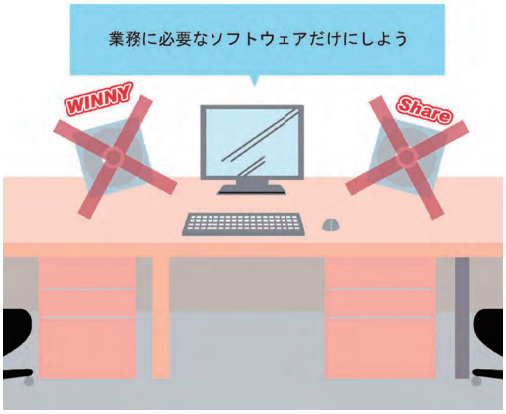
これらに対応するためには、購入したパソコンにウィルス対策ソフトや指紋認証装置などの設定を施して安全なパソコンにしなければなりません。

ルール

●医療情報ネットワークに、新規にパソコンなどを接続する時は下記に申請し、その指示に従うこと。
・医科医療情報係（内線 5132）
・歯科医療情報係（内線 5938）
●医療情報ネットワークにネットワークハードディスクなどのストレージを部署単位で無断で導入することは禁止します。

チェック⑥ ソフトウェアのインストール

医療情報ネットワークに接続しているパソコンに無許可でソフトウェアをインストールすることは禁止されています。



ポイント

◎セキュリティ上問題のあるソフトウェアは医療情報ネットワークでは重大なリスクとなります。

医療システム以外のソフトウェアはネットワーク回線に負荷がかかりシステムダウンの原因になることがあります。したがって、医療システム以外は使用してはいけません。

また、「ファイル交換ソフト」を使用しているパソコンがウィルス感染して情報漏洩を起こした事故が後を絶ちません。このため本学では業務用パソコンでのファイル交換ソフトの使用を禁じています。

ルール

●私物のソフトウェアをインストールすることは禁止です。
●許可なく指定された以外のソフトウェアをインストールしないこと。
●医療情報ネットワークに接続してあるパソコンのソフトウェアを勝手にアップデートすることは禁止です。

チェック⑦ 外部記憶媒体の利用について

私物の外部記憶媒体を利用すること
にはリスクがあります。

ポイント

◎許可を得ていない媒体の業務利用は原則禁止です。
◎外部記憶媒体または、ファイルにパスワードをかけましょう。

メディア報道をにぎわせている個人情報漏洩などのインシデントには、データをパソコンや USB メモリなどの外部記憶媒体で持ち出して、紛失や盗難にあうケース、学外でウィルスに感染したり情報が漏洩するケースが多くあります。

USB メモリや外付けハードディスクに重要なデータを保管する場合は、盗難対策として、パスワードをかけるか暗号化を施すなどの対策を用いるのが一般的です。

ルール

- USB メモリを使用する場合は、申請手続きを行う必要があります。また、パスワード認証付の製品を利用し、ファイルへの暗号化またはパスワードを設定すること。
- 申請手続きを行い病院指定の USB メモリを用いても、下記に注意すること。
  - ・USB メモリなどに個人を特定できる状態で保存しない。
  - ・USB メモリの紛失などに注意すること。
  - ・学生は USB メモリの使用は禁止。
- 患者個人情報などの重要な情報を USB メモリなどの外部記憶媒体に保存しないこと。学会などで必要な場合は、個人を特定できないようなデータのみを保有すること。

チェック⑧ パスワードの認証について

パスワードは複雑にしよう！
安易なパスワードは命取り。

ポイント

◎パスワードの管理は適切に。
◎推測されにくい複雑な組合せにする。

パスワードは、パソコンやネットワークに入るために必要な「鍵」です。あなただけの秘密の番号を作成しましょう。

パソコンにパスワードが貼られている光景を目にすることがありますが、パソコンに貼るということは、鍵を挿したまま外出しているようなものです。パスワードは、利用者本人だけが使用するとともに、定期的に変更して不正アクセスを未然に防ぎましょう。

桁数が少ないなど簡単なパスワードですと直ぐに解読されてしまいます。

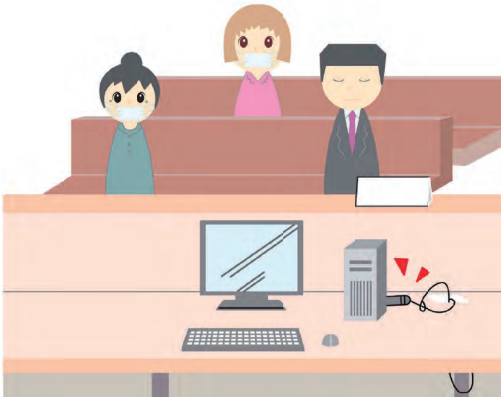
ルール

- 医療システムへのログインは下記の方法とする。
  - ・医系
    身分証明書・学生証・医療情報部発行の利用者カード・Felica 対応の記名式 IC カードおよびパスワード
  - ・歯系
    利用者証およびパスワード
- パスワードを他人に教えないこと。
- パスワードは、本学のパスワードポリシー（4 種混合の 10 文字以上）を用いること。
- パスワードは定期的に変更して、再利用を避けること。
- パスワードをパソコンに記憶させないこと。
- パスワードをモニタやデスク等他人の目に触れるところに貼付しないこと。

※本学パスワードポリシーは変更する場合がありますので最新版を確認してください。

チェック⑨ 盗難防止

パソコンや媒体の盗難防止に努めましょう。



ポイント

◎パソコン等が盗まれると情報漏洩に繋がる可能性があります。
◎パソコン等に入っている情報が重要であることを認識しましょう。

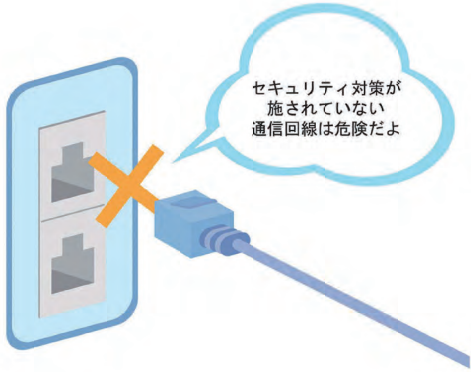
ノートパソコンの盗難事件が頻繁に起こっています。病院内には不特定多数の人が立ち入る可能性があります。
機密性の高い情報が保存されたパソコンが盗難されると、情報漏洩に繋がる可能性があります。
学内のみならず、電車などで移動の場合も、ノートパソコンの入ったカバンを網棚に置き忘れて紛失するといった事例もあります。

ルール

●医療情報ネットワークに接続しているパソコンはワイヤーロックに努めること。無断で外してはならない。
●パソコンが盗難にあわないよう、パソコンの設置してある部屋の施錠をしっかり行うこと。ただし、受付等は除く。
●医療情報ネットワークに接続しているパソコンを学外に持ち出すことは、禁止されています。

チェック⑩ ネットワークへの接続について

他のネットワークと
医療情報ネットワークとの混同を
避けましょう。



ポイント

◎独自に通信回線を構築することは禁止です。

本学では医療情報ネットワーク以外にキャンパス情報ネットワーク、事務情報ネットワークがありますが、それらはそれぞれ独立しておりセキュリティのレベルが異なります。他のネットワークより医療情報ネットワークはセキュリティレベルは高く保たれる必要があります。

ルール

●医療情報ネットワークと他のネットワークの情報コンセントを接続しないこと。
●医療情報ネットワークに無断で許可していないパソコンを接続しないこと。無断接続を発見した場合撤去いたします。
●新たに医療情報ネットワークを引きたい場合は、コンセント設置要望書を医療情報部に提出し許可を得ること。

チェック⑪ クリアデスク・クリアスクリーン

セキュリティ対策の基本は、
まず机の上の“整理整頓”から。

ポイント

◎机上や画面上からの情報の盗難、紛失、誤廃棄をなくしましょう。

セキュリティ対策の基本は“整理整頓”です。まず、情報の重要度を分け、それぞれに適した方法で保管して下さい。

また、「席を少し離れるだけだから・・・」と言ってパソコンをそのままにして離席する人がいます。少しだけのつもりでも患者さんなどの対応で席に戻るのが遅くなることもあります。

「ちょっとだけだからいいだろう」はインシデントのもとです。画面上で開いているファイルだけでなく、その人の権限でサーバやシステムの重要な情報にアクセスできてしまうのです。

ルール

- ●紙カルテやエックス線写真などの患者個人情報に該当する書類を机の上などに放置しないこと。診察目的で借りたものは、その日中に返却すること。
- ●外出や帰宅時には机の上を整理整頓し、媒体や書類を放置したまま帰宅しないこと。
- ●離席する際のルール
  パソコンを使い終わった時は必ずログオフし、書類を伏せるなど内容が見えないような処置を行うこと。
- ●デスクトップ画面にファイルのコピーなど不必要なファイルを残さないこと。

チェック⑫ コピー機、ＦＡＸ機の扱い

患者個人情報などの重要な情報を
複製する場合許可が必要です。

ポイント

◎情報をむやみに印刷や複製すること自体がリスクであることを認識しましょう。

特に注意することは、印刷やコピーをむやみに行わないことです。枚数が増えたり不特定多数の人の手に渡ることにより、情報漏洩のリスクは高まります。

電子ファイルのコピー（複製）も同様です。コピー（複製）でも情報の重みに変わりがないことを認識することです。

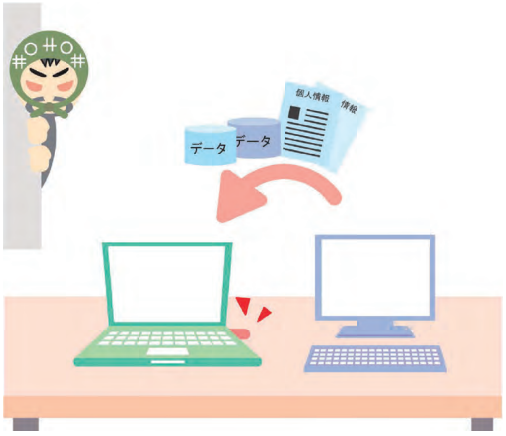
また、コピー機や FAX 機に紙が溜まりっぱなしにならないようにしましょう。誤って患者個人情報などの重要な情報を誰かが持っていってしまうことも考えられます。コピーや FAX が終われば即回収することを心がけましょう。

ルール

- ●患者個人情報などの書類で、不要になったものは速やかにシュレッダーにより破棄すること。
- ●コピーやプリントアウトした場合は、速やかに回収して、置き忘れに注意すること。
- ● FAX の誤送信に注意すること。FAX を誤送信した場合は情報漏洩としてセキュリティ事故扱いとなります。
- ●許可なく携帯端末などの私物機器で個人情報の写真を撮らないこと。
- ●許可なく個人情報を複製することは禁止です。やむを得ない場合、事前に許可手続きし所属長の許可が必要です。（資料を携帯端末で写真撮影することも、複製と同様に禁止です。）

チェック⑬ 機器の持込み・設定変更

独自に導入しているパソコンの取扱いに十分注意しましょう。



ポイント

◎許可なく情報機器を持ち込むことで、情報漏洩やウィルス被害のリスクが高まります。
◎私物の個人のパソコンに患者個人情報を保存することは危険です。

USB メモリによるウィルス被害や十分にセキュリティ対策が行われていないパソコンからの情報漏洩などの事故が多発しています。
また、勝手に情報機器の構成を変更してしまうと、情報機器の安定性が損なわれたり保守契約の対象外になる場合があります。
このような危険を冒さないためにも、情報機器にはセキュリティ対策を行い、勝手に構成の変更を行わないことが重要です。

ルール

●学外から持込んだパソコンまたは独自に購入したパソコンに患者個人情報を保存する場合は、ログインパスワードを設定するなどセキュリティの強化に努めること。
●学外から持込んだパソコンまたは独自に購入したパソコンを医療情報ネットワークに接続させることは禁止です。
●学外から持込んだパソコンまたは独自に導入したパソコンに医療情報システムのデータを許可された媒体を経由して保存する場合は細心の注意を払うこと。
●パソコン、USB メモリ、外部記憶媒体などの持ち込みは原則禁止です。学外の方が持ち込む場合は、本学のセキュリティガイドラインに基づくセキュリティ対策を施し、教職員立会いのもと使用させること。

チェック⑭ 共有スペースにおけるセキュリティ

共有スペース、面談室、受付などでの思わぬ情報流出に注意しましょう。

ポイント

◎受付などの共有スペースでの情報の取扱いに注意しましょう。
◎万一“情報の置き忘れ”があった場合には、必ず当事者もしくは責任者に伝え、再発を防止しましょう。

共有スペースや休憩室は不特定多数の方が、利用していますので、患者個人情報などの重要な情報を放置したり、置き忘れたりといったことがないように注意しましょう。
また、受付は、患者さんなどの来院者からも見られています。そこでの情報の取扱いについて、結構見られているものです。
機密情報や患者個人情報等、職員しか知り得ない情報をはじめ、業務の内容が外部に流出してしまう可能性もありますので、十分に注意しましょう。

ルール

●共有スペース、面談室、休憩室に重要情報を放置しないこと。
●受付にカルテなどの重要な情報を放置しないこと。
●会議室を使用する前に必ず室内の状態を確認しておくこと。
●会議の内容を書いたホワイトボードは必ず消すこと。
●会議室のパソコンにデータを放置しないこと。
●会議資料を置き忘れないこと。

チェック⑮ 個人情報の取扱い

病院には、患者さんのカルテなど多くの患者個人情報があります。
取扱いに十分注意しましょう。

ポイント

◎患者個人情報の取扱いには十分注意しましょう。
◎患者個人情報を本来の利用目的以外で使用することは、禁止です。

本学、医療情報ネットワークには、多くの患者個人情報があります。個人情報保護法を順守することに加え、本学の「個人情報管理規則」に基づいて、患者個人情報の取扱いを厳格に行う必要があります。
特に医療現場における患者個人情報は機微な個人情報として厳格な扱いが求められています。
患者個人情報を直接取得する時には利用目的などを通知しなければなりませんし、本人の同意なく第三者に患者個人情報を提供してはいけません。
患者個人情報の漏洩事故により、患者さん本人に迷惑が掛かった事例が発生しています。

ルール

●患者個人情報の含まれる書類やデータの取扱いは特に注意する。
●データは、アクセス権限の設定された、ファイルサーバーやシステムに保存する。書類は鍵のかかるキャビネットなどで保管する。
●患者個人情報の含まれる書類をむやみにコピーして配付しない。
●「個人情報管理規則」に基づき患者個人情報の取扱いルールを守りましょう。
・利用目的の範囲外で利用しないこと
・本人の同意を得ないで、第三者に提供しないこと
・不正な手段によって取得しないこと

チェック⑯ 人事異動の際のセキュリティ設定の確認・変更申請書の提出

異動に伴って、業務内容・職務権限が変われば医療情報ネットワークの設定の確認・変更が必要です。

ポイント

◎業務に応じたネットワークセキュリティ設定が必要です。

人事異動に伴って、職務権限が変わるわけですから、医療情報ネットワークへのアクセス権限設定を正しく行う必要があります。
異動してから必要以上に患者さんなどの個人情報が閲覧できたのではセキュリティが損なわれてしまいます。
新しい組織が発生した場合は、ルールに則った権限設定が必要になってきます。
世間では、異動に伴う権限変更が適切にされておらず、職員が情報を故意に持ち出したという事件も発生しています。

ルール

●人事異動の際は、異動後、関係する申請書を各業務システム担当部署に速やかに提出すること。
・医科情報係（内線 5132）
・歯科情報係（内線 5938）

チェック⑰ 資産の返却

業務で使用している情報は個人のものではありません。
異動・退職の際は返却しなければなりません。

ポイント

◎退職時や異動時にはその部署で使用していた情報資産（利用者証、貸与された媒体）を返却しましょう。
◎異動、退職等の場合には、業務上知り得た情報を漏洩してはいけません。

部署を異動する時は、元の部署で扱っていた情報資産は返却する必要があります。通常は後任者へ業務の引継ぎを行う際に情報資産も渡すこととなります。間違っても「この仕事でやったことが今後も使えそうだ」などという理由で次の部署へ持っていってはいけません。

ルール

●退職時や異動時には、医療情報処理システム利用申請書を提出すること。
●医療情報システムの利用者証（身分証明書・学生証・医療情報部発行の利用者カード）は返却すること。
●退職時や異動時には、業務で使用していた情報資産は確実に返却し、業務上知り得た情報を漏洩しないこと。

チェック⑱ 利用者証（ICカード）を紛失したら

利用者証（IC カード）を紛失すると第三者に医療情報ネットワークに侵入される恐れがあります。

ポイント

◎保管方法に留意し、紛失、盗難にあったらただちに連絡しましょう。
◎利用者証の貸し借りをしてはいけません。

患者個人情報を扱うシステムは、利用者証などによりログインできるシステムが採用されています。
利用者証を紛失して、第三者に使用された場合、なりすましによる不正ログインが行われるばかりではなく、医療情報ネットワークからの患者個人情報流出の恐れがありますので、利用者証の貸し借りは絶対にしないで下さい。

ルール

●利用者証（IC カード）の紛失・盗難にあった場合は、速やかに下記に届け出ること。
・医科情報係（内線 5132）
・歯科情報係（内線 5938）
利用者証（IC カード）を忘れた場合には必要に応じて、再発行手続きを行う。その場合、以前のカードは利用できなくなります。
●退職時は、利用者証（IC カード）を返却すること。

チェック⑲ ウィルス感染の警告画面が出たら

ウィルスに感染した疑いがある場合には速やかな処置が必要です。
被害の拡大を防止することが重要です。

ポイント

◎ウィルス対策ソフトウェアを導入していてもウィルスに感染することがあります。
◎感染した場合には、速やかに報告しましょう。

ウィルス対策ソフトウェアを導入したからといって完璧とは限りません。次々に新しいウィルスが発生しているからです。

ウィルスに感染した場合は自分で解決しようなどと考えずに、報告することが先決です。まずは医療情報ネットワークにウィルスが拡大するのを防止しなければなりません。

ルール

●ウィルス感染した可能性があるメッセージが出た場合、直ちにＬＡＮケーブルをパソコンからは外し下記に連絡すること。
・医科情報係（内線 5132）
・歯科情報係（内線 5938）
●ウィルス対策ソフトウェアのパターンファイルは常に最新版の設定にし、定期的にフルスキャン（全検索）を実施すること。
●ウィルス感染したことが確実になった場合は、セキュリティ事故として取り扱うこと。

チェック⑳ 情報を紛失・盗難されたら

個人情報などの漏洩や紛失時には組織としての対応が求められます。
自分だけで抱え込んではいけません。

ポイント

◎セキュリティ事故は速やかに全てを報告しましょう。
◎情報の漏洩・紛失等の事件・事故が起きた場合には、速やかに報告するとともに情報の拡散防止に努めましょう。

情報の紛失・置忘れ・盗難などの事故が発生した場合には、速やかな連絡と報告が必要です。

事故発生時には、組織として、その影響度や二次被害、原因分析、再発防止策等を検討しなければなりません。

場合によっては、本学としてセキュリティ事故の内容を公表しなければならないこともあります。

そのため、事故について隠していて後になって発覚することのないよう、事故が発生した場合は、速やかに報告を行いましょう。

ルール

●医療情報に関わるセキュリティ事故が発生した場合は、下記の部署へ連絡すること。
・医科情報係（内線 5132）
・歯科情報係（内線 5938）

チェック㉑ ルール違反した場合

本学ではルールを守らない場合に
対する措置を定めています。

ポイント

◎利用者は、本学情報セキュリティポリシーの理念を法令等と同様に遵守する義務があります。
◎利用者一人一人が本学情報セキュリティポリシーと本ガイドラインのルールを遵守することが、本学のセキュリティ水準を維持することにつながります。

本学では、情報セキュリティに関して、利用者が違反した場合の措置を設けています。
言うまでもなく、利用者一人一人が本ガイドラインを守ることが重要です。

ルール

●本学情報セキュリティ対策基準には、次のように定めています。
「情報セキュリティポリシーに違反し、重大な事故を発生させた職員等、あるいは重大な事故を発生させかねない状況に至らしめた職員等およびその管理監督者は、その重大性、発生した事案の状況等に応じて、学内規則による懲戒処分の対象となる。」

補足資料

患者個人情報の取り扱いについて

患者個人情報の流出事故が発生しないよう、各教職員（派遣職員、請負業者を含む）において患者個人情報の管理を徹底しているところであるか、どのような行為が危険であり、どのような行為が安全であるかは一概には言えない。　そこで、本院における個人情報保護の具体的なガイドラインを呈示するので、本ガイドラインを参考にして、各自で責任を持って個人情報保護に努めること。

	患者情報	
	「各種法令に基づいた院内規定を守った上で特定の目的で利用される」ことが、院内掲示および配布物（「患者様の個人情報について」）により周知されている。	
	個人情報	仮名化された情報
情報例 / 事例	氏名、暗号化していない院内ID、住所、電話番号、生年月日、目隠しのない顔貌写真。	暗号化した院内ID、生年月、病歴、受診歴、検査結果、X線写真、患部写真、目隠しによって個人が特定できない顔貌写真。ただし、他の情報と照合することにより個人を識別できるものは個人情報として扱う。
紙ベースの資料の院外持ち出し	持ち出せない。	個人情報が含まれていないことを十分確認する。「患者様の個人情報について」に記載されている利用目的、方法に従っていることを十分確認する。
紙ベースの複写	業務上やむを得ず複写する場合は、個人情報部分を付箋等で隠して複写する。不要になったら確実にシュレッダーにかける。※申請手続きを行い所属長の許可を得られれば複写可能。	
スキャナ、デジカメ等による複写、デジタル保存	スキャン、撮影する場合は、個人情報部分を付箋等で隠してからスキャン、撮影し、仮名化された情報として扱う。	個人情報が含まれていないことを十分確認してからスキャン、撮影、デジタル保存する。※ファイル名に氏名を使用しない。

PC本体内ハードディスク、外部記憶装置（外付けHD、USBメモリー、CD-ROM、デジタルカメラ等）への保存	保存しない。可能な限り連結不可能仮名化された情報として処理する。データを保存する場合は十分な長さの暗号化キーを用いて暗号化し病院指定のUSBに保存すること。当該PC、外部記憶装置は、施錠して厳重に管理する。	個人を識別できないよう不可逆的な仮名化がされていることを十分確認して保存する。第三者が通常入手し得る情報により特定の個人を認識可能な場合は、十分な長さの暗号化キーを用いて暗号化して保存する。
	※申請手続きを行い所属長及び病院長の許可を得られれば使用可能。※許可された診療用デジタルカメラに保存する画像データは暗号化を必須としない。デジタルカメラ本体及び記憶媒体については、申請場所からの移動を禁止とし、厳重に管理すること。	
クラウドサービスの利用	大学で認められたクラウドサービスを利用すること。機密性3情報（17ページ参照）は所属長が認めた場合利用可能。※使用の際は下記項目に対応していること 1）OSパッチの最新版の適用 2）ウィルスソフトのパターンファイルが最新版に適用されていること。3）利用できるユーザを厳格に管理すること。	
PC本体、外部記憶装置の廃棄	データ消去装置等を用いるか、ハードディスクを物理的に破壊することにより、確実にデータを消去した後に廃棄する。CD-ROM等は、専用のシュレッダーにかけて廃棄する。	
携帯する手帳等への記録（メモ）	学外から患者に連絡しなければならない特別な場合を除き、原則的にメモしない。	
患者引き継ぎリストの作成と授受	ファイルには必ずパスワードをかけること。診療端末や診療系の共有ファイルサーバー上で扱うこととし、医療情報ネットワークからファイルを出さないようにする。やむを得ず印刷する場合は、外来医長等の管理下で作業すること とし、紙カルテと同様に各診療科にて厳重に管理する。	
持ち出し・許可申請手続き	持ち出し禁止 ※申請手続きを行い所属長の許可を得られれば持ち出し可能。	個人情報が含まれていないことを十分確認する。
メール送信・添付	添付ファイルを暗号化しパスワードを付けて送受信する。暗号化されていない平文での送受信は行わない。　多数の送信先にメールを送信する際は安易にToあるいはCcにメールアドレスを記載せずBccを使い送信先が分からないようにする。	個人情報が含まれていないことを十分確認する。

Ⅰ．医療安全について

１．はじめに

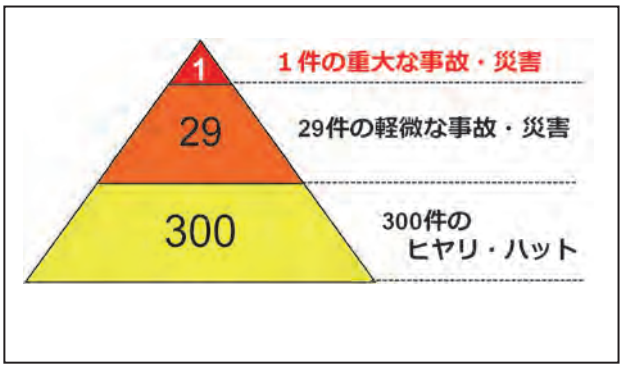
医療により害を被る患者が相当数存在することが，多くの国で報告されています．害の発生には医療従事者の個々の能力だけではなく，医療システムなどの様々な要因が関与すると考えられています．特に多種多様な医療従事者（医師，歯科医師，看護師，歯科衛生士，歯科技工士，薬剤師，事務員など）が関与する昨今においては，安全な医療を確実に行うことは非常に困難になります．この困難をできるだけ排除するために，個々の医療従事者が医療安全について理解し，常に心に留めておくことが重要になります．

皆さんは正式には医療従事者ではありませんが，Student Dentist として患者の治療に携わることになります．また，指導医や歯科衛生士，看護師とともに協力しあう状況もでてきます．臨床実習において，医療安全を理解し実践することは，医療に携わるものとして必要不可欠といえます．

２．安全管理レポート報告の必要性

１）安全管理レポートの目的

１件の重大な事故の背景には，300 件の軽微なアクシデントやインシデント，ヒヤリ・ハットが存在するといわれています（ハインリッヒの法則）．したがって，重大な事故を起こさないためには，軽微なインシデントやヒヤリ・ハットなどの事例を事前に把握しておく必要があります．このような事例を把握するためのシステムが，安全管理レポートになります．



安全管理レポートは事例の当事者の個人的責任を追及するものではなく，インシデント等の実態を正確に把握し，情報を分析して再発防止や重大事例発生の予防対策等の立案に活用することを目的としています．

２）報告対象

安全レポートの報告対象は『インシデント』全体となります．『インシデント』とは，「患者の診療・ケアにおいて，本来あるべき姿から外れた事態・行為の発生」のことを言います．これには，過失の有無を問わず，「患者に障害が発生した場合」および「患者に障害が発生しなかった場合（ヒヤリ・ハット）」が含まれます．

『ヒヤリ・ハット』とは，患者に被害が発生することはなかったが、日常診療の現場で、“ヒヤリ”あるいは“ハッ”とした出来事です．具体的には，ある医療行為が、**①患者には実施されなかったが，仮に実施されたとすれば何らかの被害が予測される場合**と，**②患者には実施されたが，結果的に被害がなく，その後の観察も不要であった場合**等を指します．なお，『ヒヤリ・ハット』の場合は，インシデントレベル０または１として報告します．

３）報告の方法

診療あるいは診療に関連した行為中にインシデント，またはヒヤリ・ハットが発生した場合は，速やかにインストラクター（指導医）に報告し，患者の安全を守るための措置についての指示を仰いでくだ

さい．患者への対応が終了したのちに，安全管理レポートの報告を行います．

当院での安全管理レポートの報告は，専用システム「ファントルくん」を用いて行います（病院スタッフマニュアル携帯版を参照）．

３．患者誤認，部位誤認の防止

１）患者確認

患者確認とは患者個人を正しく「識別」し，これから実施しようとしている行為（診察・処置・検査等）を示す手元の患者情報と照合し，相違ないことを確認することを言います．患者確認を行うために必要な情報を患者識別子（フルネーム・生年月日・ID 番号など）といい，必ず２つ以上の識別子を用いて確認することが大切です．

外来患者ではフルネーム（氏名）で呼び出し，患者自身（または付添者）にフルネームと生年月日を言ってもらい，電子カルテの情報と一致していることを確認します．また，患者に書類（処方箋，歯科疾患管理用紙，補綴物維持管理用紙など）を渡す際は，書類の名前と ID 番号が，電子カルテや受付票のフルネームと ID 番号と一致しているかを，目で追うだけではなく指で示しながら（声に出すとより良い）確認します．

２）部位確認

歯科治療は不可逆的な処置が多いことから，治療部位の間違いは決して起きてはならないことです．抜歯部位や形成部位など，間違えないためにも適切な確認が必要となります．

・処置部位や内容についてカルテに正しく記載する
・治療開始時に，患者と一緒に治療内容と部位を確認する
・処置を行う歯に予めマジックなどでマーキングをする

４．歯科診療に特有の事例

１）誤飲・誤嚥

（１）予防策

①細心の注意を払いつつ，落下の可能性を想定して治療に臨むこと．
②手を滑らせてもダイレクトに咽頭に落下しないようなポジショニングをとる．
（頭部を横に向かせる．可能な場合は座位で行う）
③ラバーダムの装着を励行する．
④急に動く可能性がある患者については，より注意すること．
⑤処置は可能な限り介助者をつけて４ハンドで行い，介助者はすぐにバキュームを使用できる準備をする（互いの治療を見ることも学習になります）．
⑥グローブは手にフィットしたものを使用する．
⑦可能であれば補綴物にループを付与し，フロスを通して作業を行う．

（２）発生時の対応

ア．慌てて体位変換しない（急に起こさないこと）．
イ．単独で対応せず，周りに応援（他の学生，指導医，看護師，歯科衛生士など）を求める．
ウ．指導医とともに以下の項目を確認し，**誤飲・誤嚥発生時対応フロー**（図）に沿って対応する．
①意識・呼吸・呼吸状態、顔色、咳き込み、血圧、脈拍の状態

②気道閉塞の有無

・気道閉塞の場合は、歯科麻酔科へ連絡

・患者の意識があればハイムリック法や背部叩打法を試みる

③落下物の視認の可否

・落下物を視認できる場合は，バキュームでの取り出しを試みる．

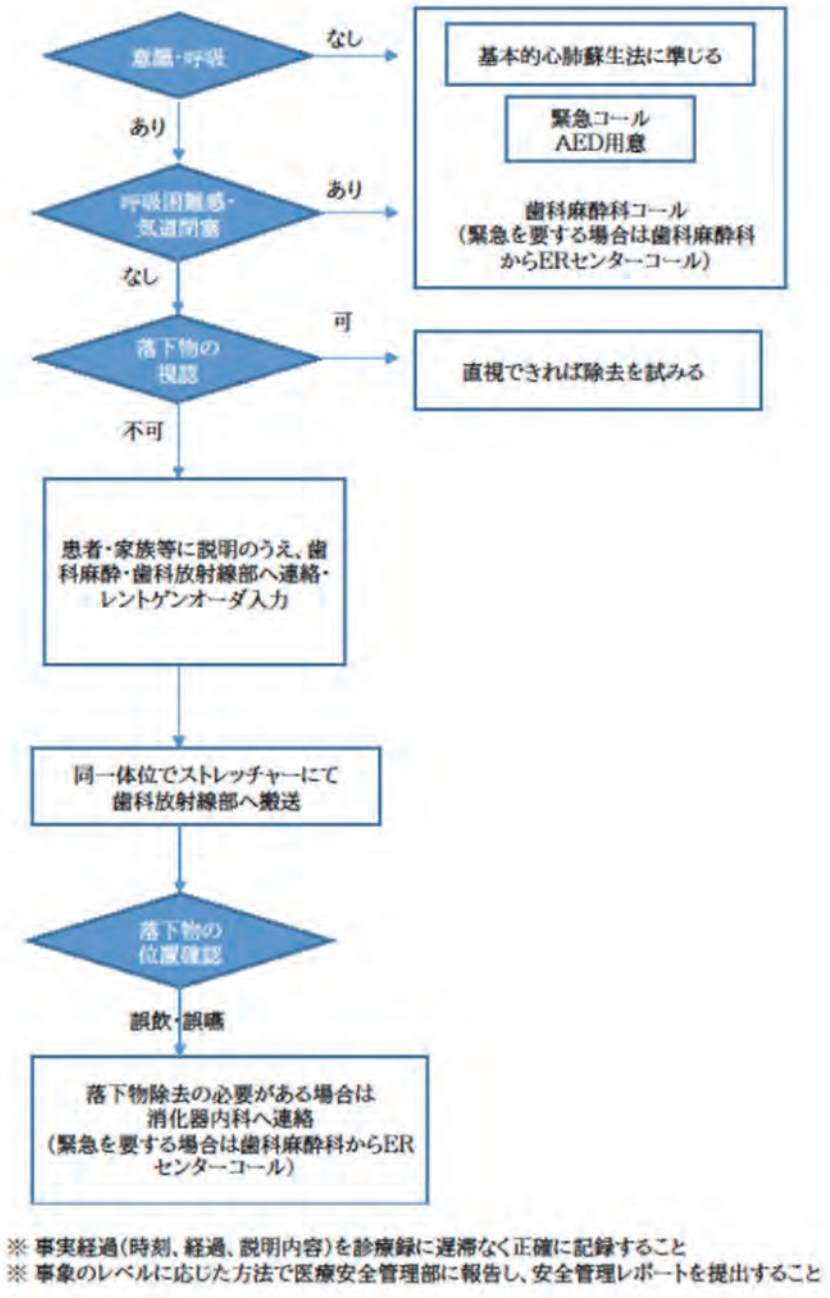
・落下物を視認できない場合は，患者・家族等の同意のもと，同一体位にてストレッチャーで搬送し，胸部 X 線写真撮影で誤飲・誤嚥物の位置を確認する．

・消化管に入った場合は、排出するまで経過観察（指導医の指示に従う）．

※咽頭への落下等で喉頭鏡などを使用する場合は，歯科麻酔科に連絡する．

※患者が嘔吐した場合は，側臥位にして嘔吐物を誤嚥しないように留意する．

【図：誤飲・誤嚥発生時対応フロー】



2）軟組織損傷

（1）予防策

ア．鋭利な器具，切削器具（バー，　ポイント等），メスによる損傷

①器具の口腔内への移動，または口腔外への移動については，横方向ではなく出来るだけ前後方向に動かす．

②嚥下による口腔底挙上や，舌の急な動きがあることを常に意識しておく．

③切削の際には，舌や頬粘膜を十分に排除する（介助者をつけて４ハンドで行うことが望ましい）

④切削の際には，必ず支持を安定した部位に置く．

イ．抜歯操作中の損傷

①ヘーベルを確実に保持し，不要な力を加えないようにする．

②ヘーベル先端に指をあて，滑らないようにする

③抜歯鉗子の背面と対合歯との位置関係に注意する（対合歯の損傷）．

ウ．加熱した器具による皮膚、粘膜等の熱傷

①加熱した器具が接触しないように軟組織の排除を確実に行う。

②器具の口腔内への移動，または口腔外への移動については，横方向ではなく出来るだけ前後方向に動かす．

③ラバーダムシートの使用も考慮する．

オ．局所麻酔後の咬傷

①治療後に頬粘膜などを誤咬する可能性と，防止方法を説明しておく（カルテ記載も）．

②患者の理解力不足と考えられる場合は家族・付添者にも説明する（カルテ記載も）．

③奏功時間の短いスキャンドネスト等の麻酔剤の使用も考慮する．

（2）発生時の対応

ア．軟組織損傷

①治療を中止し，まず圧迫止血を試みる．

②出血点を確認し，適切な止血操作を行う（必要に応じて縫合処置を行う）．

③状況および今後の治療法・見通しについて患者および付添者に説明する（カルテ記載も）．

イ．加熱した器具（ガッタパーチャ切断、コンパウンド筋形成等）による皮膚、粘膜等の熱傷

①速やかに部位を冷却する．

②熱傷の程度により，口腔外科を受診させる

③状況および今後の治療法・見通しについて患者および付添者に説明する（カルテ記載も）．

ウ．局所麻酔後の咬傷

①傷の消毒を行い，必要であれば薬剤塗布や抗菌薬を投与する．

②状況および今後の治療法・見通しについて患者および付添者に説明する（カルテ記載も）．

3）次亜塩素酸ナトリウム水溶液による組織障害

（1）予防策

根管洗浄に用いる 6%次亜塩素酸ナトリウム水溶液には強力な軟組織融解能があり，本溶液のリーク（漏洩）は重篤な傷害をひき起こす場合がある．

ア．口腔粘膜，口唇，顔面皮膚の損傷

①患歯に対してラバーダムを確実に適合させる．隙間は隔壁等で封鎖する．

②エンドバキュームを使用し，根管口部にて吸引する．

イ．根尖孔からのリーク

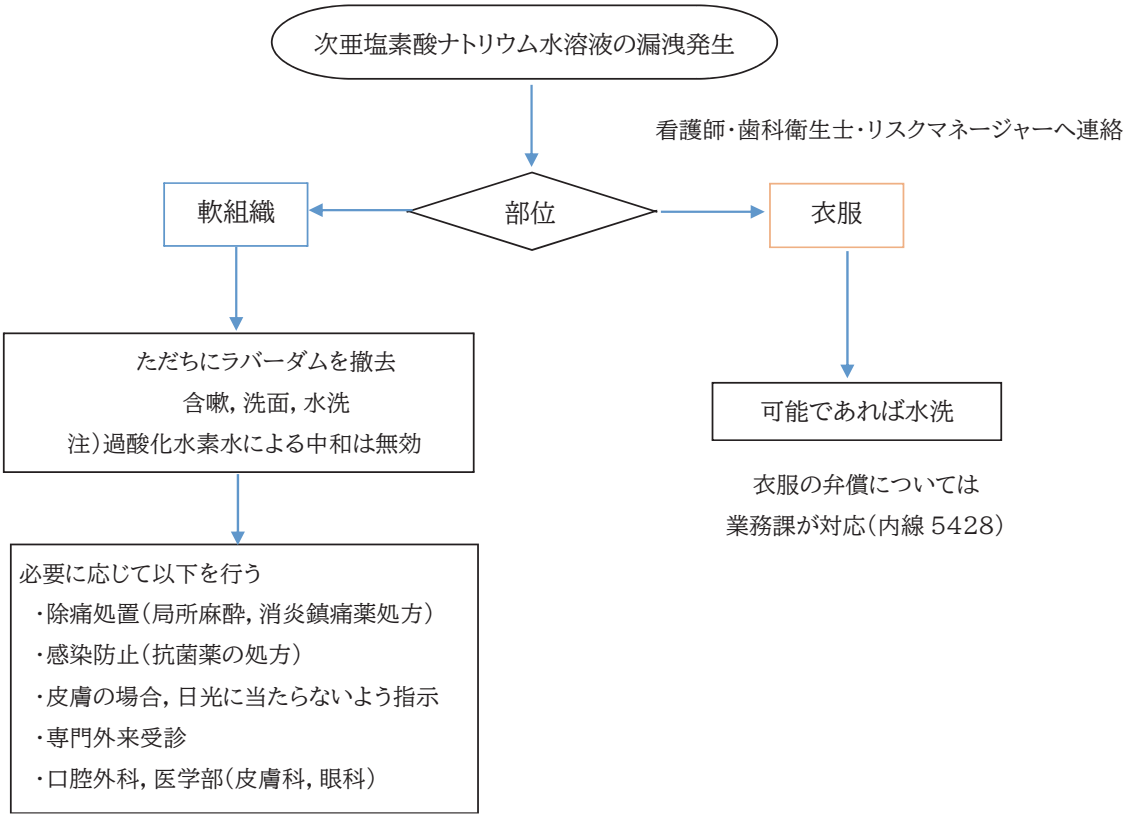
①洗浄針の先端は作業長で曲げておき，先端の位置を予測しながら根管洗浄する．

②洗浄針を軽く上下動させて先端が引っかかっていないことを確認しながら，緩やかな力でプランジャーを押す．

（２）発生時の対応

下記の対応フローに従う（インストラクターへの報告は必須）．

次亜塩素酸等による事故対応



４）衣類汚染

（１）予防策

①器具操作など際には，必ずエプロンをする．

②カートリッジ式の咬合採得材を使用する際は，チップの根元を左手で必ず押さえる．

③印象剤の試し出しを行う際は，患者側にカートリッジを向けないようする．

④う蝕検知液や，染め出し液を用いる際は，跳ねないように注意する．

（２）発生時の対応

①インストラクターに報告する．

②衣服，所持品の状況を確認し，写真で記録する．

③身体に影響はなかったか確認する．

④可能な場合は付着した材料を洗浄またはふき取る（材質によってはふき取ることによってより汚れることがあるので，指導医の指示を仰ぐこと）

⑤患者に状況と対応策を説明する（賠償などの説明はこの時点では行わない）．

5．Team STEPPS

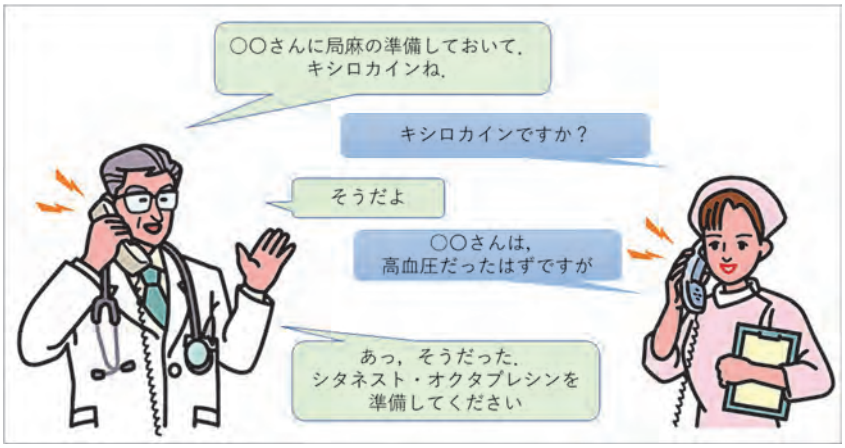
「医療の成果と患者の安全を高めるためにチームで取り組む戦略と方法（Team Strategies To Enhance performance and Patient Safety)」の頭文字をとって，**Team STEPPS** と表現されます．これは良好なチームワークを形成して医療上の事故やコミュニケーションエラーを減少させる行動ツールです．様々なツールがありますが，代表的ですぐ役に立つ方法を示します．

1）チェックバック

指示や依頼したことを（されたこと）を，繰り返して反復して伝え合うことです．重要なのは，「わかりました」や「その通り」で済ませるのではなく，伝える側と受け手側の双方が，同じ言葉を繰り返して確認し合うこと（チェックバック）です．日付や容量，時間など具体的な数値や単位を必ず明言するようにします．

2）２チャレンジルール

手順の間違いや，使用する器具の間違いなど，安全に関する取り決めの違反や間違いを発見した場合に，一旦手を止めてその行為を中断させるためにアピールを繰り返すことをいいます．この目的は，相手の間違いや過ちの指摘自体にあるのではなく，相手が間違いを起こす可能性に気付かせてあげることです．これにより，本来の正しい行動に導くことが出来ます．



3）CUS（カス）

自分が感じていること（不安や心配など）を率直に発信することです．医療事故やインシデントを振り返ると，どこかの場面で「違和感があった」，「不安を感じた」ということが多く見受けられます．したがって，不安や心配が生じた際には率直に発信し，発信者からの懸念を聞いたチームメンバーや周りの人は，速やかに対応することが大切です．

Concern ⇒ 気になります！

Uncomfortable ⇒ 不安です！

Safety issue ⇒ 安全の問題です！

4）SBAR（エスバー）

短い時間で情報を正確に伝えるために，状況，背景，評価，提案という組み合わせで連絡を取る方法です．SBAR に沿って話すことで，伝えるべき情報や聞きたい情報が順番に出てくるため，情報が理解・伝達しやすくなります．

Situation＜状況＞	患者に何が起こっているか	「〇〇さんが急にせき込みだして，息苦しいと言ってます」
Background＜背景＞	状況の背景	「水平位でクラウン除去をしていましたが，外れたものが見当たりません」
Assessment＜評価・理由＞	何が問題だと思うか	「気管に入ってしまったかもしれません」
Recommendation＜提案＞	対策として依頼したい内容	「次に行うべきことを教えてもらえますか」

歯科診療部門　手引き

Ⅰ基本的な感染対策

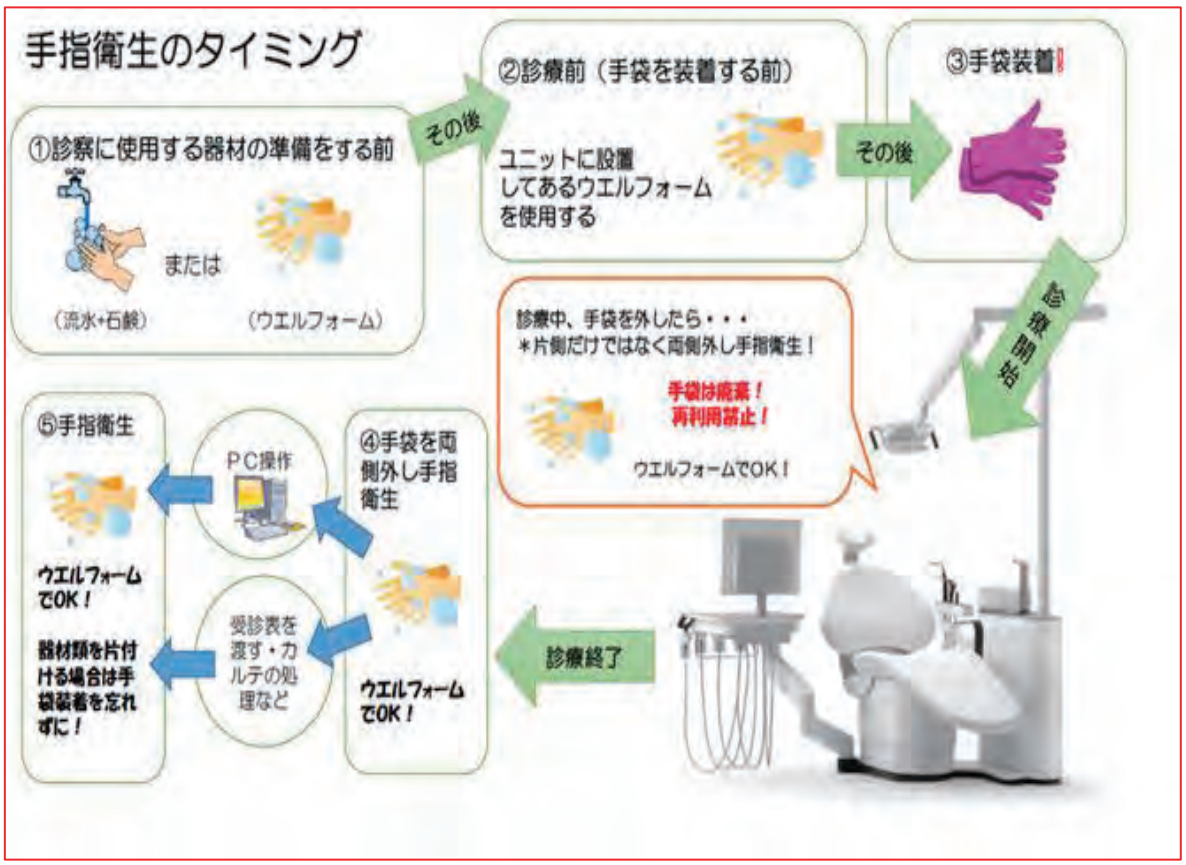
歯科科診療では、タービン、超音波スケーラーおよび3wayシリンジを使用する際に大量のエアロゾルを発生する。また患者の唾液に触れ観血的処置であり、使用する器材等は先端が鋭利なものが多い。患者自身の感染症や既往歴について不明確であることから医療者側の感染リスクが高く、また環境汚染により他の患者への伝播が懸念される。
これらのことから歯科診療では基本的な感染対策が重要であると考える。

1．標準予防策の徹底

1）手指衛生

医療従事者は、手指衛生が簡潔かつ効率的な感染対策であることを認識し、実施することが重要である。手指衛生は、次の５つの場面で行う。

＜歯科診療中の具体的な手指衛生のタイミング＞



2）診療別個人防護具の着用について

歯科診療では、血液・体液を伴う切削やスケーリング等の処置が行われることから、個人防護具を適切に使用する必要がある。

診療別に PPE 着用基準を以下とし、診療中は適切に PPE を使用すること

切削や観血的処置を伴う診療

- 長袖ガウン（プラスチックもしくはアイソレーション）
- サージカルマスク、または N95 マスク（※１）
- フェイスシールド、シールド付きマスク
  アイガード　＊3 種類のいずれかを着用
- ディスポーザブルキャップ
- 手袋

PPE はすべて患者毎に交換する

＜注意事項＞

§診療アシスタント者も同様の PPE 着用を徹底する

※１）N95 マスクの使用が望ましいが、安定した供給が望めない状況である。
（「N95 マスクの使用方法」は感染対策マニュアル〇P 参照）

切削や観血的処置を伴わない診療

- サージカルマスク
- フェイスシールド、シールド付きマスク
  アイガード　＊3 種類のいずれかを着用
- 手袋

PPE はすべて患者毎に交換する

＜注意事項＞

・マスクにくっつくアイガードを使用した際は、サージカルマスクと一緒に廃棄し、サージカルマスクは新しいものを装着する

・必要に応じて、長袖ガウン（プラスチック又はアイソレーションガウン）やプラスチックエプロンを着用する

問診・面談形式の診療

- サージカルマスク
- フェイスシールド、シールド付きマスク
  アイガード　＊3 種類のいずれかを着用

＜注意事項＞

・マスクは会話中も着用のままとし、顎にマスクをずらすことなく、正しく着用する

・口腔内の診察以外は、診療室内でも患者にマスクを着用するよう依頼する
・サージカルマスクはマスクの表面に触れた場合や、外した場合には交換する

受付業務等

・サージカルマスク
＜注意事項＞
・患者との接触が必要な場合は、患者がマスクをしているか確認する。
装着していない場合は装着を確認後、一定の距離を保ち、対面ではなく
患者と並んだ状況で話をする。
・15 分以上の接触を避けるために、10 分以上経過した場合は、対応途中でも
切り上げ、担当医や外来医長へ相談を行う。
※「患者に接触する事務職員への個人防護具着用について」を参照

3）診療上の注意

＊診療開始前の含嗽

患者をユニットに座らせたら、水で含嗽→オキシドール綿球で口腔内を消毒→水で含嗽させてから治療を開始する。ヨードアレルギーの有無を確認して、アレルギーが無い患者にはポビドンヨード希釈液での含嗽も可能。（含嗽はゆすぐ程度のもの）

＊切削またはエアロゾル発生処置での口腔外バキューム使用

・エアロゾルを発生する処置を伴う診療時は必ず口腔外バキュームを作動させる。
・可能であれば口腔より 5 ㎝以内の場所に設置する。

4）器材の準備・後片付けの注意点とユーティリティ係の配置

・診療中はPPEを着用している場合は、滅菌器材や材料をとりに行かず、追加で必要となった場合は、１総診の診療補助、必要器材の運搬等を行うユーティリティ係を当番制で決めているので、ユーティリティー係が行うこと
・診療終了後は、PPEをすべて外し、手指衛生を実施してから新しい手袋を装着し、片づけを行う

5）X 線写真撮影時の対策方法

・患者の撮影終了ごとに触れた部分は、清拭を行う
・感染症または疑い患者の撮影を行う場合は、可能な範囲で器機類はカバーを行い、撮影終了後はカバーを中表となるように外し、カバーを外した後は環境クロスにて清拭を行う。また口腔内フイルムはジッパー付ビニール袋に入れる。

6）環境整備

①ユニットの給水系

診療開始前に、ユニット本体の残留水を排出するため、エンジン、タービン、3 way 等のフラッシングを 20～30 秒間実施し、洗口用水はコップに 4～5 杯の水を捨てる。

②ユニット清掃

1 患者毎のユニット清掃を確実に行い、患者間の伝播を予防する。

（清掃手順は医療端末内：新型コロナ関連：06．ユニットの清掃方法詳細版参照）

③口腔外バキュームの清掃

・原則アームカバーは使用せず、使用後は、患者ごとに「患者診療後のユニット清掃」と同じタイミングで清拭する。

・ただし蛇腹や外側に出ている部分が多い口腔外バキュームについては、アームカバーを使用し、診療中に触れた部分を清拭し、1 日の診療終了時に中表になるようにアームカバーを外すこと。

・フードカバーは患者毎に清拭し、診療終了後は毎日洗浄すること。また、汚染が著しい場合にはその都度交換する。

④遮蔽として設置したパーティションの清掃

1 回／日（診療開始前または診療終了後）清拭を行い、診療の状況により著しい汚染を認める場合は、その都度清拭を行うこと。ロールスクリーンを設置している診療は、ロールスクリーンを巻き上げる前に清拭を行う。

⑤診療室内等共有物品設置場所の清掃

1 回／日（診療開始前または診療終了後）清拭を行う。

⑥換気

診療室内は、窓を開ける、ドアを開けたままにするなど十分な換気が行なわれる環境にすること。エアコンによる空調管理が行われていても実施する。

＜具体的な診療室内の換気方法＞

・対角線上の窓や扉を開放する（窓は常時 10 ㎝程度開放）

・室内に窓がない場合はサーキュレーターを活用し、開けた扉に向けてサーキュレーターを設置する（空気を循環させるための風をおこす）。季節により、外気温の影響を受けやすいことが予測されることから、適宜窓開けを行い診療室内の室温の急激な上昇や下降に注意する。

Ⅱ　歯科疾患に関連しない体調不良を有する患者の対応

歯科疾患に関連しない体調不良（呼吸・消化器症状等）を有する患者の歯科診療において緊急性が無いと判断した際は、診療を中止する。
ただし緊急性があると判断した際はクリーンルーム歯科外来にて診療を行う。
＊感染症を疑う際の詳細は「院内感染対策マニュアル第 2 章
具体的な感染対策 2.1.3 外来トリアージ・陰圧室の管理」を参照

＊クリーンルーム歯科外来
陰圧となる診療室が 5 室（うち 1 室は陽圧に切替可能）あり、陰圧状態を保持し、一般診療室とは違い感染症の拡散防止を目的とした外来である。
院内感染を引き起こす可能性のある感染症（対象は下記参照）を有し、かつ感染に対して抵抗力の低下が憂慮される易感染状態である患者が本外来を使用する。
対象：MRSA、緑膿菌、梅毒、肝炎ウイルス、HIV、
クロイツフェルト・ヤコブ病（詳細は院内感染対策マニュアル 2-5-11 参照）
他、歯科疾患に関連しない体調不良（呼吸・消化器症状等）を有する患者で緊急性があると判断した場合

＊クリーンルーム使用方法等、詳細については「クリーンルーム歯科外来使用の手引き」参照

Ⅲ　針刺し・切創、血液・体液曝露事象の予防と対策

歯科では、針・メスに限らず多くの器具が鋭利なため、患者・職員の針刺し・切創を防ぐために取り扱いには十分注意が必要である。
バー・ファイルなどを直接手に持つことは針刺しの原因となり危険を伴う。また、使用したハンドピース類にバー類を装着したままでの針刺し・切創事象が報告されていることから、様々な場面での注意が必要となる。
また、切削により粘膜曝露事象も発生していることから、個人防護具を適切な場面で使用することも重要である。

1）鋭利物使用時の注意
・バーやファイル類は、滅菌済みトレーや未使用のコップ（未滅菌）を用いて運搬する。
・診療直前にハンドピースにバー類を装着し、診療後は速やかに取り外す
・使用済み器材を扱う際は、手袋を必ず着用し、装着前後は手指消毒を行う
・ブローチ・クレンザーの先端、注射針、縫合針、取り付けタイプのメス刃は、使用者が

ホルダーから外し、針専用 BOX へ廃棄する
・歯科浸潤麻酔用針は、ねじタイプの場合しっかり緩めてからホルダーより外す
・原則、リキャップは禁止であるが、浸潤用麻酔針は「ワンハンドテクニック」
（キャップを片手ですくい上げる方法）にてリキャップする。
・ワイヤー類は、切断時飛び跳ねに注意し、廃棄する場合は耐穿通性の医療廃棄 BOX に廃棄する。
・使用済み器材の回収場所には、器材が籠から飛び出さないように入れ、回収作業者への針刺しが起こらないよう籠へ入れる。

2)切削や研磨時の注意事項
・口腔外バキュームを積極的に使用する

3）針刺し・切創、血液・体液曝露事象発生時の対応
「院内感染対策マニュアル第 2 章 具体的な感染対策 2.2 針刺し・切創、血液・体液曝露の予防と対策」を参照しフロー通りに対応を行う

エピネット報告書を医療端末よりプリントアウトし記載後感染制御部へ提出
（記入用紙及び記入例は医療端末内に掲載）

針刺し・切創報告書の記入方法

エピネット日本版-Japan EPINet
A:針刺し・切創報告書
(Japan EPINet version 5.0)

4　発生場所(1つだけチェック)
1 □ 病室(集中治療室を除く)
(病棟名記載)
2 □ 病棟病室外
□ 廊下
□ ナースステーション
□ 処置室
□ その他(記載)
(病棟名記載)
3 □ 救急部門
4 □ 集中治療部(術後回復室を含む)
5 □ 手術部
6 □ 外来診察室(処置室)(診察科記載)
7 □ 輸血部
8 □ 採血室
9 □ 透析室
10□ 特殊検査室(放射線・内視鏡・CT・心カテ・筋電図等の検査室)
11□ 臨床検査部
12□ 病理部
□ 病理検査室　□ 病理解剖室
13□ 中央材料室
14□ 分娩室
16□ 薬剤部
17□ 化学療法センター
15□ 在宅
99□ その他(記載)

4:発生場所
基本は場所を記載する。分類は以下の通り

4.　事故発生場所（チェックと空欄に記入）

1		病室
2		病室外（ナースステーション等）
3		手術室
4		病棟処置室
5		外来診療室（　　）階
6		クリーンルーム歯科外来
7		第一・第二総合診療室
8		中央器材部
9		外来準備室（　　）階
10		検査部
11		歯科技工部
12		診療科・部技工室（　　）階
13		その他

8　使用目的(処置・手技)-どのような処置や手技で原因器材は使用されていましたか？(1つだけチェック)
1 □ 不明
16□ 薬剤準備・輸液準備(ミキシングなど)
2 □ 注射器を用いた経皮的な注射(静・筋・皮下・皮内等)
3 □ ヘパリン生食等でフラッシュ洗浄(注射器を用いて)
4 □ 静脈ラインのインジェクションサイト(ゴム管・ゴム栓)への側注又は採血
5 □ 静脈ラインの接続・増設
6 □ 末梢血管確保(動脈を除く、静注、一時・持続点滴を含む)
15□ 動脈/中心静脈ラインの確保
7 □ 静脈採血
□直接穿刺　□ルートからの採血
8 □動脈採血(血液ガス)
□直接穿刺　□ルートからの採血
9 □ 体液・組織採取(試験穿刺、生検、ルンバール等)
10□ 耳介・指・足底等の穿刺
11□ 縫合
12□外科的に切る操作(電気メス以外)
13□電気メスによる切開
14□剃毛・除毛
17□病理検体切り出し
18□歯科関連(記載)
99□その他(原因器材ではなく処置や手技等の使用目的を記載して下さい)
(記載)

8:使用目的(処置・手技)どのような処置や手技で原因器材は使用されていましたか？
(1つのみチェック)

「エピネット日本版A:針刺し・切創報告書」では、**18□歯科関連(記載)**となっているため、下記の表右側14～20番の項目(歯科での処置や手技の詳細)から選択し、記載を行う。

14		注射器を用いた口腔内への注射
15		歯の切削等（タービン・電気エンジン使用）
16		歯内治療
17		歯周治療
18		抜歯
19		製作物の形態修正・研磨
20		矯正装置

10　原因器材の種類は？（1 つだけチェック）

器材項目

1～29：針（中空針）

30～59：手術器材及びその他の鋭利物（44 患者の爪・歯含む）

60～79：ガラス製器材

※1～29 の針（中空針）の場合、ゲージ数をお答えください

原因器材のゲージ数

□インスリン用	□ツベルクリン用
□24/25 ゲージ	□23 ゲージ
□22 ゲージ	□21 ゲージ
□20 ゲージ	□19 ゲージ
□18 ゲージ	□その他（記載）＿＿＿＿

1 □ 使い捨て注射器の針
2 □ 最初から薬剤が充填されている注射器の針（ペン型インスリン注入器用注射針等）
3 □ 血液ガス専用の注射器の針
4 □ その他、あるいは種類のわからない注射器の針（ガラス製注射器の針を含む）
5 □ 点滴ライン接続・増設等に用いる針
6 □ 翼状針（真空採血セット・点滴セットと接続された翼状針を含む）
8 □ 真空採血セットの針（注：真空採血セットに接続した翼状針による受傷は"6"で回答）
7 □ 末梢静脈留置カテーテルの針
9 □ ルンバール針又は硬膜外針
10□ 何にも接続されていない注射針
11□ 動脈カテーテル誘導針
12□ 中心静脈カテーテル誘導針
13□ 鼓膜カテーテル針
14□ その他の血液用カテーテル（心臓カテーテル等）
15□ その他の非血液用カテーテル（眼科用等）
28□ 分類不能な針
29□ その他の中空針（記載）＿＿＿＿＿＿＿＿

30□ ランセット（耳介・指・足底からの穿刺採血用）
31□ 縫合針（記載）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
32□ 再生使用する外科用メス（替え刃を含む）（ディスポーザブルの外科用メスは 45）
33□ 剃刀、刃
34□ プラスチック製ピペット
35□ はさみ
36□ 電気メス
37□ 骨切りメス
38□ 骨片
39□ 布鉗子
40□ マイクロトームの刃
41□ トロッカー（套管針）
42□ プラスチック製の吸引チューブ
43□ プラスチック製の検体容器・試験管
44□ 指の爪、歯（患者に咬まれた、引っ掻かれた等）
45□ ディスポーザブル外科用メス
46□ レトラクター、スキンフック、ボーンフック
47□ ステープル/金属縫合糸
48□ ワイヤ
49□ ピン
50□ ドリルビット
51□ 摂子、鉗子類
58□ 種類のわからない鋭利器材
59□ その他（記載）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

60□ 薬剤アンプル
61□ 薬剤バイアル
62□ 点滴液瓶あるいは大きな薬液瓶
63□ ガラス製ピペット
64□ ガラス製の真空採血管
65□ 試験管・検体容器
66□ ガラスの毛細管
67□ ガラススライド
78□ 種類のわからないガラス製品
79□ その他のガラス製品（記載）＿＿＿＿＿＿＿＿

10：原因器材の種類は？

歯科診療中に使用する器材は、詳細がないため、原因器材は「59□その他（記載）」に記載する

器材・器具の洗浄・消毒・滅菌

歯科診療施設では侵襲的な手術や処置も多く行われており、歯科治療機器や器材器具が患者の無菌的な組織または粘膜と接触する機会がある。また多数の微生物が環境や人には存在し、微生物が侵入することが重大な感染リスクとなる。しかし、すべての環境の無菌化を目指すことは現実的に困難であり、それぞれの医療機器や器材器具や環境がもつ感染リスクの大きさに応じて洗浄、消毒、滅菌を適切に実施することが感染対策の基本となる。
歯科治療の現場においては、洗浄・消毒・滅菌の違いを理解し、歯科治療器材を使用目的と使用部位に応じて適切に選択して取り扱うことが大切である。
（＊洗浄・消毒・滅菌の定義については「院内感染対策マニュアル２．３ 器具・器材の洗浄・消毒・滅菌　２．３．１ 洗浄・消毒・滅菌の定義及び方法・留意点」を参照）

各科保有器材の洗浄について

① 再使用可能な器材は、消毒と滅菌の前に有機物の汚染を除去するために洗浄を行う。
② 鋼製小物など耐熱・耐水性のものは、アルカリ洗浄液を用いたウォッシャーディスインフェクター(80℃10 分以上)で洗浄を行う。
③ 作業者は防水性のガウン・手袋・マスク・アイガードを着用する。
④ 清潔区域と汚染区域のゾーニングを行い汚染器材と清潔器材を交差させない。
⑤ 汚染器材専用の流し台を決めておき、用手洗浄が必要な場合はそこで行う。
⑥ 内腔のある器材は内腔まで十分に洗いすすぐ。
（中央器材室においては減圧沸騰洗浄器で洗浄する）
⑦ バーやファイルなど細かい溝のある器材は、超音波洗浄器で洗浄後にウォッシャーディスインフェクターで洗浄する。
⑧ 洗浄後は十分乾燥させる。
⑨ 洗浄後の物品は汚染しないように保管する。
⑩ 洗浄の確認は目視（直接法）とウォッシャーディスインフェクターでは洗浄用インジケータによる確認（間接法）を行う。
⑪ 内視鏡の洗浄・消毒は中央器材室に依頼し、内視鏡洗浄機で行う。

汚染器材の洗浄処理は、中央器材室で一括して行えるようになるまでは、各科保有の器材・器具は各階器材室で洗浄する。

２，依頼滅菌の提出

各部署で管理している器材・器具については、自部署のウォッシャーディスインフェクターで洗浄後、滅菌が必要な器材・器具は滅菌パックに入れシールができる状態にして中央器材室に滅菌依頼する。

外来で滅菌バッグに入れる時の注意点

・滅菌バッグのビニール面に油性マジック（インク）で依頼科等記載する。
・滅菌バッグへ記載する際は、ボールペン等先端が鋭利なものはピンホールが生じる可能性があるため使用しない。
・滅菌バッグの紙面には何も記載しない。
（滅菌時の圧力でインク成分が内部へ浸透する可能性がある。）
・滅菌パックのサイズは、器材を入れ入口を合わせた状態で上部に少なくとも 4cm 以上余裕のあるものに入れる。
（確実にシールし、滅菌日・使用期限の印字ができるように）
・先端が鋭利な器材を滅菌パックに入れる場合、ピンホール発生のリスクを避けるため、先端保護のシリコンチューブをつける。
・依頼滅菌品の滅菌方法は依頼科にて添付文書で確認し、滅菌方法にあった滅菌バッグやインジケータを選択する。
・器材・器具は十分乾燥した状態で滅菌パックに入れる。

3，滅菌物の供給

① 滅菌方法に関わらず、「機械監視記録」、「CI（化学的インジケータ）」の変色確認、「BI（生物学的インジケータ）」の滅菌判定確認し、全て正常であった場合のみ滅菌済みとして供給する。

② 定時請求の場合、中材請求システムで必要器材を請求（入力締切 16 時）し、翌日滅菌物配送台車にて配送する。

③ 臨時請求の場合、中材請求システムに入力後、中央器材室に電話連絡し受け取る。

④ 各科における中央器材室管理の滅菌単包器材は、中央器材室スタッフが定期的に定数確認を行い消費分の補充を行う。

4，無菌性有効期間

時間依存型無菌性維持の考えにて以下の有効期限を設定している。

梱包方法	有効期限
パック包装	3 ヶ月後の末日
器械カスト	4 週間
不織布ラップ包装	4 週間
器械コンテナ	3 ヶ月

※ただし、パック等の包装の湿り気・汚れ・破損がないことを確認して使用する。

5，器材・器具の取り扱い

1）使用後の器材・器具について

① 診療に使用した器材・器具を取り扱う時は手袋を装着し、取り扱い終了後は手袋を医療廃棄箱へ廃棄後、手指衛生を行う。

② 使用後の器材・器具は速やかに使用済み器材回収コーナーの定位置にさげ、汚染を拡散しない。

③ 使用済みの器材・器具に装着した鋭利なディスポーザブル器具は、回収・洗浄作業員やその他の職員の針刺し事故を防止するため、使用者が使用後速やかに器材・器具から取り外し、セーフティーBOXへ廃棄する。

④ 中央器材室管理の使用済み器材は、定期的に専用コンテナなどで密閉し、中央器材室へ搬送する。

⑤ 各部署で管理している器材・器具については、各フロア器材室にて洗浄（ウォッシャーディスインフェクターでの洗浄が不可能な器材のみ用手洗浄）・消毒を行う。中央器材室へ滅菌依頼を行う場合は、滅菌パックに入れシールできる状態にして中央器材室に提出する。

6，ハンドピースの取り扱い

①使用後のハンドピース処理方法

◆ 患者へ使用後、除染を行う（必ず手袋を着用すること）
サラサイド除菌クロスにてハンドピース全体の汚れを拭き取る
ウォッシャーディスインフェクター対応であれば、器械洗浄を行う

◆ 注油を行い、空回しし余分な油を除去する
自動注油器が設置されている診療科は、自動注油器を使用する

◆ 各診療室に設置されている滅菌器を使用し滅菌するか、滅菌パックに入れ中央器材室へ依頼滅菌する。
㊟各診療室で滅菌を行う場合は、履歴管理を忘れずに行う
各滅菌器に関しての使用方法については、取り扱い説明書を参照

◆ 滅菌終了後、清潔な状態を保持するため、ハンドピースは袋やカスト等の蓋つきの容器に入れ保管を行う。

7，滅菌後のハンドピースの取り扱いと保管方法

◆ パックを使用せず滅菌を行う場合
工程終了直後は高温となるため、火傷などに注意し取り扱う。
滅菌後に冷却した後は、手指衛生後の未滅菌の手袋を着用した手で取り扱い、清潔な蓋つきの容器等で保管する。

◆ 滅菌パックで滅菌を行う場合
滅菌器材の保管方法に準ずる。

8，カスト内器材の取り扱い

①滅菌済みカスト

・取り扱う際は、手袋を外し、手指衛生を行う。

・カスト開封時、右下のインジケータテープとカスト内部の化学的インジケータが滅菌済みの色に変色していることを確認する。

・手指消毒後の清潔な手で滅菌済みピンセットを使用し、カスト内の器材・器具を清潔なトレーなどに取り出す。

・カスト開封後の使用期限は１週間とする。

・カスト内を操作する鑷子・鑷子立てカバーは既滅菌のものを使用し毎日交換する。

・カスト内を覆うようにのぞき込まない。

・落下物・異物混入・手で触る等で不潔にした場合、新しいカストに交換する。

②洗浄・消毒・フラッシュ滅菌済みの器材・器具保管用カスト

・手指衛生後の清潔な手でカストを開け、カスト内のものを取り出す。

・手袋を装着している場合は、手袋を外し、手指衛生を行う。

・カストは定期的にウォッシャーディスインフェクターにて洗浄する。

9、器材の処理方法

各外来や歯科病棟で処理する器材・器具は表４に従って洗浄・消毒する。

表４　器材の処理方法

器材名	処理方法	備考
口腔外バキューム	・本体は診療終了後、1回／日に低水準消毒薬含有クロス（サラサイド除菌クロス等）で清拭する ・吸入口フードカバーは1回／日洗浄する。著しい汚染がある場合にはその都度交換し洗浄する ・スイッチは患者毎に低水準消毒薬含有クロス（サラサイド除菌クロス等）で清拭する	・フィルターは定期に交換する
根管長測定器	・本体は患者毎に低水準消毒薬含有クロス（サラサイド除菌クロス等）で清拭する ・口角導子は洗浄後、オートクレーブ滅菌依頼を行う ・電極コード、電極フックは低水準消毒薬含有クロス（サラサイド除菌クロス等）で清拭後、オートクレーブ滅菌依頼を行う	・口角導子、電極フック、電極コードは患者毎に交換する
レーザー照射器	・本体は患者毎に低水準消毒薬含有クロス（サラサイド除菌クロス等）で清拭する ・先端は洗浄後、プラズマ滅菌依頼を行う	
歯髄診断機	・本体は患者毎に低水準消毒薬含有クロス（サラサイド除菌クロス等）で清拭する ・先端が取り外し可能な製品は、取り外しウォッシャーディスインフェクターで洗浄する。	・先端のチップはディスポーザブル製品
レジン照射器	・患者毎に低水準消毒薬含有クロス（サラサイド除菌クロス等）で清拭する	・可能な限りカバーリングを行って使用する
ミキシングカップ 印象用スパチュラ ラバーボール	・印象剤溶解液（「よくとれ～る」など）に浸漬し、印象剤を除去後、ウォッシャーディスインフェクターで洗浄する。 ・石膏が付着している場合は、石膏溶解液に浸漬し、石膏除去後、ウォッシャーディスインフェクターで洗浄する。	・石膏は石膏トラップのある専用の排水に流す

＊上記以外の器材については感染対策マニュアル参照

技工物・印象体の消毒方法

１.技工物

診療開始前の口腔内の洗浄方法

- 患者の口腔内に指摘する前に逆性石鹸液 0.025「ヨシダ」液またはザルコニン綿球（0.025%）にて清拭を行う
- 口腔内へ試適を実施した後は流水にて洗浄を行う

【補綴物を切削する場合の注意事項】

①診療開始時

◆ 補綴物を患者の口腔内より取り出し、流水下にて唾液など付着物を除去した後、デンチャークリーナーを使用し超音波洗浄を行い、洗浄後も流水により洗浄を行う。

◆ 超音波洗浄中に患者含嗽をしてもらい、口腔内をオキシドール綿球で清拭し再度水で含嗽を実施してもらう

②切削等調整した補綴物を口腔内で試適を行う場合

(ア) 患者に含嗽を実施してもらう

(イ) 補綴物を口腔内で試適する

(ウ) 再度調整が必要な場合は、口腔外に取り出し補綴物の切削等を行う

(エ) （ア）へ戻る

２.印象体

①インプロステリンプラス（次亜塩素酸系除菌洗浄剤・固定剤配合）による浸漬消毒

＊20 倍希釈液を作成する（水 1 L に対し 50ml）

【消毒手順】

(ア) 印象採得後、流水下にて唾液や血液等を十分に洗い流す

（シリコン印象は 30 秒間、アルジネート印象は 120 秒間）

（注）次亜塩素酸系消毒薬は効果が減弱しやすいため、消毒前の水洗が重要

(イ) 流水下での洗浄後、インプロステリンプラス溶液に 10 分以上（3 時間以内）浸漬

(ウ) 浸漬後、印象体を水道水で十分に洗い流す

(エ) 通法により石膏を注入する

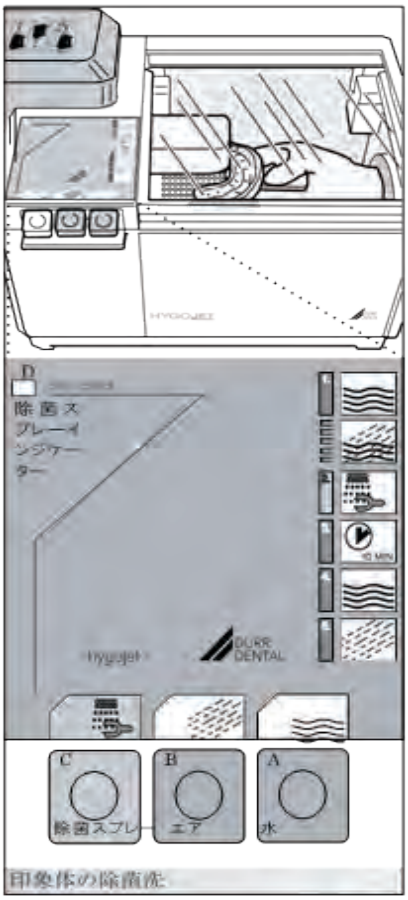
②ハイゴジェットを使用した場合

＊ ハイゴジェットはクリーンルーム歯科外来に設置している

＊ 印象体をハイゴジェット内に挿入し、ボタンを押すだけで洗浄、除菌と乾燥を行うことができる。

【除菌洗浄の作業の注意事項】

- 印象体の出し入れはガラスカバーより行い、印象体の除菌洗浄作業は本体右側の手の挿入口よりグローブをつけた腕を入れて行う。
  （印象材メーカーの洗浄・除菌の取扱方法に従うこと。）
- 作業中はガラス蓋を閉じたままで行う。
- 印象体の変形を避けるために、 10 分間の作用時間を守って、 それ以上時間を置かないこと。
- 除菌および洗浄を途中で中断する場合、もう一度予備洗浄より除菌を行う必要がある。



○印象体の識別票

一度に複数の印象体を除菌液や水で洗うので、区別ができるようにすること。油性ペン（マーカーペンなど）でラベルを書いて印象トレーに貼り付ける。

○ハイゴジェットに印象体を入れる

本体上部のガラスカバーを開けてから、印象体を内に入れる。最大 6 つの印象体の洗浄、除菌と乾燥が同時に可能。ガラスカバーを閉じる。

【ハイゴジェット操作手順】

①印象材の予備水洗

保護手袋を着用した状態で印象材をスプレーヘッドの下にあてがって、印象材を回転しながら「水ボタン」(A)を約 10 秒間押し、水で裏表を洗い流す。

「水ボタン」(A)と「エアーボタン」(B)を同時に押すことで噴射を強め、汚れをより落とすことができる。

②除菌スプレー

黄色の除菌スプレーボタン(C)を、印象材を回転しながら表面全体に除菌スプレーインジケーター「chemcontrol」表示(D)が現れるまで押す。

③タイマー設定

除菌液を作用させるために、タイマーを 10 分間にセットし、タイマーが終わるまで待つ。

④すすぎ

印象体を回転させながら除菌液が落ちるまで「水ボタン」(A)を押す。

⑤乾燥

必要に応じて（印象体の素材に注意すること）、「エアーボタン」(B)を押し、乾燥を行うことがでる。

３、補綴物および印象体・バイト等を診療室外へ持ち出す手順

① 患者に装着した補綴物（義歯等）はデンチャークリーナーにて超音波洗浄を行う
＊詳細な手順は【補綴物を切削する場合の注意事項】①診療開始時を参照

② 洗浄後、チャック付きビニール袋等に入れ、袋を閉じる
（大きい場合はチャック無ビニール袋でも可）

③ 袋を閉じた後、ビニール袋全体を環境清拭用クロスにて清拭を行う

◆ 上記の工程後、技工室や歯科技工部及び材料室へ持ち出すこと

◆ ディスポトレーにて持ち運ぶ際はトレーごとビニール袋に入れた状態で、診療室外へ持ち出す

◆ 咬合器等については、アルコール含有クロスにて清拭を行い診療室外へ持ち出す

歯科で使用する薬品の管理（開封後、複数回使用の薬品）

1. 取り扱い条件

1）容器の注ぎ口やキャップの内側が汚染された場合は、その時点で廃棄する

2）異物が混入しないように使用環境に留意する

3）直射日光・高温を避けて適切な温度で保管する

4）開封後の薬液中に異物の混入や異常を認めた場合は、その時点で廃棄する

2. 保管条件

各薬品の添付文書等に記載されている保管条件を参照

➢　歯科用薬剤

商品名	使用期限
ペリオドン	保管条件を遵守し、開封の有無にかかわらず記載の使用期限
村上キャンフェニック	
ハリケインゲル	
フルオールゼリー	
歯科用アンチホルミン	
歯科用 TD ゼット	
サホライド	
パルパック V セット品	
プロネスパスタアロマ	
ネオステリングリーン	
歯科用オーラ注ｶｰﾄﾘｯｼﾞ	
歯科用シタネストオクタプレシンｶｰﾄﾘｯｼﾞ	
歯科用スキャンドネストｶｰﾄﾘｯｼﾞ	

➢　軟膏（チューブ製品）

商品名	使用期限
アズノール軟膏	保管条件（室温保存）を遵守し、開封の有無にかかわらず記載の使用期限
アクロマイシン軟膏	
エムラクリーム	
キシロカインゼリー	
オルテクサー口腔用軟膏	
ゲンタシン軟膏	
デキサメタゾン口腔用軟膏	
テラコートリル軟膏	
リンデロン VG 軟膏	

・チューブの先端の清潔を保って使用すれば長期間使用可能とされている
（日本皮膚科学会 Q&A 参照）
・長時間使用していない場合、使用前に少量取り出し、捨ててから使用する
・チューブが破損した場合は廃棄する

➢　小分けしている薬剤

商品名	使用期限
プロペト	容器ラベル記載の使用期限
レスタミンコーワクリーム	
希ヨードチンキ（J 液）	
プリビナ点鼻液	

・軟膏は清潔な器具を用いて軟膏を取り出す。チューブ製品と比べて、軟膏容器のふたの開閉により、空気に触れる頻度が高いため、期限内であっても明らかに変色・変質している場合は廃棄する

➢　院内製剤

製剤名	使用期限
アクロマイシン軟膏ガーゼ	冷所保存し、容器ラベル記載の使用期限
アクロマイシントリアムシノロン軟膏	
10%チオ硫酸ナトリウム液	室温保存し、容器ラベル記載の使用期限
3%ルゴール液	
1%メチレンブルー液	
2%ピオクタニンブルー液	

➢　手指消毒薬

製品名	用量	一般名	開封後期限
ウエルアップハンドローション 1%	1L	ｸﾛﾙﾍｷｼｼﾞﾝｸﾞﾙｺﾝ酸塩エタノール	6 か月
ウエルパス手指消毒液 0.2%	1L	ベンゼトニウム塩化物、 エタノール	6 か月
ウエルフォーム	360mL 1L	ｸﾛﾙﾍｷｼｼﾞﾝｸﾞﾙｺﾝ酸塩 エタノール	6 か月
ラビジェル	60mL	エタノール	6 か月
ノンアルフォーム BC ヨシダ	80mL	ベンザルコニウム塩化物	6 か月

➢　手術時手指消毒薬

製品名	用量	一般名	開封後期限
マスキンスクラブ 4%	500mL	ｸﾛﾙﾍｷｼｼﾞﾝｸﾞﾙｺﾝ酸塩	6 か月
ポピヨドンスクラブ 7.5%	500mL	ポビヨンヨード	6 か月

歯系
臨床実習版

針刺し・切創、血液・体液曝露の対応フロー

針刺し・曝露事象発生

↓

直ちに(手技を中断し)傷口を流水で洗浄

↓

現場責任者または所属長へ報告

ヘッドライター・ライター・看護師または歯科衛生士に報告

ライターが感染制御部（5398）へ連絡

↓

曝露源の感染症有無を確認
（HBs抗原、HCV抗体、HIV抗原・抗体）

同意書取得（院内web・感染制御部HP内）
血液検査オーダー（相乗り端末）

30日以内に検査されていなければライターが同意書を取って検査を実施。セット展開「針刺し：曝露源」

曝露源の採血
【平日8:30－16:00】B棟3F中央採血室
【平日16:00－17:15】歯系外来看護師を手配
（感染制御部から外来看護師長（PHS84233）経由で手配）
【平日17:15以降】 A棟B1F救命救急センター
※不可または同意が得られない場合は
曝露源不明として扱う

↓

感染症内科受診

被災者の採血（感染制御部から手配）

※平日夜間/休日の対応

HBs抗原(+)、HIV抗原抗体(+)、
曝露源不明

・ERウォークイン受診
・翌日または休日明けに感染制御部(5398)へ報告し、
感染症内科受診について指示を仰ぐ

すべて陰性
HCV抗体のみ陽性

・当日の対応は不要
※ 連休等で受傷後48時間以内に受診できない場合、管理師長(日勤:87004　夜間:87005)に感染制御部当番の連絡先を確認し連絡する。
・翌日または休日明けに感染制御部(5398)へ報告し、
感染症内科受診について指示を仰ぐ

↓

エピネット報告書の記入と提出
A棟5階感染制御部へ提出

歯学系教務係に連絡：5411

＊夜間休日に発生した場合は翌日または休日明けに対応

曝露源がすべて陰性の場合も、Window期のすり抜けがまれにあるため、
翌診察日に感染症内科を受診してください

受傷後の受診は、受傷直後、4週後、12週後、24週後の4回
（処置の内容によっては受診回数が増えることがあります）

新型コロナウイルス接触確認アプリから通知があり帰国者・接触者外来等を予約/受診を指示された場合

https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000641655.pdf

本学学生・職員の場合

医病職員

WebClassを通して連絡

歯病職員

下記に連絡

歯病感染対策室
1176adm@tmd.ac.jp
03-5803-4983

その他の職員

下記に連絡

事務局新型コロナウイルス対策室
kikikanri@ml.tmd.ac.jp

学生

所属学科教務係に連絡

↓

事務局新型コロナウイルス対策室に連絡

↓

保健管理センターに連絡

↓

保健管理センターが本人より状況を聞いて対応を判断

３．包括臨床実習 PhaseⅡ 実習要領

歯科総合診療科

○ー PhaseⅡーを行うにあたって

歯科総合診療科における包括臨床実習PhaseⅡでは、PhaseⅠの内容をすでに習得していることを前提に、より実践的な内容を学ぶ。午前中は総合診療センターで初診患者への医療面接を行い、必要な医療面接技術の定着をはかる。午後は治療計画立案、シミュレーション実習、口腔内写真撮影相互実習などを行い、基本的診察・診療技能に幅を持たせることを目的とする。

1．到達目標

1）初診患者から診療に必要な情報を聴取する。
2）初診患者の主訴に対する診断過程を説明する。
3）初診患者と良好なコミュニケーションをとる。
4）清潔、不潔に配慮した診察と記録を行う。
5）患者の主訴に対応した治療計画を立案する。
6）治療計画立案で考慮すべき点を列挙する。
7）シミュレーションを通じて様々な症例を体験する。
8）口腔内撮影（5枚法）を適切に行う。［選択必修］

2．実習場所

本院歯系診療部門1F歯科総合診療科医局
（午前実習時は、総診以外の先生方も同室利用するため、入って左側最前列に着席すること）

3．実習内容および注意点

1）初診時医療面接実習［AM］

本院歯系診療部門に対する患者からの期待は大きく、口腔・顎・顔面領域の疾患を持った患者が全国から来院されている。総合診療センターは原則として15歳以上で各診療科あての紹介状を持たない初診患者が最初に訪れる外来であり、様々な疾患や主訴を持った患者を各診療科に紹介する役割を担う。そのため、必然的に他の医療機関には類をみないほど多くの症例に接することになり、初診担当医には口腔・顎・顔面領域の疾患の幅広い知識が要求される。また、患者は多様な社会的背景を持っているので、医療面接時には社会的および心身的因子への配慮が重要となる。包括臨床実習PhaseⅡでは外来において初診患者の診察を行い、患者の問題点を正確に把握して診療につなげるトレーニングを行う。また、第1、第2総合診療室への配当方法の実際について経験する。

また、決められたケース数の医療面接終了後に、試験ケースを行う。試験ケースはチェックリスト方式で行い、到達目標の1）～4）に関する部分が主に評価される。実施内容の詳細については後日説明を行う。

2）治療計画立案実習［PM］

治療計画は患者の主訴に対応しており、患者に明確に説明できるものでなければならない。また、患者のニーズにも十二分に配慮した治療計画立案が提示できれば、患者との良好な信頼関係が構築できる

ことが期待される。本実習では与えられた資料を基に診断・治療計画立案を行い、患者への治療計画を提示する時に考慮すべき点について考察する。

3）シミュレーション実習［Web Class］

シミュレーション実習では、第1総合診療室で日常的に経験しているような一般的なケースを中心とした診断・診療等の教材をコンピュータ上で体験する。解説にまとめられている診察・診療のエッセンスは、すぐに臨床実習に活かすことができる。また、包括臨床実習PhaseⅡでは扱わないような、よりアドバンスなケースについても経験することにより、診察・診療の技能に関する幅広い臨床的知識を習得することが期待される。

4）ホワイトカードの記載法の習得

歯科医師の職務には治療行為のみならず、正確な診療記録を残し管理することが含まれる。PhaseⅡでは、電子カルテの他にホワイトカードと呼ばれる患者の訴え、所見、診療計画等をまとめ記載する記録用紙を使用するが、本用紙は学習に用いるのみならず、患者の配当や引継ぎ等の患者管理にも使用する。臨床実習に協力していただける患者は本学歯学部の宝であり、この信頼関係を先輩から引き継ぎ、無事後輩に継承するのは学生諸君の責務である。そのためにはホワイトカードの記載を確実に行う必要があり、これを習得する。

注意点

1）オーバーラップ時と臨床実習PhaseⅡ開始時に、前年度の学生の担当患者の治療の引き継ぎを行う。PhaseⅠの内容を十分に復習して臨むこと。

2）初診時医療面接実習は外来で行うため、来院されている患者に十分に配慮すること。患者に不快に思われるような言動があった場合には、その日の実習を中止することがある。

3）総合診療センターから第１総合診療室への初診患者の配当は、原則として午前中に行う。配当希望者は配当希望表に必要事項を記載の上、所在を明らかにしておくこと。

4）知人を自分で診療する患者（本人紹介）として来てもらう場合には、原則として午前に初診来院とし、初診手続き時から診療が終わるまで責任を持って付き添うこと。患者の都合等によりやむをえず午後に初診来院となる際は、事前に総診教員のアポイントメントが必要となる。また、全身や主訴の状態によっては必ずしも自分で担当できない場合があるので、あらかじめ確認しておくこと。

歯科放射線科
（歯科放射線診断・治療学）

○ーPhase Ⅱ ーを行うにあたって

2人1組で年間7－8回程度の実習を行う。

1．到達目標

1）口内法エックス線撮影を適切に行うことができる。

2）画像処理法を理解し適切な画像処理ができる。

3）撮影装置、画像読取装置の適切な管理ができる。

4）専門用語を用いてエックス線写真の所見を記述し、エックス線診断を行える。

5）エックス線撮影の正当化・最適化の判断ができる。

2．実習場所

本院歯系診療部門4階 「D6 エックス線撮影室」

3．実習内容および注意点

1）実習課題

各当番にあたり以下の課題を課す。

１回目）放射線検査における品質保証プログラム（QA）

２回目）口内法エックス線画像の読影

３回目）単純エックス線撮影（パノラマ、頭部P-A、Waters’）の読影

４回目）CT画像、歯科用コーンビームCTの理解と応用

５回目）MRIの理解と応用

６回目）造影剤と造影剤使用撮影・PET/CT検査について

７回目以降）歯科医師国家試験問題　演習

2）エックス線撮影実習

包括臨床実習患者の口内法エックス線撮影

（1）患者の位置づけ

義歯や眼鏡など、焦点とフィルムの間に存在する可撤性金属を外してもらう

上顎の撮影：鼻聴道線を水平にする

下顎の撮影：口角-耳珠線を水平にする

（2）フィルムの位置づけ

10枚法では前歯部、犬歯・小臼歯、大臼歯部に分割する。

前歯部と、犬歯･小臼歯部は縦に、大臼歯部は横位置に検知器を挿入する。

イメージングプレート(IP)の表裏に気をつける（白い面が入射面）。

IPの挿入の深さ、近遠心的位置づけを正確に行う。

（3）エックス線の入射方向

通常、垂直的角度は等長角、水平的角度は正放線投影とする。

正放線とする歯牙・隣接面に留意する。

前歯部は11、犬歯・小臼歯部では45、大臼歯部では67の間の隣接面に平行に入射させる。

（4）エックス線照射条件

原則として、撮影装置に記された標準照射時間を使用する。体格、性別、年齢、撮影法などにより、照射時間を変更する場合もある。

（5）偏心投影法、咬翼法、咬合法

偏心投影法には、偏近心投影法と偏遠心投影法があり、いずれも正放線の基準的な水平角度から15度程度偏心させてエックス線を入射する。

（6）撮影補助具

必要に応じてフィルム保持具を使用する。

（7）放射線防護用具

エックス線当番は、ポケット線量計を着用する。

防護エプロンを使用する。

撮影時はエックス線室のドアを閉める。

（8）感染対策

① 撮影の際はグローブを使用する。

② IPは不織布に包まれている。

③ 撮影終了後は唾液に汚染された外側の不織布を速やかに破棄し、取り出した清潔なIPパッケージを取り出し「撮影後」の受け皿に入れる。

④ 手袋を外して画像処理を行う。

⑤ 汚染された手袋で触れた部分（エックス線装置、照射ボタンなど）をサラサイド不織布にて清拭する。

⑥ 撮影の前後には患者に手指消毒剤で消毒してもらう。

3）画像の管理

① 2020年3月までのD6用エックス線ファイル

以前は、D6用エックス線ファイルがあり、D6エックス線撮影実習室にて保管している。このファイルは原則として1日貸し出すことができる。所定の用紙に学生氏名と患者IDを記入し、返却時にエックス線室指導ライターの確認印をもらう。2020年6月からは、口内法撮影はデジタル化され、電子的な画像レポートも作成されるようになった。適宜参照して活用してもらいたい。

② 口内法X線写真のデジタル保存

2016年1月より、本院歯系診療部門での口内法画像は、画像サーバに保存されている。これは、電子カルテシステムから、いつでも呼び出すことが可能である。

4）エックス線装置および周辺機器の管理

① エックス線装置の異常の有無を確認

② 画像処理装置の動作確認

③ 読影システムの異常の有無を確認

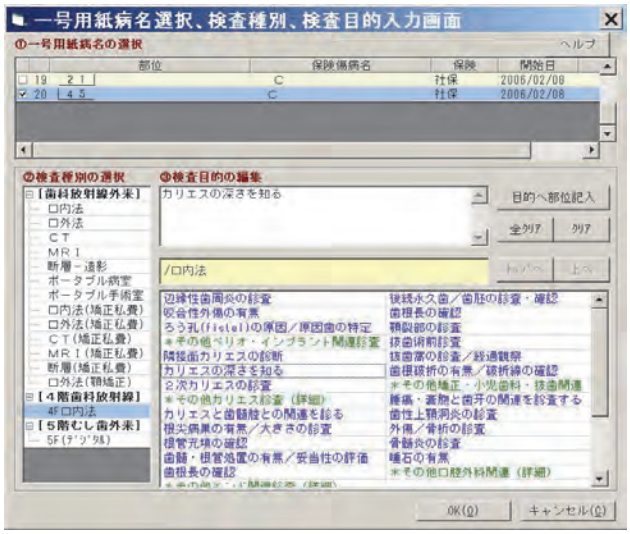
5）撮影日誌

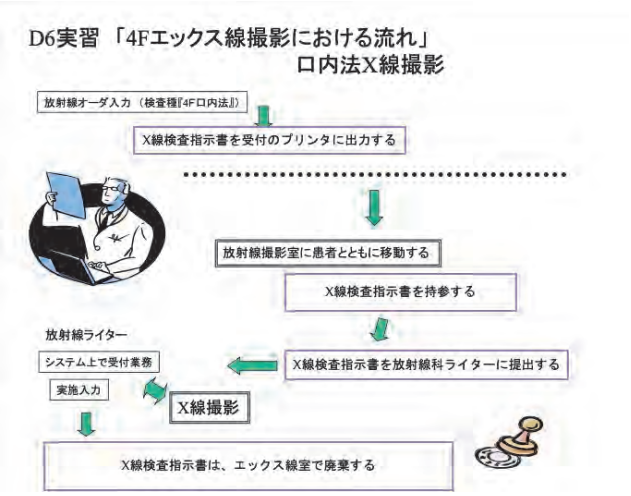
撮影日誌には、撮影者別の要再撮影枚数と失敗の原因（撮影操作、機器の作動不良に区分）、要再撮影率、エックス線装置および画像処理装置の作動状況、実習学生名、個人被曝線量データ、指導ライター名を記入する。

6）エックス線検査室の利用法

D6エックス線撮影室への撮影依頼には、電子オーダシステムを使用する。

口内法は「4F口内法」という検査種を選ぶ。





パノラマX線撮影、歯科用コーンビームCT(3DX)などの検査は「歯科放射線科」に電子オーダする。

再撮影

撮影に失敗した場合は、各指導ライターとの協議の上再撮影を行う。

最撮影を行った場合は、日常管理簿に記録を行う。

4．個人被曝線量管理

半導体式放射線モニタを使用して、実習中の被曝管理を行い、管理法を体験する。

線量測定と計算　外部被ばく測定用の機器

型		目　的	
GM計数管式 サーベイメータ（電離）		汚染の検出	薄い入射窓を持ち、β線を効率よく検出可能である。表面汚染の検出に適している。
電離箱型 サーベイメータ（電離）		γ線 空間線量率	最も正確であるが、シンチレーション式ほど低い線量率は測れない
NaI（Tl）シンチレーション式サーベイメータ （励起）		γ線 空間線量率	正確で感度もよい。環境レベルから10μSv/h程度のγ線空間線量測定に適している。
個人線量計 （光刺激ルミネッセンス線量計 蛍光ガラス線量計電子式線量計等）（励起）		個人線量 積算線量	体幹部に装着し、その間に被ばくした個人線量当量を測定する。直読式や警報機能を持つタイプもある。

むし歯科
（う蝕制御学）

○ーPhaseⅡーを行うにあたって

PhaseⅡでは、患者へのう蝕治療を通じて、歯科医師として必要な知識・技能・態度を習得します。そのためには、「う蝕と歯髄疾患」、「包括臨床実習PhaseⅠ」などの授業で習得したことを活用するとともに、自学自習による更なる知識を得ることが必要となります。特に、本実習では、歯質保存的で審美的な保存修復を行うことで、患者のQOLの向上に寄与するよう心がけてください。

1．到達目標

一般目標

保存修復治療に際して、歯科医師として必要な知識・技能・態度を習得する。

行動目標

う蝕の診断に必要な検査が行える。

う蝕の診断と治療計画の立案ができる。

診断に基づいた適切な保存修復治療ができる。

適切なう蝕予防処置、保存修復治療後の術後管理ができる。

適切な診療補助ができる。

2．実習場所

主として本院歯系診療部門4階　第1総合診療室

保存系外来見学は５階むし歯科（う蝕制御学）

3．実習内容・注意事項

1．到達目標達成の認定条件は別に示します。

2．本実習では、一口腔単位で診療計画を立案し、計画に基づき、必要な保存修復治療を行います。

3．患者は臨床実習に協力してくださっていることを常に念頭にいれて、臨床実習にふさわしい服装、挨拶、言葉使い、態度を心がけてください。

4．本実習を行うためには、十分な予習と準備が必要です。これらが不足している場合、不適切な治療の原因となり、患者に多大な迷惑をかけることになります。

5．3症例終了までは、事前に治療内容を手書きでレポートにまとめ、担当指導ライターへ提出し、診療前日までに診療許可を得てください。

6．1期中は極力、診療補助者と一緒に行ってください。診療補助者と一緒に治療を行うことには、(1)一人では困難・危険な器具操作をより安全に行える、(2)不適切な処置を行おうとした場合、補助者がそれを指摘することにより、医療事故を防止できる、(3)他人の治療をみて、自身の治療と比較することができ、より臨床経験を積むことができる、といったメリットがあります。

7．診療に際しては、各術式ステップごとに指導ライターのチェックを必ず受けてください。チェックを受けることなく、治療を進めた場合、その症例は認定されません。

8．指導依頼は前日までに記入すること。また処置は半日あたり4症例までとする。（術前診査、予後は除く）

9．見学、診療補助を含めより多くの臨床経験を積めるように各自工夫してください。

10．保存系外来見学（う蝕制御学）実施後10日以内に、見学で学んだこと、疑問に思い調べたこと等を

A4 1枚にまとめて提出すること。

４．一般ケース、試験ケースについて

直接法コンポジットレジン修復及び間接法修復は、研磨終了後1週間以上（翌週同曜日以降）の来院時に予後を取り、経過良好であることを確認する。

一般ケース：10クレジット以上必須
・直接法コンポジットレジン修復（単純）：1クレジット
・直接法コンポジットレジン修復（複雑）：2クレジット
・直接法コンポジットレジン修復（難症例＊）：2クレジット
　指導ライターが難症例と判断したもの。
・間接法修復：2クレジット
・スキルスラボを利用したインレー窩洞形成：1クレジット
・修復物のメインテナンス（1口腔）：1クレジット
・診療補助（3症例）：1クレジット

試験ケース：2クレジット
・試験実施期間：レポート終了後2期期間中
・受験資格：一般ケースで隔壁操作を伴う隣接面修復を1症例以上終了していること
・症例基準：隔壁操作を伴う直接法コンポジットレジン修復
　　指導ライターに、試験ケースとして適当か事前に確認すること。
・受験申し込み：受験1週間前（前週同曜日）までに行うこと。

歯周病科
（歯周病学）

○ーPhaseⅡーを行うにあたって

PhaseⅡでは、講義・模型基礎実習、PhaseⅠで修得した知識・技能を用い、インストラクターの指導の下で患者に対して歯周治療を行う。

１．到達目標

歯科医師として必要な歯周治療を実施するための臨床能力を習得する。

１）歯周病の診断に必要な検査を行うことができる。

２）歯周病の診断と治療計画の立案を行うことができる。

３）診断に基づいた、適切な歯周治療を行うことができる。

２．実習場所

１）歯周治療臨床実習：本院歯系診療部門４階　第1総合診療室および手術室

２）歯周病科見学実習：本院歯系診療部門５階　歯周病科、午前あるいは午後の１回

＊診療開始の10分前に、当日の指導医のユニットに行き、指導医のアシスタントとともに、診療の準備を開始すること。

３．実習内容および注意点

１）歯周病検査（エックス線検査、歯周ポケット深さ、根分岐部病変の検査、bleeding on probing（BOP）、歯の動揺度、O' LearyのPCR、咬合検査）

２）歯周病検査に基づいた診断、治療計画の立案

３）口腔清掃指導（プラークコントロール）および機械的歯面清掃

４）スケーリング・ルートプレーニング

５）炎症修飾因子（プラークリテンションファクター）の除去

６）咬合治療（咬合調整、暫間固定、ナイトガード）

７）再評価による治療計画の修正

８）歯周外科治療（介助あるいは見学）

９）最終評価の結果を踏まえたメインテナンス計画の立案

10）メインテナンス／サポーティブ・ペリオドンタル・セラピー（SPT）

注意点

１）患者には臨床実習に協力していただいていることを念頭において、服装、挨拶、言葉遣いなどに気をつける。

２）事前に、当日行う治療に関して十分な予習と準備をしておくこと。また、歯周治療の予約簿に氏名、ユニット番号、診療内容を忘れずに記載しておくこと。

３）指導ライターへの相談時には、当該患者の治療経過、バックグラウンドについて明確に説明をできるようにしておくこと。とくにメインテナンス患者については過去のカルテおよびメインテナンスシートに目を通し、治療内容および経過、保険点数の算定法を理解しておくこと。

４）治療終了時にはプロトコールおよびケース進行表の各治療ステップの検印を忘れずに受けること。

５）試験ケース・一般ケースともに自身でも患者を探す努力をすること。

４．歯周治療の原則

１）治療計画の立案と歯周治療の遂行：適切な歯周組織検査とその結果に基づく正しい診断を行い、患者の全身状態や社会的背景なども考慮して治療計画を立案する。その際、基本的な歯周治療の順序（後述の診断と治療の進め方を参照）を参考に計画を立案する。治療計画に沿って歯周治療を行い、再評価時に必要に応じて治療計画の修正を行う。また、最終評価時に、メインテナンスあるいはサポーティブ・ペリオドンタル・セラピーの計画を立案する。

２）プラークコントロールの確立：患者に対し十分な動機付けを行うと共に、プラークコントロールの指導を進めていく。歯周治療の全ての治療ステージでプラークコントロールが良好であることが重要である。プラークコントロールが不十分な状態で次の治療ステップ（スケーリング・ルートプレーニングなど）へ移行すると、その後の治療効果が得られない。

３）プラークリテンションファクターや炎症増悪因子の除去：プラークが付着しやすく、取り除きにくい原因となる因子（歯石、歯の形態異常、歯頚部う蝕など）や炎症増悪因子（食片圧入、口呼吸、口腔前庭の異常など）を除去し、プラークコントロールが容易になるよう改善することが重要である。本項目は、上記2）の達成のために非常に重要なステップである。

４）外傷性咬合の除去：咬合性外傷が認められる場合は、原因となる外傷性咬合を除去する。具体的には、咬合調整（早期接触や咬合干渉の除去など）や、歯冠形態修正、暫間固定および咬合の再構築を行う。

５．試験ケースの進め方

１）術前教授診

歯周病検査表に従って検査（問診、精密検査、咬合検査、口腔内観察、エックス線検査）

上下歯列アルジネート印象→上下マルモ作成

臨床的病因、診断名（例．広汎型　慢性歯周炎　ステージⅢ　グレードB）、治療計画記載

術前教授診予約→教授診受験

＊プロトコールの記載内容は、必ず事前に一般指導ライターのチェックを受けておくこと。

２）歯周基本治療実施

３）再評価後教授診

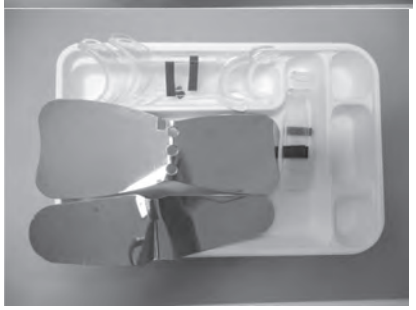
歯周基本治療終了後、再評価後に指導ライターの承認をもらい、再評価教授診予約→教授診受験

６．試験ケース教授診準備物品

教授診の際には下記の器材をテーブルに準備してください。

基本セットに加えて

- 歯周ポケット探針
- 根分岐部用探針２種
- 曲探針
- 咬合紙ホルダー２本＋咬合紙赤・青



写真撮影用器材

- 口角鉤２
- フック２
- 口腔内写真撮影用ミラー（咬合面用・側方面用）

7．歯周疾患の診断（日本歯周病学会による歯周病分類システム　2006年）

Ⅰ．歯肉病変　Gingival lesion

1．プラーク性歯肉炎

2．非プラーク性歯肉炎

3．歯肉増殖

Ⅱ．歯周炎　Periodontitis

1．慢性歯周炎

2．侵襲性歯周炎

3．遺伝疾患に伴う歯周炎

Ⅲ．壊死性歯周疾患　Necrotizing periodontal diseases

1．壊死性潰瘍性歯肉炎

2．壊死性潰瘍性歯周炎

Ⅳ．歯周組織の膿瘍　Abscesses of periodontium

1．歯肉膿瘍

2．歯周膿瘍

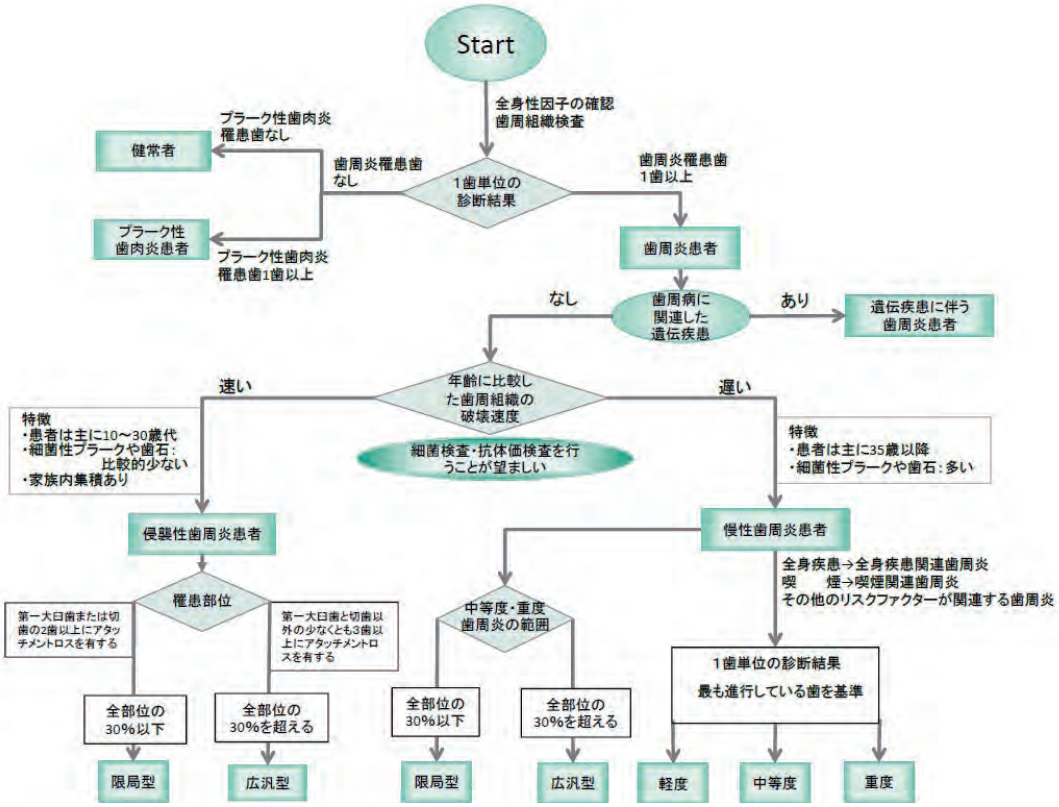
Ⅴ．歯周－歯内病変　Combined periodontic-endodontic lesions

Ⅵ．歯肉退縮　Gingival recession

Ⅶ．咬合性外傷　Occlusal trauma

1．一次性咬合性外傷

2．二次性咬合性外傷



プラーク性歯周炎，歯周炎の個人レベルの診断

（日本歯周病学会編　歯周治療の指針2015，P.27）

歯周病の新分類

（Papapanou PN et al. J Clin Periodontol. 2018;45(Supple)20:S162-S170)）
（http://www.perio.jp/file/new/omfo_191220.pdf）

歯周炎のステージ		ステージI	ステージII	ステージIII	ステージIV
重症度	歯間部の最も大きなCAL	1-2mm	3-4mm	≥5mm	≥5mm
	X線画像上の骨吸収	歯根長1/3未満（<15%）	歯根長1/3未満（15-33%）	歯根長1/3を超える	歯根長1/3を超える
	歯の喪失	歯周炎による喪失なし		歯周炎により4本以内の喪失	歯周炎により5本以上の喪失
複雑度	局所	最大プロービングデプス4mm以内 主に水平性骨吸収	最大プロービングデプス5mm以内 主に水平性骨吸収	ステージIIに加えて： プロービングデプス6mm以上 3mm以上の垂直性骨吸収 根分岐病変2-3度 中程度の歯槽堤の欠損	ステージIIIに加えて： 複雑な口腔機能回復治療を要する以下の状態 咀嚼機能障害 二次性咬合性外傷（動揺度2度以上） 重度の歯槽堤欠損 咬合崩壊・歯の移動・フレアアウト 20本以下の歯（10対合歯）の残存
範囲と分布	ステージに記述を加える	それぞれのステージにおいて拡がりを，限局型（罹患歯が30%未満），広汎型（同30%以上），または大臼歯/切歯パターンかを記載する			

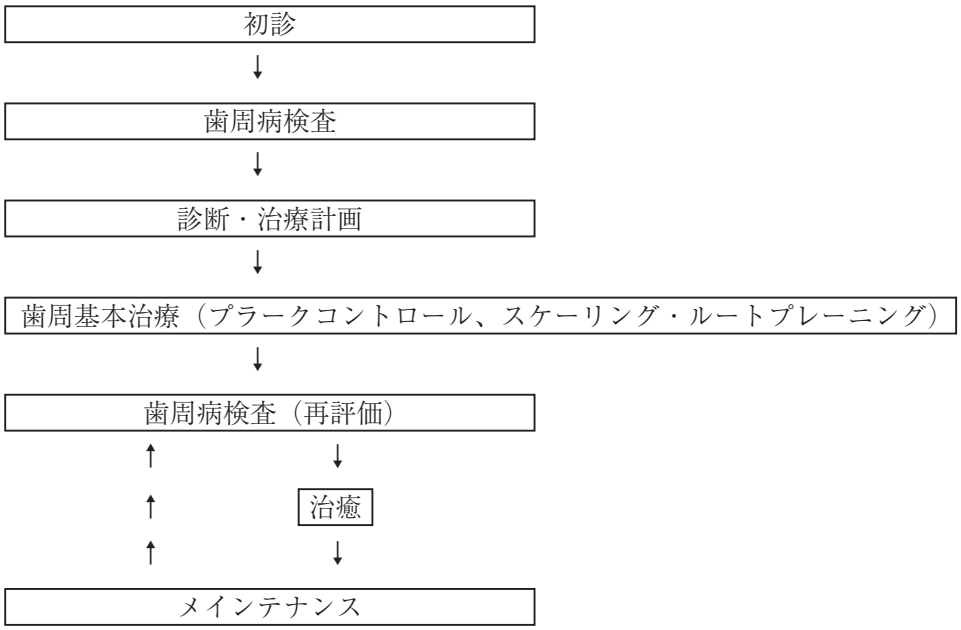
ver. 20191223　　CAL: クリニカルアタッチメントロス

歯周炎のグレード			グレードA 遅い進行	グレードB 中程度の進行	グレードC 急速な進行
主な基準	進行の直接証拠	骨吸収もしくはCALの経年変化	5年以上なし	5年で2mm未満	5年で2mm以上
	進行の間接証拠	骨吸収%/年齢	<0.25	0.25-1.0	>1.0
		症例の表現型	バイオフィルム蓄積は多いものの，組織破壊は少ない	バイオフィルム蓄積に見合った組織破壊	バイオフィルムの蓄積程度以上に組織破壊；急速な進行and/or早期発症を示唆する臨床徴候（例：大臼歯/切歯パターン，標準的な原因除去療法に反応しない）
グレードの修飾因子	リスクファクター	喫煙	非喫煙者	喫煙者 1日10本未満	喫煙者 1日10本以上
		糖尿病	血糖値正常 糖尿病の診断なし	HbA1c7.0%未満の糖尿病患者	HbA1c7.0%以上の糖尿病患者

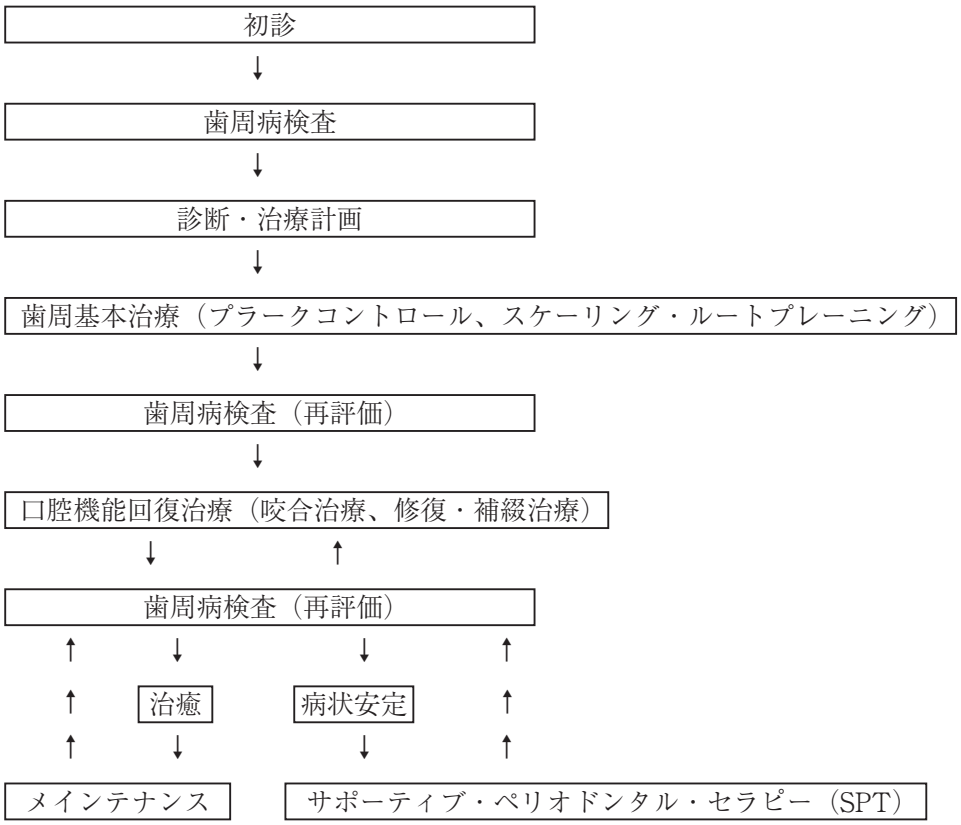
ver. 20191223　　CAL: クリニカルアタッチメントロス

８．治療の進め方

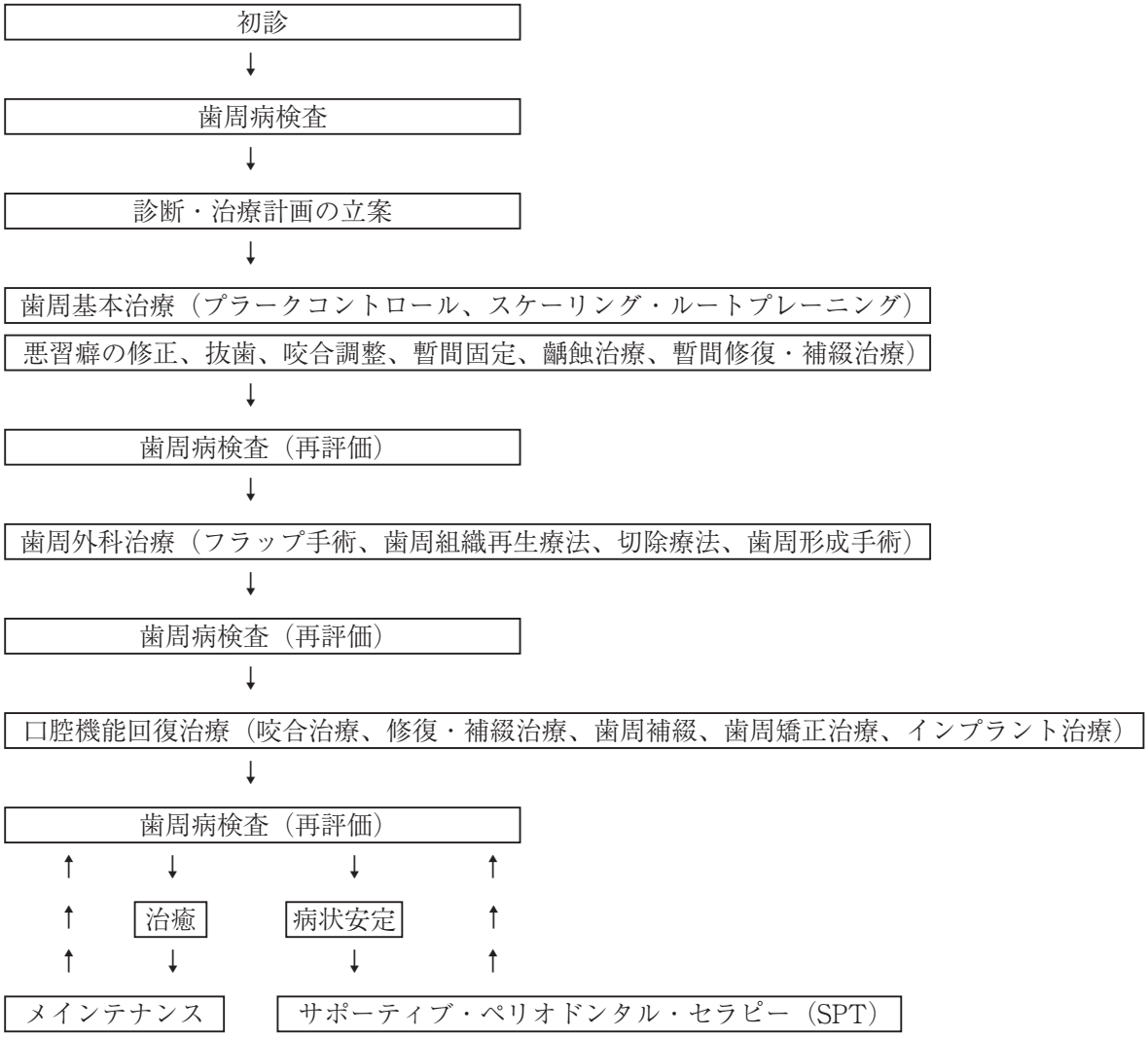
１）パターン１：歯肉炎・軽度歯周炎



２）パターン２：軽度～中等度の歯周炎



3）パターン３：中等度～重度の歯周炎



９．サポーティブ・ペリオドンタル・セラピーとメインテナンス

サポーティブ・ペリオドンタル・セラピー（SPT）は歯周基本治療、歯周外科治療、口腔機能回復治療が終了し、歯周組織のほとんどは治癒したが、病変の進行が休止した歯周ポケットが残存した場合、歯周組織を長期にわたり病状安定させるための治療である。プラークコントロール、スケーリング・ルートプレーニング、咬合調整などの治療を中心に原因因子の除去に努め、併せて口腔衛生指導や再動機づけなどを行う。

また、歯周病は再発しやすいので、治癒状態でも定期的なメインテナンスは必須である。メインテナンスは、歯周組織が臨床的に健康を回復した状態を長期に維持させるために、患者が行うセルフケア（ホームケア）と患者の治療への意欲を高めるための動機づけ（モチベーション）、および歯科医療従事者が行うプロフェッショナルケア（プラークコントロール、スケーリング・ルートプレーニング、咬合調整など）からなる。

むし歯科
（歯髄生物学）

○ーPhaseⅡーを行うにあたって

PhaseⅡ（臨床実習）では、講義、模型実習、PhaseⅠで習得した知識と技能を有機的に結びつけて歯内治療をインストラクターの指導下に患者の口腔内で実習する。

《注意》

・WebClass（FDS22102 歯内治療学 D5D6 PhaseⅡ 2022-2023）を各自学習にとりいれること。

・歯内治療を行う際には、プロトコール記入前に必ず**歯内治療同意書**を帳票印刷よりプリントアウトし、患者およびエンドライターのサインをもらうこと。

（文書→帳票印刷→共通→同意書・説明書→歯内治療についての説明・同意書　保健用）

・歯内治療を行う場合、準備器材および処置内容に関するレポートを作成し、処置前日までにライターに確認してもらうこと（全症例）。レポートの提出がない場合には実習不可となることがあるので注意すること。

・半日あたり診療枠は3枠までとしている。診療枠を確保の上患者予約をすること。また、予約をしないで診療枠を確保することも禁止する。なお、診査、予後については、上記制約を受けない。

添付資料一覧

保険点数の流れ・歯内治療プロトコール・エンドフローチャート・歯内治療予約表・ケース進行表

１．到達目標

歯科医師として診療するために必要な歯内治療の基本的な臨床能力を習得できる

歯内病変の診断ができる

歯内病変の処置（歯髄保存・抜髄・感染根管処置）ができる

２．実習場所

本院歯系診療部門4Ｆ第1総合診療室

注：各科実習においては下記参照

３．実習内容

歯内病変の診査・診断

歯内病変の処置

４．試験

臨床実習中に臨床試験（試験ケース）を行う（下記試験ケース要綱参照）

５．各科実習

むし歯科（エンド）における実習においては、午前は9時までに、午後は13時までにむし歯科（エンド）に集合すること。診療補助を行ってもらうため、外来診療用白衣着用のうえ、保護メガネ、マスク、グローブ着用のこと。

６．ケース認定手続き

・試験ケース：術前診査および術後口頭試問を行う。不合格の場合は再受験のこと。

・一般ケース（試験ケースを含む）：根管充填後１週間以上（翌週同曜日以降）の来院時に予後を取り、経過良好であることをエンド指導ライターに確認してもらい、プロトコールに検印を受ける。これ以降、歯冠修復処置を行っても良い。

注意：エンドプロトコール・プリントアウトした術前術後のエックス線写真は回収する。

・診断ケース：歯髄保護、抜歯等の処置方針が示された時点で、申請可能である。なお、処置方針を決定した指導ライター名（所属含む）を記載すること。

・診療補助およびレポート（オプション）：むし歯科（エンド）にて診療補助を行い、補助症例に関するレポートの合格によりクレジットを付与する場合がある。PhaseII終了時に申請クレジット数がミニマムリクワイアメントに満たない場合においてのみ適用する。診療補助およびレポートにてクレジットを申請したい場合には、3期においてエンドヘッドに相談すること。ケースを積極的に希望していたにも関わらず、ケース配当が無かった場合の特例であり、ケースを積極的にもらおうとしていなかった場合には、本オプションを認めないことがあるので注意すること。

７．歯内治療学試験ケース実施要綱（2022年度版）

・概要

➢ 試験ケースは、術前診査および術後口頭試問（一般指導ライターが行う）を受験し、合格することを必須とする。

・受験資格

➢ 試験ケース受験は、症例が適当であれば、初めてのケースから受験可能とする。

・症例基準

➢ 試験ケースの症例は、一般的な歯髄・根尖病変を有する歯とし、正常歯髄の便宜抜髄といったケースは除外する。また、根管治療の難易度が高いと予想される症例についても除外する。適切な症例かどうかはエンド指導ライターとよく相談すること。

・試験受付期間

➢ 遅くともオーバーラップが始まる前までに合格すること。

・術前診査

➢ 歯内治療の準備、清潔域不潔域の区別、適切な歯内治療プロトコールの記載、フローチャートに基づいた診断について評価する。プロトコール記載に指導ライターはコメントしないので独力で記入し、診断すること。

➢ 一般指導ライターには受験する由を事前に通知しておくこと。

➢ 術前診査は一般指導ライターが評価する。

・術後口頭試問

➢ 予後が取れた時点で受験可能。

➢ 口頭試問を受験する場合、一般指導ライター（根管形成・根管充填の指導を行った指導ライターが望ましい）に受験希望の由を伝え、指導ライターの指示を受けること。受験の際、歯内治療プロトコール （予後まで指導ライター印が押されているもの)、術前術後のエックス線（術前、術後および処置日を記入)、ホワイトを準備のこと。**なお、試験ケース症例における処置根管に対するクレジットは術後口頭試問合格時にもらうこと。**

➢ 口頭試問においては下記内容について質問するので、よく勉強しておいてほしい（簡便なレポートを作って、口頭試問に臨むのが望ましい)。

1．症例の経過説明
・治療前、治療中、治療後における痛み、腫脹、ろう孔といった症状の経緯

2．診療内容についての説明
・処置内容

3．根管充填の評価
・エックス線写真より根管充填の到達度、緊密度について評価

4．管形成・充填時に留意した点
・どのような点に配慮して根管形成・充填を行ったのか

5．症例の特異性について
・強い彎曲、閉塞など

6．根管形成・根管充填に対する自己評価
・うまくいった点および反省点は何か
・今後どのようなことに気を付けて根管処置を行いたいか

８．治療器材の準備

A. ラバーダム器具

・ラバーダムパンチ
・ラバーダムフォーセップス
・ヤングのフレーム
・ラバーダムシート
・滅菌乾燥綿球（2個）
・J
・アルコール

注意

➢ ラバーダム用のトレーを準備すること。クランプは基本トレーに入れること。

➢ ラバーダムパンチは、ラバーに穴をあけたら引出しに戻すこと。（一回使用したラバーダムシートへの穴のあけ直しはしないように。）

➢ クランプフォーセップス、ヤングのフレームは滅菌されていないことを留意すること。そのためこれらを滅菌器具を入れたトレーに入れないように注意すること。

B. 基本トレー

・雑用エキスカ

・曲探針
・ポケット探針
・ミラー
・ピンセット
・その他
・（必要により）浸潤麻酔のセット
・超音波スケーラーチップ
　➢　オサダ・エナック用、モリタ・ソルフィー用チップを区別してください。

・タービン用バー
　➢　AR2、（AR2f）、D4012f、D4010f
・コントラエンジン用バー
　➢　ラウンドスチールバー
　➢　カーボランダムバー #28
　髄腔開拡、感染歯質除去、根管口明示の際に使用

C. 根管形成用器具

・クランプ（大・小）
・ゲーツグリッデンドリル#1-4
・ダイレクトミラー（中央貸出）
・エンドエクスプローラー（中央貸出）
・メジャー
・バイトブロック
・ニューカップ
・エンドバキューム（オサダ用、モリタ用あり）
・アンチホルミン用ロック式シリンジ・27Gブラントエンド針
・Kファイル（#10 ～ 40：症例により#80まで準備）
　➢　ファイルの長さ：21、25、28mmは歯根長により選択

D. RootZXmini（中央貸出）

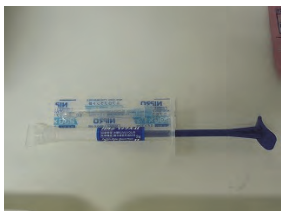
・先端のクリップ、プローブは滅菌

E. カルシペックス

・カルシペックス
・カルシペックス用ニードル（２３Gブラントエンド針）
　➢　カルシペックス先の透明のキャップをなくさないように注意

F. 仮封

・キャビトン（3週間以上期間が開く場合にはアイオノマーセメント等で二重仮封を行う）

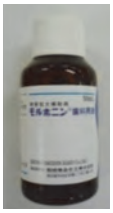


G. 脱脂綿（アルコールワッテ）

ファイルの汚れをふき取る際に使用

H. 根管充填

・滅菌スパチュラ
・根管充填用ピンセット
・滅菌プラスチック錬板
・プラガー　細・中・太（細は原則使用しない）
・スプレッダー　細・太（D11T・4SP）
・モルホニン
・2.5cc シリンジ
・27Gブラントエンド針
・ダッペングラス
・ペーパーポイント
・パッケージのままトレーに入れない
・シーラー：キャナルスN
・ガッタパーチャポイント



注意

➢ ガッタパーチャポイントは滅菌されていないため、使用前にトレーの小仕切り内でアンチホルミン液に1分浸漬後、アルコールワッテおよび滅菌ガーゼを用いて乾燥させた上で使用すること。なお、アンチホルミン液は出しすぎないように。

I. その他

・RC prep：石灰化している根管に使用
　米粒か豆粒大程度で十分
　使用後はシリンジを少し引いてからキャップをする
・GPソルベント：硬化したガッタパーチャポイントの軟化

9．根管治療術式

・基礎実習書参照のこと

10. 簡易細菌培養検査（S培）

1．アンチホルミンによる根管洗浄（水酸化カルシウム剤の除去を含む）
2．滅菌生理食塩液による十分な洗浄
3．エンドバキュームによる根管内滅菌生理食塩液の可及的な吸引
4．滅菌ペーパーポイントの根管内への挿入（1分放置）
5．アンプル準備
6．根管内ペーパーポイントを培地（アンプル）内へ挿入
　注意：１歯につき１アンプル使用
7．アンプルに火炎滅菌したアルミキャップを被せる
8．日付、術者氏名を記載したシールを貼る

９．孵卵器内で48-72時間培養
10. 判定結果をプロトコールに記入し、アンプルを指導ライターに見せ、検印をもらう
11. アンプルおよびキャップは医療廃棄物入れに廃棄
注意：感染根管処置においてのみ行う。また、根管貼薬算定時にのみ算定可能。

保険点数の流れ

令和2年度診療報酬

病名：C，Pul，Per

歯髄保護処置を行った場合

歯髄保護処置
- 歯髄温存療法(AIPC) 188点
- 直接歯髄保護処置 150点
- 間接歯髄保護処置 34点

抜髄・感染根管処置を行った場合

歯冠修復物又は補綴物の除去
- 簡単なもの 20点
- 困難なもの 42点
- 根管内ポストを有する鋳造体の除去 70点
- 根管内異物除去 150点
  - 手術用顕微鏡加算（注7） 400点

歯科エックス線撮影
同一初診同部位1回目 58点
症状確認 48点
同一部位同時撮影
（注5） 25点

抜髄 （注1）
- 単根管 230点
- 2根管 422点
- 3根管以上 596点

感染根管処置
- 単根管 156点
- 2根管 306点
- 3根管以上 446点

電気的根管長測定検査
- 単根管 30点
- 2根管 45点
- 3根管 60点
- 4根管 75点

根管貼薬処置（注2）
- 単根管 30点
- 2根管 38点
- 3根管以上 54点

細菌簡易培養検査（注3）
60点

根管充填（注4）
- 単根管 72点
- 2根管 94点
- 3根管以上 122点

手術用顕微鏡加算
（注6） 400点

加圧根充処置
- 単根管 136点
- 2根管 164点
- 3根管以上 208点

歯科エックス線撮影
症状確認 48点
同一部位同時撮影
（注5） 25点

抜髄即充・感根即充を行った場合

歯冠修復物又は補綴物の除去
- 簡単なもの　20点
- 困難なもの　42点
- 根管内ポストを有する鋳造体の除去　70点
- 根管内異物除去　150点
  - 手術用顕微鏡加算（注7）　400点

歯科エックス線撮影
同一初診同部位1回目
58点
症状確認　48点
同一部位同時撮影
（注5）　25点

抜髄即充　（注1）（注4）
- 単根管　302点
- 2根管　516点
- 3根管以上　718点

感根即充（注4）
- 単根管　228点
- 2根管　400点
- 3根管以上　568点

電気的根管長測定検査
- 単根管　30点
- 2根管　45点
- 3根管　60点
- 4根管　75点

手術用顕微鏡加算
（注6）　400点

加圧根充処置
- 単根管　136点
- 2根管　164点
- 3根管以上　208点

歯科エックス線撮影
症状確認　48点
同一部位同時撮影
（注5）　25点

（注1）
歯髄温存療法を行った日から起算して3月以内に当該処置を行った場合は、188点減算。
直接歯髄保護処置を行った日から起算して1月以内に当該処置を行った場合は、150点減算。

（注2）
抜髄・感染根管処置との同時算定は不可。処置回数分を算定する。

（注3）
感染根管処置後の根管貼薬処置期間中に行った場合に、一歯単位で算定する。陽性の結果が得られた場合には、複数回算定可。根管貼薬時においてのみ算定を行う。抜髄の場合には算定不可。

（注4）
根管充填は加圧根管充填処置とセットで算定する。加圧根管充填処置を行った場合には、歯科エックス線撮影が必須である。複根歯で根充材が重なってしまう場合には、適宜偏心撮影を行う。

（注5）
上下顎臼歯といった多根歯において、正放線撮影のみでは歯根あるいは根管の像が重なるため、同時に偏心撮影（近心あるいは遠心）を行うが、同時に撮影した2枚目のエックス線撮影料は25点となる。

（注6）
4根管あるいは樋状根で実体顕微鏡を使用した場合に算定可。CBCT撮影必須。前記処置に加えNiTiファイルを使用した場合、NiTi加算を算定する。注意！NiTiファイル使用の必要性はライターが判断する。

（注7）
根尖側1/2に破折物が存在していること。CBCT撮影必須。

一般ケース
試験ケース

歯内治療プロトコール

記入日 20　　年　　月　　日

指導者印

試験ケース　術前診査：　　受験日（　　/　　）ライター名（　　）
術後口頭試問：受験日（　　/　　）ライター名（　　）

登録番号	男　女	アレルギー：　－　＋（　　） 高血圧：　－　＋（　　／　　） 特記事項：	事務処理番号
イニシャル	歳		担当者名

主訴

自発痛	－	違和感	＋	＋＋	（間欠性　持続性）	急性症状（有・無）
誘発痛	－	違和感	＋	＋＋	（1分未満　1分以上持続）	
	冷痛	温痛	咬合痛	食片嵌入時		

現病歴

歯髄診

電気診	－	＋	値（　　）	対照歯＿＿＿＿値（　　）
寒冷診	－	＋		
温熱診	－	＋		

☐ エックス線写真より明らかに失活歯
☐ その他（　　）

歯髄（生・死）

視診

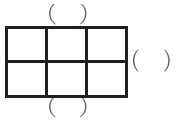
口腔外：	－	発赤	腫脹	瘻孔	その他（　　）	
う窩	－	浅	深	歯冠破折		
露髄	－	不明	＋			
歯髄ポリープ	－		＋			
根尖相当部粘膜	正常	発赤	腫脹	瘻孔	排膿	
辺縁歯肉	正常	発赤	腫脹	瘻孔	排膿	

露髄（有・無）

歯髄ポリープ（有・無）

触診

根尖部圧痛：	－		＋	＋＋	
打診　垂直	－	ひびく	＋	＋＋	
水平	－	ひびく	＋	＋＋	
動揺度	m0　m1	m2	m3		



歯周ポケット（根尖に達する・4㎜以上・3㎜以下）

エックス線検査

露髄の可能性　低い　高い　該当せず

既根管治療　－　＋
ポスト有の場合:種類（メタル・レジン）太さ（太・細）長さ（長・短）

根尖部異常像　－　＋
歯根膜腔拡大　透過像(最大径　mm)
骨硬化像　暈状の透過像

根分岐部病変　－　＋　分岐部無
歯根吸収　－　＋　内部　外部　吸収部の位置:
歯根完成度　未完成　完成
根管狭窄　－　＋
根管内異物　－　＋　種類（　　）
穿孔　－　＋
歯槽骨吸収度　0-1/3　1/3-1/2　1/2-2/3　2/3-

透過像（有・無）

診断名	☐ 既根管治療歯	特記事項
治療方針	抜髄　感根処　直覆　IPC　抜歯　経過観察　その他（　　）	歯内治療後の修復方針

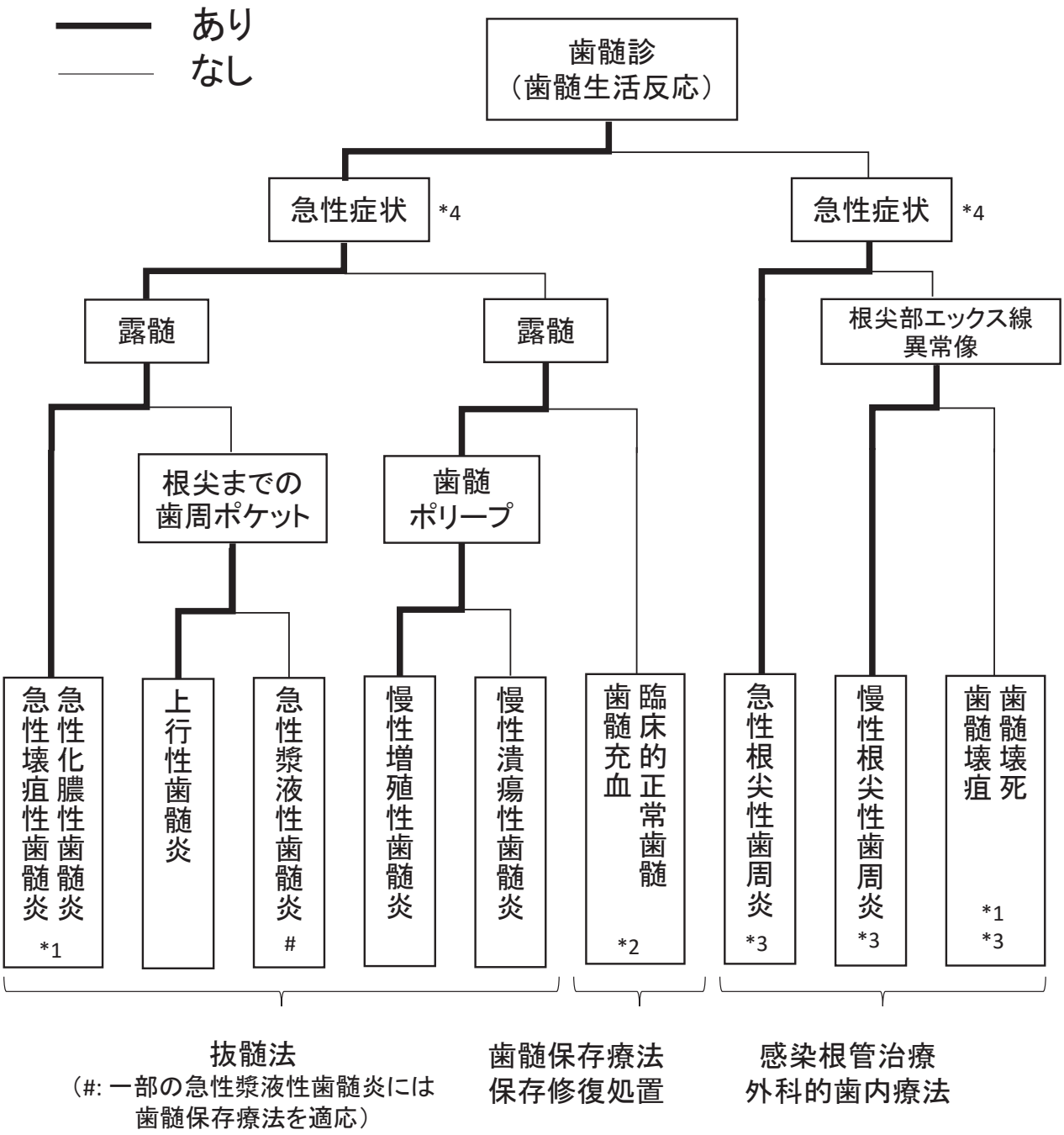
根管口の位置（図示）	根管名	作業長(mm)	MAF(No)	閉塞	湾曲	事故	認定
				－ ＋	－ ＋		－ ＋
				－ ＋	－ ＋		－ ＋
				－ ＋	－ ＋		－ ＋
				－ ＋	－ ＋		－ ＋
	認定根管数　計　　根管　ライター印						

回数	月/日	自発痛	冷温痛	打診痛		根尖部圧痛	腫脹	瘻孔	根管内容液			細菌培養	処置	顕微鏡使用	指導者印
				垂直	水平				出血	滲出液	膿				
1															
2															
3															
4															
5															
6															
7															

術後エックス線写真所見（図示）（正放線）（偏近心・遠心）		備考
		進行表チェック　□診断　□根充 クレジット承認　ライター印　注意

注意;
クレジットの承認を受ける場合には、術前、術後のエックス線写真をこのプロトコールに添付しライターへ提出のこと。

エンドフローチャート



*1: 腐敗臭ありの場合急性壊疽性歯髄炎あるいは歯髄壊疽(髄腔開拡時に診査）
*2: 誘発痛ありの場合歯髄充血
*3: 根管治療がされている場合にはプロトコールの既根管治療歯の欄をチェック
*4: 歯髄炎の場合：自発痛あるいは誘発痛（1分以上持続）
根尖性歯周炎の場合：自発痛、著しい咬合痛・発赤・腫脹・圧痛・打診痛、（挺出感・発熱）
その他：　多根患歯において診断名が複数考えられるときは重篤な診断名を付与
垂直性歯根破折歯の病名は歯根破折
内部吸収歯の病名は内部吸収

歯内治療予約表

前日までに記入すること

半日あたり**3症例**とする（術前診査、予後は除く）

必ずすべての症例でレポートを事前に提出しライターの確認を受けること（レポートの確認ができていない場合は、その日のエンド処置は行わないこともある）。

術前および術後口頭試問：受験する場合にチェック（術後試問受験時間はライターと要相談）

除去：補綴物・メタルコア除去、ACP：アクセスキャビティ、拡大：根管拡大・形成

記入欄は午前用・午後用に分かれているので注意！（診査、予後を除く）

＜除去・ACP・根管拡大・根管充填　予約表：**午前用**＞

ユニットNo.	AM	学生名	部位	術前試問	内容			
					除去	ACP	拡大	根充
	:							
	:							
	:							

＜除去・ACP・根管拡大・根管充填　予約表：**午後用**＞

ユニットNo.	PM	学生名	部位	術前試問	内容			
					除去	ACP	拡大	根充
	:							
	:							
	:							

＜術前診査・予後・術後試問　予約表：全日＞

ユニットNo.	AM/PM	学生名	部位	術後試問	内容	
					診査	予後
	:					
	:					
	:					
	:					
	:					
	:					

月　　日（　　）

ケース進行表

事務処理番号	氏名	試験ケース			一般ケース			一般ケース			一般ケース			一般ケース			一般ケース			一般ケース		
		部位	診断	根充	部位	診断	根充	部位	診断	根充	部位	診断	根充	部位	診断	根充	部位	診断	根充	部位	診断	根充
1801																						
1802																						
1803																						
1804																						
1806																						
1807																						
1808																						
1809																						
1810																						
1811																						
1812																						
1813																						
1814																						
1816																						
1817																						
1818																						
1819																						
1820																						
1821																						
1822																						
1823																						
1824																						
1825																						
1826																						
1827																						
1828																						
1829																						
1830																						
1831																						
1832																						
1833																						
1834																						
1835																						
1836																						
1837																						
1838																						
1840																						
1841																						
1842																						
1843																						
1844																						
1845																						
1846																						
1847																						
1848																						
1849																						
1850																						
1853																						
1710																						
1712																						
1713																						
1722																						
1724																						
1729																						
1731																						
1745																						
1709																						
1714																						
1628																						

義歯科
（咬合機能健康科学）

○ーPhaseⅡーを行うにあたって

PhaseⅡにおける臨床実習は、この時点にまで習得した知識を基にさらに個々の症例において、担当教官と十二分に打ち合わせを行った上で行われるべき実習である。従って学生は診療日までに、当日行う診療内容にもとづいて、手順、必要器材、その後に行う技工操作を熟知し、必要であれば事前に当日の担当教官と綿密な打ち合わせを行う必要がある。

1．到達目標

1）咬合診査を的確に行うことができる。
2）種々の歯冠補綴物の利点、欠点を患者に説明できる。
3）歯の欠損の診査、診断、治療法を説明できる。
4）欠損に対する種々の補綴方法の利点、欠点を患者に説明できる。
5）前装冠、全部鋳造冠CAD/CAM冠・オールセラミッククラウンの支台歯形成が正しくできる。
6）築造窩洞形成が正しくできる。
7）シリコン印象材を用いて築造窩洞の印象採得が行える。
8）個歯トレーを用いて最終補綴装置の印象採得が行える。
9）顎間関係記録が正しく採得することができる。
10）テンポラリークラウン、ブリッジの調整、装着が正しく行える。
11）最終補綴装置の調整、装着が正しくできる。
12）歯冠補綴装置、橋義歯のメインテナンス法を患者に説明できる。

2．実習場所

第1総合診療室

3．実習内容および注意点

症例を開始する際は、スキルスラボにて支台歯形成を十分に行い、指導ライターのチェックを受けること。

冠橋義歯補綴学

歯冠補綴装置の作業過程
１．鋳造冠

	診療	技工
第１日目	１．口腔内診査 　プロトコール記入 ２．レントゲン写真撮影 ３．研究模型用の印象（アルジネート印象材）	１．研究用模型作製（硬石膏） ２．有髄歯の場合は複模型上で仮封冠作製
第２日目	１．築造窩洞形成 　築造の内壁を整理し、外壁はシャンファーで形成する。 　歯質を残す厚さの基準は、1.0㎜位（根管形成に注意） 　築造不要のときには支台歯形成（第3日の4へ） 　有髄歯の場合は浸潤麻酔を行なう。 ２．築造窩洞の印象採得（回転トレー、付加型シリコンゴム印象材） ３．仮封または仮封冠仮着	メタルコア １．築造作業用模型作製（超硬石膏） ２．咬合器装着 ３．蝋型採得 ４．埋没 ５．鋳造 ６．仮封冠作製 直接法レジンコア １．モールド作業用模型作製（超硬石膏） ２．咬合器装着 ３．蝋型採取 ４．モールド作製 ５．仮封冠作製
第３日目	１．築造体の試適 ２．築造体のセメント合着 　ポストのある場合はスクリューバーを使用することもある。 ３．支台歯形成 　修正程度 ４．個歯トレー作製のための印象（回転トレー、アルジネート印象材） ５．仮封冠仮着	１．模型作製（硬石膏） ２．個歯トレー作製
第４日目	１．個歯トレー試適、修正、接着剤塗布 ２．印象採得（付加型シリコーンゴム印象材） ３．咬合採得 　口腔内の状態によってさまざま：観察だけの場合、咬合採得用付加型シリコーン、ワックスを使用する場合などがある。 ４．仮封冠仮着	１．作業模型作製（超硬石膏） 　ダウエルピンによる歯型可撤式作業模型とする。 ２．咬合器装着 ３．蝋型採得 ４．埋没、鋳造、研磨
第５日目	１．鋳造冠試適（辺縁、隣接接触点に注意） ２．咬合調整、研磨 ３．仮着あるいは合着 　（基本的に仮着して経過観察行う）	

２．前装冠（硬質レジン前装冠、陶材焼付鋳造冠、CAD/CAM冠・オールセラミッククラウン）

	診療	技工
第 １ 日 目	１．口腔内診査 　プロトコール ２．レントゲン写真撮影 ３．研究模型用の印象（アルジネート印象）	１．研究模型作製（硬石膏） ２．複模型上で仮封冠作製
第 ２ 日 目	１．築造窩洞形成 　基本的には鋳造冠の場合と同じであるが、唇側、頬側歯頚部にショルダーを形成する。 ２．築造窩洞の印象採得 ３．仮封冠装着	メタルコア １．築造作業用模型作製 ２．咬合器装着 ３．蝋型採得 ４．埋没、鋳造、研磨 ５．仮封冠作製 直接法レジンコア １．モールド作業用模型作製（超硬石膏） ２．咬合器装着 ３．蝋型採得 ４．モールド作製 ５．仮封冠作製
第 ３ 日 目	１．築造体の試適 ２．築造体のセメント合着 ３．支台歯形成 ４．個歯トレー作製のため印象 ５．仮封冠仮着	１．模型作製 ２．個歯トレー作製
第 ４ 日 目	１．個歯トレー試適、修正、接着剤塗布 ２．印象採得 ３．咬合採得 ４．シェードガイドにより色調の診査 ５．仮封冠仮着	１．作業模型の作製 ２．咬合器装着 　外注の場合（陶材焼付鋳造冠など）は指示書に記入し、技工所に外注する。 ３．蝋型採得 ４．埋没、鋳造、研磨 ５．硬質レジンの築盛、重合 　光重合硬質レジンの使用説明書を参照すること。
第 ５ 日 目	１．前装冠試適 　適合状態、隣接接触点、色調、形態を診査する。 　色調、形態等については患者さんの同意、満足が得られることが重要である。 ２．咬合調整、研磨 ３．仮着または合着 　陶材焼付鋳造冠の場合は素焼きにて試適し、診査・調整を行う。その後、技工所にグレーズ仕上げを依頼し、次回装着する。 また、素焼き試適前に、メタルフレームの試適を行う場合もある。 （基本的に仮着して経過観察行う）	

３．橋義歯
（単独歯冠補綴と異なる点）

	診療	技工
	１．支台歯形成 　常に支台歯相互の平衡性を考慮する。 ２．印象採得、欠損部粘膜面の印象も正確に採る。 ３．ブリッジをツーピースの形で作製する場合は支台装置とポンティックを試適し、咬合面コア採得を行う。	１．テンポラリーブリッジ作製 ２．支台装置とポンティックは一方を連結したツーピースの形で作製する。また、ブリッジを一塊として蝋型採得、埋没、鋳造する ワンピースの方法で作製してもよい。ポンティック粘膜面の形態はリッジラップ型とし、下顎臼歯部では船底型を基本とする。 ３．ツーピースの場合は口腔内で再得した咬合面コアを利用し、埋没、蝋付けを行う。

義歯科
（部分床義歯補綴学・全部床義歯補綴学）

○ーPhase Ⅱ ーを行うにあたって

１．到達目標

１）欠損補綴の治療に必要な診療・技工手順を理解し適切に処置，製作できる．

２）歯科臨床に必要な基本的態度を実践し患者とコミュニケーションを図り，主訴，要望を的確に聞き取ることができる．

３）臨床実習に必要な基本的態度を実践し，指導ライター，周囲スタッフの指示を守り，円滑に補綴診療・技工の実習を遂行できる．

２．実習場所

本院歯系診療部門４F第１総合診療室

３．実習内容および注意点

１）出欠の確認

出席は4階器材室のタイムカードで管理する．病気などで欠席の場合は可及的に早く指導ライターに連絡する．また，急患対応に治療の代行を依頼するか，患者に連絡をし，予約を変更するかを，必要に応じて指導ライターと協議し患者に迷惑のかからないよう対応する．

２）事前確認事項

（１）治療計画が立案（ホワイトが記載されている）されている．

（２）治療内容に関して指導ライターと事前確認がなされている．

（３）指導依頼フォーム（スプレッドシート）に入力されている．

（４）必要な同意書が取得されている．

（５）病名と算定項目があらかじめ確認されている

３）診療準備

（１）治療椅子は診療の有無に関わらず，新患，急患に備えて常に診療できるよう準備する．

（２）治療椅子およびユニットの清掃を行う．特にスピットンに注意する．

なおタービン，エンジン，ユニット，治療椅子の故障は歯科衛生士に連絡し，故障申告ノートに具体的に記入する．

（３）切削機器の調整，清掃をする．必要に応じてガスに点火する．

（４）手指の消毒ならびに器具の消毒は実習で指示された通りに行う．また診療内容に応じて必要な器具を準備する．

（５）診療器具，材料は器材室にて歯科衛生士より貸し出されるものがある．貸出しを受ける際には歯科衛生士に連絡して所定の用紙に記入する．使用後は清掃して返却する．

４）診療

（１）診療開始時には指導ライターに報告した後，患者をユニットに誘導する．義歯を装着している患者

の場合は，短冊を受け取り，受診票のファイルにはさむ．

（2）患者に胸掛けをし，スピットンでうがいを指示する．義歯を装着している患者は治療前に義歯の超音波洗浄を行い，水洗の後，治療中義歯は透明のカップに入れておく．診療後は患者に返却する．

（3）患者の現在の状態を聞き，口腔内を診査し，これから行う診療内容を説明する．

（4）指導ライターに診療内容を確認し，許可を得て開始する．診療中も随時指導ライターに報告し，確認と指示を受ける．

（5）歯や補綴装置などの切削時はPPEを着用し，口腔外バキュームか切削用BOXを用いる．

（6）歯の切削時には切削器具の固定を確実に行う．

（7）補綴装置の切削，研磨，水洗時には切削器に巻き込んで飛ばしたり，落としたりしないようしっかり把持し，壊したり無くさないようペーパータオルを敷いたり，排水孔に栓をする等の配慮をする．

（8）ユニットの照明を患者に長時間当てると眩しいため，必要時以外は消すよう心がける．

（9）麻酔が必要な際は息者の健康状態，麻酔経験の有無，全身疾患の有無等，外科の実習で行った内容を事前に問診し，指導ライターの検印を受ける．患者がショックを起こした時は，指導ライターと歯科衛生士に即座に連絡し，救急処置を行う．

(10) 処置が終了したらカルテに入力し，指導ライターの承認を受ける．義歯装着患者に義歯を返却したら，受診票のファイルに保管していた短冊をライターに返却する．

5）診療後

（1）診療後．使用した器具の清掃，消毒を行う．次の診療に備えてユニット．　キャビネットの清掃も行う．

（2）タービンの使用後はヘッドの清掃，注油を行う．

（3）一日の診療が終了したらガス，電気．水道の元栓を締める．

（4）診療の無い時でも治療室，技工室，控え室から出る際には，連絡が取れるよう受付に居場所，連絡先を伝える．

6）新患配当

（1）新患配当の呼び出し時には，原則として診療中でも指導ライターに伝え，配当を受ける．

（2）診療方針，診療内容は指導ライターの指示を得た上で，患者が十分理解できるよう説明する．使用材料，金額については，保険診療と私費診療とで違いがあるので注意する．

（3）診査が終了したら患者と次回の予約を取る．

a. 約束日時を伝え，変更の際には電話連絡をするよう依頼する．

b. カルテに診療（予定）の部位，病名を入力する．

c. 次回来院時に再来予約表を総合診療室の受付に呈示するよう説明する．

d. 電子カルテに診査，診療内容を入力し指導ライターの承認を受ける．

e. 患者に約束日時を記入したカードを渡す．

7）技工室の使用

（1）技工室は原則として実習時間内の使用のみとする（指導ライターが必要と認めた場合のみ，時間外の使用も可）．患者の診療予約は技工に必要な日数を十分考慮して行うこと．

（2）各自の技工机はこまめに整理，清掃を行い，技工物の紛失・破損の無いよう注意する．また流し鋳

造機周辺等の共用の場所も使用後は片付け，清掃を行うこと．

（3）技工を終了して退室する際には，各自の机の電気，ガス，バキューム等の点検をする．

（4）鋳造機，重合槽等の機器の使用後は必ず点検し次の使用者がいない場合には電源を切る．

（5）材料が不足したら技工室当番に連絡して補充する．

（6）各機器の故障，破損の際にはヘッドライターに連絡し修理を依頼する．

（7）掃除当番を決め，毎日定時に清掃を行う．

（8）技工室を最後に退出する者は，室内全ての電気，ガス，バキューム，水道等を点検する．

（9）技工は診療日の2日前までに完了するよう指導ライターと相談の上，進める．また，原則として午後5時までに技工作業を完了するように計画を立てて行い，止むを得ず午後5時を過ぎて技工を行う必要性がある場合には指導ライターの許可を得ること．

8）技工室当番

（1）当番は実習開始時に当番要旨の各項目について点検，整備を行い，技工，診療実習に支障の無いようにする．

（2）技工室で共用する材料を点検し不足や残り少ない物は材料請求の用紙に記入し，ヘッドライターの押印を受け，材料掛に交付してもらう．

（3）急患で担当者が不在もしくは手が離せない時には，指導ライターの指示に従い処置する．

9）技工物発注および材料交付

（1）技工物の発注やライター権限となるため，担当ライターに技工指示書に必要事項を記入してもらい，技工指示書に「第1総合診療室」の判子を押印し，さらに指導ライターの押印を受けること．

（2）材料掛で材料交付の際には，電子カルテ内の技工指示書に必要事項を入力し，印刷した技工指示書に「第1総合診療室」の判子を押印しさらに指導ライターの押印を受けること．

※私費治療の場合は，技工指示書と同意書の複製の提出が必要となる．

※技工物によって発注から納期までの期間が異なる．発注前の模型製作など技工操作期間と納期を考慮した上で，予約時期を決定すること．

部分床義歯補綴学

Ⅰ．部分床義歯臨床実習規定

1．対象ケース

部分床義歯の新製，修理，根面キャップまたは根面アタッチメントの製作，義歯のメインテナンスを部分床義歯臨床実習の対象ケースとする．

※全てのケースで，プロトコルへの記入および指導ライター印が必要．

※ライター印は指導を受けた指導ライターからもらうこと．

2．試験ケース

連続２歯以上の遊離端欠損または合計3歯以上の中間欠損で両側設計の義歯を必要とする症例で，義歯新製する症例を試験ケースとして認定する．

3．義歯新製咬合診断加算

義歯新製時にフェイスボウトランスファー，チェックバイト，半調節咬合器へのマウントと顆路調整，咬合平面診断を行って義歯を製作した場合には，新義歯のクレジットに１点を加算する．

4．義歯修理

1）リベース，リライン

・義歯床の拡大，延長も含む

・新義歯製作を前提としている症例も可

・保険算定ができない症例も可

2）人工歯脱離・破折の修理，増歯

・保険算定可能なものに限る

・新義歯製作を前提としている症例も可

3）義歯床破折の修理

・保険算定可能なものに限る

・新義歯製作を前提としている症例も可

4）支台装置の修理

・鋳造鉤，屈曲鉤いずれも可

・新義歯製作を前提としている症例も可

注）各項目は<u>同一症例について１回限りの認定</u>であるが，別のカテゴリー（1，2，3，4）の義歯修理のコンビネーションの場合には，個別にクレジットが加算される場合もある（ライターに要相談）．

5．根面キャップ，根面アタッチメント

磁性アタッチメントあるいはOPAアタッチメントを組み込んだ根面キャップ，それ以外の鋳造根面キャップとする．根面キャップ装着のための義歯の修正や，磁性体およびo-リングの義歯への装着を義歯修理として認定することは不可．コンポジットレジンやグラスアイオノマーセメントによる根面被覆処置は，クレジットとして認めない．ただし保存修復の単純窩洞充填のクレジットに<u>該当する場合があるため</u>，保存ライターと相談すること．

6．義歯メインテナンスについて

すでに義歯を使用している患者に対して，その義歯の診査を行う．その結果，そのまま義歯を使用するか，修理あるいは申請を行うかを判断する．対象となるのは<u>義歯装着６ヶ月以上経過</u>した症例で，<u>１口腔単位</u>とする．専用プロトコルに必要事項を記入し，班指導ライターの認定を受ける．認定のないものはケース

として認めない．メインテナンス診査後に，義歯修理，新義歯製作を行った場合は，それぞれのケースとして認定される．

※引継ぎ後の初回メインテナンス来院時に，ライターおよび患者と相談し，義歯に対して継続的なフォローアップが必要と判断されたもの（実習期間中に最低３回のフォローアップが必要）に限る．

試験ケースのプロトコルは，Ⅲ期に試験ケースヘッド指導ライターが提出方法を周知した後に，その指示に従い提出すること．

Ⅱ　部分床義歯の診療と製作課程

＜ステップ１＞

［治療］

１．口腔内診査
　プロトコルの作成
２．支台予定歯のX線撮影
３．研究模型の印象採得（アルジネート印象）
　咬合採得（咬頭嵌合位）
４．インフォームド・コンセント
　義歯，予測される装着後の経過，治療日数，費用，etc.

［技工］

１．研究用模型製作（硬石膏）
２．義歯の仮設計
　サベイング，設計用紙への記入，模型への記入
３．個人トレー製作

＜ステップ２＞

［治療］

１．前処置
　ガイドプレーン，レストシート，歯冠形態修正
２．精密印象採得
　個人トレー試適，辺縁形成（筋形成），
　シリコンラバー印象
３．（咬合採得：中間欠損など模型上で咬合位が安定する場合）
　シリコンバイトで顎間記録を行う

［技工］

１．作業模型製作（超硬石膏）
　ボクシング，超硬石膏注入
２．咬合床製作
　※金属床義歯の場合，この段階で義歯設計，
　メタルフレームの製作を行う場合がある

<ステップ３>

［治療］

１．咬合採得
　咬合床試適，蝋堤軟化し咬合位記録
　※必要に応じて，咬合採得材（アルワックス）等でウォッシュ
２．基準線の記入（前歯部欠損の場合）
　正中線，口角線，上唇線，etc.

［技工］

１．咬合器装着
２．義歯の設計(模型上) サベイング，設計線の記入
３．技工発注
※以下は自作の場合のみ
４．メタルフレーム製作
　ブロックアウト耐火模型製作，
　ワックスアップ，鋳造
５．人工歯排列

<ステップ４>

［治療］

１．蝋義歯試適

１）メタルフレーム

歯肉支台歯と支台装置の適合埋没

２）人工歯排列

重合審美性，咬合関係のチェック

［技工］

１．技工発注

※以下は自作の場合のみ

１．歯肉形成　２．埋没　３．重合　４．研磨

<ステップ５>

［治療］

１．義歯装着

１）装着確認支台歯と支台装置の適合

２）粘膜面の適合確認開口態での疼痛の有無

３）咬合調整

咬頭嵌合位，偏心運動時，タッピングの安定

４）粘膜面の適合確認咬合圧下で疼痛の有無，適合確認

２．患者指導

着脱確認，義歯の手入れ，保存法，義歯への慣れ方，次回の予約までの対応

<ステップ６>

［治療］

１．経過の確認

１）義歯の維持力，安定

２）機能回復（咀嚼，嚥下，発音），審美回復

３）慣れ（口腔感覚，機能，着脱）

４）支台歯，歯周組織，顎堤粘膜の状態

２．リコール

リコール間隔は指導ライターと相談する

Ⅲ　部分床義歯の診療の実際（技工操作は実習書を参照）

<ステップ０>問診・診査：歯科疾患の診断．部分床義歯の必要性，妥協性の検討．

これで「部分床義歯が必要」となったら…

<ステップ１>治療計画：プロトコル記入，研究用模型の製作

- 問診・口腔内診査・X 線診査・模型診査（部分床義歯治療計画のための精査）
  部分床義歯を用いた治療に先立ち，残存歯，顎堤，咬合について十分な診査がなされなければならない．
  ここで得られる情報は治療計画の立案ばかりでなく治療経過の予測にも必須である．
- 研究用模型上での仮設計・治療計画立案

- 術前教授診断：プロトコル，X線写真，研究用模型（設計線記入）を整えて教授診を受ける（11階資料室）
- 患者への治療計画の説明（インフォームドコンセント），最終決定

＜ステップ２＞前処置，印象採得

- 前処置：広義，狭義の前処置があるが全般的には講義・参考書を参照

［準備］タービン，コントラ，ダイヤモンドポイント，カーボランダムポイント，シリコンポイント，ホワイトポイント

- 印象採得：原則として個人トレーを製作し辺縁形成（筋形成）後，シリコンラバーで印象採得する

［準備］研究用模型，個人トレー，ストレートハンドピース（ストレート），カーバイドバー，ラバーボール（温湯），エバンス，小刀，トーチランプ，モデリングコンパウンド（赤・緑），ユーティリテイワックス，シリコンラバー印象，シリコンラバー印象材用接着剤，金属スパチュラ，フリーフローシリンジ，金冠はさみ.

＜ステップ３＞咬合採得：各症例で異なるので講義・実習書・参考書を参照し十分予習すること

［準備］咬合床，作業模型，パラフィンワックス，ワックススパチュラ，エバンス，小刀，シェードガイド，モールドガイド（前歯部を含む義歯の場合に限る），床用シェードガイド

＜ステップ４＞メタルフレームの試適

［準備］メタルフレーム，フィットチェッカー，ストレート，カーボランダムポイント，カーボランダムポイント，シリコンポイント，咬合紙

＜ステップ５＞人工歯排列試適

［準備］パラフィンワックス，ワックススパチュラ，ストレート，カーバイドバー，カーボランダムポイント，ビッグポイント，咬合紙，手鏡

※ステップ４および５は「義歯試適」としてまとめて行うことが多い.

<ステップ６＞義歯装着，調整，患者指導：完成義歯の受け取りを忘れないこと

［準備］デンスポット，フィットチェッカー，ストレート，ラウンドバー，フィッシャーバー，カーバイドバー，カーボランダムポイント，ビッグポイント，咬合紙，プライヤー（三嘴鉗子，ピーソー），手鏡

※調整が完了したら，術後教授診を受ける（第１総合診療室にて※要予約）

<ステップ７＞経過観察：定期的な経過観察が望ましい　準備ステップ６と同じ

全部床義歯補綴学

Ⅰ．全部床義歯臨床実習規定

１．実施時期

Ｄ６臨床実習開始日より最終日まで。

11月または12月（予定）にオリエンテーションを行い、配当を開始する。

２．適応症例

１）上下無歯顎

２）残根上全部床義歯装着者

試験ケース適応症例

上下全部床義歯新製を必要とする者（残根上義歯も含む）

※片顎のみの全部床義歯の場合は一般ケースでの症例とする。

３）下記の場合は試験ケースの対象外とする。

＊片顎のみの全部床義歯の場合

３．ケースの進め方

１）担当の指導ライター（配当時決定予定）とペアを組んで義歯を製作する。

２）配当時には問診を行い、ホワイトカードに記入後、可能な限り上下の概形印象まで行う。

３）プロトコールの各ステップの検印欄には、その都度指導ライターの検印を受けること。

４）技工に要する時間を十分に考慮して予約を取ること。

５）指導ライターとコンタクトを取り、技工物のチェックをこまめに受けること。また、必ず２日前までにプロトコールの技工物完成欄に検印を受けること。検印を受けていない場合、実習を許可しない。

６）調整が終了したら教授診を受けて試験ケースを修了する。

４．プロトコール記入、自記式質問票・機能検査の実施

初診時や義歯製作開始後の早い段階に、プロトコール記入、患者に対する旧義歯を対象とした自記式質問票の実施や機能検査を行う。また、新義歯の調整が終了した段階で、患者に対する新義歯を対象とした自記式質問票の実施や機能検査を行う。

５．注意事項

１）参考図書を熟読し、治療内容について理解しておく。

２）患者の多くは高齢者であるので、治療は手際良くおこなう。

Ⅱ．無歯顎患者の診療手順

第１日目　診療内容

＜診査＞

全部床義歯患者診療録に記載されている事項にのっとり、

１）一般的診査　　高齢の患者が多いので全身状態に注意すること。

２）口腔ならびにその周囲の診査

プロトコールに従って記入。上下顎堤の関係などは咬合採得後に記入したほうがよい。

＜術前処置の必要性＞　適切な処置を指導ライターと相談する。

１）歯槽堤のアンダーカット部

２）歯槽骨吸収不全および歯槽骨鋭縁

３）flabby gum tissue、denture fibroma

＜Ｘ線写真撮影＞

残根、埋伏歯など顎堤に異常の疑いがある場合に行う。

第２日目　診療内容

＜予備印象＞

１．既製トレー（中沢式無歯顎用トレー）のなかから適した大きさのものを選択する。

上顎では上顎結節、下顎ではretromolar pad まで覆うものを選ぶ。

２．トレーの調整

将来出来る義歯の床縁の位置を仮想し、それよりもわずかに控えたところにトレー縁がくるようにハサミやプライヤーを用いて修正する。ハサミで切った部分はヤスリで滑らかにし、自分の指で触って確認してから口腔内に挿入する。短い個所にはユーティリティ・ワックスを添加する。

３．印象採得

印象材はアルジネート印象材を用いる。アルジネート印象材を冷水でやや固めに練和する。練和終了後、トレーに印象材を押しつけるようにして盛り、患者にトレー挿入後直ちに閉口を指示し、口腔周囲の緊張をできるだけ解除した状態で印象採得を行う。

印象域の設定は歯肉頬移行部、小帯付着部、上顎結節、口蓋窩、Ah-line、retromolar padの1/2～2/3、外斜線、顎舌骨筋線等を参考にする。なお、口蓋後縁は皮膚鉛筆で外形線を粘膜に記入して観察、確認するのがよい。

技工内容

＜研究用模型の製作＞

模型材には硬石膏を用いる。石膏を注入する時、印象（特に下顎）を変形させないように注意する。模型の厚みは最も薄いところで約10mm確保する。下顎のretromolar pad付近では模型の縁の幅が狭くならないように注意する。

次に、模型をモデルトリーマーを用いて仕上げるが、まず、辺縁をバーにてトリミングする。次に基底面を、咬合平面と平行にトリマーにてトリミングする。最後に側面部をトリミングする。順番を間違

えると削りすぎてしまうことがあるので注意。

＜個人トレーの製作＞

１．模型上での診査

骨隆起、口蓋隆起、歯槽堤のアンダーカットについて、それぞれの大きさを検討し、リリーフやブロックアウトの必要があればパラフィンワックスで処置する。なお個人トレーの着脱方向は、咬合平面に対して垂直ではないので､ブロックアウトを行う時に注意する｡一般に上顎では前下方が着脱方向となる。

２．外形線の記入

３．トレー体部、柄、フィンガーレストをオストロンを用いて製作する。（模型実習書を参照）

第３日目・４日目　診療内容

＜最終印象＞

１．辺縁形成

１）口腔内にトレーを挿入し、辺縁の長さを点検する。辺縁部では、粘膜反転部より２～３mm短くする。口蓋後縁部は、Ah-lineより２～３ｍｍ長くする。

２）トレー辺縁部にモデリング・コンパウンドを盛る。盛り上げたコンパウンドをアルコール・トーチで軟化して義歯の形態を想定して付形したのち、手早く温湯に通してから口腔内へ挿入し、静かにトレーを圧接する。

３）口をとがらせる、嚥下などの機能運動を行い、辺縁形成を行う。

４）トレー内面にはみ出したコンパウンドを除去し、必要があればコンパウンドを修正して再度辺縁形成を行う。

２．仕上げ印象

１）シリコーン用接着材をトレー内面に塗布する。シリコーン印象材を練和し、トレーに盛る。トレー内面だけでなく、辺縁部側面にも盛る。

２）トレーを定位置に運び静かに保持する。トレー内面が衝突するような強い力を加えない。

３）機能運動を行い、過剰な印象材の流出を助ける。

４）印象材硬化後トレーを外す。

技工内容

＜作業模型の製作＞

模型材には超硬石膏（ヴェルミックスストーン）を用いる。印象採得後、印象辺縁から５ｍｍ後退した位置にユーティリティ・ワックスを巻き、次いでボクシングをする。完成した作業模型の厚みは最も薄いところで10mmとし、印象辺縁より均一に５ｍｍの幅を確保する。特に下顎の後縁部には注意が必要である。

＜設　計＞

咬合床を作製するにあたって、外形線、歯槽頂線、retromolar padの高さ、リリーフエリア、ポストダムエリアなどを確認する。

＜咬合床の製作＞

アンダーカット部や破損しやすい個所をワックスで修正する。基礎床は、オストロンを用いる。咬合堤は、パラフィンワックスで製作するが、あらかじめ標準的な寸法と概形を付与する。

第５日目　診療内容

＜顎間関係の記録（咬合採得）＞

１．上顎咬合堤の修正

１）患者の顔貌を手掛かりとして、唇側豊隆度の修正をする。

２）前歯部咬合面の高さを、上唇下縁に一致させる。

２．仮想咬合平面設定基準

１）仮想咬合平面は瞳孔間線と鼻聴道線に平行とする。

２）解剖学的指標(retromolar pad など）を参考にして決める。

３．咬合高径を決定する方法

１）下顎安静位法

(1) 鼻下点とオトガイ点に皮膚鉛筆でマークをつける。

(2) 下顎安静位をとらせて上記２点間の距離を計測する。

(3) その値より安静空隙の２～３ｍｍを減じたものを中心咬合位での咬合高径とする。

２）形態学的根拠に基づく方法

３）その他

(1) 発音運動

(2) 嚥下運動

いくつかを併用して最終決定を行う。

４．下顎咬合堤の修正

１）下顎を後退させた位置で咬合させて、上で求めた咬合高径より１～２ｍｍ高いところで下顎咬合堤が上顎咬合堤にほぼ均等に接触するようにする。

２）上下顎の関係を咬合堤で正しく記録するために、上顎臼歯部咬合面にＶ字形の溝を設定する。Ｖ字溝を含め、上顎臼歯部咬合堤表面にワセリンを塗布し口腔内に装着する。高径を減少させる幅だけ下顎咬合堤の前歯部を削除し、臼歯部を加熱したワックス・スパチュラで均等に軟化する。下顎咬合床を口腔内に装着し、左手の母指と人差指で上顎咬合床を押さえ、右手の母指と人差指で患者のオドガイ部をはさみ、下顎を軽く後方へ誘導しながら静かに口を閉じさせる。

３）上下顎の基礎床の部分が接触していないかを点検し、はみ出したワックスを修正する。

４）上下顎臼歯部咬合堤のアーチを合わせる。

５）調整の完了した上下顎咬合床を再度口腔内に装着し、軽く何回か開閉口させ、閉口位にずれのないことを確認する。

５．標示線の記入

人工歯の選択及び配列のために正中線、鼻翼幅線（口角線)、上下唇線を記入する。

６．点　検

口腔外へ取り出して、模型上で組み合わせ、基礎床どうし、あるいは模型のへりが接触していないか、咬合床が変形していないかをチェックする。

＜人工歯の選択＞

人工歯の材質については指導ライターと相談し、前歯部人工歯のモールドおよびシェードを選択して患者の同意を得る。同時に臼歯部人工歯の色、大きさ、咬合面形態も決めておく。

技工内容

＜咬合器装着＞

1．Gysi Simplex ＯＵＨ型咬合器を点検し、ネジをしっかり固定する。

2．スプリットキャスト法で装着するが、詳細は模型実習のテキストを参照する。

＜ゴシック・アーチ・トレーサーの装着＞

The Simplex intra-oral gothic arch tracer を指導ライターから借り出す。装置の製作のデモは模型実習で行ったが、以下の事項は特に注意すること。

1．作業模型上にてオストロンを用いて基礎床を作る。模型を破損することがないように分離剤塗布を忘れないこと。このとき、ブロックアウト・リリーフのための新たなワックスの追加を行ってはいけない。人工歯配列のための咬合床がもどらなくなるからである。

2．描記板、描記針の傾きや取り付け位置に注意する。とくに描記針が、顎堤の中心から外れないようにする。

第６日目　診療内容

＜口内描記＞

ゴシック・アーチ描記について、十分に予習しておくこと。タッピング、前方運動、左右側方運動の４種についての記録をとる。高齢な患者では最初から正確に限界運動を描記できない場合が多いのでインクを塗って観察できるようにしてゆっくりとした運動で数分練習させるとよい。

タッピングポイントやアペックスは描記が重なると不明瞭になるので、引き出し線でその位置が後でも判断できるようにしておく。

描記したゴシック・アーチ（アペックス）とタッピングポイントとの位置関係を観察し、両者が１～２ｍｍ程度の範囲にあれば、タッピングポイントを中心咬合位とする。両者が著しく離れている場合は指導ライターと相談する。口腔内コアを採取して下顎模型を再装着する。その際には透明プラスチック円板の孔に描記針が正確に入っているかを確認し、コアは描記板上のできるだけ広範囲にわたるようにする。

技工内容

＜下顎模型の再装着＞

上顎模型はそのままにして、下顎模型のみ咬合器から除去し、再装着する。その際、基礎床と模型を正しく適合させ、描記針およびコアの位置関係を確認して位置がずれないように基礎床とコアをスティッキーワックスで固定する。

＜咬合床の修正＞

咬合採得に用いた咬合床を上下顎模型にもどし、上顎咬合堤に合わせて下顎咬合堤の修正を行う。

＜前歯部人工歯配列＞人工歯配列から外注を行うことも可能

人工歯配列については模型実習のテキストを参照し、配列する。

第７日目　診療内容

＜前歯部試適＞

正中線と人工歯の関係、口唇と人工歯切縁の位置、顔貌や表情との調和を診査する。色調も再確認する。手鏡を患者に渡して、配列に関する希望を聞き、最終的に同意を得る。

技工内容

＜臼歯部人工歯配列＞

模型実習で行った方法が基本となる。下顎では、臼歯部義歯床負担領域の頬舌的ほぼ中央に、上顎では、舌側歯肉縁残遺をランドマークとして配列する。それらの位置を出発点として上下顎で調和がとれるように修正を加える。ついで歯肉形成の概略を終える。

第８日目　診療内容

＜蝋義歯の試適＞

蝋義歯が動きやすいため、大まかな嵌合位のチェックができる程度で、咬合接触状態、発音などの細かいチェックはできない。義歯床の外形、研磨面形態のチェックを行い、時間が許せば、前歯部の歯肉縁、歯間乳頭部の位置など審美性についての最終チェックを行う。

技工内容

＜埋没から削合、研磨まで＞

模型実習で行ったものと同様である。

第９日目　診療内容

＜義歯の装着、装着時の調整、患者指導＞

義歯床粘膜面を念入りに点検し、鋭利な突出部をすべて除去した後、口腔内に装着する。義歯床辺縁の長さが適切であるかを点検する。続いてプレッシャー・インディケーター・ペーストを用いて、義歯床粘膜面と顎堤粘膜との衝突部位を削除する。次に咬合の調整を行う。

患者がすでに全部床義歯の使用経験がある場合にも、新しい義歯を装着するにあたっての注意事項を説明する必要がある。①新しい義歯を装着した当初は咀嚼、発音などが慣れた義歯のように円滑に行えないことが多いので、あせらずに徐々に義歯になれさせる必要がある。例えば軟らかめの食品を小さく切ったものをゆっくりいつもの２倍程時間をかけるつもりでかむようにする。②特にひどい疼痛であれば、はずしておいた方がよいが、次回来院の１日位前から再び使用して不備の点を確認して来院させる。③夜間など義歯を使用しないときには水中に保存させる。④義歯用ブラシなどを使用して、流水下で清掃させる。義歯用洗浄剤の使用も有効である。⑤自分で調子が良くても、専門家としてのチェックを行うために指定した日には必ず来院させることなどである。特に装着した翌日には必ず来院させる必要がある。

第10日目　診療内容

＜装着後の調整＞

患者が長期にわたり新義歯を外してしまうことがないように調整のアポイントを考慮すること。

患者の訴えは実に様々である。指導ライターと良く相談することが大切であるが、口腔内のみに気をとられず、顎関節、咀嚼筋等にも目を向けること。

口腔外科及び歯科病棟
（顎口腔腫瘍外科学・顎顔面外科学）

○ーPhaseⅡーを行うにあたって

PhaseⅡでは、講義、実習、PhaseⅠで修得した知識、技能を用いて、4F手術室では単純抜歯や埋伏抜歯をインストラクターの指導の下、患者の口腔内で実際に行い、6F口腔外科では、難抜歯などの小手術の介助や、新患の診察介助などを行う。8F病棟および手術室では、さまざまな口腔外科疾患患者の周術期の管理や、手術を見学し口腔外科における基本的な臨床能力を習得する。

１．到達目標

１）診断に必要な医療情報を収集できる。
２）診断に必要な検査を選択できる。
３）得られた情報を適切に評価し、診断を下せる。
４）適切と思われる治療法の選択肢を選択できる。
５）治療方針、リスクを患者に説明できる。
６）安全な手技にて抜歯などの基本外科手術ができる。

２．実習場所

本院歯系診療部門４F手術室および第１総合診療室、
６F口腔外科、
８F病棟及び７F中央手術室

３．実習内容および注意点

１）病歴（主訴、現病歴、既往歴および家族歴）聴取を的確に行い、正確に記載する。
２）視診、触診、聴診、打診を通じ、現症を適切に把握し、正確に記載する。
３）診断に必要な検査を行う。
４）得られた情報から診断し、治療方針の立案、リスクの評価、予後の推測を行う。
５）患者にわかりやすい言葉で診断、治療方針、予後等に関して説明する。
６）通常の抜歯の基本的な手技を実践する。
７）基本的な小手術の手技を介助を通じ学ぶ。
８）周術期の全身管理について学ぶ。
９）院内感染対策（Standard Precautionを含む）を理解し、実践する。

４．集合場所・時間

１）本院歯系診療部門6F口腔外科・9時00分
２）本院歯系診療部門8F歯科病棟・8時30分
＊顎口腔腫瘍外科病棟実習のみ
実習の前週の金曜日17時に歯科病棟へ行き、病棟のグループヘッドに翌週の実習について指示を仰ぐ。

歯科麻酔科
（歯科麻酔・口腔顔面痛制御学）

○ーPhase Ⅱ ーを行うにあたって

歯科麻酔科外来では精神鎮静法、外来全身麻酔、モニタリング、術前診察について学ぶ。精神鎮静法の適応を知り、使用する薬剤の薬物動態などについて理解する。

歯科手術室では、口腔外科手術の全身麻酔を学ぶ。気道確保の方法や手順を理解する。

１．到達目標

① 全身管理に必要な生理学をはじめとする基礎医学を理解する
② 手術・麻酔の侵襲による生体の反応を理解する
③ 全身管理上問題となる疾患の病態と管理法を理解する
④ 気道確保の方法を理解する
⑤ 麻酔器の使い方を理解する
⑥ モニターによる測定の意義を理解する
⑦ 全身管理に用いる各種薬剤や輸液の特徴・使用法を理解する

２．実習場所

１日目（手術室見学）
集合　8：00　D棟7階　歯科手術室　前室

２日目（外来見学、ディスカッション）
午前　外来見学
集合　8：40　D棟7階　歯科麻酔科
午後　ディスカッション
集合　13：00　D棟7階　歯科手術室前室

３．実習内容

外来見学
・精神鎮静法、外来全身麻酔、モニタリング、術前診察

手術室見学
・全身麻酔

ディスカッション
・２日間の外来、手術室見学を振り返る

歯科ペインクリニック
（歯科麻酔・口腔顔面痛制御学）

○ーPhase Ⅱ ーを行うにあたって

ペインクリニックでは，口腔・顎・顔面領域の疼痛，異常感覚，知覚麻痺，異常運動および運動麻痺などに関する知識を深めるため，症例の見学を中心とした実習を行う。また，薬物療法，神経ブロック，東洋医学的療法，理学療法および心身医学療法など，様々な治療法が使用されることを理解する。

1．目的

1）口腔・顎・顔面領域の疼痛，異常感覚，知覚麻痺，異常運動および運動麻痺などに関する知識を深める。

2）治療法の種類と，適応症との関連を理解する。

3）実際に東洋医学的療法，理学療法および心身医学療法などを体験し，治療の感覚を体感する。

2．実習場所

集合場所：本院歯系診療部門2F　歯科ペインクリニック

集合時間：1）午前の実習：9:00

2）午後の実習：13:30

3．実習内容

1）外来患者診療の見学

外来患者を対象として主訴，既往歴，現病歴などを理解し，現症を把握する。

そして，治療方針について理解を深める。

2）治療の見学

治療には薬物療法，神経ブロック，東洋医学的療法，理学療法および心身医学療法などが，単独あるいは組み合わせて用いられる。これらの実際の治療を見学する。

3）治療法の体験

東洋医学における鍼通電療法，理学療法に属するスーパーライザー™照射やACイオントフォレーシス，心身医学療法に属する音楽療法などを体験する。

小児歯科
（小児歯科学・障害者歯科学）

○－PhaseⅡ－を行うにあたって

１．到達目標

１）基礎実習およびPhase Ⅰで習得した、小児に対する安全で効果的な歯科診療の基本的技術を実施できる。

２）歯科診療に際して、小児患者への対応に配慮できる。

３）小児患者および保護者に対し、歯科保健の維持・増進に適切な助言、援助ができる。

２．実習場所

１）小児歯科診療室（小児歯科技工室を利用する場合もある）

２）実習の第１回目　診療室受付前に集合。実習のオリエンテーションを受ける。

３）第2回目以降は、直接小児歯科診療室に入り実習に参加する。

３．実習内容

１）実習に際して、各学生の指導担当者がそれぞれ１名定められている。

２）指導者の外来診療ユニットで、診療の見学および診療の介助を行う。

３）指導者のもとで指導者の担当患者に対して小児の歯科診療の実際を自験実習する。

４）各回の実習終了後、見学および自験した診療内容について記録し、指導者に報告し確認をうける。

５）実習の理解を深めるため課題が与えられ、レポート報告する。

４．補足

１）実習の指導担当者名は診療室受付ホワイトボードに掲示されている。

２）指導担当者の診療ユニット番号は受付テーブル上の診療ユニット割振表に表示されている。

３）実習に関する各種記録用紙は、NO4ユニット脇の戸棚に準備されている。

矯正歯科
（咬合機能矯正学・顎顔面矯正学）

○－PhaseⅡ－を行うにあたって

包括臨床実習phaseⅡでは、症例を用いて矯正歯科の診断について学ぶとともに、教授診断見学・外来見学を通じて矯正歯科治療の実際について学習する。不正咬合の診断は幅広い知識を要するものであり、それに基づいた的確な治療計画の立案が良好な治療結果へとつながる。指導ライターを交えた討論により、これらに対する理解を深める。

１．到達目標

１）矯正歯科の診断の進め方について理解を深める。
２）不正咬合に対する治療計画について理解を深める。
３）矯正歯科治療におけるインフォームドコンセントについて理解する。
４）患者からのさまざまな質問への応対について理解する。
５）歯科における矯正歯科治療の意義について理解を深める。

２．実習場所・集合時間

セミナー室および矯正歯科
（集合場所：本院歯系診療部門２Ｆ　矯正科医局前）
（集合時間　１）午前：9：00,　２）午後：13：00）

３．実習内容

１）教授診断見学
２）さまざまな症例を用いた討議
３）外来見学

障害者歯科外来
（小児歯科学・障害者歯科学）

○ーPhase Ⅱ ーを行うにあたって

障害者歯科外来は、身体的、精神的、医学的およびこれらの重複した障害などのため、歯科医療を行う上で特別な配慮､知識と技術が必要になる人たち（歯科的なスペシャルニーズのある人たち）に対して、それに合わせた対応（スペシャルケア）すなわち行動調整や全身管理を行い、口腔機能の改善と長期の口腔管理を図ることを目的としている。対象は①理解力の問題や、意思の疎通の困難さにより、診療時の協力性の確保に問題がある患者｛知的能力障害（精神遅滞)、自閉スペクトラム症（自閉症スペクトラム障害）etc.｝、②運動機能の障害により、診療時の運動･姿勢の制御や通院が困難である患者（脳性麻痺、筋ジストロフィー etc.)、③視覚、聴覚などの感覚機能に障害のある患者、④循環器、腎臓などの疾患を有し、歯科的侵襲の影響を受け易く一般の歯科診療手段が容易には行えない患者などである。

１．到達目標

１）障害および疾患の種類に対応して、適切な診療の介助を行うことができる。

２）障害および疾患の身体的、精神的、医学的特徴を理解し診療計画を立案できる。

２．実習場所

１Ｆ 障害者歯科外来

３．実習内容および注意点

１）患者との接し方

２）病歴聴取と障害・疾患の把握

３）リスク評価と治療方針の検討

４）口腔診査と資料の採取
　口腔の特徴の観察と把握

５）チームアプローチの実際（診療の介助）

６）学習理論に基づく行動療法（Tell-Show-Do法、カウント法 etc.）

７）全身管理法の実際
　モニターの取り扱い

８）精神鎮静法の実際（笑気吸入鎮静法、静脈内鎮静法）
　吸入器の組み立て
　薬剤の効果と副作用

９）局所麻酔薬の選択

10）全身麻酔下集中歯科治療の見学および介助

11）口腔保健指導

４．集合場所・集合時間

１Ｆ 障害者歯科外来　　午前の実習：9:00、午後の実習：13:00集合

高齢者歯科外来
（高齢者歯科学）

○－PhaseⅡ－を行うにあたって

高齢者歯科外来は有病高齢者の歯科治療を行っている。医科歯科連携のもとに医学部附属病院からの紹介患者の治療も行っているため、全身疾患急性期の患者の歯科治療を目的としている。全身疾患の理解と歯科治療時の対応方法の知識習得を行う。

１．到達目標

１）高齢者の全身疾患（主に循環器疾患、悪性腫瘍、骨粗鬆症、糖尿病）について理解する。

２）歯科治療時の対応方法について理解する。

２．実習場所

本院歯系診療部門１F高齢者歯科外来診療室

３．実習内容および注意点

カンファレンスに参加し、バイタルサインのモニタリング、診療の見学。重度な疾患があり本院医系診療部門からストレーッチャーで入室する患者、車椅子で入室する患者もいるためひとつひとつの自分の行動に注意する。

１）８時半からのカンファレンスに参加し全身疾患評価

２）バイタルサインを観察、麻酔チャートに記載し全身状態変化を把握

３）診療見学

４．集合場所・集合時間

本院歯系診療部門１F高齢者歯科外来　月、火、木　午前のみ　８時半開始

摂食嚥下リハビリテーション科
（摂食嚥下リハビリテーション学）

○ーPhaseⅡーを行うにあたって

加齢や疾病により要介護状態となった施設入所中や在宅療養中の患者における、訪問歯科診療のニーズを把握し、摂食嚥下機能評価やリハビリテーション、患者の対応方法など高齢者歯科医療に必要な知識と技術の習得を行う。

１．到達目標

１）摂食嚥下障害とその評価について説明できる

２）多職種連携を理解する。

３）オンライン診療を経験する

２．実習場所と集合時間

10号館5階　摂食嚥下リハビリテーション学分野　会議室

・月曜日　9：30　　・木曜日　8：30

３．実習内容および注意点

１）第2・第4月曜日のいずれか1日

ＡＭ　講義と訪問歯科診療（摂食嚥下機能評価等）のオンライン研修

ＰＭ　嚥下外来の見学、嚥下造影評価など

２）第2・第4木曜日のいずれか1日

ＡＭ　医系診療部門でのICUにおける多職種連携、急性期の口腔ケア

ＰＭ　嚥下内視鏡検査模型実習と摂食嚥下障害スクリーニングテスト実習

合計2日

４．オンライン研修先

第2月曜日　ＡＭ　介護老人保健施設　青戸こはるびの里（葛飾区）10:00

第4月曜日　ＡＭ　特別養護老人ホーム　アトリエ村　（豊島区）10:00

もしくは居宅

第2・第4木曜日　ＡＭ　ICU多職種カンファレンス

５．服装とその他

実際の訪問診療時やICUのカンファレンスにオンラインで双方向に接続するため、白衣を着用の上集合する。

木曜日は、ICUのカンファレンスの時間に合わせて集合が早いため、解散を15：00とする。

顎関節症外来
（咬合機能健康科学）

○－PhaseⅡ－を行うにあたって

顎関節症は咬合と関係が深いと考えられてきたため，長い間歯科的疾患として扱われてきた．しかし，最近の科学的研究では咬合と顎関節症の因果関係はあまり強くなく，むしろ関節や筋の疾患であることが明白となり，顎関節症は歯科独特の疾患ではなく，体の他の関節や筋と同じように整形外科的な疾患として扱うことができると考えられるようになってきた．

また，顎関節症は多因子疾患であり，かつself-limitingな疾患であるとの考えから，整形外科的な原則に従った治療が主流となり，不可逆的な咬合治療を第一選択とすることもなくなってきた．

本実習では，このような顎関節症に対する診査方法と患者への病態説明，ならびに治療について経験してもらうことを目的とする．

１．到達目標

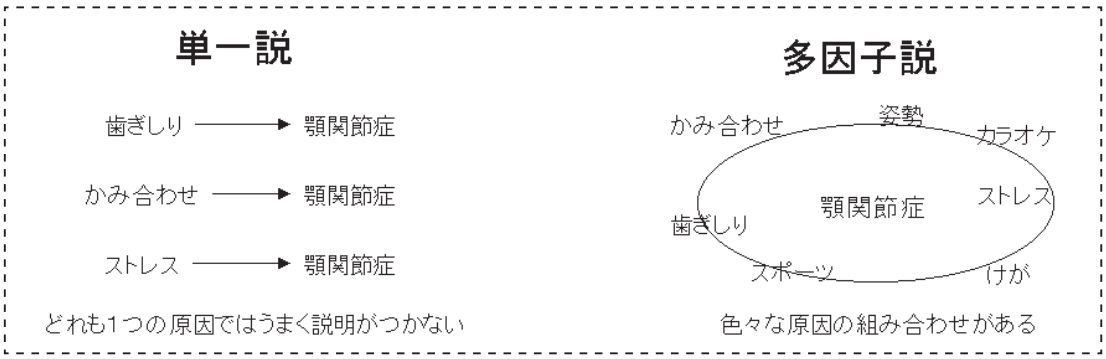
１）顎関節症の症状および病態について説明できる．

２）顎関節症の原因について説明することができる．

３）多因子疾患であることならびに各因子について理解することができる．

４）顎関節症の診査内容および方法を説明することができる．

５）顎関節症の治療について理解，説明することができる．



２．実習場所

顎関節症外来（本院歯系診療部門３階）

8：50　外来集合

３．実習内容および注意点

１）外来患者の診察見学

（１）問診票の活用法について

（２）医療面接の手順，診査方法について

（３）患者への病態説明，治療（習癖是正法など）について

２）触診の相互実習

３）Ｘ線写真ならびにMRI画像の読影

４）レポート作成

４．補足

顎関節症（TMD）は，「顎関節や咀嚼筋の疼痛，関節雑音，開口障害ないし顎運動異常を主要症状とする慢性疾患群の総括的診断名（日本顎関節学会）」と定義されているように，顎関節に限局した疾患ではなく，筋肉や靭帯の障害も含まれる．

また，本疾患は多因子疾患であることから，診査に際しては患者のもっている寄与因子を見つけ出すことが必要不可欠であり，治療においてはその寄与因子を消去，是正することが主体となる．

実際の診療では，患者が現在持っている病態（痛み，運動障害等）を改善することと同時に，寄与因子のコントロールも行うことが重要である．

歯科心身医療科
（歯科心身医学）

○－PhaseⅡ－を行うにあたって

これまで見学したことや習得した知識を基に、信頼関係を構築することが通常より困難とされている歯科心身症患者への対応を実習する。診察中は本症患者特有の複雑な病歴、器質的原因に固執する疾病観や処置の希望などを聴取する過程で、患者が何を思っているかをも推察していくことが要求される。患者に請われるままに流されるのではなく、その患者にもっとも適した医療は何かを常に考え、患者や家族の納得を得られるよう誠意を持って接し、最終的には適切な治療に乗せられるように柔軟な対応を学んでいただきたい。

１．到達目標

１）歯科心身症と精神科領域の患者との鑑別ができる。
２）患者の苦痛に共感し、訴えを傾聴できる。
３）患者や家族の表情や態度などから、心理状態や納得度を推察できる。
４）簡潔で適切な問診を行うことができる。
５）歯科領域における心身医学的アプローチを説明できる。
６）向精神薬の処方の仕方を説明できる。

２．実習場所

１）歯科心身医療科（本院歯系診療部門４F）
　　9：00集合

３．実習内容および注意点

実際に患者との医療面接を体験し、まずは歯科心身症という疾患を肌で感じていただきたい。

できる限り多くの患者に接し、診療室における患者の態度、表情、口調などをよく観察しつつ、訴えを的確に把握し、必要な情報を収集していくこと。その上で、こちらが考える治療方針を勘案し「どうしたらよいか」を患者と一緒になって考えるという姿勢がとれれば申し分ない。患者の話が脱線することもしばしばで、自分で対応困難だと感じたら、直ちに担当教員にサポートを要請すること。なお前医への批判が患者の口から発せられても安易に同調しないこと。周囲の微細な言動にも敏感に反応する患者もいるため、診療室内では気を抜かないこと。

口腔インプラント科
（口腔再生再建学）

○ーPhaseⅡーを行うにあたって

インプラント診療は、歯科診療において欠損補綴の一翼をになう分野である。しかし、その診療内容は正確な診断からはじまって、インプラント前手術も含む外科的処置を遺漏なく行い、十分な補綴的処置を行った上で、その後の永続的な歯周療法学的管理も行うという極めて学際的かつ総合的な分野である。したがって、PhaseⅡ実習では、より詳細な診療の流れをたどり、インプラント治療の技術のみにとどまらずその概念への理解を深めることを目的とする。

インプラント治療の基礎的な知識を確固たるものとし、その歯科医療の中での位置を正しく確認した上でインプラント治療を理解かつ実践していけるように、各段階での十分な見学を課すものである。

１．到達目的

１）インプラント診療の流れを習得する
２）インプラントの診査・診断についての理解を深める
３）患者に対する説明のしかたを学ぶ
４）インプラント手術に使用する器具・手技の理解を深める
５）インプラント補綴に使用する器具・手技の理解を深める
６）インプラントのメンテナンスに使用する器具・手技の理解を深める

２．実習場所

本院歯系診療部門3階　先進歯科りん量センター内

３．実習内容

以下に示すインプラント診療の内容を見学して、その流れを習得し、理解を深める。
症例に応じて若干の介助を行う。模型を用いてインプラント埋入・印象採得を理解する。

１）インプラント患者の診査、診断
２）インプラント手術
３）インプラント補綴
４）インプラントのメンテナンス

息さわやか外来
（健康推進歯学）

○－PhaseⅡ－を行うにあたって

息さわやか外来における口臭診療実習を行う。

１．到達目標

１）口臭患者に対する医療面接を理解する。
２）口臭の測定法および関連する検査法について理解する。
３）口臭症の診断ができる。
４）口臭症の治療について理解する。
５）口臭の予防およびメインテナンスについて理解する。

２．実習場所

D棟1階　息さわやか外来カウンセリングルームに9時に集合

３．実習内容

１）口臭患者の医療面接の見学および実習を行う。
２）口臭の測定法について見学および実習を行う。
３）口臭に関連する検査法について見学および実習を行う。
４）口臭症の診断および治療について見学および実習を行う。
５）口臭の予防およびメインテナンスについて見学および実習を行う。
６）実習内容を踏まえ、口臭発生のメカニズム、口臭の測定法、口臭症の診断、口臭の治療・予防・メインテナンス及び外来見学・口臭測定を体験しての感想・考察についてレポートを作成し、実習終了後1週間以内に主任指導者に提出する。
（提出先：D棟北10階健康推進歯学分野研究室）

４．注意事項

息さわやか外来では、神経質およびニオイに対し敏感な患者が多いため、服装、挨拶、言葉使い、態度等に十分留意すること。具体的には、原則マスクは着用せず、鼻や口の周りに手や指をもっていかないように意識する。また、実習当日の朝はニオイの強い食事やコーヒー等の摂取を避け、香水、整髪料等は禁止とする。

顎顔面補綴外来
（生体補綴歯科学）

○－Phase Ⅱ －を行うにあたって

顎顔面補綴学とは腫瘍、外傷、炎症、嚢胞などに対する外科手術により後遺した、あるいは口蓋裂などの先天異常により生じた顎顔面領域の欠損部に対し、補綴的手法を用いて形態的、機能的、審美的に回復、改善し、患者の社会復帰を図る学問である。また欠損補綴にとどまらず、外科治療、放射線治療、言語治療などにおいて併用される補助装置の効果の向上を図る学問でもある。

その専門外来として顎顔面補綴外来があり、口腔外科、放射線科、矯正歯科、頭頸部外科外来などの協力の下に補綴的な機能回復を目指し、そして機能障害や審美障害に伴う心理的負担の軽減を図っている。

１．到達目標

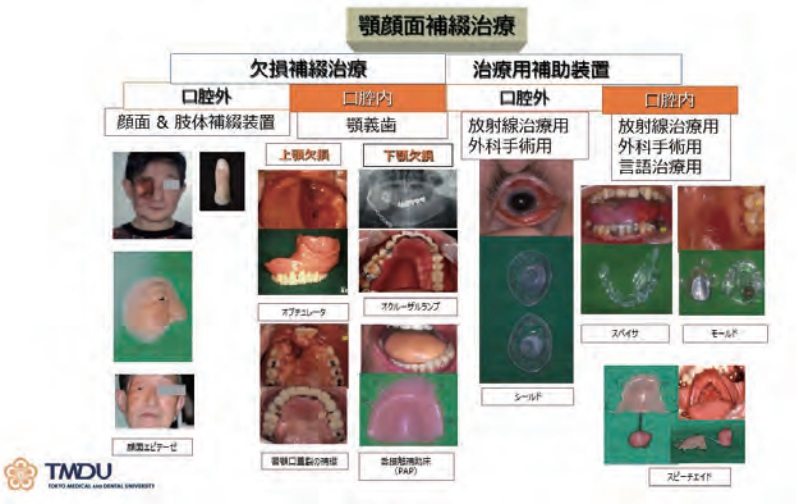
１）顎顔面補綴学の定義を理解する。
２）顎顔面補綴で扱う症例を理解する。
３）各々の症例が抱える、機能障害、審美障害について理解する。
４）顎顔面補綴患者への心理的アプローチの方法を理解する。

２．実習場所

本院歯系診療部門6階　顎顔面補綴外来（集合場所・時間：顎顔面補綴外来診療室内・午前8：55）

３．実習内容および注意点

１）各学生は当日指示された指導者のもと、診療見学および診療介助を行う。
２）実習終了時にレポートが課されるので、１週間以内に指導者に提出すること。提出されたレポートは返却されない。
３）集合時間およびレポート提出期限を厳守すること。
４）実習中は顎顔面補綴外来のスタッフの一員である自覚を持ち、診療に臨むこと。
５）やむを得ず当日欠席する際には顎顔面補綴外来（03-5803-5720）に連絡すること。代替日に関してはその後相談の上決定する。
６）限られた時間内においてより多くの知識が収集できるよう、積極的な見学を行うこと。
７）特殊な義歯、口唇裂口蓋裂患者の補綴、ことばの世界などの講義内容をよく復習して、実習に臨むこと。



スポーツ歯科外来
（咬合機能健康科学）

○ーPhaseⅡーを行うにあたって

【スポーツ歯科医学】

スポーツ歯科医学は，スポーツや運動が身体に及ぼす影響を歯科の立場から考究し，競技者やスポーツ愛好家の歯科的健康管理と外傷の安全対策を担当する分野である。一般的に運動・スポーツの実施は健康の維持増進に有益であるが，万人に当てはまるわけではない。各人の健康状態と体力に見合った運動内容でなければ，傷害（外傷・障害）が起こりうる。健康管理の基本は定期健診である。メディカルチェックの実施目的は競技を行う上で支障となりうる疾病・障害を早期に発見し，対処法を考察することにある。具体的には，う蝕，歯髄炎，歯周炎，智歯周囲炎，不正咬合，顎関節症等の異常所見の有無を診査し，適切な指導勧告を行う。その際，種目特性，競技レベル，コンディション，競技スケジュールなどを考慮して，治療の必要性と運動継続の可否の有無を判断する。口腔軟組織，歯，顎骨および顎関節といった歯科領域のスポーツ外傷はコンタクトスポーツで発生リスクが高い。外傷の安全対策の要諦は体力作り，ルールの順守，用具・防具の使用および環境の改善とされ，なかでも適切な防具の着用が効果的である。歯の外傷防具としてはマウスガード，顔面・顎骨の外傷防具としてはフェイスガードがある。

１．到達目標

１）各種スポーツ種目・運動の特性を理解する。

２）スポーツ傷害の安全対策の意義と内容を理解する。

３）患者の病態を的確に診断し，治療の必要性と運動継続の可否を判断できる。

４）マウスガードを調製できる。フェイスガードの調整法を理解する。

２．実習場所および集合時間

実習場所：本院歯系診療部門３Ｆ　スポーツ歯科外来

集合時間：９：00 am（午前の部）　13：00 pm（午後の部）

３．実習内容および注意点

指導教員の下，外来見学および治療介助を行いながら，患者本位の全人的歯科治療を行うために必要な基本的態度・知識・技能を修得する。併せて，マウスガードの製作テクニックについて，見学および体験学習を行う。実習を通じて，患者情報の取扱いには十二分に注意しなければならない。なお，当外来は歯科アレルギー外来と診療室を共有しており，診療日は火・水（午前）・金のみである。月・水（午後）・木は，歯科アレルギー外来が使用しているので，注意すること。

医系診療部門放射線治療科
（歯科放射線診断・治療学）

○－Phase Ⅱ －を行うにあたって

口腔癌に対する放射線治療の実際について理解を深めるために２人１組での見学を中心とした実習を行う。

１．到達目標

１）放射線治療の流れについて理解する。
２）口腔癌に対する放射線治療の種類およびその意義を説明できる。
３）口腔癌への放射線治療に伴う有害事象を説明できる。
４）放射線治療に伴い、歯科治療において配慮すべきことを説明できる。

２．実習場所

本院医系診療部門B棟地下２階　放射線治療科外来（9：00集合）
本院医系診療部門B棟９階　放射線治療科病棟

３．実習内容

１）外来見学（放射線治療前もしくは終了後の症例について）
２）口腔癌への密封小線源治療の実際を見学
３）カンファレンスへの参加
４）実際の症例を用いた放射線治療計画の立案

以上の４項目を主体に実習を行う。実習終了後には課題を出すのでレポートをＡ４用紙１枚程度で作成する。レポートは実習終了後１週間以内に担当教員に提出する。

歯科医師が、放射線治療に直接かかわる機会はほとんどないと思われるが、頭頸部領域癌に対する放射線治療で、これから口腔領域に放射線が照射される、あるいは既に治療が終了した患者に対して歯科診療をする機会は決して稀ではないと想定される。このことを念頭において、実習に参加してもらいたい。

口腔健康管理科
（口腔保健学科口腔保健衛生学・歯科衛生保健部）

○－PhaseⅡ－を行うにあたって

１．目的

歯学生の臨床実習時に、歯科衛生士による口腔健康管理実施を体験することで、将来のチーム歯科医療の重要性を理解する。

２．行動目標

１）患者に口腔健康管理の重要性を説明できる。
２）口腔健康管理の概念を理解する。
３）歯科衛生士による口腔健康管理実施内容を理解する。
４）チーム歯科医療の重要性を理解する。

３．実施内容

１）包括臨床実習PhaseⅡで学生が担当している患者に対して口腔健康管理科において、歯科衛生士による口腔健康管理を行う。
２）口腔健康管理内容は歯科保健指導(口腔衛生指導)、機械的歯面清掃などとする。
３）主な流れ
①ケース該当患者の決定、依頼、予約
②口腔健康管理科にて歯科衛生士による口腔健康管理の実施、見学と補助
③口腔健康管理実施患者の予後の観察、レポートの作成、提出
④レポートの返却とケース認定

４．実習詳細

１）ケース該当患者の予約
（１）対象患者は第１総合診療室において、学生及びライターによって口腔健康管理が必要と認めた患者とする。
＊患者の条件は　実施時チェックの用件を参照のこと。
①口腔健康管理科で処置を行うための病名等（C・P病名等、MT不可）の入力と必要な検査（P病名の場合はP検査等）をしておくこと。
②口腔健康管理科への「依頼書」は学生が作成し、ライターが署名をして許可する。
依頼書は口腔健康管理科受診時にカルテと一緒に持参すること。
（２）口腔健康管理科の予約は学生が行う。
ａ歯学科包括臨床実習　口腔健康管理科予約表（以下口腔健康管理予約表と略す）
ｂ電子カルテシステム予約「口腔健康管理科」内の「D6口腔健康管理予約」（以下PCD6口腔健康管理と略す）
①口腔健康管理依頼患者が決まったら、受付にある「口腔健康管理予約表」と、「PCD6口腔健康管理」を確認し、患者さんと相談して口腔健康管理の予約日程を決める。

②予約日程が決まったら「口腔健康管理予約表」に患者ID、氏名、担当学生氏名を記入する。
続けて「PCD6口腔健康管理」の枠に予約を入力する。
③患者さんに予約日程を確認し、
ｉその日は口腔健康管理を、別の診療室（2階口腔健康管理科）で歯科衛生士が行うこと
ii 歯ブラシ、歯間ブラシなど自宅で使用している口腔清掃用具を持参することを伝える。

（3）予約表について
①予約の枠は、午前（9：15～10：15，10：45～11：45）、午後（13：15～14：15，14：45～15：45）、日程は不定期である。ただし、同日同時間に二人以上の患者の予約は取れない。
②予約締切は前週水曜日とする。受付担当学生は、毎週木曜日午前に「口腔健康管理予約表」の翌週分のコピーを、2階口腔健康管理科受付へ届ける。

2）口腔健康管理実習当日
予約当日患者さんは第1総合診療室に来院してもらい、その後ライターの許可後、学生と一緒に口腔健康管理科に来る。
①学生は予約時間の15分前に当該患者の依頼書とカルテを持って口腔健康管理科に来て、担当歯科衛生士と事前打合せ（診療内容について相談）を行う。
＊担当歯科衛生士は15分前に待機しているので、万一遅れる場合、また直前のキャンセルがあった場合は必ず直接電話連絡すること。
②打ち合わせ終了後、第1総合診療室へ患者さんを迎えに行き、口腔健康管理科へ案内する。
③歯科衛生士による口腔健康管理の実施
（学生は歯科衛生士による口腔健康管理を見学しながら必要な補助を行う）。
＊口腔健康管理科終了後の電子カルテ入力は口腔健康管理科において歯科衛生士が行う。
④患者さんを帰した後、終了後のディスカッションと課題の確認を行う（15分）。

3）口腔健康管理実施後の観察とレポートの作成
①口腔健康管理実施後2ヶ月以内にリコールを行い、患者さんの変化（口腔内、行動、言動、その他）があるか確認する。
②課題レポートの提出　　＊B．口腔健康管理科実習課題　参照
提出期限：実習実施後、次の来院（観察）が終了した翌週金曜日17：00（時間厳守）
提出場所：口腔健康管理科受付（提出用ファイルを用意します）

5．ケース認定について

このケースは、実習の実施と課題レポートの受理をもって認定する。
①課題レポートは採点し、合格した場合受理とする。
②課題提出より1週間後、終了症例表を持参し、レポートを取りに来ること。
実習終了後および課題の返却時に押印します。

6．その他

1）この実習は、学生1名につき1名の患者、1回のみの実施とする。
2）学生はこの実習を行う前に最低1回は患者（当該患者とは限らない）に対して、第1総合診療室で歯科保健指導をしていることを必要条件とする。
3）この実習の期間は1月～3月とする。
4）この実習はエッセンシャルリクワイヤメントの項目なので、学生全員実施が必須である。

※実際の実習実施時に下記をチェックして、不足や漏れがないように準備、実施しましょう。

A．実施時のチェック　　＊下記の項目毎に □ にチェック確認を行う

1．ケース該当患者の予約時

対象患者は第１総合診療室において、学生及びライターによって口腔健康管理が必要と認めた患者とする。

＊歯学部学生は患者対象と認めない。

＊口腔健康管理科の受診が初めての患者がよい。D6-OH4連携実習対象患者は対象とならない。

□　**病名**等（P病名等）**の入力**と**必要な検査の実施**（P病名の場合はP検査等）が終了している。

□　「他科依頼書」にて口腔健康管理科宛の依頼書を作成した。

＊受診当日に印刷した依頼書をカルテと一緒に口腔健康管理科に提出する。

□　歯学科包括臨床実習　口腔健康管理科予約表に予約を記入した。

□　電子カルテシステム予約「口腔健康管理科」の中の「D6口腔健康管理予約」に予約を入力した。

◎患者さんに予約日程を確認し、

□　その日は口腔健康管理を、別の診療室（2階口腔健康管理科）で歯科衛生士が行うことを説明した。

□　**歯ブラシ、歯間ブラシなど自宅で使用している口腔清掃用具を持参することを説明した。**

2．口腔健康管理実習当日

□　予約時間の15分前に当該患者の依頼書とカルテを持って、口腔健康管理科で担当歯科衛生士と事前打合せを行った。

＊担当歯科衛生士は15分前に待機しているので、万一遅れる場合また直前のキャンセルがあった場合は必ず直接電話連絡すること。

□　終了後のディスカッションと課題の確認を行った。

3．口腔健康管理実施後の観察とレポートの作成、提出　　**＊B．口腔健康管理科実習課題　参照**

□　口腔ケア実施後2ヶ月以内にリコールを行った。

□　課題レポートを提出期限までに提出した。

4．ケース認定

このケースは、実習の実施と課題レポートの受理をもって認定する。

□　課題レポートは合格し、受理された。

□　課題の返却を受け、終了症例表に課題受理の印をもらった。

B．口腔健康管理科実習課題

◎下記の内容のレポートを作成し、期限までに口腔健康管理科に提出すること。

レポートは、Ａ４用紙、黒インク使用（鉛筆不可）、ワープロ使用可とします。

○**表紙をつける。**タイトル「口腔健康管理科実習レポート」、学生事務処理番号、氏名、実習実施年月日、担当歯科衛生士名を明記する。

＜内容＞

１．患者情報

①イニシャル、年齢、性別

②治療計画の概要（口腔健康管理を計画した時期、および理由、依頼内容を含めること）

２．口腔健康管理の実施

①歯科衛生士が行った口腔健康管理の内容

②口腔健康管理受診時の患者の様子（口腔内の状態、表情、話されたこと、その他）

③この実習で気づいたこと

３．口腔健康管理実施後の観察（口腔健康管理実施後、次の来院時に行う）

①観察を行った年月日

②口腔健康管理後の患者の変化

（口腔内状況、保健行動、自分の口腔の健康に対する関心、その他）

４．考察

◎提出期限：口腔健康管理実施後、次の来院(観察)が終了した翌週金曜日

次回の患者予約日：　　月　　日（　　）

レポート提出期限：　　月　　日（　　）

＊予約日に変更が出たときは、その旨を口腔健康管理科担当歯科衛生士（伝言可）に連絡すること

薬剤部

医薬品はそれ自身が有害事象（副作用）というリスクを内在するものであることから、薬物療法を行うに際しては医薬品を適正に使用することが絶対的要件となる。そのためには、歯科医師に与えられた処方権の意味を十分に理解し、薬物療法を行うことが極めて重要である。医薬品に関してはヒヤリ・ハット事例や事故も少なくないことから、医薬品を使用する患者の安全をどのように図るかは大きな課題である。薬剤部におけるPhaseⅡの概略について以下に記す。

PhaseⅡ実習が開始されるに際して集中講義を行う。内容は以下の通り。

・医薬品に関する基礎知識
・医薬品管理と医療安全
・薬害を考える

PhaseⅡ実習においては集中講義を行った内容が臨床においてどのように実現されているかについて、処方せんの記載方法、調剤、製剤、医薬品管理の実際等について実習を行う。

１．到達目標

・処方せんの記載方法を理解している
・薬物療法を行う場合の歯科医師の説明義務について理解している
・法的規制のある医薬品について理解している
・添付文書の読み方を理解している
・医薬品の管理について理解している
・医薬品の情報管理について理解している

２．実習の場所および集合時間

本院歯系診療部門１階　；　副薬剤部長室
集合時間　；　午後１：30

３．実習内容および注意点

・薬剤部の見学
・処方箋・麻薬処方箋の形式
・処方せん受付から薬剤交付までの手順
・医薬品管理の実際

D6－OH4連携実習

○－PhaseⅡ－を行うにあたって

本実習では、D6担当患者のうち、歯科衛生実地指導が必要な患者に対して、OH4とD6がチーム診療を行う。OH4は、実地実習を通して歯学科学生との協働を経験し、自らの介入による患者の口腔環境の改善効果・臨床症例の経験を得ること、D6は、口腔保健衛生学学生との協働を通し、チーム歯科医療のマネージメントの基本、他職種との連携に必要な姿勢を学ぶことを本実習の目的とする。

＊D6、OH4は、第１総合診療室各学科の臨床実習の原則に則り、指導教員のもとでの診療を行う。

＊D6担当：歯周病指導ライター、OH4担当：口腔保健衛生学教員、実習運営管理担当：歯科総合診療科教員

１．到達目標（実習内容）

１）多職種連携のもと、患者診療を滞りなく実施するためのマネージメントを実施する。
２）口腔保健衛生学専攻学生・教員と良好なコミュニケーションをおこなう。
３）口腔保健衛生学専攻学生とともに、適切な診療計画を立案する。
４）口腔保健衛生学専攻学生とともに、良好な協働環境を構築し、患者診療を実施する
５）口腔保健衛生学専攻学生との協働について、問題点の解決につながる適切なフィードバックを行う。

２．実習場所

１）本院歯系診療部門４階第１総合診療室（D6、OH4診療室）

３．実習内容および注意点

１）背景・目的

近年、医療安全の観点、多様化する患者の社会的背景への対応、複雑化する疾患への対応などを背景に、歯科医療の現場での多職種連携をもととした協働の機会が増えてきている。本実習では、D6の担当患者を、D6、OH4がチームとなり連携し、歯科衛生実地指導（口腔ケア）をおこなう。診療における連携の形式は様々あるが、患者を他の専門職種に依頼し診療をすすめるためには、十分なコミュニケーション、適切なマネージメントが必須となる。本実習では、単に「患者の診療を任せる」ということではなく、事前の入念な打ち合わせ、診療内容・進捗状況の報告・確認、予後の報告・確認などをおこない診療をおこなう。将来の様々な現場での協働診療・連携の基本を習得することを目標とする。

患者を他職種と協働で診療する際には、患者情報の報告や診療内容の議論などについて、診療室以外でのおこなう機会も増える。患者情報の守秘・適切な管理（例：病院外への資料持ち出し・診療室以外での会話などは不可）も求められる。また、本実習以外にも、口腔健康管理科での歯科衛生士による診療を事前に間近で見る機会があるので、歯科衛生士の業務内容などは、事前に復習することが求められる。

クレジット認定要件は、以下の内容を証明する書類（配布）の内容確認とする。

① １回目診療（D6-OH4）の実施（事前・事後打ち合わせ含む）
② ２回目診療（OH4）（あるいは３回目診療）における患者状況・口腔内状況の確認の実施
③ 終了後の書類（レポート他）の提出

２）患者の選定・予約日の取得

2023年４月、５月に実施の本実習については、該当患者の選定・予約日の取得を2023年１～３月におこなう。患者の選定については、担当の歯周病指導ライター、歯科総合診療科教員と相談を行う。その後、該当患者と第１回目診療の予約を調整する。診療日は、４～５月の火・水の午前・午後とする。学年共通の予約簿をD6オペ室脇の机に設置するので、時間枠はこちらで確認すること。限られた予約枠での実習であるので、５月末日までに第１回目診療を必ずおこなうように管理すること。

３）パートナー

OH4学生は、第１総合診療室（OH4）に週単位で配属する形式で、患者診療をおこなっている。そのため、ともに連携実習をおこなうパートナーとなるOH4学生は、D6が患者予約をした週に配属の学生となるため、予約簿にて判明する。学生人数比から、１名のOH4が１～２名のD6のパートナーとなる。

４）第１回目診療

・事前打ち合わせ

診療開始前までに、患者情報の共有・診療計画の立案をおこなうが、この際に、基本的な双方の連絡を管理するための「コミュニケーションシート」を、D6一人一人に配布する。コミュニケーションシートは、小オペ室脇の机上で管理する。これ以外にも、必要に応じて打ち合わせをおこなうことが望ましい。

・診療

第１回目の診療は、D6ユニットにOH4が来て、歯科衛生実地指導（15分以上）を、D6（歯周病指導ライターもしくは歯科総合診療科教員）の指示によりおこなう。この際、D6指導ライターは歯周病指導ライター（および歯科総合診療科教員）、OH4指導ライターは口腔保健衛生学教員となる。指導ライターは各ステップの確認をおこなう。

・第２回目診療の予約

OH4学生は、第１回目診療後、第１総合診療室（OH4）における第２回目診療の予約をとる。

＊第２回目診療にD6学生が介助者として参加できる場合（第１総合診療室指導ライターに事前に要報告）には、第３回目診療（D6）としての本実習の予約はおこなわなくて良い。（自己研、診療日など）

・事後打ち合わせ

診療後、診療内容の振り返り、次回診療の指示・確認、自己振り返り、フィードバックなどをおこなう。

５）第２回目診療

OH4学生は、第１総合診療室（OH4）における第２回目診療にて、歯科衛生指導の結果、状況の把握をおこない、必要な処置をおこなう。

＊第２回目診療にD6学生が介助者として参加し、患者の状況の確認・口腔内確認をおこなった場合（第１総合診療室指導ライターに事前に要報告）には、６）第３回目診療（D6）はおこなわなくて良い。

６）第３回目診療

D6が第２回目診療に介助者として参加できなかった場合に、患者の状況の確認・口腔内確認をおこなう。歯周病指導ライターの指導のもとで実施する。

注意点

1）協働による患者診療には、十分な情報共有が基本となる。入念な準備をすること。

2）診療内容だけではなく、協働する立場としての言動・服装・振る舞いも、ふさわしいものとすること。

3）該当患者について、本実習の歯科衛生実地指導や口腔内確認以外の診療を、本実習の予約日に実施することも可能であるが、以下条件があるので、注意すること。

・他診療実施は、本実習の予定終了時間後の診療についてのみ、許可する。「予定時間前」は不可。

・他診療実施は、該当診療の担当指導ライターに、本実習が事前にあることを報告し、許可してもらうことが必要である。

・本実習については、次診療があることを理由に実習内容を簡略化することはない。

4）実習の進捗については、OH4の診療に関わることもあるため、不測の事態、相談すべき事象などが生じた際には、すみやかに、担当歯周病指導ライター、歯科総合診療科教員へ連絡をすること。

5）他、必要な情報については、WebClassおよび掲示板にて周知する。

CAD/CAM実習
（口腔保健工学専攻）

○ーPhaseⅡーを行うにあたって

歯科医療においてデジタルテクノロジーは必要不可欠な要素となり、歯科医師と患者、歯科衛生士、歯科技工士を結ぶデジタルコミュニケーションも加速度的に進み、デジタルデンティストリーが定着してきた。CAD/CAMシステムが歯科に導入され、歯科治療において画期的な変革が行われてきた。その効用として「歯科補綴装置のトレーサビリティー」、「製作工程の効率化・省力化」、「作業環境改善」などが挙げられ、歯科補綴装置製作工程の変化がさらに続いている。また口腔内スキャナーの導入により、スキャニングされた口腔内情報から歯科補綴装置製作までの工程がシームレス化され、デジタルワークフローが拡大されてきた。これからの歯科医療においては最新のデジタルツールを効率的に活用できる特化した知識と技術がさらに要求されるようになる。

１．到達目標

１）歯科用CAD/CAMシステムによる歯科補綴装置の製作工程を理解する。
２）歯科医師と歯科技工士の連携について理解を深める。
３）歯科用CADによるデータ作成ができる。
４）口腔内スキャナーについて理解を深める。

２．実習場所

2号館3階　CAD/CAM演習室　　月曜日13時00分

３．実習内容

１）歯科用CAD/CAMシステムの概要説明。
２）クラウンのデータ作成。
３）義歯フレームワークのデータ作成。
４）3Dプリンターと切削加工機について。
５）口腔内スキャナーを用いたスキャニング。
６）ハンディータイプスキャナーと3Dモデリング。

D6－M6連携実習

○－PhaseⅡ－を行うにあたって

医歯学融合教育では、医学・歯学科生が、2年生より、共に学び、教えあい、互いのことを学び合う機会があるが、最終学年における医歯学融合教育の一貫として、本実習では、互いの臨床実習現場において、医療・歯科医療の実際を体験し、将来に必要となる医歯連携・多職種連携に対する知識・姿勢の獲得をおこなう。

＊緩和ケア病棟のD6学生（＜D6緩和ケア病棟派遣＞は、医学部指導教員のもとで実習を行う。）

＊第１総合診療室に派遣されてくるM6学生の実習担当＜M6受入＞となるD6学生（全員）は、歯科総合診療科教員の指導のもと、実習を行う。

（1）到達目標

GIO：医科および歯科診療における連携の必要性を臨床現場で体験し、連携を常に意識した医療提供を行う姿勢を身につける。

SBOs：

1）口腔内環境・口腔機能が全身状態に及ぼす影響について説明することができる。

2）歯牙・義歯と全身疾患の関連について説明することができる。

3）嚥下機能低下の原因となる全身疾患とその機序を理解し、機能回復に関する専門職の役割について説明できる。

4）全身診療と口腔診療の関連を理解し、相互に配慮した診療のために医歯連携を行う必要性を認識する。

（2）実習内容・場所

A. ＜D6緩和ケア病棟派遣＞（各科実習必修選択）

本院 緩和ケア病棟でのM6クリニカル・クラークシップのシャドーイング（１日）に参加する。

B. ＜M6受入＞（4月～9月）

第１総合診療室見学来院するM6学生に対し、D6担当診療について、当該歯科診療の目的、現在の状況、患者の全身既往への配慮などに関する指導を行い、その旨を指導教員に報告する。

（3）実習内容および注意点

A. ＜D6緩和ケア病棟派遣＞（各科実習必修選択）

歯科医療における医科との連携は、良好な予後の期待を含め、患者のQOL向上につながるものである。連携に対する知識について、歯科・医科的知識の座学での獲得は、遭遇する機会への準備として必須であるが、実際の医療現場で直接的な経験を積むことで、座学では得られない経験を獲得することも重要である。そこで、本実習では、歯科臨床に携わる範囲では、通常見ること、経験することができない医療の現場（緩和ケア外来）におけるM6学生をシャドーイングすることで、全身診療を担う医療と歯科医療の関係について考察を深め、必要な医歯連携に対する知識･姿勢を獲得することを期待する。

（注意点）

歯科医療と医療の違いもあるが、特に、緩和ケア病棟における患者・患者家族に対しては配慮すべき点も多くあるため、歯学科生としての自覚を強く持ち、実習に臨むこと。また、医学部指導教員が本学教員であると言っても、歯学部教員とは全く異なるスケジュールの中での学生指導にあたっており、指導される立場としてその流れを理解し実習に臨むこと。

（クレジットについて）

・緩和ケア病棟におけるM6クリニカル・クラークシップ（CC）へのシャドーイング（1日）に参加し、課題（レポート）を提出した場合、1クレジット認定する。

・実施時期：8月～9月、火曜日9：30～16：30　緩和ケア病棟

・定員：1回につき、2～3名を上限とする。（本実習に参加希望の学生を事前に募り、調整を行う。）

・上記課題以外にケースプレゼンテーション等を実施した際は、オーバークレジット_１を認定する

＊（実習詳細は、別途WebClassへ掲載予定）

B. ＜M6受入＞（4月～9月）（全員）

良好な医歯・多職種連携については、歯科医療従事者が医療のことを理解するだけではなく、互いの理解を促進するという観点から、医療従事者の歯科医療の理解が促進されることも重要となる。この視点で、医科病棟におけるクリニカル・クラークシップローテーション実習を行っているM6学生に対し、歯科疾患に関する情報提供・指導を行うことで、D6学生が将来の自分の役割を認識することが期待される。そこで、緩和ケア病棟へのローテーション実習中に第１総合診療室見学来院するM6学生に対し、D6担当診療について、当該歯科診療の目的、現在の状況、患者の全身既往への配慮などに関する指導を行い、その旨を指導教員に報告する実習を行う。

（注意点）

1～複数名のM6の担当となり、自分の診療患者の処置内容、患者全身状況、その他配慮すべき点などに関して、情報提供･指導を行う。いずれのM6担当になるかについては、診療枠がある日程に合わせ、運営教員が個別に配当するため、原則D6が自ら調整する必要はない。

（クレジットについて）

第1総合診療室見学来院するM6学生に対し、D6担当診療について、当該歯科診療の目的、現在の状況、患者の全身既往への配慮など、M6指導を行い、その旨を報告（レポート）した場合、1クレジット認定する。（1名のD6学生に、2名以上のM6が見学についた場合は、上限を2とし、1名対応につき1クレジット認定とする。）

・上記課題以外にケースプレゼンテーション等を実施した際は、オーバークレジット_１を認定する

＊（実習詳細は、別途WebClassへ掲載予定）

４．包括臨床実習PhaseⅡ　履修条件

包括臨床実習履修条件

１．包括臨床実習PhaseⅡ(A)：歯学科５年次後期（2022年12月～2023年3月）
１）全授業時間のうち４分の３以上出席していること。
２）ポートフォリオによる自己評価実施・提出すること。
その他として以下の結果を加味して判定する。
３）平常点（指導ライター、各診療グループ主任指導者、歯科衛生士等からの観察記録、懲罰の有無）
４）包括臨床実習全体のエッセンシャルリクワイヤメント達成度
（PhaseⅡ(A)終了時までの達成基準は特に設けない。達成度の最終評価はPhaseⅡ(B)終了時に行う）

２．包括臨床実習PhaseⅡ(B)：歯学科６年次前期・後期（2023年４月～11月）
１）全授業時間のうち４分の３以上出席していること。
２）Ｄ６包括臨床実習終了判定試験に合格すること。（次頁参照）
３）包括臨床実習全体のエッセンシャルリクワイヤメントを達成すること。
４）ポートフォリオによる自己評価実施・提出すること。
その他として以下の結果を加味して判定する。
５）学生臨床セミナーの出席率
６）平常点（指導ライター、各診療グループ主任指導者、歯科衛生士等からの観察記録、懲罰の有無）

※ 包括臨床実習全体のエッセンシャルリクワイヤメントは別に定める。

３．包括臨床実習PhaseⅢ：歯学科６年次後期（2024年２月～３月）
詳細は別途定める。

Ｄ６包括臨床実習終了判定試験　実施内容

＜目的＞

約１年半のモジュール「包括臨床実習」の到達度評価を客観的に行うために実施する。

確認するべき項目は、当大学歯学科６年次終了時に相応しい態度、知識、技能を持っているかおよび、問題発見・解決型能力がどのように向上したか、という２つである。

＜実施内容＞

１．診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（Post-CC PX：臨床実地試験および一斉技能試験）

実施の詳細は別途連絡する。受験費用（３万円）が必要となる。

２．Ｄ６終了時臨床技能到達度確認試験＋ＯＳＣＥ

実施時期：別途連絡する。

実施場所：本学歯学部７号館（校舎棟）および本院歯系診療部門４階第１、第２総合診療室など

実施課題：４課題（予定）とする。

（１）医療面接

（２）診断・処方せん記入など

（３）臨床技術（全部床義歯、部分床義歯関連など）

※審査基準、合格基準などの詳細は別に定める。

３．症例報告

包括臨床実習時に治療した患者症例について報告

実施時期：別途連絡する（2023年9月～10月実施予定）。

実施場所：別途連絡する。

対象症例：

１）症例については術前から学生が関わっていること

２）診察、検査、診断、治療までを学生自身で行っていること

３）最低１週間以上の（できればもう少し長期が望ましい）予後経過が観察出来ていること

※審査基準、合格基準などの詳細は別に定める。

Ｄ６包括臨床実習終了判定試験に合格するためには、Post-CC PX（臨床実地試験および一斉技能試験）、Ｄ６終了時臨床技能到達度確認試験＋ＯＳＣＥ、症例報告のすべてにおいて合格基準を満たすことが必要である。

５．包括臨床実習PhaseⅡを進める上での注意点

包括臨床実習PhaseⅡを進めるうえでの注意点

包括臨床実習PhaseⅡは、多くの患者、教員、学生の協力があって成り立っており、Ｄ５・Ｄ６学生には医療人としてのモラルが求められる。包括臨床実習PhaseⅡを進めるにあたり、以下のルールに従うものとする。疑問点などがある場合には、早めに指導ライターと相談すること。

１．第１総合診療室での診療について

１）時間を厳守すること。何らかの事情で遅れる場合は、
第１総合診療室受付　03（5803）5729まで連絡すること。

２）登院し、担当患者の診療、各科実習、当番等の業務のない時間帯の所在を常に明らかにすること。

３）服装や身だしなみについては、身だしなみに関する規定が決められている（3ページ参照）ので遵守すること。常に患者の立場になり、清潔にすること。

４）包括臨床実習に関して気になることは、指導ライターに相談すること。特に実習当初は些細と思うことでも、できるだけ指導ライターと相談しながら実習することが望ましい。

５）急患の場合は、原則として担当する学生が治療する。ただし、担当学生が他の患者の治療や各科実習のため治療できない場合は、受付補助・受付当番または技工当番が治療を行う。この場合も指導ライターの指示に従うこと。

６）患者との予約は指導ライターとよく相談したうえで行うこと。予約時間を守り、同一時間に複数の予約を取るようなことはしないこと。

７）連絡事項は各自のカルテ棚に配布、あるいは学生用メールで、Webclass行なわれる。試験ケースの期間なども同様に通知されるので、必ず毎日確認すること。

８）COVID-19拡大防止のため、８～18ページの「歯病外来時における新型コロナウイルス感染対策指針」等を遵守すること。

２．患者の配当について

１）歯科総合診療科からの初診患者の配当は、原則として午前中に行う。配当希望者は配当希望表に必要事項を記載の上、第１総合診療室、技工室または第４講義室で待機していること。ロッカー室には呼び出しの放送はされない。

２）配当希望表は日毎に作成し提出する。患者予約の有無、配当を希望するケース等を記入し歯科総合診療科実習にあたっている者（いない日は受付補助の者）が、9：00までに記入した配当希望表を歯科総合診療科に持参（1F総診でコピー可）すること。配当希望は原則として各自の診療日であり、他の患者の予約がない時間帯とする。

３）本人紹介（自分で患者を連れて来る）の場合には、初診手続き時から診療が終わるまで責任を持って付き添うようにすること。ただし、全身や主訴の状況によっては必ずしも自分で担当できない場合があるので、事前の確認が必要である。

４）患者の配当については、①歯科総合診療科からの配当、②各専門外来からの配当、③本人紹介の３つのルートがある。

① 歯科総合診療科からの配当
歯科総合診療科初診担当医 → 配当希望表をもとに第１総合診療室受付に電話 → 担当するＤ５・Ｄ６が歯科総合診療科へ → 説明を受けＤ５・Ｄ６が配当患者名簿に記入 →Ｄ５・Ｄ６が患者をつれて第１総合診療室へ

② 各専門外来からの配当

各専門外来から配当がある場合、直接、第１総合診療室に連絡が来ることがある。指導ライターの指示に従うこと。

＊　Ｄ５･Ｄ６が直接配当を受けた後､患者を歯科総合診療科に連れて来る必要はない。ただし、４Ｆの受付にある患者配当簿には必ず記入すること。

③　本人紹介（自分で患者を連れてくる場合）

Ｄ５・Ｄ６が患者を連れて歯科総合診療科へ → 歯科総合診療科初診担当医が診察 → Ｄ５・Ｄ６向きなら配当 → 説明を受けＤ６が配当患者名簿を記入 → Ｄ５・Ｄ６が患者を連れて第１総合診療室へ

＊　Ｄ５・Ｄ６不向きで専門外来での受診を希望する場合でも、特に便宜をはかることはない。

＊　初診時間外に、本人紹介の患者を初診手続きする場合も、必ず歯科総合診療科を通すこと。このとき、事前に歯科総合診療科教員に連絡をつけ、当日の診察･事務処理を依頼すること。

５）同意書

患者配当が決まったら、電子カルテ内の所定の同意書を印刷し、患者に治療計画・治療内容を説明して同意を得られたら、患者、指導ライター、学生が２部ずつ署名すること。１部は患者に渡し、他の１部は受付の同意書提出箱に提出すること。

３．臨床実習記録（ホワイトカード）

１）前年度の学生からの引継ぎ時・初診患者配当時には、包括臨床実習で患者管理用に使用している臨床実習記録の記入を行う。

２）臨床実習記録には患者からの医療面接・診察の記録、治療計画を記録できるようになっており、指導ライターの検印を受けた後に診療を開始する。指導ライター印は臨床実習記録各々２ヶ所必要である。臨床実習記録に指導ライター印を２ヶ所押してもらい保管しておく。

３）臨床実習記録は、次の年度に引き継ぐ時に必要となるので、紛失しないこと。

４．各専門外来での実習（各科実習）

１）包括臨床実習PhaseⅡでも各専門外来での実習を行う。指定された集合場所、時間を厳守し、患者に迷惑をかけないようにすること。

２）各科実習の日程は変更できない。欠席等で必要な補習の日程は直後、主任指導者と調整すること。

５．包括診療実習PhaseⅡのケース（クレジット）集計について

１）包括臨床実習PhaseⅡで行ったケースについては、毎月、個別にケース表（クレジット表）に記載し、翌月の提出日までに班ごとに提出する。ケース終了後はその都度、速やかに記入して指導ライター印をもらうこと。ケースを終了していても記載がなかったり、指導ライター印のないものはケースとして認められない。

２）ケース表は実習の進行状況をチェックする資料であるため正確に記入し、提出前にコピーを取って自分でも実習の進行状況を把握しておくこと。

３）各学生の包括臨床実習PhaseⅡのケース数はこのケース表をもとに集計されるので、決められた日時までに遅滞なく提出すること。ケース表で記載すべき事項は、外来名、部位、該当する欄の○印、終了年月日、指導ライター印、各ケースの縦計および合計点数などであるので、漏れのないように確認する。

6．第１総合診療室

第１総合診療室

第１総合診療室は、実習指導教員の下に学生が患者を受け持ち総合実習を行う場である。以下の注意事項は、第１総合診療室を使用するにあたっての注意事項であり、歯科治療技術だけでなく歯科器材の管理方法や診療に対する姿勢及び患者の対応、感染・事故防止方法などである。第１総合診療室は、歯科医師として臨床の場に出ても恥じないよう基本を学ぶための場である。

１、器材準備室

１）出席確認のためタイムカードが設置されている。（出欠席の項参照）タイムカード打刻時に体温を測定し、余白に記入すること。

２）器材室**入退室の際は挨拶をする。私服での出入りは厳禁**
診療可能な身だしなみで入室する。（髪を結ぶ、白衣を正しく着用するなど、靴をはきかえる：３ページ参照）

３）無水エタノールなどの薬品に関しては、必要時に配布または補充を行っている。各自が適宜歯科衛生士に申し出る。

＊歯科衛生士の所在は「手術室入口」に表示している。

４）患者へ連絡をする場合は、器材準備室内の電話を使用する。

＊使用時間は8：30 ～ 17：00としている。（**時間厳守**）

＊使用時は器材室内にいるスタッフへ、「電話をお借りします。」と声に出し伝える。

２、診療室内

１）診療開始前は各自、ユニット及びその周囲の環境整備（ユニットの清掃と排水）を行う。

＊診療開始前の清掃は、遅くても8時50分（午後のみの診療の場合は、12時50分）までに終了させる

２）患者の診療が終了する毎にユニットの清掃を実施する。

３）診療終了後は、手袋を装着し、針刺し事故等に気を付け、決められた場所に器材類を返却する。

４）ユニットの故障や修理依頼は、歯科衛生士に報告する。

５）**印象コーナーは整理整頓**を心がける。

＊使用したミキシングカップや器材を放置しないようにし、使用後は速やかに片づける

６）受付・受付補助・技工当番は各業務を手順通りに行う。（当番業務表参照）

７）材料や器材の定位置は、「物品名早見表」や「器材室内の配置図」が診療室内と器材準備室に設置されている為、各自で検索する。また、一覧表に記載の無い器材や材料が必要な場合は歯科衛生士へ相談する。

８）各棚から使用した器材・材料などは、指定された場所や定位置に戻す。

３、手術室

１）手術室内で実施される「口腔外科」予診・抜歯・経過観察、「歯周外科」FO手術については、「登録型ブッキング」から予約を行う。

２）「登録型ブッキング」での予約枠取得についての注意事項は、別紙を参照し注意事項を把握したうえで予約枠を取得する。

３）抜歯は月～木午前、FOは月・水曜日午後に実施し、休日の前日は予診・経過観察のみとする。

4）手術に特殊な器材が必要な場合は、事前に（最低でも手術3日前まで）歯科衛生士へ伝える。
5）抜歯で手術室を使用する場合は、歯科衛生士の指示に従い準備から片付けまで行う。
また、予約枠で取得したユニットが変更となる場合があるため歯科衛生士へ確認する。
6）指導ライター指示の下、術前は説明を患者へ十分に行い、必ず所定の同意書に患者と指導ライターの署名を貰い、１部は患者へ渡し１部は電子カルテへ保管する。
術中・後も指示を受け事故を起こさないよう慎重に実施する。
7）手術室前室には、手術前後に必要な書類を設置している。
8）臨床実習写真撮影用カメラは手術室前室内に設置している。診療室内に持ち出す場合は、「貸出簿」に必要事項を記載する。
9）抜歯などの前に「タイムアウト用紙」と「生体モニター記録用紙」を帳表印刷よりプリントし、必要事項を記載し、署名してからとりかかる。
10）切削が必要な場合は、口腔外バキュームを準備する。

4、滅菌・消毒

1）滅菌器材置場に設置されている**カスト類は、すべて滅菌されている。ピンセットを使用し清潔操作で器材を取り出す**。
器材を取り出す前は、必ず手指衛生を実施する。
2）キャビネット内の器具・器材は使用後、**サラサイドにて汚れを拭き取り収納**する。
3）ハンドピースは、**使用後サラサイドにて汚れを拭き取り**、注油後「未滅菌」の表示があるケースに入れる。サラサイドにて清拭したハンドピースは、使用済みの器材と一緒にトレーには載せず、別々に持ち、所定の場所に片付ける。
滅菌は診療室内に設置されているオートクレーブを使用する。なお、滅菌は技工当番が行う。（当番業務参照）
4）診療終了後使用した器材は、印象コーナー横に設置している「器材返却場所」表示を確認し決められた位置に、向きを揃えて返却する。なお、**黄色テープが貼られている器材**も、**「器材返却場所」の表示どおりに、返却を行う**。
または手術室から借用した器材は、手術室・OHS共用の器材返却場所に返却する。

5、器械･器具の管理

1）キャビネット内の器械・器具について
担当ユニット内に設置している器材･器具を実習中は責任を持って自己管理する。紛失は弁償となる。
点検は3回／年実施予定（実習開始前、夏季休暇前、実習終了時）
＜点検の手順＞
①キャビネットに配布される「キャビネット内貸出チェック表」を用いて、指導ライターの指示に従いキャビネット内の材料・器材点検を行う。（各自1枚）
＊紛失を予防するため、各材料・器材にはユニット番号がきちんと貼付されているか確認し、剥れているものはシールを貼りなおす。
＊破損や摩耗がないか、器具等に触れ確認を行う。
②「キャビネット内貸出チェック表」は定期点検終了後、当日中に歯科衛生士に提出する。
＊不足している材料･器具がある場合には､回収した「キャビネット内貸出チェック表」を基に確認し、

後日歯科衛生士がキャビネットへ配布を行う。

＊実習中に器材の破損・劣化による不備が発生した場合、新しいものと交換するため借用中の器材を持参し歯科衛生士へ声を掛ける。

実習中は他のユニットから不足している器具や材料など持ち出さない。

緊急で使用した場合は必ずその日のうちに返却する。

2）ハンドピース類は、診療室に設置している本数で管理を行っている

＊ユニットの種類でハンドピースが違うため、確認し準備を行う。

＊診療終了後に当番が、「定数表」と「修理品一覧」を元に本数の確認を行い、不足があった場合は診療室内の捜索を行う。

＊診療で使用中に不具合が発覚した場合は、ハンドピースを持参し、歯科衛生士へ状況を説明する。

＊手術室内・貸出用のハンドピース（5倍速、ミニタービン類）は診療室内に返却せず、手術室内の返却場所へ戻す。

3）器材準備室及び手術室前室で診療室に設置していない特殊器材や歯科材料の貸出を行っている。診療室内に持ち出す場合は、必ず「貸出簿」へ必要事項を記載し持ち出す。

使用後は、**手術室内（OHS共用）に設置されている器材返却場所（返却用　不潔器材置場・器材は1段目の左の籠へ、ハンドピースは2段目右側のバット内）に返却**し「貸出簿」へ返却サインをする。

貸出中の器材などは、学生間での又貸しを行わない。

＊器材の紛失時は借用者が弁償となる

6、感染・事故防止

1）細心の注意を払い、事故がおきないよう気をつける。万が一事故を起こしてしまった場合は、早急に指導ライター及びヘッドライター、歯科衛生士へ必ず報告する。

2）診療室に入ったら、まずは手洗いを実施する。

マスク・フェイスシールドは正しく着用し、外した際は医療廃棄物箱へ廃棄する

3）診療時は、必ずマスクとグローブを着用する。エアロゾルが発生する処置を行う場合は、ビニールガウン、メディカルキャップ、フェイスシールドも着用する。

マスクやフェイスシールドは腕に付けたり、ポケットに入れず、外した場合は捨てる。

4）診療中にグローブを外す場合は、**必ず両手共に外し**グローブを医療廃棄物専用箱へ廃棄し、手指衛生（汚れが付着していたら石鹸にて手洗いを実施、目に見える汚れが無ければ擦式手指消毒剤を使用）により手指を清潔する。

1度外したグローブを再度使用しない。また白衣のポケットにも入れない。

5）診療中に棚から材料や、滅菌器材等を取り出す場合は、着用しているグローブを**両手とも外し捨てる**。必ず手指衛生を実施し、治療再開時は**新しいグローブを着用**する。

6）ゴミの分類は病院内の決まりを守り、「燃えるゴミ」「燃えないゴミ」「医療廃棄物」と表示を確認してから捨てる。（診療室のみならず、技工・重合鋳造室内も同様）

7）緊急時対応に使用する救急カート（院内共通）は第1総合診療室手術室前室にある。

7、歯科材料・薬品

1）診療室内の棚等の歯科材料は、歯科衛生士が管理・補充行う。材料が足りない場合は歯科衛生士へ補充を依頼する。診療後、**使いきった空容器を棚に返却せず、歯科衛生士へ手渡し、新しいものと交換し、**

各自補充する。

2）材料は必要な分だけ持ち出し、使用しなかった材料は定位置に戻し、キャビネット内に溜め込まない。

8、患者への配慮

1）学生の歯科治療を受ける患者は、不安や恐怖心を生じやすいことを念頭に置き、信頼関係が保てるように、インフォームドコンセント（説明と同意）を心がける。

2）治療当日は、患者の健康・精神状態などの全身状態を把握し、患者の状態に負担とならないよう、無理に治療を進めない。

3）治療が長時間に及ぶ場合は、治療を一時中断し声掛け、休息やトイレを促すなどの気分転換を図り、安楽に治療が受けられるように配慮する。

4）診療の際は、患者の首元までエプロンを着用し、治療中の薬品の落下や付着による、衣類の汚染や破損に注意する。三角穴フェイスガードや膝掛（バスタオル）も適宜使用する。万一、衣類等の汚染、破損を生じた際は、まず指導ライター、歯科衛生士に報告し、自己判断で対処しない。

5）患者のプライバシー保護に配慮する。患者を特定できる診療録、写真等の資料は紙媒体・電子媒体にかかわらず、院外への持ち出しは厳禁である。

各自で厳重に保管する（患者個人情報取扱ガイドライン；P6参照）。

廊下・エレベーター内での言動に注意する。

患者の行き来する診療室、通路等での「歩きスマホ」は禁止である。

病院内エレベーター内でのスマートフォンの使用も禁止である。例年患者から苦情が届いている。

6）患者の全身状態について問題点や気になる点がある場合は、歯科衛生士へ報告・相談する。

治療中に患者が、突然具合が悪くなった場合などは、指導ライター、歯科衛生士へ連絡する。

9、自己管理

1）実習期間中、風邪症状などがある場合は、体温測定を行い指導ライター、ヘッド指導ライター、歯科衛生士へ連絡すること。

発熱や体調不良が理由で、ヘッド指導ライターや指導ライターから帰宅指示を受けた場合は従うこと。

7．材　　料　　室

歯科貴金属等の取り扱いに関する注意事項

1．受付時間は、9：00～15：45（12：30～13：30を除く）

2．貴金属、人工歯等の請求は、技工指示書に請求する内容を入力し、指導ライターの認印を受け、右下に「第１総合診療室」の印を押し、材料室に提出し受領すること。

3．製作物を外注（依頼）し、納品された物についての取消はできないので、十分気を付けて依頼すること。
（注）依頼する技工指示書には必ず指導ライターの認印を受けること、第１総合診療室の印を押すこと

4．技工物の製作にあたっては、材料室より受領した以外の金属を混ぜて作製したりその製作物を患者に装着してはならない。
（注）貴金属の取り扱いについては、十分注意し不正行為をしないこと

5．製作物が完成した貴金属については、必ず装着前（研磨前）に製作物と残量を材料室に提出し、検量を受けてから患者に装着すること。

6．材料室より受領した貴金属は、１週間以内に検量すること。なお、患者の都合で長引く場合は必ず材料室に連絡をすること。

7．貴金属を鋳造した残量については、必ず３g以下に小さく丸めて返還すること。

8．貴金属を検量した結果、製作物の１割を越えて消失した場合、または貴金属を紛失した場合は、理由の如何に拘らず担当者は現物で弁償しなければならない。

9．装着できなくて貴金属の再交付を受ける場合は、失敗した製作物と技工指示書を添えて、材料室に提出し貴金属を受領すること。

10. 人工歯の再交付を受ける場合は、「人工歯再交付請求書」に記入し指導ライターの認印を受け、受領者の印鑑を添えて材料室に提出し、受領すること。
（原則として、前に受領している人工歯は返還すること）

11. 各自が取り扱った製作物は、指導ライターの指示のある場合を除き次年度の学生に引継ぐことはできない。卒業までに精算（患者が診療費を支払う）ができるよう処理すること。

８．受付および会計

1．電子カルテシステムをよく確認してから実習を開始すること。

2．当日の治療が終わったときは、電子カルテシステムに必要な診療行為内容等を入力し、指導ライターに承認してもらうこと。
　料金を要しない場合でも臨床実習指導者のチェックを受けること。

3．電子カルテ入力の際、学生は初期設定では「総合診断部」所属となっているため、始めの入力（立場宣言）画面で関係変更をクリックし、「第１総合診療室」に変更してから、カルテ入力を始めること。
　各患者を初めてカルテ入力する際に、本作業を行わないと、その後「総合診療部」「第１総合診療室」の両方で算定され、各科の統計資料算出、D5への引き継ぎ作業等に支障を来すので、周知徹底すること。

4．電子カルテシステムを入力したら、患者に受診票を１階受付の学生用患者専用会計窓口に出すよう案内すること。

5．次回の来院日を約束する場合には、電子カルテシステムの予約画面を用いて来院日、時間を登録すること。その際、診療場所が本院歯系診療部門４階第１総合診療室となっていることを確認すること。あわせて診療目的予約カードに約束日を記入して患者に渡すこと。

6．投薬を必要とする場合は、電子カルテシステムに必要な投薬内容を指導ライターが入力する。患者には、院内処方の時は必ず会計窓口で会計をした後に、発行された薬剤引替券を持って薬剤窓口（歯学部附属病院１Ｆ）で薬を受け取るように指示すること。
（院外処方の時は別途説明するので、それにしたがって患者に対応すること）

7．料金は必ず診療当日に支払ってもらうこと。

8．患者の支払うべき料金は担当学生がこれを代替してはならない。

9．治療完了後あらかじめ患者に提示した概算額より料金が高くなった場合は、その旨患者に説明すること。

10．冠、Br、義歯等の装着日の診療料金（特に私費の場合）は高額になるため、必ず事前に患者に予告すること。

11．治療部位及び傷病名は電子カルテシステムに必ず記入すること。

2022年度D5包括臨床実習Phase Ⅰ・ PhseⅡ(A)(9月～12月) 実施日程表

9月5日	月	9:00-9:30	登院式 (歯科棟南4階 歯学部特別講堂)				
		9:30-1400	包括臨床実習phase Ⅰオリエンテーション (歯科棟南4階 歯学部特別講堂)				
		14:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅰ(臨床関連講義-感染対策総論) (歯科棟南4階 歯学部特別講堂)				
9月6日	火	9:00-17:00	患者対応接遇セミナー (集合:第4講義室)				
9月7日	水	9:00-12:00	頭頸部解剖 講義				
		13:00-16:30	頭頸部解剖 実習				
9月8日	木	9::00-	D5-教員合同研修				
9月9日	金	9:00-16:30	自己研修				
		班	A	B	C	D	
		人数	15－16名	15－16名	15－16名	15－16名	
9月12日	月	9:00-12:00	総診・X線	補綴系	保存系	麻酔・口腔外科系	
		13:00-16:30	総診・X線	補綴系	保存系	麻酔・口腔外科系	
9月13日	火	9:00-12:00	総診・X線	補綴系	保存系	麻酔・口腔外科系	
		13:00-16:30	総診・X線	補綴系	保存系	麻酔・口腔外科系	
9月14日	水	9:00-12:00	総診・X線	補綴系	保存系	麻酔・口腔外科系	
		13:00-16:30	総診・X線	補綴系	保存系	麻酔・口腔外科系	
9月15日	水	9:00-12:00	麻酔・口腔外科系	総診・X線	補綴系	保存系	
		13:00-16:30	麻酔・口腔外科系	総診・X線	補綴系	保存系	
9月16日	金	9:00-12:00	頭頸部解剖 講義				
		13:00-16:30	頭頸部解剖 実習				
9月19日	月		敬老の日				
9月20日	火	9:00-12:00	麻酔・口腔外科系	総診・X線	補綴系	保存系	
		13:00-16:30	麻酔・口腔外科系	総診・X線	補綴系	保存系	
9月21日	水	9:00-12:00	麻酔・口腔外科系	総診・X線	補綴系	保存系	
		13:00-16:30	麻酔・口腔外科系	総診・X線	補綴系	保存系	
9月22日	木	9:00-12:00	保存系	麻酔・口腔外科系	総診・X線	補綴系	
		13:00-16:30	保存系	麻酔・口腔外科系	総診・X線	補綴系	
9月23日	金		秋分の日				
9月26日	月	9:00-12:00	保存系	麻酔・口腔外科系	総診・X線	補綴系	
		13:00-16:30	保存系	麻酔・口腔外科系	総診・X線	補綴系	
9月27日	火	9:00-12:00	保存系	麻酔・口腔外科系	総診・X線	補綴系	
		13:00-16:30	保存系	麻酔・口腔外科系	総診・X線	補綴系	
9月28日	水	9:00-12:00	補綴系	保存系	麻酔・口腔外科系	総診・X線	
		13:00-16:30	補綴系	保存系	麻酔・口腔外科系	総診・X線	
9月29日	木	9:00-12:00	補綴系	保存系	麻酔・口腔外科系	総診・X線	
		13:00-16:30	補綴系	保存系	麻酔・口腔外科系	総診・X線	
9月30日	金	9:00-12:00	頭頸部解剖 講義				
		13:00-16:30	頭頸部解剖 実習				
10月3日	月	9:00-12:00	補綴系	保存系	麻酔・口腔外科系	総診・X線	
		13:00-16:30	補綴系	保存系	麻酔・口腔外科系	総診・X線	
10月4日	火	9:00-12:00	小児歯科	歯科矯正	診療録記載実習	医療安全の知識	
		13:00-16:30	小児歯科	歯科矯正	他職種と の連携		
10月5日	水	9:00-12:00	治療計画立案実践	小児歯科	歯科矯正	診療録記載実習	
		13:00-16:30	電子カ ルテ実習	小児歯科	歯科矯正	治療計画立案実践	
10月6日	木	9:00-12:00	診療録記載実習	治療計画立案実践	小児歯科	歯科矯正	
		13:00-16:30	医療安全の知識	電子カ ルテ 実習	小児歯科	歯科矯正	
10月7日	金	9:00-12:00	頭頸部解剖 講義				
		13:00-16:30	頭頸部解剖 実習				
10月10日	月		スポーツの日				
10月11日	火	9:00-12:00	歯科矯正	診療録記載実習	治療計画立案実践	小児歯科	
		13:00-16:30	歯科矯正	医療安全の知識	電子カルテ実習	小児歯科	
10月12日	水	9:00-12:00	他職種と の連携		正しいカルテ記載方法と 保険請求の知識(演習室1-4)		
		13:00-16:30	正しいカルテ記載方法と 保険請求の知識(演習室1-4)		医療安全の知識	電子カ ルテ実習	
10月13日	木	9:00-12:00	包括臨床実習phase Ⅰ(オーバーラップオリエンテーション) (特別講堂)				
		13:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅰ(臨床関連講義-1総診における感染対策総論ほか) (特別講堂)				
10月14日	金	9:00-12:00	頭頸部解剖 講義				
		13:00-16:30	頭頸部解剖 実習				
10月17日	月	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅰ(オーバーラップ)+オプション選択実習				
10月18日	火	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅰ(オーバーラップ)+オプション選択実習				
10月19日	水	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅰ(オーバーラップ)+オプション選択実習				
10月20日	木	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅰ(オーバーラップ)+オプション選択実習				
10月21日	金	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅰ(オーバーラップ)+オプション選択実習				
10月24日	月	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅰ(オーバーラップ)+オプション選択実習				
10月25日	火	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅰ(オーバーラップ)+オプション選択実習				
10月26日	水	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅰ(オーバーラップ)+オプション選択実習				
10月27日	木	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅰ(オーバーラップ)+オプション選択実習				
10月28日	金	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅰ(オーバーラップ)+オプション選択実習				
10月31日	月	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅰ(オーバーラップ)+オプション選択実習				
11月1日	火	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅰ(オーバーラップ)+オプション選択実習				
11月2日	水	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅰ(オーバーラップ)+オプション選択実習				
11月3日	木		文化の日				
11月4日	金	9:00-12:00	包括臨床実習phase Ⅱ(A)オリエンテーション (特別講堂)				
		13:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)(薬剤部講義) (特別講堂)				
11月7日	月	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)オリエンテーション (特別講堂)				
11月8日	火	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)オリエンテーション (特別講堂)				
11月9日	水	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
11月10日	木	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
11月11日	金	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				15:30-16:30 学生臨床セミナー
11月14日	月	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
11月15日	火	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
11月16日	水	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
11月17日	木	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
11月18日	金	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)			14:30-17:20	口腔科学健康長寿コース
11月21日	月	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
11月22日	火	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
11月23日	水		勤労感謝の日				
11月24日	木	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
11月25日	金	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)			14:30-17:20	口腔科学健康長寿コース
11月28日	月	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
11月29日	火	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
11月30日	水	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
12月1日	木	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
12月2日	金	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)			14:30-17:20	口腔科学健康長寿コース
12月5日	月	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
12月6日	火	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
12月7日	水	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
12月8日	木	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
12月9日	金	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)			14:30-17:20	口腔科学健康長寿コース
12月12日	月	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
12月13日	火	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
12月14日	水	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
12月15日	木	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
12月16日	金	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)			14:30-17:20	口腔科学健康長寿コース
12月19日	月	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
12月20日	火	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
12月21日	水	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
12月22日	木	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				
12月23日	金	9:00-16:30	包括臨床実習phase Ⅱ(A)				

2022D5PhaseⅡ日課表（11月）

		11/4	11/7	11/8	11/9		11/10		11/11		11/14		11/15		11/16		11/17		11/18		11/21		11/22		11/23		11/24		11/25		11/28		11/29		11/30		12/1		12/2			
		金	月	火	水		木		金		月		火		水		木		金		月		火		水		木		金		月		火		水		木		金			
					1		2		3		4		5		6		7		8		9		10				11		12		13		14		15		16		17			
番号	氏名				午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	番号	氏名
	A班																																									A班
		オリエンテーション	オリエンテーション	オリエンテーション	受付				ユーティ		病棟実習（顎顔面外科）										矯正1p		ユーティ						自己研		X線1		小児1				息さわやか		自己研			
							受補		自己研					小児1			ユーティ				矯正1a			ユーティ			顎口外1					自己研		X線1				スポーツ1				
					小児1			自己研	技工				顎補綴		ユーティ		顎口外1										摂食嚥下2				ユーティ			矯正1p			X線1					
						小児1	障害歯				受付					ユーティ			自己研		歯科麻酔							インプラa			ユーティ	矯正1a			放治				受補			
					顎口外1				自己研		ユーティ		受補				障害歯		自己研			ユーティ	矯正1a				小児1		自己研							歯科麻酔							
							顎顔面1			自己研		ユーティ			技工			スポーツ1			ユーティ			矯正1p				小児1			歯科麻酔								X線1			
					ユーティ			小児1	ユーティ							矯正1p		受付			息さわやか							自己研			病棟実習（顎顔面外科）											
						ユーティ	小児1			自己研	歯科麻酔				矯正1a				受補			自己研	顎顔面1				総診1a		ユーティ					障害歯			スポーツ1					
					X線1		スポーツ1				顎口外1			矯正1p	歯科麻酔						技工						ユーティ							ユーティ		障害歯			自己研			
								スポーツ1	X線1				矯正1a						自己研				受付				ユーティ		自己研		歯科麻酔				ユーティ		自己研					
							スポーツ1		インプラa		X線1		ユーティ		顎補綴				自己研		矯正1a			小児1			受補						顎口外1				ユーティ		自己研			
					放治			自己研		薬剤部				ユーティ			X線1					矯正1p	小児1						受付		摂食嚥下1			顎顔面1				ユーティ			
						スポーツ1	ユーティ			薬剤部	摂食嚥下1				X線1		インプラa						矯正1a						自己研		受付					総診1a			自己研			
					インプラa			ユーティ	自己研				顎顔面1					スポーツ1	ユーティ		X線1		矯正1p				摂食嚥下2					受補			小児1		顎補綴					
					矯正1a		息さわやか			自己研	病棟実習（顎口腔腫瘍外科）											自己研	X線1					スポーツ1			顎補綴		ユーティ		技工				ユーティ			
						矯正1p		スポーツ1	自己研				小児1		総診1a			ユーティ			インプラa						自己研		X線1					ユーティ			受付					
	B班																																									B班
		オリエンテーション	オリエンテーション	オリエンテーション	受補				自己研		病棟実習（顎口腔腫瘍外科）											インプラp	X線1						ユーティ				矯正1a						技工			
							技工		自己研		小児1								ユーティ		総診1a						X線1				顎顔面1		矯正1p		歯科麻酔					
					小児1			自己研	受付				ユーティ		歯科麻酔								矯正1a				息さわやか		自己研		X線1				ユーティ			スポーツ1				
						小児1	自己研				受補			ユーティ					インプラa		顎顔面1		矯正1p					スポーツ1					X線1			ユーティ	障害歯		自己研		
					矯正1a			スポーツ1	ユーティ				技工				小児1		自己研								高齢者			病棟実習（顎口腔腫瘍外科）											
						矯正1p	高齢者			ユーティ	摂食嚥下1				受付			小児1			歯科麻酔							自己研	自己研	障害歯		ユーティ										
						スポーツ1	顎口外1				ユーティ			矯正1p			受補				顎補綴			ユーティ			小児1		自己研						インプラa		X線1					
					ユーティ				顎顔面1			ユーティ	矯正1a		放治				技工				ユーティ					小児1			歯科麻酔				インプラp			自己研			
					矯正1a			自己研	自己研			小児1	顎口外1				顎補綴				受付						ユーティ		自己研		病棟実習（顎顔面外科）										
						矯正1p	スポーツ1			薬剤部	総診1a				顎顔面1				自己研				受補					ユーティ			障害歯			ユーティ								
					X線1				自己研							矯正1p	ユーティ		自己研		小児1						技工					ユーティ	インプラa		顎口外1				自己研		
							X線1			自己研	歯科麻酔				矯正1a			ユーティ				小児1	顎補綴						技工		ユーティ			インプラp			顎顔面1				
						スポーツ1	ユーティ			薬剤部	X線1					矯正1p	小児1		自己研		歯科麻酔							自己研		受補				放治		ユーティ		自己研			
					障害歯			ユーティ	自己研				X線1		矯正1a			小児1									摂食嚥下2					技工					ユーティ				
					自己研			小児1	自己研						ユーティ		X線1					ユーティ	自己研				障害歯		自己研			矯正1a			受付				ユーティ		
						ユーティ	小児1			自己研	歯科麻酔					ユーティ			X線1		ユーティ			インプラp				自己研		摂食嚥下1			矯正1p			受補					
	C班																																									C班
		オリエンテーション	オリエンテーション	オリエンテーション	技工				自己研		病棟実習（顎顔面外科）										矯正1a						摂食嚥下2				ユーティ				X線1			インプラp				
							受付			自己研	小児1								ユーティ			矯正1p		顎口外1					自己研			ユーティ	顎補綴				インプラa		自己研		
						スポーツ1			受補					矯正1p	ユーティ			息さわやか		自己研								ユーティ			病棟実習（顎口腔腫瘍外科）										
					顎顔面1			自己研			技工		矯正1a				ユーティ		インプラp		歯科麻酔						ユーティ		自己研		総診1a				障害歯		ユーティ					
							顎補綴			自己研	ユーティ			受付				障害歯		自己研	矯正1a			小児1			インプラa				顎口外1					ユーティ		スポーツ1				
					顎補綴				自己研			ユーティ			受補				スポーツ1			矯正1p	小児1					インプラp	ユーティ				顎顔面1		自己研		高齢者		X線1			
							高齢者		顎口外1				小児1			矯正1p		技工				ユーティ	インプラa						自己研		歯科麻酔								自己研		
					放治			自己研			摂食嚥下1			小児1	矯正1a				受付		ユーティ			自己研		顎顔面1								歯科麻酔							
						インプラp	X線1				顎顔面1			矯正1p			ユーティ		自己研		受補						高齢者			摂食嚥下1		総診1a			小児1			自己研		
					障害歯				X線1				矯正1a		放治			ユーティ					技工					スポーツ1	自己研				小児1	ユーティ		顎口外1					
					ユーティ			スポーツ1		薬剤部			X線1				総診1a		自己研				矯正1a				顎補綴			摂食嚥下1		ユーティ						受付		
						ユーティ	総診1a		自己研		顎補綴				X線1			スポーツ1			顎口外1			矯正1p				受補					ユーティ	歯科麻酔						
					矯正1a		ユーティ		自己研						歯科麻酔						X線1		ユーティ					スポーツ1			技工				顎補綴		総診1a		インプラa		
						矯正1p		自己研		薬剤部	歯科麻酔								X線1					ユーティ			障害歯	自己研				受付					ユーティ			
					総診1a			インプラp	ユーティ					ユーティ	顎口外1				自己研		小児1			自己研			X線1			息さわやか		矯正1a			受補				自己研		
						スポーツ1	障害歯			ユーティ	摂食嚥下1	ユーティ					顎補綴1					小児1	総診1a						X線1			インプラp		矯正1p			技工				
							インプラa	ユーティ				小児1	総診1a		歯科麻酔								矯正1a			受付							X線1				高齢者		ユーティ		

2022年度 D6包括臨床実習PhaseⅢ実施要項

2022. 11. 5

学修目標：卒後臨床研修の現場を体験するとともに、卒後臨床研修へ円滑に進むために必要な態度・知識・技能を習得する。

実施期間：2023年2月1日（水）から3月3日（金）までの4.5週間

実施内容：下記の①から⑨までの診療科などの選択実習とする。半日（2時間30分以上）を1クレジットとして、最低12クレジットの履修を必要とする。

①第2総合診療室（総合教育研修センター歯科部門）
②歯科総合診療科（総合診療歯科学）
③むし歯科（う蝕制御学、歯髄生物学）
④歯周病科（歯周病学）
⑤義歯科（咬合機能健康科学（CrBr）、生体補綴歯科学（PD）、高齢者歯科学（FD）
⑥口腔外科（顎顔面外科学、顎口腔外科学）
⑦歯科麻酔科（歯科麻酔・口腔顔面痛制御学）
⑧摂食嚥下リハビリテーション科（摂食嚥下リハビリテーション学）
⑨スキルスラボⅡ（最低 3回の履修を義務付けます ）
⑩モジュールコーディネーター等の臨床講義

上記診療科から半日単位のアドバンス的な選択実習内容を提案する。実習内容は学習目標に合致するものとし、単なる治療の見学は避ける。スキルスラボⅡ以外でも実習室を用いた実習を認めるが、必ず指導者が1名以上いることを条件とする。対面実習の場合、参加者が密にならない最大参加可能人数とする。また、症例報告を中心とした講義の実施も認める。伴わない講義は原則、遠隔授業（ ZOOMあるいはビデオ）とする。ビデオ視聴は一定期間公開し、その期間に視聴すれば 1クレジット獲得とする。

選択方法：各診療科からの選択実習内容をD6学生に提示し、履修希望を提出させる。モジュールコーディネーターがなるべく履修希望通りに調整し配分する。なお、実施期間中に海外奨励研修制度で海外研修を行う学生、および体調の都合で研修できない学生には教育的配慮を行う。また、Covid-19の状況次第で対面実習は中止となる可能性がある。

以上

2022年度D6包括臨床実習PhaseⅢ
アドバンス選択実習内容・担当責任者表

実施期間：2023年2月1日（水）～3月3日（金）

・半日単位で実施します。半日受講する毎に1クレジット獲得とします。
（スキルスラボⅡ実習のみ、午前、午後1、午後2ごとに1クレジットとします）
・Phase Ⅲ 実施期間内で12クレジット以上獲得することが必要です。

12クレジットのうち「スキルスラボⅡ」3クレジット以上を必須とします。

・いくつかの分野の実習内容で、同じ内容の実習を複数回行う関係で、１人１回しか受講できないものがあります。この内容をどうしても受講したいとの希望で、第１希望のみ複数回記載し、 第２希望以下の内容を記載していない場合、どこかの第１希望が選ばれた場合、他の希望内 容は自動的にキャンセルとなります。そのことを考慮して、合計で12コマ以上選択できるように 記載して下さい。
希望表に半日を12回分しか記載していなかった場合、全ての日が選択される約束はできませ ん。必ず半日を13回分以上の希望を記入するようにして下さい。

・新型コロナウイルスの感染状況によって対面実習が変更になることがあり得ます。その場合は対応策を連絡します。

希望調査票提出期限：

・2022年12月7日（水）17：00までにスプレッドシートに記入して下さい。
https://docs.google.com/spreadsheets/d/1x73VDtdU33JuUnlfKw3nzzB1u4JcFF6z/edit#gid=65299596

2022年度D6包括臨床実習PhaseⅢアドバンス選択実習の出欠表は後日配付します。

・配属一覧表は2022年12月24日（金）までに2022D6MLとWebClassで連絡予定です。

実施責任者
包括臨床実習モジュールコーディネーター

目　　次

１．ｽｷﾙｽﾗﾎﾞⅡ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
２．ＭＣ講義　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
３．2総診　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
４．う蝕制御　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
５．歯周病　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5
６．歯髄生物　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
７．ｸﾗｳﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ（咬合機能健康）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7
８．部分床義歯（生体補綴）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
９．高齢者歯科（全部床義歯）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9
１０．摂食嚥下リハビリテーション　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10
１１．顎顔面外科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11
１２．顎口腔腫瘍外科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　12
１３．歯科麻酔科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13
１４．歯科総合診療科　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　14

2022年度D6包括臨床実習Phase Ⅲアドバンス選択実習内容・担当責任者

分野名　統合教育機構 スキルスラボ2

アドバンス選択実習実施責任者名：　鶴 田 潤

メールアドレス　turucie@tmd.ac.jp

対面実習集合場所：

スキルスラボ2

内線　4081

日時		午　　前 （9:00－12:00）	受入可能人数	午　　後 （13:00－16:00）	受入可能人数
2月1日	水	午前:10:30-11:30	4	午後1:13:00-14:00、午後2:15:00-16:00	4
2月2日	木	午前:10:30-11:30	4	―	
2月3日	金	午前:10:30-11:30	4	午後1:13:00-14:00、午後2:15:00-16:00	4
2月6日	月	―	0	―	0
2月7日	火	午前:10:30-11:30	4	午後1:13:00-14:00、午後2:15:00-16:00	4
2月8日	水	午前:10:30-11:30	4	午後1:13:00-14:00、午後2:15:00-16:00	4
2月9日	木	午前:10:30-11:30	4	午後1:13:00-14:00、午後2:15:00-16:00	4
2月10日	金	午前:10:30-11:30	4	午後1:13:00-14:00、午後2:15:00-16:00	4
2月13日	月	―	0	―	0
2月14日	火	午前:10:30-11:30	4	午後1:13:00-14:00、午後2:15:00-16:00	4
2月15日	水	午前:10:30-11:30	4	午後1:13:00-14:00、午後2:15:00-16:00	4
2月16日	木	午前:10:30-11:30	4	―	
2月17日	金	午前:10:30-11:30	4	午後1:13:00-14:00、午後2:15:00-16:00	4
2月20日	月	―	0	―	0
2月21日	火	午前:10:30-11:30	4	午後1:13:00-14:00、午後2:15:00-16:00	4
2月22日	水	午前:10:30-11:30	4	午後1:13:00-14:00、午後2:15:00-16:00	4
2月23日	木				
2月24日	金	午前:10:30-11:30		午後1:13:00-14:00、午後2:15:00-16:00	
2月27日	月	―	0	―	0
2月28日	火	午前:10:30-11:30	4	午後1:13:00-14:00、午後2:15:00-16:00	4
3月1日	水	午前:10:30-11:30	4	午後1:13:00-14:00、午後2:15:00-16:00	4
3月2日	木	午前:10:30-11:30	4	―	0
3月3日	金	午前:10:30-11:30	4	午後1:13:00-14:00、午後2:15:00-16:00	4

スキルスラボⅡ（午前）、（午後１）、（午後２）と記入してください。他の分野の午後の実習を選択しても「午後2」は　選択可能です。同日のスキルスラボⅡの複数回配属は原則しませんが他の学生配属の関係で、やむを得ず１日　２回配属することはあり得ます。なお、各回の配属が4名に満たなかった場合はD6以外の利用者がいる場合があるので承知しておくこと。

2022年度D6包括臨床実習Phase Ⅲアドバンス選択実習内容・担当責任者

分野名　MC講義

FDS22030 D6 包括臨床実習Phase Ⅱ(B) 2022

WebClassで視聴してください。

アドバンス選択実習実施責任者名：　新田　浩、海老原　新、秀島雅之

メールアドレス　nitta.behd@tmd.ac.jp　　内線　PHS 84000

日時		午　　前 （9:00－12:00）	受入可能人数	午　　後 （13:00－16:00）	受入可能人数
2月1日	水				
2月2日	木				
2月3日	金	NiTiファイルを使おう（WebClass）	60名	部分歯列欠損への対応と義歯の設計 （秀島）オンデマンド(WebClass)	60名
2月6日	月				
2月7日	火	歯周治療を成功に導くモチベーショナルインタービューイング（新田）（WebClass）	60名		
2月8日	水				
2月9日	木	歯周治療を成功に導くモチベーショナルインタービューイング（新田）（WebClass）	60名		
2月10日	金				
2月13日	月				
2月14日	火				
2月15日	水				
2月16日	木				
2月17日	金	マイクロエンドドンティクス（WebClass）	60名	部分歯列欠損への対応と義歯の設計 （秀島)WebClass	60名
2月20日	月				
2月21日	火				
2月22日	水				
2月23日	木				
2月24日	金	NiTiファイルを使おう（WebClass）	60名	卒後に役立つ臨床ワンポイントアドバイス （秀島)WebClass	60名
2月27日	月				
2月28日	火				
3月1日	水			卒後に役立つ臨床ワンポイントアドバイス （秀島)WebClass	60名
3月2日	木				
3月3日	金	マイクロエンドドンティクス（WebClass）	60名		

2022年度D6包括臨床実習Phase Ⅲアドバンス選択実習内容・担当責任者

分野名　第2総合診療室

アドバンス選択実習実施責任名：　則武加奈子

メールアドレス　noritake.irm@tmd.ac.jp

対面実習集合場所：第2総合診療室

ZOOMのURLは後日設定していただきます。

内線　84566　5479

日時		午　前 （9:00－12:00）	受入可能人数	午　後 （13:00－16:00）	受入可能人数
2月1日	水	アシスト（対面）	2		
2月2日	木	アシスト（対面）	2	アシスト（対面）	2
2月3日	金	アシスト（対面）	2		
2月6日	月	アシスト（対面）	2	アシスト（対面）	2
2月7日	火	アシスト（対面）	2	アシスト（対面）	2
2月8日	水	アシスト（対面）	2	アシスト（対面）	2
2月9日	木	アシスト（対面）	2		
2月10日	金	アシスト（対面）	2		
2月13日	月			２総診での臨床研修について（Zoom）	10名程度まで
2月14日	火			アシスト（対面）	2
2月15日	水	アシスト（対面）	2		
2月16日	木	アシスト（対面）	2		
2月17日	金	アシスト（対面）	2		
2月20日	月	２総診での臨床研修について（Zoom）	10名程度まで		
2月21日	火			アシスト（対面）	2
2月22日	水	アシスト（対面）	2		
2月23日	木				
2月24日	金				
2月27日	月				
2月28日	火			アシスト（対面）	2
3月1日	水	アシスト（対面）	2	アシスト（対面）	2
3月2日	木	アシスト（対面）	2		
3月3日	金	アシスト（対面）	2		

2022年度D6包括臨床実習Phase Ⅲアドバンス選択実習内容・担当責任者

分野名　う蝕制御学分野

対面実習集合場所：7号館5階ノイシュタットジャパンルーム

アドバンス選択実習実施責任者名：　高橋 礼奈

メールアドレス　rtakahashi.ope@tmd.ac.jp

内線　5483

日時		午　前 （9:00－12:00）	受入可能人数	午　後 （13:00－16:00）	受入可能人数
2月1日	水				
2月2日	木	コンポジットレジン修復アドバンスコース （講義＋実習）	5	コンポジットレジン修復アドバンスコース （講義＋実習）	5
2月3日	金				
2月6日	月				
2月7日	火				
2月8日	水				
2月9日	木				
2月10日	金				
2月13日	月				
2月14日	火				
2月15日	水				
2月16日	木				
2月17日	金				
2月20日	月				
2月21日	火				
2月22日	水				
2月23日	木				
2月24日	金				
2月27日	月				
2月28日	火				
3月1日	水				
3月2日	木	コンポジットレジン修復アドバンスコース （講義＋実習）	5	コンポジットレジン修復アドバンスコース （講義＋実習）	5
3月3日	金				

2022年度D6包括臨床実習Phase Ⅲアドバンス選択実習内容・担当責任者

分野名　歯周病学

対面実習集合場所：

アドバンス選択実習実施責任者：　水谷幸嗣

10号館3階 歯周病学分野 会議室

メールアドレス　mizutani.peri@tmd.ac.jp

内線　84303

日時		午　前 （9:00－12:00）	受入可能人数	午　後 （13:00－16:00）	受入可能人数
2月1日	水				
2月2日	木				
2月3日	金				
2月6日	月				
2月7日	火			ミニレクチャー＋症例検討（前川、岡田）	6
2月8日	水				
2月9日	木			ミニレクチャー＋症例検討（新見）	6
2月10日	金				
2月13日	月				
2月14日	火				
2月15日	水				
2月16日	木				
2月17日	金				
2月20日	月				
2月21日	火			ミニレクチャー＋症例検討（前川、大杉）	6
2月22日	水				
2月23日	木				
2月24日	金				
2月27日	月				
2月28日	火	ミニレクチャー＋症例検討（齋藤、水谷）	6		
3月1日	水				
3月2日	木				
3月3日	金			ミニレクチャー＋症例検討（水谷、土谷）	6

2022年度D6包括臨床実習Phase Ⅲアドバンス選択実習内容・担当責任者

分野名　　歯髄生物学分野

アドバンス選択実習実施責任者名：　川島伸之

メールアドレス：　kawashima.n.endo@tmd.ac.jp

対面実習集合場所：7号館5階実習室

ZOOMのURLは後日設定していただきます。

内線：　84020

日時		午　　前 （9：00－12：00）	受入可能人数	午　　後 （13：00－16：00）	受入可能人数
2月1日	水	エンドの基本：橋本	Zoom	マイクロエンドの世界：飯野	Zoom
2月2日	木			外科的歯内療法の実践：牧	Zoom
2月3日	金				
2月6日	月			実習：NiTiファイルを用いた根管形成 7号館5階実習室	8
2月7日	火			根管治療における診査診断:野田	Zoom
2月8日	水	NiTiファイルの基本：木村	Zoom		
2月9日	木				
2月10日	金			アメリカの最新エンドの潮流：田澤	Zoom
2月13日	月				
2月14日	火				
2月15日	水				
2月16日	木			実習：NiTiファイルを用いた根管形成 7号館5階実習室	8
2月17日	金				
2月20日	月				
2月21日	火				
2月22日	水				
2月23日	木				
2月24日	金				
2月27日	月			実習：NiTiファイルを用いた根管形成 7号館5階実習室	8
2月28日	火				
3月1日	水				
3月2日	木				
3月3日	金				

2022年度D6包括臨床実習Phase Ⅲアドバンス選択実習内容・担当責任者

分野名　咬合機能健康学

アドバンス選択実習実施責任者名：　大竹志保

メールアドレス：　s.otake.fpro@tmd.ac.jp

対面実習集合場所：3階補綴実習室

ZOOMのURLは後日設定していただきます。

内線　95521

日時		午　　前 （9:00－12:00）	受入可能人数	午　　後 （13:00－16:00）	受入可能人数
2月1日	水				
2月2日	木				
2月3日	金				
2月6日	月				
2月7日	火				
2月8日	水				
2月9日	木				
2月10日	金				
2月13日	月				
2月14日	火	支台歯形成実習（松村）	10	支台歯形成実習（瀧田）	10
2月15日	水				
2月16日	木	歯科アレルギーの臨床 （zoom講義）（野崎）			
2月17日	金				
2月20日	月				
2月21日	火	支台歯形成実習（根本）	10		
2月22日	水				
2月23日	木				
2月24日	金				
2月27日	月				
2月28日	火	支台歯形成実習（大竹）	10	支台歯形成実習（佐藤）	10
3月1日	水	メタルフリー補綴治療 （zoom講義）（駒田）			
3月2日	木				
3月3日	金				

2022年度D6包括臨床実習Phase Ⅲアドバンス選択実習内容・担当責任者

分野名　生体補綴歯科学分野

アドバンス選択実習実施責任者名：　谷田部 優

ZOOMのURLは後日設定していただきます。

メールアドレス　n.murakami.rpro@tmd.ac.jp（連絡先：村上奈津子）　内線　4946 (PHS:84271)

日時		午　前 （9:00－12:00）	受入可能人数	午　後 （13:00－16:00）	受入可能人数
2月1日	水				
2月2日	木			研修医が知っておきたい「欠損の捉え方と部分床義歯設計」: Zoom	制限なし
2月3日	金				
2月6日	月				
2月7日	火				
2月8日	水				
2月9日	木				
2月10日	金				
2月13日	月				
2月14日	火				
2月15日	水				
2月16日	木			研修医が知っておきたい「ノンメタルクラスプデンチャー」:Zoom	制限なし
2月17日	金				
2月20日	月				
2月21日	火				
2月22日	水				
2月23日	木				
2月24日	金				
2月27日	月				
2月28日	火				
3月1日	水				
3月2日	木				
3月3日	金				

2022年度D6包括臨床実習Phase Ⅲアドバンス選択実習内容・担当責任者

分野名　高齢者歯科学分野

アドバンス選択実習実施責任：　猪越 正直

ZOOMのURLは後日設定していただきます。

メールアドレス：　m.inokoshi.gerd@tmd.ac.jp　　内線　5584/84285（PHS）

日時		午　前 （9:00－12:00）	受入可能人数	午　後 （13:00－16:00）	受入可能人数
2023/2/1	水				
2023/2/2	木				
2023/2/3	金				
2023/2/6	月				
2023/2/7	火				
2023/2/8	水				
2023/2/9	木				
2023/2/10	金				
2023/2/13	月				
2023/2/14	火				
2023/2/15	水				
2023/2/16	木	将来必ず役に立つ！高齢者歯科治療の基礎知識・全身管理編 Zoom	60		
2023/2/17	金				
2023/2/20	月				
2023/2/21	火				
2023/2/22	水				
2023/2/23	木				
2023/2/24	金				
2023/2/27	月				
2023/2/28	火				
2023/3/1	水				
2023/3/2	木				
2023/3/3	金				

2022年度D6包括臨床実習Phase Ⅲアドバンス選択実習内容・担当責任者

分野名 摂食嚥下リハビリテーション学分野

対面実習集合場所：
3階オンライン診療室（義歯外来奥）

ZOOMのURLは後日設定していただきます。

アドバンス選択実習実施責任者名： 中根 綾子

メールアドレス： a.nakane.swal@tmd.ac.jp

内線 84532

日時		午　　前 （9:00－12:00）	受入可能人数	午　　後 （13:00－16:00）	受入可能人数
2月1日	水				
2月2日	木				
2月3日	金				
2月6日	月				
2月7日	火			13:00-サルコペニアの診断をしよう！ （体成分分析やエコーの実習）（中川）	4
2月8日	水				
2月9日	木				
2月10日	金	9:30-「リハビリテーション病院 歯科で働くこと、職場見学ツアー」 （野本、中根 zoom）	制限なし		
2月13日	月	9:30-不思議な食体験ワークショップ-食の心理学、クロスモーダルからVRまで-（山口）	4		
2月14日	火				
2月15日	水	9:30-摂食嚥下診療に際した高齢者のフィジカルアセスメントと臨床の実際 （内視鏡模型実習＋講義）（長谷川）	4		
2月16日	木				
2月17日	金				
2月20日	月				
2月21日	火				
2月22日	水				
2月23日	木				
2月24日	金				
2月27日	月				
2月28日	火				
3月1日	水				
3月2日	木				
3月3日	金			13:00-サルコペニアの診断をしよう！ （体成分分析実習・エコー実習、症例検討） （吉見）	4

2022年度D6包括臨床実習Phase Ⅲアドバンス選択実習内容・担当責任者

分野名　顎顔面外科

対面実習集合場所：

アドバンス選択実習実施責任者名：　原園陽介

メールアドレス：　yharmfs@tmd.ac.jp

内線　　84058

日時		午　　前 （9:00－12:00）	受入可能人数	午　　後 （13:00－16:00）	受入可能人数
2月1日	水				
2月2日	木	TMDとの鑑別、Splint製作実習（高原）	2		
2月3日	金				
2月6日	月	顎変形症の手術計画とモデルサージェリー（友松）	2		
2月7日	火				
2月8日	水				
2月9日	木				
2月10日	金				
2月13日	月	研修医として知っておきたい 紹介すべき口腔外科疾患のマネージメント（原園）	2		
2月14日	火				
2月15日	水				
2月16日	木				
2月17日	金				
2月20日	月	手術見学	2	手術見学	1
2月21日	火	手術見学	2	手術見学	1
2月22日	水	手術見学	2	手術見学	1
2月23日	木				
2月24日	金				
2月27日	月				
2月28日	火				
3月1日	水				
3月2日	木	Surgical planning for OGS using PROPLAN®（高原）	2		
3月3日	金				

2022年度D6包括臨床実習Phase Ⅲアドバンス選択実習内容・担当責任者

分野名	顎口腔腫瘍外科	
アドバンス選択実習実施責任者::	釘本琢磨	ZOOMのURLは後日設定していただきます。
メールアドレス	kugiosur@tmd.ac.jp	内線　84039

日時		午　前 （9:00－12:00）	受入可能人数	午　後 （13:00－16:00）	受入可能人数
2月1日	水				
2月2日	木				
2月3日	金				
2月6日	月				
2月7日	火				
2月8日	水				
2月9日	木			口腔がん治療を学ぶ～頸部郭清を中心に～（ZOOM）	
2月10日	金				
2月13日	月				
2月14日	火				
2月15日	水				
2月16日	木			口腔がん治療を学ぶ～頸部郭清を中心に～（ZOOM）	
2月17日	金				
2月20日	月				
2月21日	火				
2月22日	水				
2月23日	木				
2月24日	金				
2月27日	月				
2月28日	火				
3月1日	水				
3月2日	木			口腔がん治療を学ぶ～頸部郭清を中心に～（ZOOM）	
3月3日	金				

2022年度D6包括臨床実習Phase Ⅲアドバンス選択実習内容・担当責任者

分野名　歯科麻酔・口腔顔面痛制御学分野

アドバンス選択実習実施責：　馬場有希子

メールアドレス　yukianph@tmd.ac.jp

対面実習集合場所：

内線　5549

日時		午　前 （9:00－12:00）	受入可能人数	午　後 （13:00－16:00）	受入可能人数
2月1日	水	手術室見学	1	手術室見学	1
2月2日	木	手術室見学	1	手術室見学	1
2月3日	金				
2月6日	月	手術室見学	1	手術室見学	1
2月7日	火	手術室見学	1	手術室見学	1
2月8日	水	手術室見学	1	手術室見学	1
2月9日	木	手術室見学	1	手術室見学	1
2月10日	金				
2月13日	月	手術室見学	1	手術室見学	1
2月14日	火	手術室見学	1	手術室見学	1
2月15日	水	手術室見学	1	手術室見学	1
2月16日	木	手術室見学	1	手術室見学	1
2月17日	金				
2月20日	月	手術室見学	1	手術室見学	1
2月21日	火	手術室見学	1	手術室見学	1
2月22日	水	手術室見学	1	手術室見学	1
2月23日	木				
2月24日	金				
2月27日	月	手術室見学	1	手術室見学	1
2月28日	火	手術室見学	1	手術室見学	1
3月1日	水	手術室見学	1	手術室見学	1
3月2日	木	手術室見学	1	手術室見学	1
3月3日	金				

2022年度D6包括臨床実習Phase Ⅲアドバンス選択実習内容・担当責任者

分野名　総合診療歯科学分野

対面実習集合場所：1階歯科総合診療科外来

ZOOMのURLは後日設定していただきます。

アドバンス選択実習実施責任者名：　梅森　幸

メールアドレス　sumegend@tmd.ac.jp

内線　5889 / 84567

日時		午　前 （9:00－12:00）	受入可能人数	午　後 （13:00－16:00）	受入可能人数
2月1日	水				
2月2日	木				
2月3日	金				
2月6日	月				
2月7日	火				
2月8日	水	初診時医療面接(1階歯科総合診療科外来)	2名		
2月9日	木				
2月10日	金				
2月13日	月				
2月14日	火	初診時医療面接(1階歯科総合診療科外来)	2名		
2月15日	水				
2月16日	木				
2月17日	金				
2月20日	月			臨床推論（zoom）	約10名
2月21日	火				
2月22日	水				
2月23日	木				
2月24日	金				
2月27日	月	初診時医療面接(1階歯科総合診療科外来)	2名	臨床推論（zoom）	約10名
2月28日	火				
3月1日	水				
3月2日	木				
3月3日	金				

臨床体験実習・臨床・臨地実習計画表（歯学部　口腔保健学科　口腔保健衛生学専攻）

1年次（令和5年（2024）年度）

	週				1					1							1						
	月	10月				11月				12月				1月			2月						
	1学年25名				臨床体験実習					臨床体験実習							臨床体験実習						

臨床体験実習　実習施設一覧（見学実習：3日間）

	番号	実習施設名	学生数	担当教員	概要
1学年25名	1	国立大学法人東京医科歯科大学 東京医科歯科大学病院　歯科（歯系診療部門）	25名	教授・吉田直美 助教・鈴木 瞳	大学病院における歯科衛生士の役割について臨床体験実習指導者の下見学を通して学ぶ。 ○ 実習指導者、専任教員の指導・監督の下で ・本学歯系病院における歯科衛生士の役割について知る ・感染予防の基本、歯科診療器機の基本操作等を経験する 実習時間の内訳 実習前オリエンテーション（2時間） 実習（5時間） 実習後フィードバック（2時間）
	2	デンタルインフォメーションセンター（DIC）	25名	教授・吉田直美 助教・鈴木 瞳	歯科関連企業における歯科衛生士の役割について臨床体験実習指導者の下見学を通して学ぶ。 ○ 実習指導者、専任教員の指導・監督の下で ・歯科関連企業における歯科衛生士の役割について知る ・感染予防の基本、歯科予防製品ならびに歯科診療器機の基本操作、種類など等に触れる 実習時間の内訳 実習前オリエンテーション（2時間） 実習（5時間）

	3	ベタニアホーム	25名	教授・吉田直美 助教・鈴木 瞳	介護福祉施設等、地域包括ケアシステムにおける歯科衛生士の役割、多職種連携の実際について見学を通して学ぶ。 ○ 実習指導者、専任教員の指導・監督の下で ・高齢者福祉施設で行われているサービスや施設の役割を理解する ・生活支援、介護の実際、サービス利用者の日常生活の特徴を理解する ・高齢者の生活を支える職種の役割と連携の重要性について理解する ・高齢社会で生きる上での自らの立場を意識し、将来に向けて多角的な視野を養う 実習時間の内訳 　実習前オリエンテーション（2時間） 　実習（8時間） 　実習後報告会（3時間）

2年次（令6年（2025）年度）																								
	週												1											
	月	4月				5月				6月				7月				8月						
	1学年25名												臨床体験実習											

臨床体験実習　実習施設一覧（見学実習：1日間）						
	番号	実習施設名	学生数	担当教員	概要
1学年25名	1	住友商事株式会社　人事厚生部　ヘルスプランニングチーム　歯科	8名	教授・吉田直美	産業歯科保健の現場においての課題、歯科衛生士の役割、多職種連携の実際について見学を通して学ぶ。 〇 実習指導者、専任教員の指導・監督の下で ・産業保健活動の目的、企業内歯科保健活動の実際、歯科衛生士の役割について知る ・企業内の歯科診療室の見学 ・歯科健診事業、生活歯援プログラム等について学ぶ 実習時間の内訳 実習前オリエンテーション（2時間） 実習（8時間） 実習後発表会（3時間）
	2	神戸製鋼所東京本社 健康管理センター	8名	助教・鈴木 瞳	
	3	日本アイ・ビー・エム健康保険組合　予防歯科	9名	助教・安達奈穂子	

3年次（令和7年（2026）年度）																									
	週	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2						
	月	10月				11月				12月				1月				2月							
	1学年25名	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ						

歯科衛生臨床実習Ⅰ　実習施設一覧（実習：29日間）

	番号	実習施設名	学生数	担当教員	概要
1学年25名	1	東京医科歯科大学病院　歯科（歯系診療部門）	25名	教授・●● 助教・安達 奈穂子 助教・鈴木 瞳	大学病院における歯科衛生士の役割について臨床実習指導者の下、実践を通して歯科衛生士業務行うために必要な態度・技術を習得させる。 〇 実習指導者の指導・監督の下で ・本学歯系病院における歯科衛生士の役割について知る ・感染予防の基本、歯科診療器機の基本操作等を経験する ・歯科診療補助の実践 ・歯科予防処置の実践 ・歯科保健指導の実践 ・歯科衛生過程に基づいて歯科衛生介入計画について立案 ・歯科衛生介入効果の検証 〇実習先となる診療科 ・第一総合診療室１（Ⅰ期） ・歯周病科（Ⅰ期） ・口腔健康管理科 ・歯科総合診療部 実習時間の内訳 ・３年生後期臨床実習オリエンテーション（1日7時間）を2日間（計14時間） ・臨床予備実習（1日7時間）を10日間（計70時間） ・臨床実習（1日7時間）を19日間（計133時間）

歯科衛生臨床実習Ⅱ　実習施設一覧（実習：16日間）														
	番号	実習施設名	学生数	担当教員	概要
1学年25名	1	東京医科歯科大学病院　歯科（歯系診療部門）	25名	教授・●● 助教・安達 奈穂子 助教・鈴木 瞳	大学病院における歯科衛生士の役割について臨床実習指導者の下、実践を通して歯科衛生士業務行うために必要な態度・技術を習得させる。 ○ 実習指導者の指導・監督の下で ・本学歯系病院における歯科衛生士の役割について知る ・感染予防の基本、歯科診療器機の基本操作等を経験する ・歯科診療補助の実践 ・歯科予防処置の実践 ・歯科保健指導の実践 ○実習先となる診療科 ・むし歯科 ・義歯科 ・口腔外科 ・口腔インプラント科 ・中央器材室 実習時間の内訳 ・臨床実習（1日7時間）を16日間（計112時間）

歯科衛生臨床実習Ⅲ　実習施設一覧（実習：9日間）														
	番号	実習施設名	学生数	担当教員	概要
1学年25名	1	東京医科歯科大学病院　歯科（歯系診療部門）	25名	教授・●● 助教・安達 奈穂子 助教・鈴木 瞳	大学病院における歯科衛生士の役割について臨床実習指導者の下、実践を通して歯科衛生士業務行うために必要な態度・技術を習得させる。 ○ 実習指導者の指導・監督の下で ・本学歯系病院における歯科衛生士の役割について知る ・感染予防の基本、歯科診療器機の基本操作等を経験する ・歯科診療補助の実践 ・歯科予防処置の実践 ・歯科保健指導の実践 ○実習先となる診療科 ・小児歯科 ・歯科放射線科 ・矯正歯科 実習時間の内訳 ・臨床実習（1日7時間）を9日間（計63時間）

4年次（令和8年（2027）年度）

	週	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				
	月	4月				5月				6月				7月				8月				10月				11月				12月				1月			2月			
1学年25名		歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ					歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	歯科衛生臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				

歯科衛生臨床実習Ⅰ　実習施設一覧（実習：20日間）

	番号	実習施設名	学生数	担当教員	概要
1学年25名	1	東京医科歯科大学病院　歯科（歯系診療部門）	25名	教授・●● 助教・安達 奈穂子 助教・鈴木 瞳	大学病院における歯科衛生士の役割について臨床実習指導者の下、実践を通して歯科衛生士業務行うために必要な態度・技術を習得させる。 ○ 実習指導者の指導・監督の下で ・本学歯系病院における歯科衛生士の役割について知る ・感染予防の基本、歯科診療器機の基本操作等を経験する ・歯科診療補助の実践 ・歯科予防処置の実践 ・歯科保健指導の実践 ・歯科衛生過程に基づいて歯科衛生介入計画について立案 ・歯科衛生介入効果の検証 ○実習先となる診療科 ・第一総合診療室１（Ⅱ期） ・歯周病科（Ⅱ期） 実習時間の内訳 ・臨床実習（1日7時間）を18日間（計126時間） ・症例検討・発表会（1日5時間）を2日間（計10時間）

歯科衛生臨床実習Ⅱ　実習施設一覧（実習：6日間）

	番号	実習施設名	学生数	担当教員	概要
1学年25名	1	東京医科歯科大学病院　歯科（歯系診療部門）	25名	教授・●● 助教・安達 奈穂子 助教・鈴木 瞳	大学病院における歯科衛生士の役割について臨床実習指導者の下、実践を通して歯科衛生士業務行うために必要な態度・技術を習得させる。 ○ 実習指導者の指導・監督の下で ・本学歯系病院における歯科衛生士の役割について知る ・感染予防の基本、歯科診療器機の基本操作等を経験する ・歯科診療補助の実践 ・歯科予防処置の実践 ・歯科保健指導の実践 ○実習先となる診療科 ・歯科麻酔科 ・歯科病棟 実習時間の内訳 ・4年生前期臨床実習オリエンテーション（1日7時間） ・臨床実習（1日7時間）を6日間（計42時間）

歯科衛生臨床実習Ⅲ　実習施設一覧（実習：21日間）

	番号	実習施設名	学生数	担当教員	概要
1学年25名	1	東京医科歯科大学病院　歯科（歯系診療部門）	25名	教授・●● 助教・安達 奈穂子 助教・鈴木 瞳	大学病院における歯科衛生士の役割について臨床実習指導者の下、実践を通して歯科衛生士業務行うために必要な態度・技術を習得させる。 ○ 実習指導者の指導・監督の下で ・本学歯系病院における歯科衛生士の役割について知る ・感染予防の基本、歯科診療器機の基本操作等を経験する ・歯科診療補助の実践 ・歯科予防処置の実践 ・歯科保健指導の実践 ○実習先となる診療科 ・顎顔面補綴外来 ・高齢者歯科外来 ・障害者歯科外来 ・息さわやか外来 ・歯科アレルギー外来 ・スポーツ歯科外来 ・歯科心身医療科 ・顎関節症外来 ・摂食嚥下リハビリテーション科 実習時間の内訳 ・4年生後期臨床実習オリエンテーション（1日3時間） ・臨床実習（1日7時間を18日間、1日3時間を6日間）（計81時間）

4年次（令和8年（2027）年度）

週								1		2		2							2	2	2	2	2		2		2									
月	4月			5月		6月						7月			8月			10月				11月			12月				1月				2月			
1学年25名						歯科衛生臨地実習		歯科衛生臨地実習				歯科衛生臨地実習						歯科衛生臨地実習	歯科衛生臨地実習	歯科衛生臨地実習	歯科衛生臨地実習	歯科衛生臨地実習		歯科衛生臨地実習		歯科衛生臨地実習									

歯科衛生臨地実習　実習施設一覧（見学実習：19日間）

	番号	実習施設名	学生数	担当教員	概要
1学年25名	1	東京医科歯科大学病院　医科（医系診療部門）	25名	教授・樺沢 勇司 助教・伊藤 奏 助教・日髙 玲奈	入院患者の全身状態と生活機能を理解し、口腔保健活動を実践するために必要な態度・知識・技能を修得する。 ○ 実習指導者の指導・監督の下で ・病棟における入院患者の療養生活の支援について説明する ・看護過程における情報収集、計画立案、実践の一連の流れを説明する ・入院患者の全身状態を把握し、生活上の問題を説明する ・担当看護師の看護業務の具体的内容および留意点を説明する ・看護師の行う口腔ケアの見学により、患者の状態を把握・評価する ・病棟における連携方法、情報共有について説明する 実習時間の内訳 ・臨地実習オリエンテーション（1日7時間） ・実習前演習（1日7時間を2日間）（計14時間） ・臨地実習（1日7時間を2日間）（計14時間） ・実習後フィードバック（1日7時間）
	2	東京医科歯科大学病院 歯科（歯系診療部門）摂食嚥下リハビリテーション科	25名	教授・樺沢 勇司 助教・伊藤 奏 助教・日髙 玲奈	居宅や施設の要介護高齢者の抱える歯科的問題を知り、生きる力やQOLを向上させるために必要な口腔機能の維持管理や口腔のケアの実際を理解する。 ○ 実習指導者の指導・監督の下で ・対象となった要介護高齢者の心身の状態を説明する ・訪問先の特徴、歯科的支援の内容を説明する ・多職種連携の実際を説明する 実習時間の内訳 ・臨地実習オリエンテーション（1日7時間） ・実習前演習（1日7時間を2日間）（計14時間） ・臨地実習（1日7時間を3日間）（計21時間） ・実習後フィードバック（1日7時間）
	3	けやき歯科診療所	25名	教授・樺沢 勇司 助教・伊藤 奏 助教・日髙 玲奈	歯科保健医療専門職として業務を遂行する上で、必要な態度、知識、専門技術および関連の知識について、療育センターにおける歯科衛生業務の実際を見学・実習体験を通して、理解を深める。また、専門職種の活動のあり方を理解し、実践することによって、将来の自分の活動基盤について考察することを目的とする。 ○ 実習指導者の指導・監督の下で ・センターにおける歯科治療部の役割・機能が説明できる ・歯科衛生業務の実際が説明できる ・患者・相談者とコミュニケーションをとる ・健康教育、予防処置を実施する ・患者に対する支援法を配慮した口腔ケアを実践する ・スタッフ間の連携方法と内容が説明できる 実習時間の内訳 ・臨地実習オリエンテーション（1日7時間） ・実習前演習（1日5時間） ・臨地実習（1日7時間を1日間）（計7時間） ・実習後フィードバック（1日7時間）
	4	東京都立荏原病院　歯科口腔外科	4名	教授・樺沢 勇司 助教・伊藤 奏 助教・日髙 玲奈	口腔保健専門職としての仕事を遂行する上で、必要な態度、知識、専門技術および関連の知識について、病院歯科における歯科衛生業務の実際を見学・実習体験を通して理解を深める。また、専門職種の活動のあり方を理解し、実践することによって、将来の自分の活動基盤について考察することを目的とする。 ○ 実習指導者の指導・監督の下で ・病院における歯科・口腔外科の役割・機能が説明できる ・歯科衛生士の活動内容が説明できる ・病院歯科における歯科診療補助、保健指導について可能な実習をする ・患者・相談者とコミュニケーションをとる ・スタッフ間の連携方法と内容が説明できる ・入院患者口腔ケアの実際を知り、可能な実習をする 実習時間の内訳 ・臨地実習オリエンテーション（1日7時間） ・実習前演習（1日7時間を2日間）（計14時間） ・臨地実習（1日7時間を6日間）（計42時間） ・実習後フィードバック（1日7時間）
	5	東京都立広尾病院　歯科口腔外科	6名		
	6	NTT東日本関東病院　歯科口腔外科	2名		
	7	がん・感染症センター都立駒込病院　歯科口腔外科	4名		
	8	大森病院　口腔外科	5名		
	9	有明病院　歯科	4名		

10	流山市保健センター	5名	教授・樺沢 勇司 助教・伊藤 奏 助教・日高 玲奈	口腔保健専門職として業務を遂行するために、必要な態度、知識、専門技術および関連の知識を確認するとともに、見学・実習を通して、現場における活動内容を理解する。また、保健医療福祉従事者相互の連携や共同の必要性と、その中での歯科衛生士の役割を理解し、多職種協働の実際を知ることにより、自分の将来像につなげる。 ○ 実習指導者の指導・監督の下で ・地域および企業における歯科を含む医療の役割を説明できる ・各々の現場における歯科衛生士の活動内容が説明できる ・各々の現場における歯科診療補助、保健指導について可能な実習をする ・患者や対象者とコミュニケーションをとる ・スタッフ間の連携方法と内容を説明できる ・多職種連携の実際を理解する 実習時間の内訳 ・臨地実習オリエンテーション（1日7時間） ・実習前演習（1日7時間を2日間）（計14時間） ・臨地実習（1日7時間を3日間）（計21時間） ・実習後フィードバック（1日7時間）						
11	江戸川保健所	4名									
12	杉並保健所	4名									
13	千代田保健所	5名									
14	あおぞら診療所	3名									
15	住友商事株式会社　人事厚生部　ヘルスプランニングチーム　歯科	4名									
16	きくち歯科医院	6名	教授・樺沢 勇司 助教・伊藤 奏 助教・日高 玲奈	開業歯科医院における歯科衛生士の役割、歯科医師、その他の専門職との協働の実際を知ることにより、自分の将来像につなげる。また、開業歯科医院ごとの専門性に特化した歯科衛生士の役割や患者との関わり方について学ぶ。 ○ 実習指導者の指導・監督の下で ・ 開業歯科医院における歯科衛生士の業務内容を理解する ・ 歯科衛生士の活動内容が説明できる ・ 開業歯科医院における歯科診療補助、保健指導について可能な実習をする ・ スタッフ間の連携方法と内容が説明できる 実習時間の内訳 ・臨地実習オリエンテーション（1日7時間） ・実習前演習（1日7時間を2日間）（計14時間） ・臨地実習（1日7時間を3日間）（計21時間） ・実習後フィードバック（1日7時間）						
17	竹内歯科医療院	7名									
18	土岡歯科医院	6名									
19	ひの吉原歯科クリニック	6名									
20	筑波大学附属小学校	13名	教授・樺沢 勇司 助教・伊藤 奏 助教・日高 玲奈	学校における健康診断の意義を理解する。また、歯科健康診断の実際を理解するとともに、結果について考察する。 ○ 実習指導者の指導・監督の下で ・小学校の健康診断の流れを説明できる ・歯科健診結果を記載できる ・歯科健診結果を入力できる ・健康教育課題を見つける ・対象者（小学生）とコミュニケーションをとる 実習時間の内訳 ・臨地実習オリエンテーション（1日7時間） ・実習前演習（1日4時間） ・臨地実習（1日7時間を1日間）（計7時間） ・実習後フィードバック（1日7時間）						
21	日出学園小学校	12名									
※臨地実習オリエンテーションは全体を通じて7時間とする。											

実習施設一覧（歯学部口腔保健学科　口腔保健衛生学専攻）

No.	実習施設①(法人名)	実習施設②(施設名)	郵便番号	住所	当該実習施設を使用する授業科目名
1	国立大学法人東京医科歯科大学	東京医科歯科大学病院 歯科(歯系診療部門)	113-8510	東京都文京区湯島1-5-45	・臨床体験実習　25名 ・歯科衛生臨床実習Ⅰ 25人 ・歯科衛生臨床実習Ⅱ 25人 ・歯科衛生臨床実習Ⅲ 25人 ・歯科衛生臨地実習　25名
2	国立大学法人東京医科歯科大学	東京医科歯科大学病院 医科(医系診療部門)	113-8510	東京都文京区湯島1-5-45	・歯科衛生臨地実習　25名
3	社会福祉法人慈生会	ベタニアホーム	165-0022	東京都中野区江古田3－15－2	・臨床体験実習　25名
4	住友商事株式会社	住友商事株式会社　人事厚生部　ヘルスプランニングチーム　歯科	100-8601	東京都千代田区大手町2-3-2　大手町プレイスイーストタワー(12F)	・臨床体験実習　8名 ・歯科衛生臨地実習　4名
5	神戸製鋼所	神戸製鋼所東京本社 健康管理センター	141－8688	東京都品川区北品川5丁目 9-12	・臨床体験実習　8名
6	日本アイ・ビー・エム	日本アイ・ビー・エム健康保険組合　予防歯科	103－0015	中央区日本橋箱崎町36-2　Daiwaリバーゲート　南ウイング10F	・臨床体験実習　8名
7	株式会社ジーシー	デンタルインフォメーションセンター(DIC)	113-0033	東京都文京区本郷3-2-14	・臨床体験実習　25名
8	地方独立行政法人東京都立病院機構	東京都立荏原病院　歯科口腔外科	145－0065	大田区東雪谷4－5－10	・歯科衛生臨地実習　4名
9	地方独立行政法人東京都立病院機構	東京都立広尾病院　歯科口腔外科	150－0013	渋谷区恵比寿2－34－10	・歯科衛生臨地実習　6名
10		NTT東日本関東病院　歯科口腔外科	141－8625	品川区東五反田5－9－22	・歯科衛生臨地実習　2名
11	地方独立行政法人東京都立病院機構	がん・感染症センター都立駒込病院　歯科口腔外科	113－8677	東京都文京区本駒込3丁目18－22	・歯科衛生臨地実習　4名
12	東邦大学医療センター	大森病院　口腔外科	143－8541	東京都大田区大森西6－11－1	・歯科衛生臨地実習　5名
13	公益財団法人がん研究会	有明病院　歯科	135－8550	東京都江東区有明3-8-31	・歯科衛生臨地実習　4名
14	社会福祉法人全国療育相談センター	けやき歯科診療所	170－0005	豊島区南大塚3－43－11 福祉財団ビル	・歯科衛生臨地実習　25名
15	千葉県流山市	流山市保健センター	270-0121	流山市西初石4-1433-1	・歯科衛生臨地実習　5名
16	東京都江戸川区	江戸川保健所	132-8501	江戸川区中央1-4-1	・歯科衛生臨地実習　4名
17	東京都杉並区	杉並保健所	167-0051	杉並区荻窪5丁目20番1号	・歯科衛生臨地実習　4名
18	東京都千代田区	千代田保健所	101-0073	東京都千代田区九段北1-2-14	・歯科衛生臨地実習　5名
19	医療法人財団千葉健愛会	あおぞら診療所	271-0074	千葉県松戸市緑ヶ丘 2-357	・歯科衛生臨地実習　3名
20		きくち歯科医院	160-0023	東京都新宿区西新宿3-14-16	・歯科衛生臨地実習　6名
21	医療法人社団竹印	竹内歯科医院	162-0824	東京都新宿区　揚場町1-13　ミヤコビル3F	・歯科衛生臨地実習　7名
22		土岡歯科医院	272-0023	千葉県市川市南八幡4-7-3　本八幡グリーンプラザ・横川ビル　2F	・歯科衛生臨地実習　6名

23		ひの吉原歯科クリニック	234-0051	神奈川県横浜市港南区日野5-15-5	・歯科衛生臨地実習　6名
24		筑波大学附属小学校	102-0012	文京区大塚3-29-1　筑波大学附属小学校	・歯科衛生臨地実習　13名
25	学校法人日出学園	日出学園小学校	272-0824	市川市菅野3-23-1　日出学園小学校	・歯科衛生臨地実習　12名

令和4年2月3日

東京医科歯科大学
歯学部長　依田　哲也　殿

施設種別　流山市役所健康増進課
施設名称　流山市保健センター
代表者　職名　健康福祉部次長（兼健康増進課長）
氏名　伊原 理香
所在地　流山市西初石4-1433-1
TEL&FAX　TEL 04-7154-0331
FAX 04-7155-5949

2022年度　歯科衛生臨地実習生受け入れ承諾書

1．実習生受け入れ　　(可)　・　否

2.　実習生受け入れ可能な場合

1）可能期間および人数　　別紙にご記入ください。

2）必要書類　（誓約書、履歴書等の必要がありましたら、ご記入ください）

協定書：実習の詳細が決まり次第、書類を送付します。

3）①　必要経費　　(要)（1,000円／日／学生）　・　不要

②　請求書の提出について　　(可)　・　否

4）その他

ご連絡部署　上記　　担当者ご氏名　石井洋子

TEL：04-7154-0331

歯科技工装置製作工程チェックシート

No.　　氏名

メタルコア＋暫間被覆冠＋個歯トレー	
作業用模型製作	
歯冠外形回復・シリコーンコア	
メタルコアワックスアップ	
メタルコア完成	
暫間被覆冠完成	
個歯トレー完成	

部分床義歯	
印象ボクシング	
個人トレー	
咬合床	
支台装置	
人工歯排列	
歯肉形成	
填入・重合	
研磨	

メタル修復物	Ｉｎ 対合歯あり	Ｃｒ	Ｉｎ	Ｃｒ
分割模型・支台歯トリミング				
ワックスアップ		CAD		
鋳造・研磨				

支台装置	線鉤		
	屈曲	設計	
		ブロックアウト・リリーフ	
		屈曲	
		研磨	
	鋳造鉤		
	鋳造（耐火模型法）	設計	
		ブロックアウト・リリーフ	
		耐火模型作成	
		パターン採得	
		鋳造	
		形態修正	
		適合	
		研磨	

＊印象の取り扱い：石膏注入時の気泡巻き込み、模型撤去時の破折に注意すること！

再建工学包括臨床実習Ⅱ，Ⅲ　歯科技工装置製作表

番号		学生氏名	

患者ID		患者氏名		担当医	

性別	男・女	年齢		完了年月日		ライター印

設計・図解

製作物

使用材料

区分	材料名	メーカー	規格	使用量

作業工程

装着

このケース表は、担当患者の補綴物が口腔内にセットされた翌日の18時までに担当ライターに提出すること
製作物が個人トレー、咬合床、仮封冠等の中間製作物の場合も、補綴物と同様に記載し提出すること

見学実習報告書

事務処理番号　　氏名

配属先　　月/日　　/

見学実習内容（具体的に）

一番印象に残ったこと、気づいたこと

	11/20	11/21	11/22	11/24	11/27	11/28	11/29	11/30	12/1
指導者㊞									

口腔保健工学専攻3年生　歯科臨床見学について

口腔保健学科口腔保健工学専攻

科目名　再建工学包括臨床実習 Ⅰ

実施目的　東京医科歯科大学病院歯科における各診療科の特徴を理解し、歯科医療チームの一員として、歯科診療（歯科技工・補綴装置の製作、装着や調整等）の実際を見学する。歯科医療従事者として必要な基本的態度・知識・技能を習得する。

実施内容　補綴系診療科において歯科医師による歯科補綴診療の実際を見学し、診療の流れを理解する。
チーム医療の実際を見学する。印象の消毒、石膏注入、その他歯科補綴装置製作に関する技工。
歯科技工部において歯科技工士による歯科補綴装置、デジタル技術を用いた装置等の製作の実際を見学する。

実施期間　2023年11月20日～12月1日　　9:00～16:00

学生数　口腔保健工学専攻3年生（　名）　　1か所につき1～2人

感染対策　通常の臨床実習参加の条件に従う。常にマスク、フェイスシールドを着用し、患者の診療見学に際しては担当歯科医師の指示に従う。体温が37度以上の場合は見学不可とする。

口腔保健工学専攻歯科臨床見学実習（3年生）配属表

事務処理番号	学生氏名	11/20	11/21	11/22	11/24	11/27	11/28	11/29	11/30	12/1
		月	火	水	金	月	火	水	木	金
	A	顎顔面	顎顔面	咬合機能	咬合機能	高齢者	高齢者	生体補綴	生体補綴	技工部
	B	顎顔面	顎顔面	咬合機能	咬合機能	高齢者	高齢者	生体補綴	生体補綴	技工部
	C	生体補綴	技工部	顎顔面	顎顔面	咬合機能	咬合機能	高齢者	高齢者	生体補綴
	D	生体補綴	技工部	顎顔面	顎顔面	咬合機能	咬合機能	高齢者	高齢者	生体補綴
	E	高齢者	生体補綴	生体補綴	技工部	顎顔面	顎顔面	咬合機能	咬合機能	高齢者
	F	高齢者	生体補綴	生体補綴	技工部	顎顔面	顎顔面	咬合機能	咬合機能	高齢者
	G	咬合機能	高齢者	高齢者	生体綴補	生体綴補	技工部	顎顔面	咬合機能	顎顔面
	H	咬合機能	高齢者	高齢者	生体綴補	生体綴補	技工部	顎顔面	咬合機能	顎顔面

生体補綴歯科学分野	生体補綴	3階義歯科集合	歯科技工部	技工部	3階技工部受付集合
咬合機能健康科学分野	咬合機能		顎顔面補綴外来	顎顔面	6階顎顔面補綴外来集合
高齢者歯科学分野	高齢者				

注意：　別紙：臨床見学実習報告書に記入および指導者印をもらい、全体の実習について（好きなテーマを考えて）のA4用紙2枚のレポートと、日数分の報告書をまとめてホチキスで止めて提出すること

注意2：　実習を遅刻または欠席する場合は、各科実習担当の先生に連絡するとともに、科目責任者にも連絡すること（見学実習は9時から16時です、開始時間に注意すること）

注意3：　実習場所は病院です。病院内は私語をつつしみ、医療者として見られていることを自覚すること。きれいな白衣で実習すること。身だしなみに注意すること。

再建工学包括臨床実習 Ⅱ，Ⅲ　歯科技工装置配当表

修復物	全部床義歯補綴								部分床義歯補綴								冠橋義歯補綴													顎義歯補綴				う蝕治療			矯正治療					小児歯科治療			その他							
ミニマムケース数(完成補綴物)	2																2													2																							
学生名	個人トレー（上下顎）	咬合床（上下顎）	ゴシックアーチトレーサー	全部床義歯（上下顎）	個人トレー（片顎）	咬合床（片顎）	全部床義歯（片顎）	金属床全部床義歯（片顎）	個人トレー（片顎）	咬合床（片顎）	部分床義歯（1―4本欠損）	部分床義歯（5―8本欠損）	部分床義歯（9―13本欠損）	金属床部分床義歯（1―4本欠損）	金属床部分床義歯（5―8本欠損）	金属床部分床義歯（9―13本欠損）	個歯トレー	個人トレー	仮封冠	支台築造（メタルコア）	支台築造（レジンコア）	全部金属冠	前装金属冠（硬質レジン）	前装金属冠（ポーセレン）	レジンジャケットクラウン	オールセラミッククラウン	ブリッジ（臼歯）	ブリッジ（臼歯・ポーセレン）	ブリッジ（前歯・硬質レジン）	ブリッジ（前歯・ポーセレン）	オブチュレーター	その他（　　）	その他（　　）	その他（　　）	インレー	レジンインレー	セラミックインレー	リテーナー	アクチバトール・FKO	可撤式拡大装置	フレンケル	その他の矯正装置	小児義歯	小児歯冠修復	小児矯正装置	研究用模型	スプリント・ナイトガード	サージカルステント	ホワイトニングトレー	根面キャップ	OPA	磁性アタッチメント	義歯修理

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻

口腔保健工学専攻　学外実習計画表

3年次（2025年度）

週																								
月	9月				10月				11月				12月				1月				2月			
1学年 15名							工学実習 健	グローバル口腔保																

グローバル口腔保健工学実習（海外語学実習：４日間）

実習施設名	学生数	担当教員	概要
台北医学大学	15名	教授：青木和広 准教授：大木明子	日本の歯科技工、歯科医療の現況を知り、日本と海外の歯科医療の違いを認識し、海外の口腔保健工学に携わる学生に説明するために必要な基本的な知識を習得する。 ・引率教員の指導・監視の下、台北医学大学の見学・学生交流 移動・プレゼンテーションの準備（1日目） 台北医学大学・歯科技工所見学（2日目） 大学キャンパス見学・両校プレゼンテーション（3日目） 歯科技工所見学・移動（4日目）

3年次（2025年度）

週																								
月	9月				10月				11月				12月				1月				2月			
1学年 15名							小児歯科学実習																	

小児歯科学実習（障がい者施設見学実習：2日間）

実習施設名	学生数	担当教員	概要
障がい者施設 （ゆきわりそう）	15名	准教授：岩城麻衣子	障がい者口腔保健センターの協力を得て、利用者のプログラムを見学し、障がい者理解を深めるとともに、口腔内状況、治療内容と口腔内装置の実際を確認し、健常者との相違を理解する。 ・引率教員の指導・監視の下、利用者プログラムの見学 1日目 見学実習前オリエンテーション（1時間） 利用者プログラムの解説（1時間） プログラム見学（4時間） 2日目 利用者プログラムの解説（1時間） プログラム見学（3時間） 見学実習後ミーティング（1時間） レポート作成（1時間）

2年次（2024年度）

週																
月	4月				5月				6月				7月			
1学年 15名															口腔保健理工学実習	

口腔保健理工学実習（企業見学実習：1日間）

実習施設名	学生数	担当教員	概要
企業 （トクヤマデンタル）	15名	助教：塩沢真穂	歯科技工材料の製造メーカーの見学を通して、製造過程と品質管理を理解し、歯科技操作にて歯科技工材料を適切に取り扱うことの重要性を認識する。 ・引率教員の指導・監視の下、企業見学 見学実習前オリエンテーション（1時間） 歯科材料製造工程見学（2時間） 材料の品質管理工程見学（2時間）

3年次（2025年度）

週																
月	4月				5月				6月				7月			
1学年 15名															デジタル歯冠修復学実習	

デジタル歯冠修復学実習（見学実習：1日間）

実習施設名	学生数	担当教員	概要
企業 （丸紅情報システムズ）	15名	助教：土田優美	工業用CAD/CAM機器と材料およびソフトウェアの製造メーカーの見学を通して、工業用器材がどのように開発され、歯科技工操作に応用されるようになったのかを理解する。 ・引率教員の指導・監視の下、企業見学 見学実習前オリエンテーション（1時間） 工業用器材製造工程見学（2時間） 歯科用器材製造工程見学（2時間）

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	ﾏｽ ｶｽﾞﾔ 益　一哉 ＜平成30年４月１日＞		工学博士		東京工業大学学長 （平成30.4.1～R6.3.31）

（注）　高等専門学校にあっては校長について記入すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（歯学部歯学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専任	教授	ｲｾｷ ｻﾁｺ 井関　祥子 ＜令和6年10月＞		博士（学術）		研究入門Ⅰ 研究入門Ⅰα 人体の構造と機能（組織学総論） 人体の構造と機能（組織学各論） 人体の構造と機能（人体の発生） 人体の構造と機能（口腔組織学） 研究入門Ⅱ 研究入門Ⅱα 病態科学演習 課題統合セミナー 研究入門Ⅲ 研究実習Ⅰ 研究実習Ⅱ デンタルエクスターンシップ	1後 1後 2前 2後 2後 2後 2後 2後 3前 3後 3後 3後 4前 1・2・3・4・5・6通	0.5 1 1 2 1 1 0.5 1 3.5 2 0.5 7 1 1～6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	5日
2	専任	教授	ｳｵ ﾓﾄﾋﾛ 宇尾　基弘 ＜令和6年10月＞		博士（工学）		歯科材料と歯科医療機器（歯科理工学） 研究入門Ⅲ	3後 3後	3.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成23年4月）	5日
3	専任	教授	ﾏﾙｶﾜ ｴﾘｺ 丸川　恵理子 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		インプラント治療学	4後	1.5	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年8月）	5日
4	専任	教授	ｲﾜﾅｶﾞ ｼﾞｮｳ 岩永　譲 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		人体の構造と機能（歯の解剖） 人体の構造と機能（人体解剖学） 人体の構造と機能（人体解剖実習） 口腔顎顔面臨床解剖	1後 2前 2前 5後	0.5 4 4 1.5	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年7月）	5日
5	専任	教授	ｲﾜﾀ ﾀｶﾉﾘ 岩田　隆紀 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯周病学	4前	2	1	東京医科歯科大学 教授 （平成31年2月）	5日
6	専任	教授	ｲﾜﾓﾄ ﾂﾄﾑ 岩本　勉 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		課題統合セミナー 小児歯科学 障害者歯科学	3後 4後 4後	2 2 0.5	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年5月）	5日
7	専任	教授	ｵｷﾁﾞ ﾀｶｼ 興地　隆史 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学 発展歯科臨床	4前 5前	2 3	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年1月）	5日
8	専任	教授	ﾊﾗﾀﾞ ﾋﾛﾕｷ 原田　浩之 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		口腔外科学	4前	2	1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年4月）	5日
9	専任	教授	ﾄﾊﾗ ﾊﾙｶ 戸原　玄 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		病態科学演習 長寿口腔健康科学	3前 5後	3.5 1.5	1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	5日
10	専任	教授	ﾐｳﾗ ﾏｻﾋｺ 三浦　雅彦 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯科放射線学基礎 歯科放射線学臨床 発展歯科臨床	3後 4後 5前	1.5 1 3	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	5日
11	専任	教授	ﾜｶﾊﾞﾔｼ ﾉﾘﾕｷ 若林　則幸 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		臨床歯学ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ 部分床補綴学	3前 4前	1 2	1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	5日

12	専任	教授	ｵﾉ ﾀｶｼ 小野　卓史 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		研究入門Ⅰ 研究入門Ⅰα 研究入門Ⅱ 研究入門Ⅱα 課題統合セミナー 研究入門Ⅲ 研究実習Ⅰ 研究実習Ⅱ 歯科矯正学	1後 1後 2後 2後 3後 3後 3後 4前 4後	0.5 1 0.5 1 2 0.5 7 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	5日
13	専任	教授	ｳｴｻｶ ﾅｵﾌﾐ 上阪　直史 ＜令和6年10月＞		博士 （生物 科学）		人体の構造と機能（神経系の機能I） 人体の構造と機能（神経系の機能II） 人体の構造と機能（生命維持のための生体機能） 人体の構造と機能（口腔生理） 人体の構造と機能（生理学実習） 病態科学演習 基礎医歯学総合学習 歯科医療総合学習	2前 2前 2後 2後 2後 3前 4後 6後	0.5 0.5 0.5 0.5 0.5 3.5 0.5 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	5日
14	専任	教授	ﾆｯﾀ ﾋﾛｼ 新田　浩 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		行動科学基礎 歯科医療基礎Ⅰ 臨床歯学ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ 歯科医療基礎Ⅱ 行動科学発展 課題統合セミナー 歯科医療基礎Ⅲ 包括臨床実習導入 包括臨床実習Ⅰ 包括臨床実習Ⅱ 包括臨床実習Ⅲ	1後 2後 3前 3前 3前 3後 4前 5前 5前 5後 6前	2 1 1 2 1 2 1.5 4 6 15 11	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成31年4月）	5日
15	専任	教授	ﾓﾘﾔﾏ ｹｲｼﾞ 森山　啓司 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯科矯正学	4後	2	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	5日
16	専任	教授	ｱｵｷ ｱｷﾗ 青木　章 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯周病学	4前	2	1	東京医科歯科大学 教授 （平成31年2月）	5日
17	専任	教授	ﾏｴﾀﾞ ｼｹﾞﾙ 前田　茂 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		病態科学演習 歯科麻酔学 発展歯科臨床	3前 4前 5前	3.5 2 3	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年4月）	5日
18	専任	教授	ｱｲﾀﾞ ｼﾞｭﾝ 相田　潤 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		社会と環境 予防と健康管理 医療統計学・疫学基礎 総合診療・地域医療 高齢者歯科学 医療統計学・疫学演習 基礎医歯学総合学習 長寿口腔健康科学 歯科医療総合学習 口腔疫学基礎 疫学応用	1後 2後 2後 3後 4前 4後 4後 5後 6後 1前 1後	1.5 3 1 1 1 1 0.5 1.5 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年8月）	5日
19	専任	教授	ﾅｶｼﾏ ﾄﾓｷ 中島　友紀 ＜令和6年10月＞		博士 （薬 学）		硬組織生化学の分子的基盤 生命の分子的基盤実習 課題統合セミナー 長寿口腔健康科学	1後 1後 3後 5後	1 0.5 2 1.5	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成28年3月）	5日
20	専任	教授	ﾌｴｷ ｹﾝｼﾞ 笛木　賢治 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		研究入門Ⅰ 研究入門Ⅰα 研究入門Ⅱ 研究入門Ⅱα 研究入門Ⅲ 研究実習Ⅰ 研究実習Ⅱ 発展歯科臨床 配属選択実習	1後 1後 2後 2後 3後 3後 4前 5前 6後	0.5 1 0.5 1 0.5 7 1 3 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年9月）	5日

21	専任	教授	ﾜﾀﾍﾞ ﾃﾂﾛｳ 渡部　徹郎 ＜令和6年10月＞		博士 （生物 科学）		遺伝の分子的基盤	1後	0.5	1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年7月）	5日
22	専任	教授	ｼﾏﾀﾞ ﾔｽｼ 島田　康史 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		早期臨床体験実習 保存修復学 基礎医歯学総合学習 包括臨床実習導入 包括臨床実習Ⅰ 包括臨床実習Ⅱ 包括医療統合教育Ⅰ 包括臨床実習Ⅲ 包括医療統合教育Ⅱ 歯科医療総合学習	1後 4前 4後 5前 5前 5後 5後 6前 6前 6後	1 2 0.5 4 6 15 1 11 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年9月）	5日
23	専任	教授	ﾄﾖﾌｸ ｱｷﾗ 豊福　明 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		発展歯科臨床 歯科心身医学	5前 5前	3 1	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	5日
24	専任	教授	ｷﾉｼﾀ ｱﾂﾋﾛ 木下　淳博 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		基礎情報医歯学 医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 歯科医療基礎Ⅲ	1後 1後 2前 4前	1 2 1 1.5	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	5日
25	専任	教授	ｽｽﾞｷ ﾄｼﾋｺ 鈴木　敏彦 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		感染と生体防御（免疫学・細菌学） 病態科学演習	3前 3前	4 3.5	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年7月）	5日
26	専任	教授	ｻｸﾗﾀﾞ ｺｳｲﾁ 櫻田　宏一 ＜令和6年10月＞		博士 （生物 科学）		歯科法医学	3前	1	1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年3月）	5日
27	専任	准教授	ｱｼﾀﾞ ﾋﾛｼ 芦田　浩 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		感染と生体防御（免疫学・細菌学）	3前	4	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成29年4月）	5日
28	専任	准教授	ｺﾏﾀﾞ ﾜﾀﾙ 駒田　亘 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		冠橋義歯補綴学 基礎医歯学総合学習 歯科医療総合学習	4後 4後 6後	2 0.5 2	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年1月）	5日
29	専任	准教授	ｻｻｷ ﾖｼﾕｷ 佐々木　好幸 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		社会と環境 医療情報学	1後 4後	1.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	5日
30	専任	准教授	ｵｶﾞﾜ ﾀｸﾔ 小川　卓也 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		課題統合セミナー 歯科矯正学	3後 4後	2 2	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成31年4月）	5日
31	専任	准教授	ﾏﾂﾔﾏ ﾕｳｽｹ 松山　祐輔 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		社会と環境 予防と健康管理 医療統計学・疫学基礎 医療統計学・疫学演習 口腔疫学基礎 疫学応用	1後 2後 2後 4後 1前 1後	1.5 3 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年8月）	5日
32	専任	准教授	ｳｴﾉ ﾀｹｼ 上野　剛史 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		部分床補綴学	4前	2	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年12月）	5日
33	専任	准教授	ﾓﾘﾀ ｹｲｲﾁ 森田　圭一 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		課題統合セミナー 口腔外科学	3後 4前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年11月）	5日

34	専任	准教授	ﾆｼﾔﾏ ｱｷﾗ 西山　暁 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		早期臨床体験実習 歯科医療基礎Ⅰ 臨床歯学ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ 病態科学演習 歯科医療基礎Ⅱ 課題統合セミナー 発展歯科臨床	1後 2後 3前 3前 3前 3後 5前	1 1 1 3.5 2 2 3	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年5月）	5日
35	専任	准教授	ｶﾜｼﾏ ﾉﾌﾞﾕｷ 川島　伸之 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年12月）	5日
36	専任	准教授	ﾅｶｶﾞﾜ ｶｽﾞﾊﾙ 中川　量晴 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		課題統合セミナー	3後	2	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年4月）	5日
37	専任	准教授	ﾅｶﾊﾏ ｹﾝｲﾁ 中濱　健一 ＜令和6年10月＞		博士 （学 術）		生命を構成する分子とその代謝 生命の分子的基盤実習	1後 1後	1 0.5	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	5日
38	専任	准教授	ｲﾉｺｼ ﾏｻﾅｵ 猪越　正直 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		臨床歯学ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ 高齢者歯科学	3前 4前	1 1	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年10月）	5日
39	専任	准教授	ﾂﾙﾀ ｼﾞｭﾝ 鶴田　潤 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		多職種連携Ⅰ 歯学入門 学年混合セミナーⅠ 多職種連携Ⅱ 歯科医療基礎Ⅱ 学年混合セミナーⅡ 歯科医療基礎Ⅲ 学年混合セミナーⅢ 基礎医歯学総合学習 包括臨床実習導入 包括臨床実習Ⅰ 包括臨床実習Ⅱ 包括医療統合教育Ⅰ 多職種連携Ⅲ 包括臨床実習Ⅲ 包括医療統合教育Ⅱ 歯科医療総合学習	1前 1後 2前 3前 3前 3前 4前 4前 4後 5前 5前 5後 5後 6前 6前 6前 6後	0.5 1 0.5 0.5 2 0.5 1.5 0.5 0.5 4 6 15 1 1 11 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	5日
40	専任	准教授	ﾀﾊﾞﾀ ﾏｺﾄ 田畑　純 ＜令和6年10月＞		博士 （学 術）		基礎情報医歯学 人体の構造と機能（組織学総論） 人体の構造と機能（組織学各論） 人体の構造と機能（人体の発生） 人体の構造と機能（口腔組織学）	1後 2前 2後 2後 2後	1 1 2 1 1	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	5日
41	専任	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛｼ 渡邊　裕 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		学年混合セミナーⅠ 学年混合セミナーⅡ 歯科放射線学基礎 学年混合セミナーⅢ 歯科放射線学臨床 発展歯科臨床	2前 3前 3後 4前 4後 5前	0.5 0.5 1.5 0.5 1 3	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成23年4月）	5日
42	専任	准教授	ﾐﾁ ﾔｽﾕｷ 道　泰之 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		病態科学演習 歯科医療基礎Ⅱ 口腔外科学	3前 3前 4前	3.5 2 2	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年11月）	5日
43	専任	准教授	ﾀﾁｶﾜ ﾉﾘｺ 立川　敬子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		インプラント治療学	4後	1.5	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年1月）	5日
44	専任	准教授	ﾊﾔｼ ﾐｷﾋﾄ 林　幹人 ＜令和6年10月＞		博士 （学 術）		硬組織生化学の分子的基盤 生命の分子的基盤実習 課題統合セミナー	1後 1後 3後	1 0.5 2	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年4月）	5日

45	専任	准教授	ﾜｷﾀ ﾘｮｳ 脇田　亮 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		臨床歯学ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ 病態科学演習	3前 3前	1 3.5	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成26年11月）	5日
46	専任	講師	ｳﾂﾉ ﾊｼﾞﾒ 宇都野　創 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯科法医学	3前	1	1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年7月）	5日
47	専任	講師	ﾖｺﾔﾏ ﾕｷ 横山　由紀 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		人体の構造と機能（組織学総論） 人体の構造と機能（組織学各論） 人体の構造と機能（人体の発生） 人体の構造と機能（口腔組織学） 研究入門Ⅲ	2前 2後 2後 2後 3後	1 2 1 1 0.5	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年7月）	5日
48	専任	講師	ｶｷﾉ ｻﾄｺ 柿野　聡子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		小児歯科学	4後	2	1	東京医科歯科大学 講師 （平成30年4月）	5日
49	専任	講師	ﾖｼﾀｹ ﾋﾛﾕｷ 儀武　啓幸 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		口腔外科学	4前	2	1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年12月）	5日
50	専任	講師	ｽﾐﾀ ﾕｶ 隅田　由香 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		課題統合セミナー	3後	2	1	東京医科歯科大学 講師 （平成21年2月）	5日
51	専任	講師	ﾀｶﾊﾗ ﾅﾐｱｷ 髙原　楠旻 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		口腔外科学	4前	2	1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年5月）	5日
52	専任	講師	ﾎｿﾐﾁ ｼﾞｭﾝ 細道　純 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯科矯正学	4後	2	1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年8月）	5日
53	専任	講師	ｼﾞﾄｸ ﾀﾞｲｽｹ 治德　大介 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		発展歯科臨床	5前	3	1	東京医科歯科大学 講師 （令和2年4月）	5日
54	専任	講師	ﾋﾃﾞｼﾏ ﾏｻﾕｷ 秀島　雅之 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		課題統合セミナー 包括臨床実習導入 包括臨床実習Ⅰ 包括臨床実習Ⅱ 包括臨床実習Ⅲ	3後 5前 5前 5後 6前	2 4 6 15 11	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成16年4月）	5日
55	専任	講師	ﾏﾂﾓﾄ ﾖｼﾛｳ 松本　芳郎 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		課題統合セミナー 歯科矯正学	3後 4後	2 2	1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年8月）	5日
56	専任	講師	ﾀｹｳﾁ ﾔｽｵ 竹内　康雄 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯周病学	4前	2	1	東京医科歯科大学 講師 （平成29年4月）	5日
57	専任	講師	ﾂｼﾏ ﾌﾐﾋｺ 津島　文彦 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		病態科学演習 口腔外科学	3前 4前	3.5 2	1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成29年4月）	5日
58	専任	講師	ﾀﾅｶ ﾀﾞｲｽｹ 田中　大介 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		人体の構造と機能（神経系の機能I） 人体の構造と機能（神経系の機能II） 人体の構造と機能（生命維持のための生体機能） 人体の構造と機能（口腔生理） 人体の構造と機能（生理学実習）	2前 2前 2後 2後 2後	0.5 0.5 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年4月）	5日

59	専任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾓﾄｺ 渡邉　素子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		発展歯科臨床 歯科心身医学	5前 5前	3 1	1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年4月）	5日
60	専任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｻﾄｼ 渡邉　聡 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年12月）	5日
61	専任	講師	ﾋｶﾞｼﾎﾘ ﾉﾘﾋｻ 東堀　紀尚 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		学年混合セミナーⅠ 臨床歯学ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ 学年混合セミナーⅡ 学年混合セミナーⅢ 歯科矯正学	2前 3前 3前 4前 4後	0.5 1 0.5 0.5 2	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成31年4月）	5日
62	専任	講師	ﾄﾐｵｶ ﾋﾛﾌﾐ 富岡　寛文 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		口腔外科学	4前	2	1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年12月）	5日
63	専任	講師	ﾋﾗｲｼ ﾉﾘｺ 平石　典子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		保存修復学	4前	2	1	東京医科歯科大学 講師 （平成31年1月）	5日
64	専任	講師	ｶﾀｷﾞﾘ ｻﾔｶ 片桐　さやか ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		病態科学演習 歯周病学	3前 4前	3.5 2	1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和2年4月）	5日
65	専任	講師	ｷﾀｶﾞﾜ ﾉﾘｵ 北河　憲雄 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		人体の構造と機能（歯の解剖） 人体の構造と機能（人体解剖学） 人体の構造と機能（人体解剖実習） 口腔顎顔面臨床解剖	1後 2前 2前 5後	0.5 4 4 1.5	1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年9月）	5日
66	専任	講師	ﾉｻﾞｷ ｺｳｽｹ 野﨑　浩佑 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		臨床歯学ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ 冠橋義歯補綴学	3前 4後	1 2	1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年8月）	5日
67	専任	講師	ﾜﾀﾞ ﾀｶﾋﾛ 和田　敬広 ＜令和6年10月＞		博士 （工 学）		歯科材料と歯科医療機器（歯科理工学）	3後	3.5	1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年10月）	5日
68	専任	講師	ﾄﾅﾐ ｹﾝｲﾁ 礪波　健一 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		行動科学基礎 歯科医療基礎Ⅰ 歯科医療基礎Ⅱ 行動科学発展 総合診療・地域医療 課題統合セミナー 歯科医療基礎Ⅲ	1後 2後 3前 3前 3後 3後 4前	2 1 2 1 1 2 1.5	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年8月）	5日
69	専任	助教	ｲﾉｳｴ ｶﾀｼﾞﾅｱﾝﾅ 井上　カタジナアンナ ＜令和6年10月＞		博士 （工 学）		細胞機能の分子的基盤 生命の分子的基盤実習	1後 1後	1 0.5	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	5日
70	専任	助教	ｲﾉｳｴ ｺﾞｳ 井上　剛 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		保存修復学	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	5日
71	専任	助教	ｲﾅﾓﾁ ﾕｶ 稲用　友佳 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		部分床補綴学	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	5日
72	専任	助教	ｳｽﾐ ﾘｻ 臼見　莉沙 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯科矯正学	4後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	5日
73	専任	助教	ｵｶﾉ ﾄｸｼﾞｭ 岡野　徳壽 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		感染と生体防御（免疫学・細菌学）	3前	4	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年3月）	5日

74	専任	助教	ｼﾓｷﾞｼ ﾏｻﾋﾛ 下岸　将博 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		臨床歯学ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ インプラント治療学	3前 4後	1 1.5	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	5日
75	専任	助教	ｶﾄｳ ﾁﾎ 加藤　千帆 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯科矯正学	4後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	4日
76	専任	助教	ｶｲﾀﾞ ｱﾂｼ 戒田　篤志 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯科放射線学基礎 歯科放射線学臨床 発展歯科臨床	3後 4後 5前	1.5 1 3	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年9月）	5日
77	専任	助教	ｴﾋﾞﾊﾗ ｱﾗﾀ 海老原　新 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯内治療学 基礎医歯学総合学習 包括臨床実習導入 包括臨床実習Ⅰ 包括臨床実習Ⅱ 包括臨床実習Ⅲ 歯科医療総合学習	4前 4後 5前 5前 5後 6前 6後	2 0.5 4 6 15 11 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成19年4月）	5日
78	専任	助教	ｶﾔﾓﾘ ｺｳ 栢森　高 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		学年混合セミナーⅠ 病因と病態（病理学） 病態科学演習 学年混合セミナーⅡ 学年混合セミナーⅢ	2前 3前 3前 3前 4前	0.5 3.5 3.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	5日
79	専任	助教	ﾖｼｻﾞﾜ ﾋﾃﾞﾕｷ 吉澤　英之 ＜令和6年10月＞		学士 （歯 学）		歯科矯正学	4後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	4日
80	専任	助教	ｵｲｶﾜ ﾕｳ 及川　悠 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		口腔外科学	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	5日
81	専任	助教	ﾊｼﾓﾄ ｹﾝﾀﾛｳ 橋本　健太郎 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		臨床歯学ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ 歯内治療学 発展歯科臨床	3前 4前 5前	1 2 3	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和元年10月）	5日
82	専任	助教	ｺﾏｶﾞﾐﾈ ﾕﾘｺ 駒ヶ嶺　友梨子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		全部床補綴学 発展歯科臨床	4前 5前	2 3	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成26年4月）	5日
83	専任	助教	ｸﾘﾊﾞﾔｼ ｱﾐ 栗林　亜実 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		学年混合セミナーⅠ 学年混合セミナーⅡ 歯科放射線学基礎 学年混合セミナーⅢ 歯科放射線学臨床 発展歯科臨床	2前 3前 3後 4前 4後 5前	0.5 0.5 1.5 0.5 1 3	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	5日
84	専任	助教	ﾊﾗｿﾞﾉ ﾖｳｽｹ 原園　陽介 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		口腔外科学	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	5日
85	専任	助教	ﾊﾗﾀﾞ ﾅｵｺ 原田　直子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		課題統合セミナー	3後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	4日
86	専任	助教	ﾀｶﾊｼ ﾚﾅ 高橋　礼奈 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		保存修復学	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	5日
87	専任	助教	ﾈﾓﾄ ﾚｲﾅ 根本　怜奈 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		学年混合セミナーⅠ 学年混合セミナーⅡ 学年混合セミナーⅢ 冠橋義歯補綴学 発展歯科臨床	2前 3前 4前 4後 5前	0.5 0.5 0.5 2 3	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成26年4月）	5日

88	専任	助教	ｻﾄｳ ﾐﾎ 佐藤　美穂 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		冠橋義歯補綴学 発展歯科臨床	4後 5前	2 3	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	4日
89	専任	助教	ｻﾄｳ ﾀｶｱｷ 佐藤　隆明 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		保存修復学 発展歯科臨床	4前 5前	2 3	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	5日
90	専任	助教	ｻﾞｲﾂ ﾀｶｼ 財津　崇 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		社会と環境 予防と健康管理 医療統計学・疫学基礎 医療統計学・疫学演習	1後 2後 2後 4後	1.5 3 1 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成23年4月）	5日
91	専任	助教	ﾔﾏｸﾞﾁ ｺｳﾍｲ 山口　浩平 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		病態科学演習 課題統合セミナー	3前 3後	3.5 2	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	5日
92	専任	助教	ﾔﾏｻﾞｷ ﾖｳｺ 山﨑　陽子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		病態科学演習 発展歯科臨床	3前 5前	3.5 3	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	5日
93	専任	助教	ﾃﾗｳﾁ ﾏｻﾋｺ 寺内　正彦 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		口腔外科学	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	5日
94	専任	助教	ｵｶﾞｻﾜﾗ ﾀｹｼ 小笠原　毅 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯科矯正学	4後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年5月）	5日
95	専任	助教	ｵｶﾞﾜ ﾀｸﾔ 小川　卓也 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯科矯正学	4後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年5月）	4日
96	専任	助教	ｵﾉ ﾀｹﾋﾄ 小野　岳人 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		硬組織生化学の分子的基盤 生命の分子的基盤実習 課題統合セミナー 長寿口腔健康科学	1後 1後 3後 5後	1 0.5 2 1.5	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年2月）	5日
97	専任	助教	ｺﾊﾞﾔｼ ﾕｷﾎ 小林　起穂 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		病態科学演習 歯科矯正学	3前 4後	3.5 2	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	5日
98	専任	助教	ｺﾊﾞﾔｼ ﾐﾎ 小林　美穂 ＜令和6年10月＞		博士 （生命 科学）		遺伝の分子的基盤 生命の分子的基盤実習	1後 1後	0.5 0.5	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和元年5月）	5日
99	専任	助教	ﾏﾂﾑﾗ ﾏﾕｺ 松村　茉由子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		冠橋義歯補綴学	4後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	4日
100	専任	助教	ｳｴｿﾞﾉ ﾏｻﾖｼ 上園　将慶 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯科矯正学	4後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	5日
101	専任	助教	ﾌｷﾉ ｹｲｺ 吹野　恵子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		人体の構造と機能（歯の解剖） 人体の構造と機能（人体解剖学） 人体の構造と機能（人体解剖実習） 口腔顎顔面臨床解剖	1後 2前 2前 5後	0.5 4 4 1.5	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年7月）	5日
102	専任	助教	ﾐｽﾞﾀﾆ ｺｳｼﾞ 水谷　幸嗣 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯周病学	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	5日

103	専任	助教	ｽｷﾞﾓﾄ ｱｽﾅ 杉本　明日菜 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		小児歯科学	4後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年3月）	5日
104	専任	助教	ｲｼﾔﾏ ﾋﾛﾕｷ 石山　裕之 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		冠橋義歯補綴学	4後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	4日
105	専任	助教	ｲｼﾀﾞ ﾕｳｼﾞ 石田　雄之 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯科矯正学	4後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年4月）	5日
106	専任	助教	ﾏｴｶﾜ ｼｮｳｺﾞ 前川　祥吾 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯周病学	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年9月）	5日
107	専任	助教	ｸﾗｻﾜ ﾔｽﾋﾛ 倉沢　泰浩 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		臨床歯学ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ 口腔外科学	3前 4前	1 2	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年1月）	5日
108	専任	助教	ﾉﾘﾀｹ ｶﾅｺ 則武　加奈子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		多職種連携Ⅰ 歯科医療基礎Ⅰ 多職種連携Ⅱ 歯科医療基礎Ⅱ 課題統合セミナー 歯科医療基礎Ⅲ 多職種連携Ⅲ	1前 2後 3前 3前 3後 4前 6前	0.5 1 0.5 2 2 1.5 1	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	5日
109	専任	助教	ｱﾀﾞﾁ ﾉﾘﾀｶ 足立　礼孝 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		人体の構造と機能（組織学総論） 人体の構造と機能（組織学各論） 人体の構造と機能（人体の発生） 人体の構造と機能（口腔組織学） 研究入門Ⅲ	2前 2後 2後 2後 3後	1 2 1 1 0.5	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年12月）	5日
110	専任	助教	ﾑﾗｶﾐ ﾅﾂｺ 村上　奈津子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		臨床歯学ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ 部分床補綴学	3前 4前	1 2	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年10月）	5日
111	専任	助教	ｵｵﾓﾘ ﾋﾛｺ 大森　浩子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯科矯正学	4後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	4日
112	専任	助教	ｵｵｽｷﾞ ﾕｳｼﾞﾝ 大杉　勇人 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		臨床歯学ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ 歯周病学 発展歯科臨床	3前 4前 5前	1 2 3	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	5日
113	専任	助教	ｵｵｲｼ ｱﾂｼ 大石　敦之 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		臨床歯学ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ 小児歯科学	3前 4後	1 2	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	5日
114	専任	助教	ｵｵﾀｹ ｼﾎ 大竹　志保 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		冠橋義歯補綴学	4後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成23年4月）	5日
115	専任	助教	ﾀｷﾀ ﾐﾅ 瀧田　美奈 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		冠橋義歯補綴学	4後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	4日
116	専任	助教	ﾀｹｳﾁ ｱﾂﾔ 竹内　敦也 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		人体の構造と機能（神経系の機能I） 人体の構造と機能（神経系の機能II） 人体の構造と機能（生命維持のための生体機能） 人体の構造と機能（口腔生理） 人体の構造と機能（生理学実習）	2前 2前 2後 2後 2後	0.5 0.5 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	5日

117	専任	助教	ﾅｶﾈ ｱﾔｺ 中根　綾子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		総合診療・地域医療 課題統合セミナー	3後 3後	1 2	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成21年12月）	5日
118	専任	助教	ﾅｶﾑﾗ ｼﾝ 中村　伸 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯科放射線学基礎 歯科放射線学臨床 発展歯科臨床	3後 4後 5前	1.5 1 3	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成19年4月）	5日
119	専任	助教	ﾂｼﾞ ﾐﾁｺ 辻　美千子 ＜令和6年10月＞		学士 （歯 学）		歯科矯正学	4後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成19年4月）	5日
120	専任	助教	ｸｷﾞﾓﾄ ﾀｸﾏ 釘本　琢磨 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		臨床歯学ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ 病態科学演習 口腔外科学	3前 3前 4前	1 3.5 2	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年7月）	5日
121	専任	助教	ﾀﾊﾞﾀ ﾄﾓｺ 田端　倫子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		臨床歯学ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ	3前	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	4日
122	専任	助教	ﾀｻﾞﾜ ｹﾝﾄ 田澤　建人 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	5日
123	専任	助教	ﾜﾀﾘ ｲｯﾍﾟｲ 渡　一平 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯科矯正学	4後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	5日
124	専任	助教	ｸｽﾓﾄ ﾔｽｶ 楠本　康香 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		臨床歯学ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ 障害者歯科学	3前 4後	1 0.5	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成23年1月）	5日
125	専任	助教	ﾊﾞﾊﾞ ﾕｷｺ 馬場　有希子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		隣接医学Ⅰ（内科等） 隣接医学Ⅱ（外科・耳鼻科・眼科等）	3前 3前	1.5 1.5	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年4月）	5日
126	専任	助教	ｳﾒﾓﾘ ｻﾁ 梅森　幸 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		行動科学基礎 歯科医療基礎Ⅰ 歯科医療基礎Ⅱ 行動科学発展 総合診療・地域医療 課題統合セミナー 歯科医療基礎Ⅲ	1後 2後 3前 3前 3後 3後 4前	2 1 2 1 1 2 1.5	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	5日
127	専任	助教	ﾊﾀﾔﾏ ﾀｶｼ 畑山　貴志 ＜令和6年10月＞		学士 （歯 学）		発展歯科臨床	5前	3	1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	4日
128	専任	助教	ｲｲﾉ ﾖｼｺ 飯野　由子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯科医療基礎Ⅱ	3前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年3月）	5日
129	専任	助教	ｿｴﾀﾞ ﾕﾐｶ 副田　弓夏 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		全部床補綴学	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年10月）	5日
130	専任	助教	ﾊｯﾄﾘ ﾏﾘｺ 服部　麻里子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		課題統合セミナー	3後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	5日
131	専任	助教	ﾋﾗｲ ﾋﾃﾞｱｷ 平井　秀明 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		口腔外科学	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成26年4月）	5日
132	専任	助教	ﾖﾈﾐﾂ ｲｸｵ 米満　郁男 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		臨床歯学ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ 課題統合セミナー 歯科矯正学	3前 3後 4後	1 2 2	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	5日

133	専任	助教	ﾐﾈｷﾞｼ ｻｷ 峰岸　沙希 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯科法医学	3前	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年7月）	5日
134	専任	助教	ﾏｷ ｹｲｲﾁﾛｳ 牧　圭一郎 ＜令和6年10月＞		学士 （歯 学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	4日
135	専任	助教	ｷﾑﾗ ﾔｽﾕｷ 木村　康之 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯科医療基礎Ⅱ 歯科心身医学	3前 5前	2 1	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	5日
136	専任	助教	ｷﾑﾗ ｼｭﾝｽｹ 木村　俊介 ＜令和6年10月＞		学士 （歯 学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	4日
137	専任	助教	ｷﾉ ｼﾎ 木野　志保 ＜令和6年10月＞		PhD in Epidemiology and Public Health		社会と環境 予防と健康管理 医療統計学・疫学基礎 医療統計学・疫学演習 口腔疫学基礎 疫学応用	1後 2後 2後 4後 1前 1後	1.5 3 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	5日
138	専任	助教	ﾉﾀﾞ ｿﾉｺ 野田　園子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	4日
139	専任	助教	ﾄﾓﾏﾂ ﾉﾌﾞﾖｼ 友松　伸允 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		口腔外科学	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年4月）	5日
140	専任	助教	ﾊﾔｼ ｶｲﾘ 林　海里 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		冠橋義歯補綴学	4後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年7月）	5日
141	専任	助教	ｽｽﾞｷ ﾋﾛﾕｷ 鈴木　啓之 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		全部床補綴学 高齢者歯科学	4前 4前	2 1	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	5日
142	専任	助教	ﾜﾀﾞ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 和田　淳一郎 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		部分床補綴学	4前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年10月）	5日
143	専任	助教	ﾜﾀﾞ ｶﾅｴ 和田　奏絵 ＜令和6年10月＞		学士 （歯 学）		小児歯科学	4後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年10月）	5日
144	専任	助教	ﾊﾏ ﾖｳﾍｲ 濱　洋平 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		臨床歯学ｲﾝﾄﾛﾀﾞｸｼｮﾝ 全部床補綴学 高齢者歯科学 基礎医歯学総合学習 発展歯科臨床 長寿口腔健康科学 歯科医療総合学習	3前 4前 4前 4後 5前 5後 6後	1 2 1 0.5 3 1.5 2	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	5日
145	専任	助教	ﾀｶｲﾁ ｱﾂｼ 髙市　敦士 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		部分床補綴学 発展歯科臨床	4前 5前	2 3	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年2月）	5日
146	専任	助教	ﾀｶｸｻｷ ｹﾝｽｹ 髙草木　謙介 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		部分床補綴学 発展歯科臨床	4前 5前	2 3	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年1月）	5日

147	兼担	教授	ﾎｳ ﾋﾞﾝ BAO MIN ＜令和6年10月＞		修士 （社会福祉学）		国際地域文化入門 人文社会科学特論 フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1前 1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前	2 2 2 2 2 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成31年4月）	
148	兼担	教授	ﾊﾟｸ ﾍｦｫﾝ PARK HEEWON ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 生物統計学応用Ⅱ	1後 2前 1後	2 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年6月）	
149	兼担	教授	ｲﾄｳ ﾏｻﾉﾘ 伊藤　正則 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		生物学入門 生物学 サイエンスPBL入門 自然科学実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 生命科学基礎 自然科学演習	1前 1前 1後 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 1後 2後	1 2 1.5 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成22年4月）	
150	兼担	教授	ｶｹﾞﾁｶ ﾋﾛﾕｷ 影近　弘之 ＜令和6年10月＞		博士 （薬学）		生体と薬物（薬理学）	3前	3	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
151	兼担	教授	ｶｷﾇﾏ ｾｲ 柿沼　晴 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年6月）	
152	兼担	教授	ｽﾐ ﾕｳｷ 角　勇樹 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 AI実践演習	1後 2前 2通	2 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成26年4月）	
153	兼担	教授	ｶﾊﾞｻﾜ ﾕｳｼﾞ 樺沢　勇司 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 包括医療統合教育Ⅰ 多職種連携Ⅲ 包括医療統合教育Ⅱ	1前 3前 5後 6前 6前	0.5 0.5 1 1 1	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成29年2月）	
154	兼担	教授	ﾖｼﾑﾗ ﾘｮｳｲﾁ 吉村　亮一 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		歯科放射線学臨床 発展歯科臨床	4後 5前	1 3	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成26年4月）	
155	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ﾏｻﾕｷ 吉田　雅幸 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
156	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ﾅｵﾐ 吉田　直美 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成29年9月）	
157	兼担	教授	ﾀﾏﾑﾗ ﾋﾛｶｽﾞ 玉村　啓和 ＜令和6年10月＞		博士 （薬学）		生体と薬物（薬理学）	3前	3	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	

158	兼担	教授	ｶﾅｲ ﾏｻﾐ 金井　正美 ＜令和6年10月＞		博士 （農 学）		研究入門Ⅲ	3後	0.5	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
159	兼担	教授	ｶﾈｶﾞﾈ ﾋﾛｶｽﾞ 金兼　弘和 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		隣接医学Ⅰ（内科等）	3前	1.5	1	東京医科歯科大学 教授 （平成30年7月）	
160	兼担	教授	ｶﾅｻﾞﾜ ﾏﾅﾌﾞ 金澤　学 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		全部床補綴学	4前	2	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年5月）	
161	兼担	教授	ｸﾞ ﾖｼｱｷ 具　芳明 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		生体と薬物（薬理学）	3前	3	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年4月）	
162	兼担	教授	ｻｻｷ ﾖｼｺ 佐々木　吉子 ＜令和6年10月＞		博士 （看護 学）		多職種連携Ⅲ	6前	1	1	東京医科歯科大学 教授 （平成26年4月）	
163	兼担	教授	ｻｻｷ ﾀｹﾋｺ 佐々木　雄彦 ＜令和6年10月＞		博士 （薬 学）		生体と薬物（薬理学）	3前	3	1	東京医科歯科大学 教授 （平成30年3月）	
164	兼担	教授	ﾊﾞﾝﾅｲ ﾋﾃﾞｵ 坂内　英夫 ＜令和6年10月＞		博士 （情報 理工 学）		医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用	1後 2前	2 1	1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
165	兼担	教授	ｻｻﾉ ﾃﾂｵ 笹野　哲郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		病態科学演習	3前	3.5	1	東京医科歯科大学 教授 （令和元年6月）	
166	兼担	教授	ﾔﾏﾜｷ ﾏｻﾅｶﾞ 山脇　正永 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		総合診療・地域医療	3後	1	1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年12月）	
167	兼担	教授	ﾏﾂｵ ｺｳｲﾁﾛｳ 松尾　浩一郎 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		総合診療・地域医療	3後	1	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年4月）	
168	兼担	教授	ﾆｼﾅ ﾋﾛｼ 仁科　博史 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		生体と薬物（薬理学）	3前	3	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
169	兼担	教授	ｼﾐｽﾞ ﾋﾃﾞﾕｷ 清水　秀幸 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 生物統計学応用Ⅱ	1後 2前 1後	2 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年2月）	
170	兼担	教授	ｱｵｷ ｶｽﾞﾋﾛ 青木　和広 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		多職種連携Ⅰ 基礎情報医歯学 生体と薬物（薬理学）	1前 1後 3前	0.5 1 3	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成29年2月）	
171	兼担	教授	ｵｵｶﾜ ﾘｭｳﾉｽｹ 大川　龍之介 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成31年4月）	
172	兼担	教授	ｵｵﾄﾓ ﾔｽﾋﾛ 大友　康裕 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
173	兼担	教授	ﾀｹｳﾁ ｶﾂﾕｷ 竹内　勝之 ＜令和6年10月＞		修士 （医科 学）		アントレプレナー教育	2・3・4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年4月）	

174	兼担	教授	ﾅｶﾊﾞﾔｼ ｼﾞｭﾝ 中林　潤 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		数学Ⅰ 数学Ⅱ サイエンスPBL入門 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 自然科学演習	1前 1前 1後 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 1後 1後 2前 2後	1 1 1.5 1 2 1 1 1 1 1 1.5 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
175	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾏｺﾄ 田中　真琴 ＜令和6年10月＞		博士 （生物科学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成28年6月）	
176	兼担	教授	ﾌｼﾞｲ ﾀﾂｵ 藤井　達夫 ＜令和6年10月＞		修士 （政治学）		人文社会科学概論 国際地域文化入門 政治学 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前	2 2 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年1月）	
177	兼担	教授	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾀｹｵ 藤原　武男 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		ポストコロナ社会における感染症対策 疫学基礎	1・2・3・4・5・6通 1前	1 1	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成28年4月）	
178	兼担	教授	ﾅﾗ ﾏｻﾕｷ 奈良　雅之 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		化学入門 化学 サイエンスPBL入門 自然科学実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 生命科学基礎 自然科学演習	1前 1前 1後 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 1後 2後	1 2 1.5 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成22年4月）	
179	兼担	教授	ｸﾛﾔﾅｷﾞ ｶｽﾞﾖ 畔柳　和代 ＜令和6年10月＞		修士 （学術）		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 多職種連携Ⅰ 英語Ⅱ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1通 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 1前 2・3・4・5・6通 3前 6前	6 1 2 1 1 1 1 1 1 1.5 0.5 1～4 0.5 1	6 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成22年12月）	
180	兼担	教授	ﾋﾗｶﾜ ｱｷﾋﾛ 平川　晃弘 ＜令和6年10月＞		博士 （工学）		医療とAI・ビッグデータ応用 臨床試験方法論基礎 臨床試験方法論応用	2前 1前 1後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	

181	兼担	教授	ｷﾀﾆ ﾏｷｺ 木谷　真紀子 ＜令和6年10月＞		博士 (国文学)		人文社会科学概論 国際地域文化入門 民俗学 文学 社会心理学 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1前 1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 1後	2 2 2 2 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5 1	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年4月)	
182	兼担	教授	ﾔｷﾞｼﾀ ｶｽﾞﾖｼ 柳下　和慶 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		フィジカルウェルビーイング フィットネスマネジメント 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座	1前 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前	2 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和4年7月)	
183	兼担	教授	ｱｲ ﾏｽﾐ 藍　真澄 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 教授 (平成25年7月)	
184	兼担	教授	ﾋｴﾀﾞ ﾐﾂﾉﾘ 檜枝　光憲 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		物理学入門 物理学Ⅰ 物理学Ⅱ サイエンスPBL入門 自然科学実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 医療とAI・ビッグデータ入門	1前 1前 1前 1後 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 1後	1 1 1 1.5 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成27年4月)	
185	兼担	教授	ｻｲﾄｳ ﾘｮｳｲﾁ 齋藤　良一 ＜令和6年10月＞		博士 (保健学)		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年7月)	
186	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ｸﾆﾋｺ 髙橋　邦彦 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		医療とAI・ビッグデータ入門 生物統計学基礎 生物統計学応用Ⅰ 生物統計学応用Ⅱ	1後 1前 1後 1後	2 1 1 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年4月)	
187	兼担	教授	ﾀｶﾀﾞ ｶｽﾞｷ 髙田　和生 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		Moral and Political Philosophy for Medicine Leadership Negotiation Design Thinking オンライン異文化交流	1・2・3・4・5・6通 1・2・3・4・5・6通 1・2・3・4・5・6通 1・2・3・4・5・6通 1・2・3・4・5・6通	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成24年12月)	

188	兼担	准教授	ｷｬﾈﾙ ﾃﾞｲﾋﾞｯﾄ CANNELL DAVID ＜令和6年10月＞		PhD East Asian Languages and Literatures		教養選択科目 学年混合セミナーⅠ 学年混合セミナーⅡ 学年混合セミナーⅢ	1通 2前 3前 4前	1 0.5 0.5 0.5	1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成26年6月）	
189	兼担	准教授	ｼﾞｬﾈﾙ ﾙﾈ ﾓﾛｽ JANELLE RENEE MOROSS ＜令和6年10月＞		准学士（看護）		International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L1 International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L2 International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L3 System-based medical terminology I System-based medical terminology II IMRAD Format Presentation in English International Course for Clinical Dentistry (ICCD) Advanced	2後 4後 5後 3前 3～6後 3・4通 4後	2 2 2 1 1 1 0.5	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成26年2月）	
190	兼担	准教授	ｼﾞｪﾈｯﾄ ﾃﾞﾆｿﾝ JEANETTE DENNISSON ＜令和6年10月＞		修士（理学）		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 2・3・4・5・6通	6 1 2 1 1 1 1 1 1.5 1～4	6 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成27年4月）	
191	兼担	准教授	ﾊﾟﾄﾘｯｸ ﾌｫｽ PATRICK FOSS ＜令和6年10月＞		博士（言語学）		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 2・3・4・5・6通	6 1 2 1 1 1 1 1 1.5 1～4	6 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成22年4月）	
192	兼担	准教授	ｺｼﾉ ｶｽﾞｷ 越野　和樹 ＜令和6年10月＞		博士（理学）		物理学入門 物理学Ⅰ 物理学Ⅱ サイエンスPBL入門 自然科学実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 医療とAI・ビッグデータ入門	1前 1前 1前 1後 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 1後	1 1 1 1.5 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成19年4月）	
193	兼担	准教授	ｵｶﾀﾞ ﾀｸﾔ 岡田　卓也 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		Fundamentals of Global Health	1・2・3・4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年4月）	
194	兼担	准教授	ｲﾜｷ ﾏｲｺ 岩城　麻衣子 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		多職種連携Ⅱ	3前	0.5	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年4月）	

195	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｴｲｼﾞ 金子　英司 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
196	兼担	准教授	ｴｶﾞﾜ ﾏｷｺ 江川　真希子 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成31年4月）	
197	兼担	准教授	ｺﾞｳﾔ ﾏｻﾋｺ 合屋　雅彦 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		隣接医学Ⅰ（内科等） 隣接医学Ⅱ（外科・耳鼻科・眼科等）	3前 3前	1.5 1.5	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成27年4月）	
198	兼担	准教授	ｲﾏﾂﾞ ﾖｳｺ 今津　陽子 ＜令和6年10月＞		博士 （看護 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和2年4月）	
199	兼担	准教授	ｶｼﾏﾀﾞ ｹﾝｲﾁ 鹿島田　健一 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		隣接医学Ⅰ（内科等）	3前	1.5	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年10月）	
200	兼担	准教授	ﾆｼｵ ﾐﾜｺ 西尾　美和子 ＜令和6年10月＞		博士 （保健 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和元年5月）	
201	兼担	准教授	ﾏｴｼﾞﾏ ﾔｽﾋﾛ 前嶋　康浩 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		隣接医学Ⅰ（内科等） 隣接医学Ⅱ（外科・耳鼻科・眼科等）	3前 3前	1.5 1.5	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和元年10月）	
202	兼担	准教授	ｵｵｷ ﾒｲｺ 大木　明子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成23年4月）	
203	兼担	准教授	ﾀｹｳﾁ ｼﾞｭﾝ 竹内　純 ＜令和6年10月＞		博士 （バイ オサイ エン ス）		人体の構造と機能（人体の発生）	2後	1	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成28年11月）	
204	兼担	准教授	ﾀｹｳﾁ ﾀｶｼ 竹内　崇 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		発展歯科臨床	5前	3	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和2年4月）	
205	兼担	准教授	ﾅｶｶﾞﾜ ﾐﾅ 中川　美奈 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
206	兼担	准教授	ｲﾉｸﾏ ｹｲｺ 猪熊　恵子 ＜令和6年10月＞		修士 （文 学）		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 2・3・4・5・6通	6 1 2 1 1 1 1 1 1.5 1～4	6 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成24年4月）	
207	兼担	准教授	ﾂｼﾞ ｺｳﾍｲ 辻　耕平 ＜令和6年10月＞		博士 （薬科 学）		生体と薬物（薬理学）	3前	3	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年1月）	
208	兼担	准教授	ﾌｼﾞｲ ｼﾝﾔ 藤井　晋也 ＜令和6年10月＞		博士 （薬 学）		生体と薬物（薬理学）	3前	3	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和元年6月）	

209	兼担	准教授	ﾄｸﾅｶﾞ ｼﾝｲﾁ 徳永　伸一 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		数学Ⅰ 数学Ⅱ サイエンスPBL入門 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 情報処理 医療とAI・ビッグデータ入門	1前 1前 1後 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 1前 1後	1 1 1.5 1 2 1 1 1 1 1 1.5 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成19年4月）	
210	兼担	准教授	ﾅﾜ ﾉﾌﾞﾄｼ 那波　伸敏 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医療とAI・ビッグデータ入門 ポストコロナ社会における感染症対策	1後 1・2・3・4・5・6通	2 1	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年8月）	
211	兼担	准教授	ﾖﾈﾂ ﾀｲｼ 米津　太志 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		隣接医学Ⅰ（内科等） 隣接医学Ⅱ（外科・耳鼻科・眼科等）	3前 3前	1.5 1.5	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年4月）	
212	兼担	准教授	ｻﾜﾉ ﾖﾘｺ 澤野　頼子 ＜令和6年10月＞		博士 （農学）		化学入門 化学 サイエンスPBL入門 自然科学実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 生命科学基礎 自然科学演習	1前 1前 1後 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 1後 2後	1 2 1.5 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成22年4月）	
213	兼担	講師	ｱﾝｻﾞｲ ﾀﾂﾋｺ 安齋　達彦 ＜令和6年10月＞		博士 （医療マネジメント学）		生物統計学基礎 生物統計学応用Ⅰ 生物統計学応用Ⅱ	1前 1後 1後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年9月）	
214	兼担	講師	ｲｽﾐ ｱﾔ 伊角　彩 ＜令和6年10月＞		博士 （国際公共政策）		疫学応用	1後	1	1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年10月）	
215	兼担	講師	ｲﾂｲ ﾔｽﾋﾛ 井津井　康浩 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		多職種連携Ⅰ 医療とAI・ビッグデータ入門 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 1後 3前 6前	0.5 2 0.5 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年4月）	
216	兼担	講師	ｲｿﾀﾞ ﾀｹｼ 磯田　健志 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		隣接医学Ⅰ（内科等）	3前	1.5	1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年4月）	
217	兼担	講師	ｲﾅｼﾞ ﾓﾄｷ 稲次　基希 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		課題統合セミナー	3後	2	1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年8月）	
218	兼担	講師	ｵｶﾀﾞ ｴﾘｺ 岡田　英理子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医療とAI・ビッグデータ入門	1後	2	1	東京医科歯科大学 講師 （平成26年4月）	
219	兼担	講師	ｶｼﾞﾜﾗ ﾐﾁｺ 梶原　道子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年8月）	

220	兼担	講師	ｴﾊﾞﾅ ﾕｳｽｹ 江花　有亮 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 講師 （平成27年5月）	
221	兼担	講師	ｻﾄｳ ｼﾝｺﾞ 佐藤　信吾 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 講師 （平成28年1月）	
222	兼担	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ ｸﾐｺ 山口　久美子 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成23年4月）	
223	兼担	講師	ｺﾌｼﾞ ｻﾄｼ 小藤　智史 ＜令和6年10月＞		博士 （薬 学）		生体と薬物（薬理学）	3前	3	1	東京医科歯科大学 講師 （令和元年12月）	
224	兼担	講師	ﾀﾆ ﾕｶｺ 谷　友香子 ＜令和6年10月＞		博士 （生物 科学）		疫学基礎 疫学応用	1前 1後	1 1	1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年7月）	
225	兼担	講師	ﾌｼﾞﾉ ｼﾞｭﾝﾔ 藤野　純也 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		発展歯科臨床	5前	3	1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年4月）	
226	兼担	講師	ﾋﾗﾃ ﾖｼｶｽﾞ 平手　良和 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		人体の構造と機能（人体の発生）	2後	1	1	東京医科歯科大学 講師 （平成26年4月）	
227	兼担	講師	ｾｷ ﾅｵｺ 關　奈央子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L1 International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L2 International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L3 学年混合セミナーⅠ 学年混合セミナーⅡ 学年混合セミナーⅢ International Course for Clinical Dentistry (ICCD) Advanced デンタルエクスターンシップ Applied Critical Thinking for Health Sciences オンライン異文化交流	2後 4後 5後 2前 3前 4前 4後 1・2・3・4・5・6通 1・2・3・4・5・6通 1・2・3・4・5・6通	2 2 2 0.5 0.5 0.5 0.5 1～6 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年4月）	
228	兼担	助教	ｴﾝﾄﾞｳ ｱｷﾌﾐ 遠藤　明史 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		隣接医学Ⅰ（内科等）	3前	1.5	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年8月）	
229	兼担	助教	ﾐﾔｼﾞﾏ ﾐﾎ 宮島　美穂 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		発展歯科臨床	5前	3	1	東京医科歯科大学 助教 （平成23年4月）	
230	兼担	助教	ｺﾞﾄｳ ﾕｳｷ 後藤　夕輝 ＜令和6年10月＞		学士 （医 学）		総合診療・地域医療	3後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	
231	兼担	助教	ｻﾄｳ ﾋﾛﾕｷ 佐藤　宏征 ＜令和6年10月＞		博士 （工 学）		臨床試験方法論応用	1後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	
232	兼担	助教	ｻｶｼﾀ ﾁｽﾞｺ 坂下　千瑞子 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成27年4月）	

233	兼担	助教	ｶｼﾏﾀﾞ ｱﾔｺ 鹿島田　彩子 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		医療とAI・ビッグデータ入門	1後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成26年4月）	
234	兼担	助教	ｻｶｲ ｶﾂﾀ 酒井　勝太 ＜令和6年10月＞		博士（理学）		サイエンスPBL入門	1後	1.5	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年9月）	
235	兼担	助教	ｶﾂﾏﾀ ﾄｼﾕｷ 勝又　敏行 ＜令和6年10月＞		博士（理学）		化学入門 化学 サイエンスPBL入門 自然科学実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 生命科学基礎 自然科学演習	1前 1前 1後 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 1後 2後	1 2 1.5 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成19年4月）	
236	兼担	助教	ﾏﾂﾓﾄ ﾕｷﾋｻ 松本　幸久 ＜令和6年10月＞		博士（理学）		生物学入門 生物学 サイエンスPBL入門 自然科学実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ 教養自由セミナーⅠ 教養自由セミナーⅡ グローバル教養総合講座 自然科学演習	1前 1前 1後 1前 1通 1後 2通 3通 5後 4通 6通 1前 2後	1 2 1.5 2 1 2 1 1 1 1 1 1.5 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年2月）	
237	兼担	助教	ﾇﾏｻﾜ ﾐﾂﾕｷ 沼沢　益行 ＜令和6年10月＞		学士（医学）学士（薬学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年4月）	
238	兼担	助教	ﾆｯﾀ ｻﾕﾘ 新田　沙由梨 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		隣接医学Ⅰ（内科等） 隣接医学Ⅱ（外科・耳鼻科・眼科等）	3前 3前	1.5 1.5	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年5月）	
239	兼担	助教	ｽﾅｶﾞ ﾏｻﾖ 須永　昌代 ＜令和6年10月＞		学士（教養）		基礎情報医歯学 歯科医療基礎Ⅲ	1後 4前	1 1.5	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成22年4月）	
240	兼担	助教	ｽﾄﾞｳ ﾀｹｱｷ 須藤　毅顕 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 AI実践演習	1後 1後 2前 2通	2 2 1 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年9月）	
241	兼担	助教	ｲｼｲ ﾀｸ 石井　卓 ＜令和6年10月＞		学士（医学）		隣接医学Ⅰ（内科等）	3前	1.5	1	東京医科歯科大学 助教 （平成23年9月）	

242	兼担	助教	ｲｼﾏﾙ ﾐﾎ 石丸　美穂 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 AI実践演習 口腔疫学基礎 疫学応用	1後 1後 2前 2通 1前 1後	2 2 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
243	兼担	助教	ｲｼﾀﾞ ﾘｮｳｽｹ 石田　良典 ＜令和6年10月＞		博士 （薬科 学）		生体と薬物（薬理学）	3前	3	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年9月）	
244	兼担	助教	ｱｶｻﾞ ﾐﾎ 赤座　実穂 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		病態科学演習	3前	3.5	1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年4月）	
245	兼担	助教	ｿｳ ﾋﾀﾝ 曹　日丹 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 AI実践演習	1後 1後 2前 2通	2 2 1 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年10月）	
246	兼担	助教	ﾀﾑﾗ ﾀｹﾋﾛ 田村　赳紘 ＜令和6年10月＞		学士 （医 学）		発展歯科臨床	5前	3	1	東京医科歯科大学 助教 （平成28年7月）	
247	兼担	助教	ﾄﾞｲ ｻﾄﾐ 土井　理美 ＜令和6年10月＞		博士 （臨床 心理 学）		疫学応用	1後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年10月）	
248	兼担	助教	ﾏ ﾕｴ 馬　悦 ＜令和6年10月＞		博士 （工 学）		生体と薬物（薬理学）	3前	3	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年9月）	
249	兼担	助教	ｲｲﾀﾞ ﾖﾘﾂｸﾞ 飯田　頼嗣 ＜令和6年10月＞		修士 （理 学）		アントレプレナー教育	2・3・4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年1月）	
250	兼担	助教	ﾉｸﾞﾁ ｱﾔｺ 野口　綾子 ＜令和6年10月＞		博士 （看護 学）		多職種連携Ⅲ	6前	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	
251	兼担	助教	ｽｽﾞｷ ﾋﾄﾐ 鈴木　瞳 ＜令和6年10月＞		博士 （口腔 保健福 祉学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 総合診療・地域医療 多職種連携Ⅲ	1前 3前 3後 6前	0.5 0.5 1 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	
252	兼担	助教	ｽｽﾞｷ ﾘｻ 鈴木　里彩 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		総合診療・地域医療	3後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	
253	兼担	助教	ｻｲﾄｳ ｴｲｺ 齊藤　詠子 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		隣接医学Ⅰ（内科等） 隣接医学Ⅱ（外科・耳鼻科・眼科等）	3前 3前	1.5 1.5	1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成26年4月）	
254	兼担	助教	ﾀｶｷﾞ ｼｭﾝｽｹ 髙木　俊輔 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		発展歯科臨床	5前	3	1	東京医科歯科大学 助教 （平成28年4月）	
255	兼担	URA （教 員）	ｱｷﾔﾏ ﾏｻｺ 穐山　雅子 ＜令和6年10月＞		学士 （薬 学）		研究入門Ⅲ	3後	0.5	1	東京医科歯科大学 URA（教員） （平成29年4月）	
256	兼担	栄養士	ﾄﾖｼﾏ ﾐｽﾞｴ 豊島　瑞枝 ＜令和6年10月＞		学士 （家政 学）		社会と環境 総合診療・地域医療	1後 3後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 栄養士 （平成20年7月）	

257	兼担	言語聴覚士	ﾏｻｷ ｹｲﾀ 正木　啓太 ＜令和6年10月＞		修士 （言語学）		課題統合セミナー	3後	2	1	東京医科歯科大学 言語聴覚士 （令和元年12月）	
258	兼任	非常勤講師	ｶｰﾙｿﾝ ﾚﾍﾞｯｶ ﾘﾝ Carlson Rebecca Lynn ＜令和6年10月＞		博士 （人類学）		Biosocial Research Topics	1・2・3・4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
259	兼任	非常勤講師	ﾘﾁｬｰﾄﾞ ﾌｫｸｽﾄﾝ Richard Foxton ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		学年混合セミナーⅠ 学年混合セミナーⅡ 学年混合セミナーⅢ	2前 3前 4前	0.5 0.5 0.5	1 1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
260	兼任	非常勤講師	ｲｲ ﾏｻｺ 井伊　雅子 ＜令和6年10月＞		博士 （経済学）		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
261	兼任	非常勤講師	ｲｿﾍﾞ ﾃﾂ 磯部　哲 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
262	兼任	非常勤講師	ｳﾀﾞｶﾞﾜ ﾏｺﾄ 宇田川　誠 ＜令和6年10月＞		修士 （文学）		教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ	2通 3通 5後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
263	兼任	非常勤講師	ﾅｶﾞﾀ ﾕｷｺ 永田　夕紀子 ＜令和6年10月＞		修士 （グローバル研究）		スペイン語Ⅱ	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
264	兼任	非常勤講師	ｵｼﾓﾄ ｶｽﾞﾄｼ 押元　一敏 ＜令和6年10月＞		修士 （芸術学）		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
265	兼任	非常勤講師	ﾖｺﾉ ﾒｸﾞﾑ 横野　恵 ＜令和6年10月＞		修士 （法学）		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
266	兼任	非常勤講師	ｶｼﾞ ｼﾝﾔ 加地　真也 ＜令和6年10月＞		学士 （体育）		フィットネスマネジメント	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
267	兼任	非常勤講師	ｲﾜｾ ﾋﾛﾀﾛｳ 岩瀬　博太郎 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		歯科法医学	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
268	兼任	非常勤講師	ﾋｻﾀﾞ ﾄｼｺ 久田　登志子 ＜令和6年10月＞		修士 （国際学）		行動科学発展	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
269	兼任	非常勤講師	ｸﾎﾞﾀ ｺﾄ 久保田　木都 ＜令和6年10月＞		学士 （美術）		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
270	兼任	非常勤講師	ﾐﾔｻﾞｷ ｻﾁｴ 宮崎　幸江 ＜令和6年10月＞		博士 （Linguistics）		人文社会科学特論	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
271	兼任	非常勤講師	ﾐﾔｶﾜ ﾀｸﾔ 宮川　拓也 ＜令和6年10月＞		博士 （農学）		化学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
272	兼任	非常勤講師	ﾐﾔﾀ ﾖｼﾔ 宮田　義矢 ＜令和6年10月＞		修士 （文学）		宗教学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
273	兼任	非常勤講師	ｺﾞﾗｲ ｱｽｶ 牛來　明日香 ＜令和6年10月＞		修士 （体育科学）		フィジカルウェルビーイング フィットネスマネジメント	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

274	兼任	非常勤講師	ｸﾘﾀ ｹｲｺ 栗田　圭子 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
275	兼任	非常勤講師	ﾌﾙｶﾜ ﾀｶｺ 古川　高子 ＜令和6年10月＞		修士（学術）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
276	兼任	非常勤講師	ｺﾞﾄｳ ｱﾂｺ 後藤　敦子 ＜令和6年10月＞		博士（人文科学）		歴史学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
277	兼任	非常勤講師	ｺｳｶﾞ ﾏｻﾋﾛ 甲賀　真広 ＜令和6年10月＞		博士（日本語教育学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
278	兼任	非常勤講師	ｱﾗｲ ﾀｶﾕｷ 荒井　隆行 ＜令和6年10月＞		博士（工学）		課題統合セミナー	3後	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
279	兼任	非常勤講師	ｱﾗｶﾜ ﾋﾛﾉﾘ 荒川　裕紀 ＜令和6年10月＞		博士（文学）		グローバル教養科目	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
280	兼任	非常勤講師	ﾀｶｸ ﾚｵ 髙久　玲音 ＜令和6年10月＞		博士（商学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
281	兼任	非常勤講師	ｸﾛﾊﾗ ｶﾂﾞﾄ 黒原　一人 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		口腔外科学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
282	兼任	非常勤講師	ｻｻｷ ﾐﾂﾔ 佐々木　充文 ＜令和6年10月＞		博士（文学）		スペイン語Ⅰ	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
283	兼任	非常勤講師	ｻﾄｳ ﾏｲ 佐藤　舞 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		心理学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
284	兼任	非常勤講師	ｻｶｸﾞﾁ ﾋﾃﾞｵ 阪口　英夫 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		高齢者歯科学	4前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
285	兼任	非常勤講師	ｻｻﾉｲ ﾓﾓ 笹野井　もも ＜令和6年10月＞		修士（美術学）		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
286	兼任	非常勤講師	ｻﾝｶ ﾏｻﾋﾛ 三家　雅弘 ＜令和6年10月＞		修士（理工学）		情報処理	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
287	兼任	非常勤講師	ﾐﾖｼ ﾋﾛｼ 三好　洋 ＜令和6年10月＞		博士（理学）		サイエンスPBL入門	1後	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
288	兼任	非常勤講師	ﾐｶﾐ ﾘｮｳ 三上　亮 ＜令和6年10月＞		修士（美術学）		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
289	兼任	非常勤講師	ﾐﾀﾆ ｼﾞｭﾝｺ 三谷　純子 ＜令和6年10月＞		修士（Communications学）		文化人類学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
290	兼任	非常勤講師	ﾄｷﾓﾄ ﾅｵｺ 時本　楠緒子 ＜令和6年10月＞		博士（理学）		生物学入門	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

291	兼任	非常勤講師	ﾑﾛﾀ ﾅｵｺ 室田　尚子 ＜令和6年10月＞		修士（芸術学）		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
292	兼任	非常勤講師	ﾜｶﾏﾂ ｺｳｲﾁﾛｳ 若松　功一郎 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		グローバル教養総合講座アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
293	兼任	非常勤講師	ｶﾂﾍﾞ ｹﾝｲﾁ 勝部　憲一 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		病因と病態（病理学）	3前	3.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
294	兼任	非常勤講師	ｵｶﾞﾜ ﾕｳｶﾝ 小川　有閑 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
295	兼任	非常勤講師	ﾅﾘﾀ ﾋﾛｷ 成田　大起 ＜令和6年10月＞		修士（政治学）		社会思想史	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
296	兼任	非常勤講師	ｼﾐｽﾞ ﾁｶｺ 清水　千佳子 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		多職種連携Ⅱ	3前	0.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
297	兼任	非常勤講師	ｼﾐｽﾞ ｻﾄｼ 清水　智史 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		グローバル教養総合講座アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
298	兼任	非常勤講師	ﾆｼｶﾜ ﾗﾝ 西川　蘭 ＜令和6年10月＞		博士（文学）		グローバル教養総合講座アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
299	兼任	非常勤講師	ｱｵ ｱｲｲﾁﾛｳ 青　藍一郎 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯科医療基礎Ⅲ	4前	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
300	兼任	非常勤講師	ｲｼｲ ﾋﾃﾞﾄ 石井　秀人 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
301	兼任	非常勤講師	ｸﾗﾓﾁ ｼﾞﾝ 倉持　仁 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
302	兼任	非常勤講師	ｵｵﾀ ﾀｹﾄ 太田　岳人 ＜令和6年10月＞		博士（文学）		歴史学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
303	兼任	非常勤講師	ｵｵﾀ ﾏｻﾄ 太田　正人 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		人体の構造と機能（人体の発生）	2後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
304	兼任	非常勤講師	ｵｵｶﾞ ﾕｳｷ 大賀　祐樹 ＜令和6年10月＞		博士（学術）		哲学 倫理学	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
305	兼任	非常勤講師	ｵｵｸﾗ ﾋﾋﾞｷ 大倉　韻 ＜令和6年10月＞		修士（社会学）		社会学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
306	兼任	非常勤講師	ｵｵﾜﾀﾘ ﾂﾈﾄ 大渡　凡人 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		長寿口腔健康科学	5後	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
307	兼任	非常勤講師	ｵｵﾉ ｻﾁｺ 大野　幸子 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		予防と健康管理	2後	3	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

308	兼任	非常勤講師	ﾀｷﾓﾄ ｺｳﾖｳ 瀧本　晃陽 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯科医療基礎Ⅲ	4前	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
309	兼任	非常勤講師	ｲｹｶﾞﾔ ﾋﾛｼ 池谷　博 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		歯科法医学	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
310	兼任	非常勤講師	ﾀｹﾀﾞ ｱﾂｼ 竹田　淳志 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
311	兼任	非常勤講師	ﾅｶﾔﾏ ﾄｼﾋﾃﾞ 中山　俊秀 ＜令和6年10月＞		博士（言語学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
312	兼任	非常勤講師	ﾂｶﾀﾞ ﾀｹﾋﾛ 塚田　岳大 ＜令和6年10月＞		博士（理学）		生物学入門	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
313	兼任	非常勤講師	ﾀﾊﾗ ｼﾝｼﾞ 田原　慎二 ＜令和6年10月＞		博士（経済学）		経済学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
314	兼任	非常勤講師	ﾀﾅｶ ｱｷｼ 田中　丹史 ＜令和6年10月＞		修士（学術）		科学史	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
315	兼任	非常勤講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｶｽﾞｷ 渡辺　数基 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		サイエンスPBL入門 グローバル教養総合講座	1後 1前	1.5 1.5	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
316	兼任	非常勤講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｿｳｲﾁﾛｳ 渡邊　総一郎 ＜令和6年10月＞		博士（理学）		化学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
317	兼任	非常勤講師	ﾌｼﾞｲ ｼｭﾝｺﾞ 藤井　俊吾 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
318	兼任	非常勤講師	ﾌｼﾞｴﾀﾞ ﾌﾐｴ 藤枝　史江 ＜令和6年10月＞		博士（人文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
319	兼任	非常勤講師	ﾄｸﾋｻ ﾐｵｺ 徳久　美生子 ＜令和6年10月＞		博士（社会学）		人文社会科学特論	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
320	兼任	非常勤講師	ﾐﾅﾐﾃﾞ ﾀﾓﾂ 南出　保 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		予防と健康管理	2後	3	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
321	兼任	非常勤講師	ｳﾒｻｷ ｹｲｼｮｳ 梅崎　馨章 ＜令和6年10月＞		修士（理学）		サイエンスPBL入門	1後	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
322	兼任	非常勤講師	ｲﾀｺﾞｼ ﾏｻﾋｺ 板越　正彦 ＜令和6年10月＞		修士（国際経営学）		アントレプレナー教育	2・3・4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
323	兼任	非常勤講師	ｲｲﾀﾞ ｺｳｼﾞ 飯田　浩司 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯科医療基礎Ⅲ	4前	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
324	兼任	非常勤講師	ｲｲﾀﾞ ｽｸﾞﾙ 飯田　卓 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ	2通 3通 5後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

325	兼任	非常勤講師	ﾄﾋﾞﾀ ｱﾔｺ 飛田　綾子 ＜令和6年10月＞		修士（政治学）		法学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
326	兼任	非常勤講師	ｵﾓﾃ ﾀｶﾉﾘ 表　孝憲 ＜令和6年10月＞		修士（経営学）		アントレプレナー教育	2・3・4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
327	兼任	非常勤講師	ﾀｹﾁ ﾏｻｷ 武智　正樹 ＜令和6年10月＞		博士（生命科学）		人体の構造と機能（人体の発生）	2後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
328	兼任	非常勤講師	ﾋﾗﾊﾀ ｺｳｲﾁ 平畑　光一 ＜令和6年10月＞		学士（医学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
329	兼任	非常勤講師	ﾐﾈｵ ﾄｼﾋｺ 峰尾　俊彦 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
330	兼任	非常勤講師	ﾎﾝﾀﾞ ﾏｻｶｽﾞ 本田　雅一 ＜令和6年10月＞		学士（経済）		フィジカルウェルビーイング フィットネスマネジメント	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
331	兼任	非常勤講師	ﾎﾝﾀﾞ ﾖｳｺ 本田　陽子 ＜令和6年10月＞		博士（理学）		サイエンスPBL入門	1後	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
332	兼任	非常勤講師	ｵﾓﾃ ｶｽﾞﾔ 面　一也 ＜令和6年10月＞		修士（政治学）		教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養セミナーⅢ	2通 3通 5後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
333	兼任	非常勤講師	ﾓｸﾞｼ ｶｵﾙ 茂櫛　薫 ＜令和6年10月＞		博士（理学）		アントレプレナー教育	2・3・4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
334	兼任	非常勤講師	ﾉｸﾞﾁ ﾋﾛﾄ 野口　大斗 ＜令和6年10月＞		修士（学術）		英語Ⅰ 英語Ⅱ	1通 2・3・4・5・6通	6 1～4	6 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
335	兼任	非常勤講師	ｵﾁｱｲ ｻﾄﾙ 落合　聡 ＜令和6年10月＞		博士（口腔病理学）		課題統合セミナー	3後	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
336	兼任	非常勤講師	ｻﾄﾀﾞ ﾀｶﾋﾛ 里田　隆博 ＜令和6年10月＞		歯学博士		課題統合セミナー	3後	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
337	兼任	非常勤講師	ｽｽﾞｷ ｼｮｳｲﾁ 鈴木　聖一 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯学入門	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
338	兼任	非常勤講師	ﾜﾀﾞﾁ ｼﾞｭｳﾛｳ 和達　重郎 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯科医療基礎Ⅲ	4前	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
339	兼任	非常勤講師	ｸﾆｲ ｵｻﾑ 國井　修 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
340	兼任	非常勤講師	ｸｫﾝ ﾃﾞｿﾝ 權　大聖 ＜令和6年10月＞		博士（現代アジア研究）		グローバル教養科目	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
341	兼任	非常勤講師	ｻﾜﾀﾞ ﾉﾘﾋﾛ 澤田　則宏 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

342	兼任	非常勤講師	ｳｽﾞﾗﾊｼ ﾀﾂﾅﾘ 鵜橋　辰成 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		グローバル教養総合講座アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
343	兼任	非常勤講師	ﾀｶﾊｼ ﾕﾐﾎ 髙橋　優美穂 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		アカデミック・リテラシー	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
344	兼任	非常勤講師	ﾍﾞﾙﾁｬ ｱﾄﾞﾘｱﾝ ＢＥＲＣＥＡ ＡＤＲＩＡＮ ＜令和6年10月＞		博士（文学）		Japanese Culture and Society	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
345	兼任	非常勤講師	ｺｰﾘｽ ｼﾞｮﾅｻﾝ ＣＯＲＬＩＳＳ ＪＯＮＡＴＨＡＮ ＜令和6年10月＞		修士（人類学）		英語Ⅰ 英語Ⅱ	1通 2・3・4・5・6通	6 1～4	6 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
346	兼任	非常勤講師	ﾘｯﾄﾝ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾄﾝﾌﾟｿﾝ ＬＩＴＴＥＮ ＣＨＲＩＳＴＯＰＨＥＲ Ｔ ＜令和6年10月＞		修士（教育学）		英語Ⅰ	1通	6	6	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
347	兼任	非常勤講師	ﾐﾔ ﾏﾙﾂｶ ＭＩＹＡ ＭＡＲＵＴＳＵＫＡ ＜令和6年10月＞		学士（環境資源科学）		英語Ⅰ 英語Ⅱ	1通 2・3・4・5・6通	6 1～4	6 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
348	兼任	非常勤講師	ﾘｰﾄﾞ ｼﾞｪｼｰ ﾗｲｱﾝ Ｒｅｅｄ Ｊｅｓｓｅ Ｒｙａｎ ＜令和6年10月＞		修士（教育学）		英語Ⅰ 英語Ⅱ	1通 2・3・4・5・6通	6 1～4	6 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
349	兼任	非常勤講師	ｳﾏﾘ ｱﾝﾊﾟﾛ ｱﾃﾞﾘﾅ Ｕｍａｌｉ Ａｍｐａｒｏ Ａｄｅｌｉｎａ ＜令和6年10月＞		博士（国文学）		グローバル教養科目	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
350	兼任	非常勤講師	ｴﾝ ｶｷ ＹＡＮＪＩＡ ＱＩ ＜令和6年10月＞		修士（言語学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
351	兼任	非常勤講師	ｱﾍﾞ ﾔｽｺ 阿部　庸子 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		生命倫理	3通	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
352	兼任	非常勤講師	ｱﾝｼﾞｮｳ ﾄﾓｵ 安生　智郎 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
353	兼任	非常勤講師	ﾖｺﾔﾏ ｲｽﾞﾐ 横山　泉 ＜令和6年10月＞		博士（経済学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
354	兼任	非常勤講師	ｶﾜﾆｼ ﾋﾛﾐ 河西　裕美 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
355	兼任	非常勤講師	ｶﾜﾑﾗ ﾁﾂﾞｺ 河村　千鶴子 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
356	兼任	非常勤講師	ﾊﾅﾀﾞ ﾏｻﾋﾛ 花田　隆周 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
357	兼任	非常勤講師	ｲｲﾀﾞ ﾁｻﾄ 飯田　知里 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		課題統合セミナー 歯科医療基礎Ⅰ	3後 2後	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
358	兼任	非常勤講師	ﾏﾙﾔﾏ ｷｲﾁ 丸山　起一 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯科医療基礎Ⅱ	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

359	兼任	非常勤講師	ｷｸﾁ ｲｽﾞﾐ 菊地　和泉 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
360	兼任	非常勤講師	ﾖｼｵｶ ﾄｼﾋｺ 吉岡　俊彦 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
361	兼任	非常勤講師	ﾖｼｶﾜ ｺﾞｳｾｲ 吉川　剛正 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
362	兼任	非常勤講師	ﾖｼｶﾜ ﾀﾂﾔ 吉川　達也 ＜令和6年10月＞		学士（歯学）		発展歯科臨床 歯科心身医学	5前 5前	3 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
363	兼任	非常勤講師	ﾐﾔｿﾞﾉ ｹﾝｲﾁ 宮園　健一 ＜令和6年10月＞		博士（農学）		サイエンスPBL入門	1後	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
364	兼任	非常勤講師	ﾀﾏｵｶ ﾒｲﾖｳ 玉岡　明洋 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		隣接医学Ⅰ（内科等） 隣接医学Ⅱ（外科・耳鼻科・眼科等）	3前 3前	1.5 1.5	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
365	兼任	非常勤講師	ｶﾅｺ ﾐﾂﾋﾛ 金子　実弘 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
366	兼任	非常勤講師	ﾀｶﾊｼ ｶｽﾞｷ 髙橋　一輝 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯科医療基礎Ⅰ 課題統合セミナー	2後 3後	1 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
367	兼任	非常勤講師	ﾀｶﾊｼ ﾕﾐﾎ 髙橋　優美穂 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		グローバル教養総合講座	1前	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
368	兼任	非常勤講師	ﾀｶﾊｼ ｻﾄﾐ 髙橋　里美 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
369	兼任	非常勤講師	ｺｳﾉ ｱｷﾗ 高野　晃 ＜令和6年10月＞		学士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
370	兼任	非常勤講師	ｻｻｷ ﾅｵｷ 佐々木　直樹 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯科医療基礎Ⅱ	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
371	兼任	非常勤講師	ｻﾄｳ ｹｲﾀ 佐藤　慶太 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		歯科法医学	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
372	兼任	非常勤講師	ｻﾄｳ ﾉﾘｺ 佐藤　憲子 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		社会と環境	1後	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
373	兼任	非常勤講師	ｻﾄｳ ﾀﾞｲｽｹ 佐藤　大輔 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯科医療基礎Ⅲ	4前	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
374	兼任	非常勤講師	ｻﾉ ｶｽﾞﾉﾌﾞ 佐野　和信 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯科医療基礎Ⅰ 課題統合セミナー	2後 3後	1 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
375	兼任	非常勤講師	ｻｲﾀﾞ ﾋﾛﾕｷ 斎田　寛之 ＜令和6年10月＞		学士（歯学）		歯科医療基礎Ⅲ	4前	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

376	兼任	非常勤講師	ｻｶﾓﾄ ｲﾁﾛｳ 坂本　一郎 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		口腔外科学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
377	兼任	非常勤講師	ｻｶﾓﾄ ｹｲ 坂本　啓 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		病因と病態（病理学）	3前	3.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
378	兼任	非常勤講師	ｻｶﾓﾄ ｼﾞｭﾝｲﾁﾛｳ 坂本　潤一郎 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		発展歯科臨床	5前	3	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
379	兼任	非常勤講師	ﾔﾏﾓﾄ ﾐﾖｺ 山本　弥生子 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
380	兼任	非常勤講師	ｳﾙｼﾊﾗ ﾋｻｼ 漆原　尚巳 ＜令和6年10月＞		博士（社会健康医学）		生物統計学応用Ⅱ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
381	兼任	非常勤講師	ｻｶｲ ｶｽﾞﾋｻ 酒井　和久 ＜令和6年10月＞		学士（医学）		総合診療・地域医療	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
382	兼任	非常勤講師	ｺﾊﾞﾔｼ ﾋﾛｱｷ 小林　宏明 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯周病学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
383	兼任	非常勤講師	ｵｻﾞﾜ ﾏｻﾋｺ 小澤　雅彦 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
384	兼任	非常勤講師	ﾏﾂﾅﾘ ｼﾞｭﾝｲﾁ 松成　淳一 ＜令和6年10月＞		学士（歯学）		歯科医療基礎Ⅰ 課題統合セミナー	2後 3後	1 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
385	兼任	非常勤講師	ﾏﾂﾓﾄ ﾐﾔ 松本　美耶 ＜令和6年10月＞		博士（文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
386	兼任	非常勤講師	ｶﾐｼﾞｮｳ ﾀﾂｵ 上條　達央 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		感染と生体防御（免疫学・細菌学）	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
387	兼任	非常勤講師	ﾐｽﾞﾉ ﾃﾂﾔ 水野　哲也 ＜令和6年10月＞		修士（体育学）		フィジカルウェルビーイング	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
388	兼任	非常勤講師	ﾎｼﾉ ﾀｶﾋﾛ 星野　崇宏 ＜令和6年10月＞		博士（学術）博士（経済学）		生物統計学応用Ⅰ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
389	兼任	非常勤講師	ﾆｼｼﾞｮｳ ﾐｷ 西条　美紀 ＜令和6年10月＞		学士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
390	兼任	非常勤講師	ｲｼﾊﾗ ﾅｵｷ 石原　直樹 ＜令和6年10月＞		歯学士		歯科医療基礎Ⅱ	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
391	兼任	非常勤講師	ｲｼﾀﾞ ﾄﾓﾋﾛ 石田　智洋 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯科医療基礎Ⅰ 課題統合セミナー	2後 3後	1 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
392	兼任	非常勤講師	ｶﾜｶﾐ ﾁﾊﾙ 川上　千春 ＜令和6年10月＞		博士（看護学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 6前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

393	兼任	非常勤講師	ｵｵﾔﾏ ｱﾂｼ 大山　篤 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯科医療基礎Ⅰ 課題統合セミナー	2後 3後	1 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
394	兼任	非常勤講師	ｵｵﾉ ﾀﾂｸﾆ 大野　建州 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		感染と生体防御（免疫学・細菌学）	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
395	兼任	非常勤講師	ﾀｹｳﾁ ｼｮｳｺﾞ 竹内　祥吾 ＜令和6年10月＞		学士（歯学）		歯科医療基礎Ⅱ	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
396	兼任	非常勤講師	ﾀｹﾉｼﾀ ﾐﾎ 竹之下　美穂 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		発展歯科臨床	5前	3	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
397	兼任	非常勤講師	ﾅｶｶﾞﾜ ｲﾁﾛ 中川　一路 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		研究入門Ⅲ	3後	0.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
398	兼任	非常勤講師	ｲﾉﾊﾗ ｹﾝ 猪原　健 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		高齢者歯科学	4前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
399	兼任	非常勤講師	ﾂﾊ ﾕｳｿﾞｳ 津覇　雄三 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯科医療基礎Ⅰ 課題統合セミナー	2後 3後	1 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
400	兼任	非常勤講師	ﾇﾘﾔ ｻﾄﾙ 塗谷　達 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		感染と生体防御（免疫学・細菌学）	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
401	兼任	非常勤講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾀﾛｳ 渡辺　大郎 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯科医療基礎Ⅰ 課題統合セミナー	2後 3後	1 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
402	兼任	非常勤講師	ﾂﾁｵｶ ﾋﾛｱｷ 土岡　弘明 ＜令和6年10月＞		学士（医歯学系専攻）		歯周病学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
403	兼任	非常勤講師	ｱｽﾞﾏ ﾊﾙｵ 東　春生 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
404	兼任	非常勤講師	ｸｽﾉｷ ﾕｶｺ 楠　侑香子 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯科医療基礎Ⅱ	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
405	兼任	非常勤講師	ﾆﾉﾐﾔ ﾖｳｲﾁﾛｳ 二宮　洋一郎 ＜令和6年10月＞		博士（学術）		人体の構造と機能（人体の発生）	2後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
406	兼任	非常勤講師	ｳﾒｻﾞｷ ﾖｳｼﾞﾛｳ 梅崎　陽二朗 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		発展歯科臨床 歯科心身医学	5前 5前	3 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
407	兼任	非常勤講師	ﾊｷﾞﾔ ﾖｳｺ 萩谷　洋子 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
408	兼任	非常勤講師	ﾔｵ ｶﾅｺ 八尾　加奈子 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
409	兼任	非常勤講師	ﾔｷﾞﾊﾗ ｶｽﾞﾋﾛ 八木　原一博 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		口腔外科学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

410	兼任	非常勤講師	ﾐｼﾏ ｹﾝｼﾞ 美島　健二 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		病因と病態（病理学）	3前	3.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
411	兼任	非常勤講師	ﾌｶﾜ ｱﾕﾐ 布川　あゆみ ＜令和6年10月＞		博士（社会学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4・5・6通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
412	兼任	非常勤講師	ﾊｯﾄﾘ ｻﾄｼ 服部　聡 ＜令和6年10月＞		博士（臨床統計学）		生物統計学応用Ⅰ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
413	兼任	非常勤講師	ﾌｸﾓﾄ ﾔｽｴ 福元　康恵 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
414	兼任	非常勤講師	ﾌｸﾀﾞ ﾋﾃﾞｷ 福田　英輝 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		社会と環境	1後	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
415	兼任	非常勤講師	ﾉﾏ ﾋｻｼ 野間　久史 ＜令和6年10月＞		博士（統計数理学）		生物統計学応用Ⅰ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
416	兼任	非常勤講師	ﾊﾔｼ ｼｮｳﾀ 林　奨太 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		歯科医療基礎Ⅱ	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
417	兼任	非常勤講師	ｽｽﾞｷ ﾀｶﾌﾐ 鈴木　允文 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯科医療基礎Ⅱ	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
418	兼任	非常勤講師	ﾜﾀﾞﾁ ﾚｲｺ 和達　礼子 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯内治療学	4前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
419	兼任	非常勤講師	ｻｸﾗｲ ｼﾞﾝｷｮｳ 櫻井　仁亨 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		感染と生体防御（免疫学・細菌学）	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
420	兼任	非常勤講師	ｻｲﾄｳ ｷﾖｼ 齋藤　潔 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		感染と生体防御（免疫学・細菌学）	3前	4	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専任	教授	ｶﾊﾞｻﾜ ﾕｳｼﾞ 樺沢　勇司 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		人体の構造と機能 歯・口腔の構造と機能 疾病の成り立ちと回復過程の促進 社会保障 保健医療サービス 多職種連携 臨床歯科医学 口腔機能管理実習 障害者歯科学 臨床医学 臨床口腔保健応用学 歯科衛生学演習 口腔内科学 歯科診療補助論 歯科衛生臨地実習 卒業研究 児童・家庭福祉 口腔保健と国際協力 口腔保健衛生エクスターンシップ	1後・2通 1後・2通 2通・3前 1後 2通 1前・2前 2通・3前 3通 3後 3前 4前 4通 2後 2通・3前 4通 1後・2，3，4通 2前 3通 3後・4通	4 5 6 1 2 1 6 1 1 2 1 2 1 7 6 4 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成29年2月）	5日
2	専任	教授	ﾖｼﾀﾞ ﾅｵﾐ 吉田　直美 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		人体の構造と機能 保健医療サービス 多職種連携 歯科衛生学総論 チーム医療の実践 口腔機能管理実習 口腔疾患予防学 健康教育の基礎 食生活教育 健康教育の企画と実践 歯科衛生学演習 臨床体験実習 歯科衛生過程 卒業研究 コミュニケーション論 地域口腔保健論 歯科衛生臨床・臨地応用論 保健行動科学	1後・2通 2通 1前・2前 1後 3通 3通 2通・3前 2通・3前 2通 3通 4通 1後・2通 2後・3前 1後・2，3，4通 2前 4通 4通 4通	4 2 1 1 1 1 8 2 1 2 2 1 2 4 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成29年9月）	5日
3	専任	教授	ｱﾗｶﾜ ｼﾝｲﾁ 荒川　真一 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		臨床歯科医学	2通・3前	6	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	5日
4	専任	教授	ﾏﾂｵ ｺｳｲﾁﾛｳ 松尾　浩一郎 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		科学英語Ⅱ 高齢者福祉 高齢者歯科学 歯科衛生学演習 卒業研究 先端歯科医療学 在宅訪問・災害口腔保健医療 口腔保健マネジメント論	2後 2前 3通 4通 1後・2，3，4通 4通 4前 4通	1 1 1 2 4 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年4月）	5日
5	専任	教授	ｼﾅﾀﾞ ｶﾖｺ 品田　佳世子 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		科学英語Ⅰ	2前	1	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	5日

6	専任	講師	ﾏﾂﾀﾞ ﾕｳﾍｲ 松田　悠平 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		口腔疾患予防学 健康教育の基礎 健康教育の企画と実践 歯科衛生学演習 歯科衛生臨床実習 臨床体験実習 歯科衛生過程 卒業研究	2通・3 前 2通・3 前 3通 4通 3後・4 通 1後・2 通 2後・3 前 1後・ 2，3， 4通	8 2 2 2 13 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年4月）	5日
7	専任	助教	ｱﾀﾞﾁ ﾅｵｺ 安達　奈穂子 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		公衆衛生学 社会調査・研究の基礎 生命倫理 口腔疾患予防学 健康教育の基礎 歯科衛生学演習 歯科衛生臨床実習 歯科衛生過程 卒業研究 口腔保健と国際協力	1後 3前 3前 2通・3 前 2通・3 前 4通 3後・4 通 2後・3 前 1後・ 2，3， 4通 3通	1 1 0.5 8 2 2 13 2 4 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年4月）	5日
8	専任	助教	ｲﾄｳ ｶﾅﾃﾞ 伊藤　奏 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		保健医療サービス 臨床歯科医学 生体材料学 歯科診療補助論 歯科衛生臨地実習 卒業研究	2通 2通・3 前 2前 2通・3 前 4通 1後・ 2，3， 4通	2 6 1 7 6 4	1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年4月）	5日
9	専任	助教	ﾋﾀﾞｶ ﾚﾅ 日髙　玲奈 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		社会保障 高齢者福祉 保健医療サービス 臨床歯科医学 高齢者歯科学 歯科衛生臨地実習 卒業研究 障害児・者福祉 地域福祉 社会福祉実習 在宅訪問・災害口腔保健医療	1後 2前 2通 2通・3 前 3通 4通 1後・ 2，3， 4通 2後 2前 3前 4前	1 1 2 6 1 6 4 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年4月）	5日
10	専任	助教	ｽｽﾞｷ ﾋﾄﾐ 鈴木　瞳 ＜令和6年10月＞		博士 （口腔 保健福 祉学）		保健医療サービス 多職種連携 チーム医療の実践 口腔機能管理実習 障害者歯科学 健康教育の基礎 健康教育の企画と実践 歯科衛生学演習 歯科衛生臨床実習 臨床体験実習 歯科衛生過程 卒業研究	2通 1前・2 前 3通 3通 3後 2通・3 前 3通 4通 3後・4 通 1後・2 通 2後・3 前 1後・ 2，3， 4通	2 1 1 1 1 2 2 2 13 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	5日

11	兼担	教授	ﾎｳ ﾋﾞﾝ BAO MIN ＜令和6年10月＞		修士 (社会福祉学)		国際地域文化入門 人文社会科学特論 フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座	1前 1前 1前 1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前	2 2 2 2 2 2 1 2 1 1 1 1.5	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成31年4月)	
12	兼担	教授	ﾊﾟｸ ﾍｳｫﾝ PARK HEEWON ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 生物統計学応用Ⅱ	1後 2前 1後	2 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年6月)	
13	兼担	教授	ｲﾄｳ ﾏｻﾉﾘ 伊藤　正則 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座	1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前	1 1 2 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成22年4月)	
14	兼担	教授	ｳｵ ﾓﾄﾋﾛ 宇尾　基弘 ＜令和6年10月＞		博士 (工学)		生体材料学	2前	1	1	東京医科歯科大学 教授 (平成23年4月)	
15	兼担	教授	ｵｶﾀﾞ ﾀｶﾕｷ 岡田　幸之 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		保健医療サービス	2通	2	1	東京医科歯科大学 教授 (平成27年9月)	
16	兼担	教授	ｽﾐ ﾕｳｷ 角　勇樹 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 AI実践演習	1後 2前 2通	2 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成26年4月)	
17	兼担	教授	ｲﾜﾅｶﾞ ｼﾞｮｳ 岩永　譲 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		人体の構造と機能 歯・口腔の構造と機能	1後・2通 1後・2通	4 5	1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和4年7月)	
18	兼担	教授	ｲﾜﾀ ﾀｶﾉﾘ 岩田　隆紀 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		先端歯科医療学	4通	1	1	東京医科歯科大学 教授 (平成31年2月)	
19	兼担	教授	ｲﾜﾓﾄ ﾂﾄﾑ 岩本　勉 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		臨床歯科医学 障害者歯科学	2通・3前 3後	6 1	1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年5月)	
20	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ﾏｻﾕｷ 吉田　雅幸 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		生命倫理	3前	0.5	1	東京医科歯科大学 教授 (平成25年8月)	
21	兼担	教授	ｵｷﾁﾞ ﾀｶｼ 興地　隆史 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		臨床歯科医学	2通・3前	6	1	東京医科歯科大学 教授 (平成27年1月)	
22	兼担	教授	ｶﾅｻﾞﾜ ﾏﾅﾌﾞ 金澤　学 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		臨床歯科医学	2通・3前	6	1	東京医科歯科大学 教授 (令和3年5月)	

23	兼担	教授	ﾄﾊﾗ ﾊﾙｶ 戸原　玄 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		高齢者歯科学	3通	1	1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
24	兼担	教授	ﾊﾞﾝﾅｲ ﾋﾃﾞｵ 坂内　英夫 ＜令和6年10月＞		博士 （情報 理工 学）		医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用	1後 2前	2 1	1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
25	兼担	教授	ｼﾐｽﾞ ﾋﾃﾞﾕｷ 清水　秀幸 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 生物統計学応用Ⅱ	1後 2前 1後	2 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年2月）	
26	兼担	教授	ｱｵｷ ｱｷﾗ 青木　章 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		先端歯科医療学	4通	1	1	東京医科歯科大学 教授 （平成31年2月）	
27	兼担	教授	ｱｵｷ ｶｽﾞﾋﾛ 青木　和広 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯・口腔の構造と機能 疾病の成り立ちと回復過程の促進	1後・2通 2通・3前	5 6	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成29年2月）	
28	兼担	教授	ｱｲﾀﾞ ｼﾞｭﾝ 相田　潤 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		公衆衛生学 社会調査・研究の基礎 口腔疫学基礎 疫学応用	1後 3前 1前 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年8月）	
29	兼担	教授	ﾀｹｳﾁ ｶﾂﾕｷ 竹内　勝之 ＜令和6年10月＞		修士 （医科 学）		アントレプレナー教育	2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年4月）	
30	兼担	教授	ﾅｶｼﾏ ﾄﾓｷ 中島　友紀 ＜令和6年10月＞		博士 （薬 学）		人体の構造と機能	1後・2通	4	1	東京医科歯科大学 教授 （平成28年3月）	
31	兼担	教授	ﾅｶﾊﾞﾔｼ ｼﾞｭﾝ 中林　潤 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用	1通 1後 2通 3通 4通 1前 1後 1後 2前	1 2 1 1 1 1.5 2 2 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
32	兼担	教授	ﾜﾀﾍﾞ ﾃﾂﾛｳ 渡部　徹郎 ＜令和6年10月＞		博士 （生物 科学）		人体の構造と機能	1後・2通	4	1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年7月）	
33	兼担	教授	ﾌｼﾞｲ ﾀﾂｵ 藤井　達夫 ＜令和6年10月＞		修士 （政治 学）		人文社会科学概論 国際地域文化入門 政治学 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 生命倫理	1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前 3前	2 2 2 1 2 1 1 1 1.5 0.5	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年1月）	
34	兼担	教授	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾀｹｵ 藤原　武男 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		ポストコロナ社会における感染症対策 疫学基礎	1・2・3・4通 1前	1 1	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成28年4月）	

35	兼担	教授	ﾅﾗ ﾏｻﾕｷ 奈良　雅之 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		化学基礎 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座	1前 1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前	1 1 1 2 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成22年4月）	
36	兼担	教授	ｸﾛﾔﾅｷﾞ ｶｽﾞﾖ 畔柳　和代 ＜令和6年10月＞		修士 （学 術）		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 3通 4通 1前 2・3・ 4通	6 1 2 1 1 1 1.5 1～4	6 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成22年12月）	
37	兼担	教授	ｲｲﾀﾞ ｶｵﾘ 飯田　香緒里 ＜令和6年10月＞		博士 （学 術）		臨床口腔保健応用学	4前	1	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年9月）	
38	兼担	教授	ﾋﾗｶﾜ ｱｷﾋﾛ 平川　晃弘 ＜令和6年10月＞		博士 （工 学）		医療とAI・ビッグデータ応用 臨床試験方法論基礎 臨床試験方法論応用	2前 1前 1後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
39	兼担	教授	ﾄﾖﾌｸ ｱｷﾗ 豊福　明 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		疾病の成り立ちと回復過程の促進 臨床口腔保健応用学	2通・3前 4前	6 1	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
40	兼担	教授	ｷﾉｼﾀ ｱﾂﾋﾛ 木下　淳博 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		メディア情報学基礎 医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用	1後 1後 2前	1 2 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
41	兼担	教授	ｷﾀﾆ ﾏｷｺ 木谷　真紀子 ＜令和6年10月＞		博士 (国文 学)		人文社会科学概論 国際地域文化入門 民俗学 文学 社会心理学 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1前 1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前 1後	2 2 2 2 2 1 2 1 1 1 1.5 1	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
42	兼担	教授	ﾔｷﾞｼﾀ ｶｽﾞﾖｼ 柳下　和慶 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		フィジカルウェルビーイング フィットネスマネジメント 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座	1前 1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前	2 2 1 2 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年7月）	
43	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ﾄｼﾋｺ 鈴木　敏彦 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		歯・口腔の構造と機能 疾病の成り立ちと回復過程の促進	1後・2通 2通・3前	5 6	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年7月）	

44	兼担	教授	ﾋｴﾀﾞ ﾐﾂﾉﾘ 檜枝　光憲 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 医療とAI・ビッグデータ入門	1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前 1後	1 1 2 1 1 1 1.5 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年4月）	
45	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ｸﾆﾋｺ 髙橋　邦彦 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		医療とAI・ビッグデータ入門 生物統計学基礎 生物統計学応用Ⅰ 生物統計学応用Ⅱ	1後 1前 1後 1後	2 1 1 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
46	兼担	教授	ﾀｶﾀﾞ ｶｽﾞｷ 髙田　和生 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		Moral and Political Philosophy for Medicine Leadership Negotiation Design Thinking オンライン異文化交流	1・2・3・4通 1・2・3・4通 1・2・3・4通 1・2・3・4通 1・2・3・4通	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成24年12月）	
47	兼担	准教授	ｷｬﾈﾙ ﾃﾞｲﾋﾞｯﾄ CANNELL DAVID ＜令和6年10月＞		PhD East Asian Languages and Literatures		教養選択科目	1通	1	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成26年6月）	
48	兼担	准教授	ｼﾞｬﾈﾙ ﾙﾈ ﾓﾛｽ JANELLE RENEE MOROSS ＜令和6年10月＞		准学士 （看護）		科学英語Ⅰ International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L1-L3 On-demand International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L1-L3 On-line International Course for Clinical Dentistry (ICCD) Advanced	2前 2・3・4通 2・3・4通 4後	1 1 1 1.5	1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成26年2月）	
49	兼担	准教授	ｼﾞｪﾈｯﾄ ﾃﾞﾆｿﾝ JEANETTE DENNISSON ＜令和6年10月＞		修士 （理学）		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 3通 4通 1前 2・3・4通	6 1 2 1 1 1 1.5 1～4	6 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成27年4月）	
50	兼担	准教授	ﾊﾟﾄﾘｯｸ ﾌｫｽ PATRICK FOSS ＜令和6年10月＞		博士 （言語学）		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 3通 4通 1前 2・3・4通	6 1 2 1 1 1 1.5 1～4	6 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成22年4月）	
51	兼担	准教授	ｱｼﾀﾞ ﾋﾛｼ 芦田　浩 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		歯・口腔の構造と機能 疾病の成り立ちと回復過程の促進	1後・2通 2通・3前	5 6	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成29年4月）	
52	兼担	准教授	ﾅｶﾞｲ ｼｹﾞﾉﾘ 永井　重徳 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		疾病の成り立ちと回復過程の促進	2通・3前	6	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年9月）	

53	兼担	准教授	ｺｼﾉ ｶｽﾞｷ 越野　和樹 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 医療とAI・ビッグデータ 入門	1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前 1後	1 1 2 1 1 1 1.5 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成19年4月）	
54	兼担	准教授	ｵｶﾀﾞ ﾀｸﾔ 岡田　卓也 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		Fundamentals of Global Health	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年4月）	
55	兼担	准教授	ｺﾏﾀﾞ ﾜﾀﾙ 駒田　亘 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		臨床歯科医学	2通・3前	6	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年1月）	
56	兼担	准教授	ｻｻｷ ﾖｼﾕｷ 佐々木　好幸 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		メディア情報学基礎	1後	1	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
57	兼担	准教授	ﾏﾂﾔﾏ ﾕｳｽｹ 松山　祐輔 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		口腔疫学基礎 疫学応用 疫学応用	1前 1後 1後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年8月）	
58	兼担	准教授	ﾆｼﾔﾏ ｱｷﾗ 西山　暁 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		臨床口腔保健応用学	4前	1	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年5月）	
59	兼担	准教授	ｲﾉｸﾏ ｹｲｺ 猪熊　恵子 ＜令和6年10月＞		修士 （文 学）		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 3通 4通 1前 2・3・4通	6 1 2 1 1 1 1.5 1～4	6 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成24年4月）	
60	兼担	准教授	ﾄｸﾅｶﾞ ｼﾝｲﾁ 徳永　伸一 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 情報科学 医療とAI・ビッグデータ 入門	1通 1後 2通 3通 4通 1前 1前 1後	1 2 1 1 1 1.5 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成19年4月）	
61	兼担	准教授	ﾅﾜ ﾉﾌﾞﾄｼ 那波　伸敏 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		医療とAI・ビッグデータ 入門 ポストコロナ社会における感染症対策	1後 1・2・3・4通	2 1	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年8月）	
62	兼担	准教授	ｻﾜﾉ ﾖﾘｺ 澤野　頼子 ＜令和6年10月＞		博士 （農 学）		化学基礎 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座	1前 1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前	1 1 1 2 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成22年4月）	
63	兼担	講師	ｱﾝｻﾞｲ ﾀﾂﾋｺ 安齋　達彦 ＜令和6年10月＞		博士 （医療 マネジ メント 学）		生物統計学基礎 生物統計学応用Ⅰ 生物統計学応用Ⅱ	1前 1後 1後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年9月）	

64	兼担	講師	ｲｽﾐ ｱﾔ 伊角　彩 ＜令和6年10月＞		博士 （国際公共政策）		疫学応用	1後	1	1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年10月）	
65	兼担	講師	ｲﾂｲ ﾔｽﾋﾛ 井津井　康浩 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医療とAI・ビッグデータ入門	1後	2	1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年4月）	
66	兼担	講師	ｵｶﾀﾞ ｴﾘｺ 岡田　英理子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医療とAI・ビッグデータ入門	1後	2	1	東京医科歯科大学 講師 （平成26年4月）	
67	兼担	講師	ｺｳﾊﾞﾀ ﾋﾛｺ 甲畑　宏子 ＜令和6年10月＞		博士 （学術）		生命倫理	3前	0.5	1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年4月）	
68	兼担	講師	ﾋﾃﾞｼﾏ ﾏｻﾕｷ 秀島　雅之 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		臨床口腔保健応用学	4前	1	1	東京医科歯科大学 講師 （平成16年4月）	
69	兼担	講師	ﾀﾆ ﾕｶｺ 谷　友香子 ＜令和6年10月＞		博士 （生物科学）		疫学基礎 疫学応用	1前 1後	1 1	1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年7月）	
70	兼担	講師	ﾀｹｳﾁ ﾔｽｵ 竹内　康雄 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		先端歯科医療学	4通	1	1	東京医科歯科大学 講師 （平成29年4月）	
71	兼担	講師	ｶﾀｷﾞﾘ ｻﾔｶ 片桐　さやか ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		先端歯科医療学	4通	1	1	東京医科歯科大学 講師 （令和2年4月）	
72	兼担	講師	ｷﾀｶﾞﾜ ﾉﾘｵ 北河　憲雄 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		人体の構造と機能 歯・口腔の構造と機能	1後・2通 1後・2通	4 5	1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年9月）	
73	兼担	講師	ﾄﾅﾐ ｹﾝｲﾁ 礪波　健一 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		疾病の成り立ちと回復過程の促進	2通・3前	6	1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年8月）	
74	兼担	講師	ｾｷ ﾅｵｺ 關　奈央子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		科学英語Ⅰ International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L1-L3 On-demand International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L1-L3 On-line International Course for Clinical Dentistry (ICCD) Advanced 口腔保健と国際協力 Applied Critical Thinking for Health Sciences オンライン異文化交流	2前 2・3・4通 2・3・4通 4後 3通 1・2・3・4通 1・2・3・4通	1 1 1 1.5 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年4月）	
75	兼担	助教	ｲﾉｳｴ ｶﾀｼﾞﾅｱﾝﾅ 井上　カタジナアンナ ＜令和6年10月＞		博士 （工学）		人体の構造と機能	1後・2通	4	1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	
76	兼担	助教	ｲﾉｳｴ ｺﾞｳ 井上　剛 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		臨床歯科医学	2通・3前	6	1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	
77	兼担	助教	ｵｶﾉ ﾄｸｼﾞｭ 岡野　徳壽 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		歯・口腔の構造と機能	1後・2通	5	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年3月）	

78	兼担	助教	ｶﾔﾓﾘ ｺｳ 栢森　高 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		疾病の成り立ちと回復過程の促進	2通・3前	6	1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	
79	兼担	助教	ｲｶﾞﾗｼ ｲｻｵ 五十嵐　公 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		保健医療サービス	2通	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成19年4月）	
80	兼担	助教	ｸﾛｼﾏ ﾀｹｼ 黒嶋　雄志 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		臨床口腔保健応用学	4前	1	1	東京医科歯科大学 助教 （平成29年7月）	
81	兼担	助教	ｻﾄｳ ﾋﾛﾕｷ 佐藤　宏征 ＜令和6年10月＞		博士 （工 学）		臨床試験方法論応用	1後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	
82	兼担	助教	ｶｼﾏﾀﾞ ｱﾔｺ 鹿島田　彩子 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		医療とAI・ビッグデータ入門	1後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成26年4月）	
83	兼担	助教	ｶﾂﾏﾀ ﾄｼﾕｷ 勝又　敏行 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		化学基礎 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座	1前 1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前	1 1 1 2 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成19年4月）	
84	兼担	助教	ﾏﾂﾓﾄ ﾕｷﾋｻ 松本　幸久 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		生物学基礎 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座	1前 1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前	2 1 1 2 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年2月）	
85	兼担	助教	ｽﾅｶﾞ ﾏｻﾖ 須永　昌代 ＜令和6年10月＞		学士 （教 養）		メディア情報学基礎	1後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （平成22年4月）	
86	兼担	助教	ｽﾄﾞｳ ﾀｹｱｷ 須藤　毅顕 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 AI実践演習	1後 1後 2前 2通	2 2 1 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年9月）	
87	兼担	助教	ｲｼﾏﾙ ﾐﾎ 石丸　美穂 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 AI実践演習 口腔疫学基礎	1後 1後 2前 2通 1前	2 2 1 1 1	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
88	兼担	助教	ｿｳ ﾋﾀﾝ 曹　日丹 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門 医療とAI・ビッグデータ応用 AI実践演習	1後 1後 2前 2通	2 2 1 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年10月）	

89	兼担	助教	ﾅｶﾈ ｱﾔｺ 中根　綾子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		高齢者歯科学	3通	1	1	東京医科歯科大学 助教 （平成21年12月）	
90	兼担	助教	ﾂｼﾞ ﾐﾁｺ 辻　美千子 ＜令和6年10月＞		学士 （歯 学）		臨床歯科医学	2通・3 前	6	1	東京医科歯科大学 助教 （平成19年4月）	
91	兼担	助教	ﾄﾞｲ ｻﾄﾐ 土井　理美 ＜令和6年10月＞		博士 （臨床 心理 学）		疫学応用	1後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年10月）	
92	兼担	助教	ｸｽﾓﾄ ﾔｽｶ 楠本　康香 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		障害者歯科学	3後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （平成23年1月）	
93	兼担	助教	ｲｲﾀﾞ ﾖﾘﾂｸﾞ 飯田　頼嗣 ＜令和6年10月＞		修士 （理 学）		アントレプレナー教育	2・3・ 4通	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年1月）	
94	兼担	助教	ｲｲﾉ ﾖｼｺ 飯野　由子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		疾病の成り立ちと回復過程の促進	2通・3 前	6	1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年3月）	
95	兼担	助教	ｷﾉ ｼﾎ 木野　志保 ＜令和6年10月＞		PhD in Epidemi ology and Public Health		口腔保健と国際協力 口腔疫学基礎 疫学応用	3通 1前 1後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
96	兼担	助教	ﾀｶｸｻｷ ｹﾝｽｹ 髙草木　謙介 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		臨床歯科医学	2通・3 前	6	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年1月）	
97	兼担	助教	ﾓﾄﾑﾗ ｶｽﾞｵ 本村　一朗 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		口腔機能管理実習	3通	1	1	東京医科歯科大学 助教 （平成19年4月）	
98	兼担	歯科衛 生保健 部長	ｱﾀﾞﾁ ﾄｼｺ 足達　淑子 ＜令和6年10月＞		学士(教 養)		臨床体験実習	1後・2 通	1	1	東京医科歯科大学 歯科衛生保健部長 （平成21年4月）	
99	兼任	非常勤 講師	ｵﾑ ｽﾝｼﾞｪ EOM SEUNGJAE ＜令和6年10月＞		修士 （理 学）		情報科学	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
100	兼任	非常勤 講師	ｱﾔﾉ ﾘｶ 綾野　理加 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		障害者歯科学	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
101	兼任	非常勤 講師	ｲｿﾍﾞ ﾃﾂ 磯部　哲 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・ 3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
102	兼任	非常勤 講師	ｳﾀﾞｶﾞﾜ ﾏｺﾄ 宇田川　誠 ＜令和6年10月＞		修士 （文 学）		教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ	2通 3通	1 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
103	兼任	非常勤 講師	ｱﾒﾐﾔ ﾕｷｴ 雨宮　由紀枝 ＜令和6年10月＞		修士 （社会 福祉 学）		児童・家庭福祉	2前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
104	兼任	非常勤 講師	ﾅｶﾞﾀ ﾕｷｺ 永田　夕紀子 ＜令和6年10月＞		修士 （グ ロー バル研 究）		スペイン語Ⅱ	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

105	兼任	非常勤講師	ｵｼﾓﾄ ｶｽﾞﾄｼ 押元　一敏 ＜令和6年10月＞		修士（芸術学）		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
106	兼任	非常勤講師	ｶｼﾞ ｼﾝﾔ 加地　真也 ＜令和6年10月＞		学士（体育）		フィットネスマネジメント	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
107	兼任	非常勤講師	ｺｳﾉ ﾌﾐｴ 河野　章江 ＜令和6年10月＞		学士（人間科学）		チーム医療の実践 健康教育の企画と実践	3通 3通	1 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
108	兼任	非常勤講師	ｸﾎﾞﾔﾏ ﾕｳｺ 久保山　裕子 ＜令和6年10月＞		歯科衛生士学校卒業		チーム医療の実践	3通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
109	兼任	非常勤講師	ｸﾎﾞﾀ ｺﾄ 久保田　木都 ＜令和6年10月＞		学士（美術）		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
110	兼任	非常勤講師	ﾐﾔｻﾞｷ ｻﾁｴ 宮崎　幸江 ＜令和6年10月＞		博士（Linguistics）		人文社会科学特論	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
111	兼任	非常勤講師	ﾐﾔﾀ ﾖｼﾔ 宮田　義矢 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		宗教学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
112	兼任	非常勤講師	ｺﾞﾗｲ ｱｽｶ 牛來　明日香 ＜令和6年10月＞		修士（体育科学）		フィジカルウェルビーイング フィットネスマネジメント	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
113	兼任	非常勤講師	ｶﾈﾊﾗ ｱｷｺ 金原　明子 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		社会福祉実習	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
114	兼任	非常勤講師	ｸﾘﾀ ｹｲｺ 栗田　圭子 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
115	兼任	非常勤講師	ﾌﾙｶﾜ ﾀｶｺ 古川　高子 ＜令和6年10月＞		修士（学術）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
116	兼任	非常勤講師	ｺﾞﾄｳ ｱﾂｺ 後藤　敦子 ＜令和6年10月＞		博士（人文科学）		歴史学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
117	兼任	非常勤講師	ｺｳｶﾞ ﾏｻﾋﾛ 甲賀　真広 ＜令和6年10月＞		博士（日本語教育学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
118	兼任	非常勤講師	ｱﾗｶﾜ ﾋﾛﾉﾘ 荒川　裕紀 ＜令和6年10月＞		博士（文学）		グローバル教養科目	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
119	兼任	非常勤講師	ﾀｶｸ ﾚｵ 高久　玲音 ＜令和6年10月＞		博士（商学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
120	兼任	非常勤講師	ｻｻｷ ﾐﾂﾔ 佐々木　充文 ＜令和6年10月＞		博士（文学）		スペイン語Ⅰ	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
121	兼任	非常勤講師	ｻﾄｳ ﾏｲ 佐藤　舞 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		心理学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

122	兼任	非常勤講師	ｻｻﾉｲ ﾓﾓ 笹野井　もも ＜令和6年10月＞		修士（美術学）		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
123	兼任	非常勤講師	ｻﾝｶ ﾏｻﾋﾛ 三家　雅弘 ＜令和6年10月＞		修士（理工学）		情報科学	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
124	兼任	非常勤講師	ﾐｶﾐ ﾘｮｳ 三上　亮 ＜令和6年10月＞		修士（美術学）		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
125	兼任	非常勤講師	ﾐﾀﾆ ｼﾞｭﾝｺ 三谷　純子 ＜令和6年10月＞		修士（Communications学）		文化人類学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
126	兼任	非常勤講師	ﾔﾏｸﾞﾁ ｱｹﾐ 山口　朱見 ＜令和6年10月＞		歯科衛生士学校卒業		臨床口腔保健応用学	4前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
127	兼任	非常勤講師	ﾔﾏﾅｶ ｻﾄ 山中　紗都 ＜令和6年10月＞		修士（障害科学）		チーム医療の実践	3通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
128	兼任	非常勤講師	ﾔﾏﾀﾞ ﾐﾖｺ 山田　美代子 ＜令和6年10月＞		修士（社会福祉学）		保健医療サービス 障害児・者福祉 社会福祉実習	2通 2後 3前	2 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
129	兼任	非常勤講師	ﾑﾛﾀ ﾅｵｺ 室田　尚子 ＜令和6年10月＞		修士（芸術学）		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
130	兼任	非常勤講師	ｼﾉﾊﾗ ﾕｳﾞｷ 篠原　弓月 ＜令和6年10月＞		歯科衛生士学校卒業		チーム医療の実践	3通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
131	兼任	非常勤講師	ﾜｶﾏﾂ ｺｳｲﾁﾛｳ 若松　功一郎 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
132	兼任	非常勤講師	ｵﾔﾏ ﾂｶｻ 小山　宰 ＜令和6年10月＞		修士（社会福祉学）		地域福祉 社会福祉実習	2前 3前	1 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
133	兼任	非常勤講師	ﾏﾂﾓﾄ ﾐﾔ 松本　美耶 ＜令和6年10月＞		博士（文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
134	兼任	非常勤講師	ﾅﾘﾀ ﾋﾛｷ 成田　大起 ＜令和6年10月＞		修士（政治学）		社会思想史	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
135	兼任	非常勤講師	ｼﾐｽﾞ ｻﾄｼ 清水　智史 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
136	兼任	非常勤講師	ﾆｼｶﾜ ﾗﾝ 西川　蘭 ＜令和6年10月＞		博士（文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
137	兼任	非常勤講師	ﾆｼｶﾜ ﾄｼｴ 西川　利恵 ＜令和6年10月＞		専門学校卒業		チーム医療の実践	3通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
138	兼任	非常勤講師	ｶﾜｺﾞｴ ｼｮｳﾍｲ 川越　正平 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		臨床口腔保健応用学	4前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

139	兼任	非常勤講師	ｸﾗﾓﾁ ｼﾞﾝ 倉持　仁 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
140	兼任	非常勤講師	ｵｵﾀ ﾀｹﾄ 太田　岳人 ＜令和6年10月＞		博士（文学）		歴史学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
141	兼任	非常勤講師	ｵｵｶﾞ ﾕｳｷ 大賀　祐樹 ＜令和6年10月＞		博士（学術）		哲学 倫理学	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
142	兼任	非常勤講師	ｵｵｸﾗ ﾋﾋﾞｷ 大倉　韻 ＜令和6年10月＞		修士（社会学）		社会学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
143	兼任	非常勤講師	ﾅｶｸﾞﾁ ｴﾂｼ 中口　悦史 ＜令和6年10月＞		博士（工学）		統計学	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
144	兼任	非常勤講師	ﾅｶﾔﾏ ﾄｼﾋﾃﾞ 中山　俊秀 ＜令和6年10月＞		博士（言語学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
145	兼任	非常勤講師	ﾊｾｶﾞﾜ ﾋﾛｱｷ 長谷川　洋昭 ＜令和6年10月＞		修士（社会福祉学）		社会福祉実習	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
146	兼任	非常勤講師	ﾂｶﾞｷ ﾏｻｵ 津垣　正男 ＜令和6年10月＞		博士（理学）		情報科学	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
147	兼任	非常勤講師	ﾀﾊﾗ ｼﾝｼﾞ 田原　慎二 ＜令和6年10月＞		博士（経済学）		経済学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
148	兼任	非常勤講師	ﾀﾅｶ ｱｶｼ 田中　丹史 ＜令和6年10月＞		修士（学術）		科学史	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
149	兼任	非常勤講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｶｽﾞｷ 渡辺　数基 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		グローバル教養総合講座	1前	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
150	兼任	非常勤講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾏﾘ 渡邉　麻理 ＜令和6年10月＞		歯科衛生士学校卒業		健康教育の企画と実践 保健行動科学	3通 4通	2 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
151	兼任	非常勤講師	ｼﾏﾀﾞ ﾏｻﾋｺ 嶋田　昌彦 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		健康教育の企画と実践	3通	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
152	兼任	非常勤講師	ﾌｼﾞｲ ｼｭﾝｺﾞ 藤井　俊吾 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
153	兼任	非常勤講師	ﾌｼﾞﾀｶ ﾅｵﾕｷ 藤高　直之 ＜令和6年10月＞		博士（社会福祉学）		地域福祉	2前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
154	兼任	非常勤講師	ﾌｼﾞｴﾀﾞ ﾌﾐｴ 藤枝　史江 ＜令和6年10月＞		博士（人文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
155	兼任	非常勤講師	ﾄｸﾋｻ ﾐｵｺ 徳久　美生子 ＜令和6年10月＞		博士（社会学）		人文社会科学特論	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

156	兼任	非常勤講師	ｲﾀｺﾞｼ ﾏｻﾋｺ 板越　正彦 ＜令和6年10月＞		修士（国際経営学）		アントレプレナー教育	2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
157	兼任	非常勤講師	ｲｲﾀﾞ ｽｸﾞﾙ 飯田　卓 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ	2通 3通	1 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
158	兼任	非常勤講師	ﾄﾋﾞﾀ ｱﾔｺ 飛田　綾子 ＜令和6年10月＞		修士（政治学）		法学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
159	兼任	非常勤講師	ｵﾓﾃ ﾀｶﾉﾘ 表　孝憲 ＜令和6年10月＞		修士（経営学）		アントレプレナー教育	2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
160	兼任	非常勤講師	ﾋﾗﾊﾀ ｺｳｲﾁ 平畑　光一 ＜令和6年10月＞		学士（医学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
161	兼任	非常勤講師	ﾐﾈｵ ﾄｼﾋｺ 峰尾　俊彦 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
162	兼任	非常勤講師	ﾎﾘ ﾁﾂﾞｺ 堀　千鶴子 ＜令和6年10月＞		修士（社会学）		社会福祉実習	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
163	兼任	非常勤講師	ﾎﾝﾀﾞ ﾏｻｶｽﾞ 本田　雅一 ＜令和6年10月＞		学士（経済）		フィジカルウェルビーイング フィットネスマネジメント	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
164	兼任	非常勤講師	ｵﾓﾃ ｶｽﾞﾔ 面　一也 ＜令和6年10月＞		修士（政治学）		教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ	2通 3通	1 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
165	兼任	非常勤講師	ﾓｸﾞｼ ｶｵﾙ 茂櫛　薫 ＜令和6年10月＞		博士（理学）		アントレプレナー教育	2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
166	兼任	非常勤講師	ﾉｸﾞﾁ ﾋﾛﾄ 野口　大斗 ＜令和6年10月＞		修士（学術）		英語Ⅰ	1通	6	6	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
167	兼任	非常勤講師	ｸﾆｲ ｵｻﾑ 國井　修 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
168	兼任	非常勤講師	ｸﾆﾐ ﾏﾘｺ 國見　真理子 ＜令和6年10月＞		修士（法学）、法務博士		社会福祉実習	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
169	兼任	非常勤講師	ｸｫﾝ ﾃﾞｿﾝ 權　大聖 ＜令和6年10月＞		博士（現代アジア研究）		グローバル教養科目	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
170	兼任	非常勤講師	ｳｽﾞﾗﾊｼ ﾀﾂﾅﾘ 鶉橋　辰成 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
171	兼任	非常勤講師	ﾀｶﾊｼ ﾕﾐﾎ 髙橋　優美穂 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		アカデミック・リテラシー	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

172	兼任	非常勤講師	ﾍﾞﾙﾁｬ ｱﾄﾞﾘｱﾝ ＢＥＲＣＥＡ ＡＤＲＩＡＮ ＜令和6年10月＞		博士（文学）		Japanese Culture and Society	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
173	兼任	非常勤講師	ｶｰﾙｿﾝ ﾚﾍﾞｯｶ ﾘﾝ Carlson Rebecca Lynn ＜令和6年10月＞		博士（人類学）		Biosocial Research Topics	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
174	兼任	非常勤講師	ｺｰﾘｽ ｼﾞｮﾅｻﾝ ＣＯＲＬＩＳＳ ＪＯＮＡＴＨＡＮ ＜令和6年10月＞		修士（人類学）		英語Ⅰ	1通	6	6	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
175	兼任	非常勤講師	ﾘｯﾄﾝ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾄﾝﾌﾟｿﾝ ＬＩＴＴＥＮ ＣＨＲＩＳＴＯＰＨＥＲ Ｔ ＜令和6年10月＞		修士（教育学）		英語Ⅰ	1通	6	6	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
176	兼任	非常勤講師	ﾐﾔ ﾏﾙﾂｶ ＭＩＹＡ ＭＡＲＵＴＳＵＫＡ ＜令和6年10月＞		学士（環境資源科学）		英語Ⅰ	1通	6	6	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
177	兼任	非常勤講師	ﾘｰﾄﾞ ｼﾞｪｼｰ ﾗｲｱﾝ Ｒｅｅｄ Ｊｅｓｓｅ Ｒｙａｎ ＜令和6年10月＞		修士（教育学）		英語Ⅰ	1通	6	6	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
178	兼任	非常勤講師	ｳﾏﾘ ｱﾝﾊﾟﾛ ｱﾃﾞﾘﾅ Ｕｍａｌｉ Ａｍｐａｒｏ Ａｄｅｌｉｎａ ＜令和6年10月＞		博士（国文学）		グローバル教養科目	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
179	兼任	非常勤講師	ｴﾝ ｶｷ ＹＡＮＪＩＡ ＱＩ ＜令和6年10月＞		修士（言語学）		中国語Ⅱ 中国語Ⅰ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
180	兼任	非常勤講師	ﾎﾟｰﾝﾎﾟｯﾄ・ﾌｧﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ ポーンポット・ファンターンシップ ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		口腔保健と国際協力	3通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
181	兼任	非常勤講師	ｲﾉｳｴ ﾋﾛﾕｷ 井上　裕之 ＜令和6年10月＞		博士（補綴学）		先端歯科医療学	4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
182	兼任	非常勤講師	ﾖｺﾔﾏ ｲｽﾞﾐ 横山　泉 ＜令和6年10月＞		博士（経済学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
183	兼任	非常勤講師	ﾖｺﾁ ｱﾂｼ 横地　厚 ＜令和6年10月＞		修士（社会学）		社会福祉実習	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
184	兼任	非常勤講師	ﾖｼﾂﾞ ﾁｴ 吉津　智慧 ＜令和6年10月＞		修士（口腔保健学）		口腔保健と国際協力	3通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
185	兼任	非常勤講師	ﾐﾔｿﾞﾉ ｹﾝｲﾁ 宮園　健一 ＜令和6年10月＞		博士（農学）		化学基礎	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
186	兼任	非常勤講師	ﾀｶﾊｼ ﾕﾐﾎ 高橋　優美穂 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		グローバル教養総合講座	1前	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
187	兼任	非常勤講師	ｳﾙｼﾊﾗ ﾋｻｼ 漆原　尚巳 ＜令和6年10月＞		博士（社会健康医学）		生物統計学応用Ⅱ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

188	兼任	非常勤講師	ﾇﾏｻﾜ ﾖｼﾕｷ 沼沢　祥行 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		臨床医学	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
189	兼任	非常勤講師	ｳｴﾉ ﾄｼｱｷ 上野　俊明 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		健康教育の企画と実践	3通	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
190	兼任	非常勤講師	ﾐｽﾞﾉ ﾃﾂﾔ 水野　哲也 ＜令和6年10月＞		修士（体育学）		フィジカルウェルビーイング	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
191	兼任	非常勤講師	ﾎｼﾉ ﾀｶﾋﾛ 星野　崇宏 ＜令和6年10月＞		博士（学術）博士（経済学）		生物統計学応用Ⅰ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
192	兼任	非常勤講師	ｼｽﾞﾏ ﾕｶ 静間　夕香 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		口腔疾患予防学 地域口腔保健論	2通・3前 4通	8 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
193	兼任	非常勤講師	ｵｵﾔﾏ ｱﾂｼ 大山　篤 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		社会調査・研究の基礎	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
194	兼任	非常勤講師	ｵｵﾆｼ ﾋﾃﾞﾄﾓ 大西　英知 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		先端歯科医療学	4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
195	兼任	非常勤講師	ﾀｹﾑﾗﾖｳｽｹ 竹村　洋典 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		口腔内科学	2後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
196	兼任	非常勤講師	ﾀｹｳﾁ ｼｭｳﾍｲ 竹内　周平 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		高齢者福祉	2前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
197	兼任	非常勤講師	ｲﾉﾊﾗ ｹﾝ 猪原　健 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		臨床歯科医学	2通・3前	6	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
198	兼任	非常勤講師	ｲﾉﾊﾗ ﾋｶﾙ 猪原　光 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		高齢者歯科学	3通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
199	兼任	非常勤講師	ﾀﾅｶ ｹﾝｲﾁ 田中　健一 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		口腔疾患予防学	2通・3前	8	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
200	兼任	非常勤講師	ﾌｶﾜ ｱﾕﾐ 布川　あゆみ ＜令和6年10月＞		博士（社会学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
201	兼任	非常勤講師	ﾊｯﾄﾘ ｻﾄｼ 服部　聡 ＜令和6年10月＞		博士（臨床統計学）		生物統計学応用Ⅰ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
202	兼任	非常勤講師	ﾉﾏ ﾋｻｼ 野間　久史 ＜令和6年10月＞		博士（統計数理学）		生物統計学応用Ⅰ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
203	兼任	非常勤講師	ﾔｸﾞﾁ ﾏｻｴ 矢口　雅英 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		科学英語Ⅱ	2後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専任	教授	ｱｵｷ ｶｽﾞﾋﾛ 青木　和広 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		口腔保健と専門職 コミュニケーション学 グローバル口腔保健工学 グローバル口腔保健工学実習 感染予防 早期臨床体験実習 人体の構造と機能 歯の解剖学 口腔と全身の基礎医学 硬組織薬理学 研究体験実習 研究実習Ⅰ 研究実習Ⅱ 研究実習Ⅲ 多職種連携Ⅰ 口腔保健工学エクスターンシップ 口腔保健工学企業研修	1後 3前 2後 3前・後 1後 1後 1後 1後 2前・後 2前 1後 3後 4前・後 4前・後 1前 1・2・3・4前・後 4前・後	1 1 1 1 2 1 2 1 2 1 1 4 2 0.5 1 2	1 1 1 2 1 1 1 1 2 1 1 2 1 1 8 1	東京医科歯科大学 教授 （平成29年2月）	5日
2	専任	教授	ｶﾅｻﾞﾜ ﾏﾅﾌﾞ 金澤　学 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		グローバル口腔保健工学実習 早期臨床体験実習 高齢者歯科学 デジタルデンティストリー応用 全部床義歯補綴学 全部床義歯実習 デジタル全部床義歯実習 研究体験実習 研究実習Ⅰ 研究実習Ⅱ 研究実習Ⅲ 口腔保健工学エクスターンシップ 口腔保健工学企業研修	3前・後 1後 3後 3前 2前 2前 2前 1後 3後 4前・後 4前・後 1・2・3・4前・後 4前・後	1 1 2 1 1 2 2 1 1 4 2 1 2	2 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 8 1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年5月）	5日
3	専任	准教授	ｲﾜｷ ﾏｲｺ 岩城　麻衣子 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		グローバル口腔保健工学実習 早期臨床体験実習 高齢者歯科学 全部床義歯補綴学 全部床義歯実習 デジタル全部床義歯実習 部分床義歯補綴学実習 デジタル金属床義歯実習 小児歯科学実習 再建工学包括臨床実習Ⅰ 医療倫理 研究体験実習 研究実習Ⅰ 研究実習Ⅱ 研究実習Ⅲ 多職種連携Ⅱ 口腔保健工学エクスターンシップ	3前・後 1後 3後 2前 2前 2前 2後 3前 3後 3後 3後 1後 3後 4前・後 4前・後 3前 1・2・3・4前・後	1 1 2 1 2 2 4 2 1 3.5 1 1 1 4 2 0.5 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 8	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年4月）	5日

4	専任	准教授	ｵｵｷ ﾒｲｺ 大木　明子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		口腔保健と専門職 ヘルスプロモーション グローバル口腔保健工学 グローバル口腔保健工学実習 歯科技工士と法律 早期臨床体験実習 高齢者歯科学 臨床咬合学 顎顔面補綴学 顎補綴学実習 顔面補綴学実習 臨床義歯管理工学 スポーツ歯科学 顎関節症とオーラルアプライアンス 睡眠とオーラルアプライアンス 再建工学包括臨床実習Ⅰ 研究体験実習 研究実習Ⅰ 研究実習Ⅱ 研究実習Ⅲ 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ 口腔保健工学エクスターンシップ	1後 2前 2後 3前・後 4前 1後 3後 3前 3後 3後 3後 3後 4前 4前 4前 3後 1後 3後 4前・後 4前・後 1前 3前 4前 1・2・3・4前・後	1 1 1 1 1 1 2 1 2.5 1 1 1 1 3.5 1 1 4 2 0.5 0.5 1 1	1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 8	東京医科歯科大学 准教授 （平成23年4月）	5日
5	専任	講師	ｲｹﾀﾞ ﾏｻｵﾐ 池田　正臣 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		科学英語Ⅰ 科学英語Ⅱ 造形美術概論実習 グローバル口腔保健工学実習 口腔保健工学管理学 早期臨床体験実習 う蝕と歯周病 歯冠修復学 歯冠修復学実習 再建工学包括臨床実習Ⅰ 再建工学包括臨床実習Ⅱ 研究体験実習 研究実習Ⅰ 研究実習Ⅱ 研究実習Ⅲ 口腔保健工学エクスターンシップ	2前 3前 1後 3前・後 3前 1後 1後 2後 2後 3後 4前・後 1後 3後 4前・後 4前・後 1・2・3・4前・後	1 1 1 1 1 1 1 2 5 3.5 6 1 1 4 2 1	1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 2 1 1 2 1 8	東京医科歯科大学 講師 （平成23年4月）	5日
6	専任	助教	ｼｵｻﾞﾜ ﾏﾎ 塩沢　真穂 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		ヘルスプロモーション コミュニケーション学 造形美術概論実習 グローバル口腔保健工学実習 早期臨床体験実習 臨床咬合学 口腔保健理工学 口腔保健理工学実習 臨床義歯管理工学 部分床義歯補綴学 部分床義歯補綴学実習 再建工学包括臨床実習Ⅰ 研究体験実習 研究実習Ⅰ 研究実習Ⅱ 研究実習Ⅲ 口腔保健工学エクスターンシップ	2前 3前 1後 3前・後 1後 3前 2前 2前 3後 2後 2後 3後 1後 3後 4前・後 4前・後 1・2・3・4前・後	1 1 1 1 1 1 3 3 1 1 4 3.5 1 1 4 2 1	1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 8	東京医科歯科大学 助教 （平成29年5月）	5日
7	専任	助教	ｶﾐｼﾞｮｳ ｼﾝｺﾞ 上條　真吾 ＜令和6年10月＞		修士 （学術）		グローバル口腔保健工学実習 早期臨床体験実習 睡眠とオーラルアプライアンス 審美修復学実習 再建工学包括臨床実習Ⅰ 再建工学包括臨床実習Ⅱ 再建工学包括臨床実習Ⅲ 研究体験実習 研究実習Ⅰ 研究実習Ⅱ 研究実習Ⅲ 口腔保健工学エクスターンシップ	3前・後 1後 4前 3前 3後 4前・後 4前・後 1後 3後 4前・後 4前・後 1・2・3・4前・後	1 1 1 2 3.5 6 2 1 1 4 2 1	2 1 1 1 1 2 1 1 1 2 1 8	東京医科歯科大学 助教 （平成25年4月）	5日

8	専任	助教	ﾂﾁﾀﾞ ﾕｳﾐ 土田　優美 ＜令和6年10月＞		修士 (口腔保健学)		メディア情報学応用 グローバル口腔保健工学実習 早期臨床体験実習 画像解析学 歯の形態実習 口腔保健理工学実習 デジタルデンティストリー基礎 デジタルデンティストリー応用 歯冠修復学実習 デジタル歯冠修復学実習 デジタルデンティストリー実習 統合実習基礎 統合実習応用 研究体験実習 研究実習Ⅰ 研究実習Ⅱ 研究実習Ⅲ 口腔保健工学エクスターンシップ	1後 3前・後 1後 4前 2前・後 2前 2後 3前 2後 3前 4前 4後 4後 1後 3後 4前・後 4前・後 1・2・3・4 前・後	1 1 1 1 2 3 1 1 5 1 1 1.5 1 1 1 4 2 1	1 2 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 8	東京医科歯科大学 助教 (平成31年4月)	5日
9	兼担	教授	ﾎｳ ﾋﾞﾝ BAO MIN ＜令和6年10月＞		修士 (社会福祉学)		国際地域文化入門 人文社会科学特論 フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ 中国語Ⅰ 中国語Ⅱ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座	1前 1前 1前 1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前	2 2 2 2 2 2 1 2 1 1 1 1.5	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成31年4月)	
10	兼担	教授	ﾊﾟｸ ﾍｳｫﾝ PARK HEEWON ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		医療とAI・ビッグデータ応用 生物統計学応用Ⅱ 医療とAI・ビッグデータ入門	2前 1後 1後	1 1 2	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年6月)	
11	兼担	教授	ｲﾄｳ ﾏｻﾉﾘ 伊藤　正則 ＜令和6年10月＞		博士 (理学)		科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座	1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前	1 1 2 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成22年4月)	
12	兼担	教授	ﾖﾀﾞ ﾃﾂﾔ 依田　哲也 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		周術期手術支援工学	3前	1	1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年4月)	
13	兼担	教授	ｲｾｷ ｻﾁｺ 井関　祥子 ＜令和6年10月＞		博士 (学術)		人体の構造と機能	1後	2	1	東京医科歯科大学 教授 (平成25年8月)	
14	兼担	教授	ｳｵ ﾓﾄﾋﾛ 宇尾　基弘 ＜令和6年10月＞		博士 (工学)		口腔保健理工学	2前	3	1	東京医科歯科大学 教授 (平成23年4月)	
15	兼担	教授	ｶｷﾇﾏ ｾｲ 柿沼　晴 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (令和2年6月)	
16	兼担	教授	ｽﾐ ﾕｳｷ 角　勇樹 ＜令和6年10月＞		博士 (医学)		医療とAI・ビッグデータ応用 AI実践演習 医療とAI・ビッグデータ入門	2前 2通 1後	1 1 2	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成26年4月)	
17	兼担	教授	ｶﾊﾞｻﾜ ﾕｳｼﾞ 樺沢　勇司 ＜令和6年10月＞		博士 (歯学)		周術期手術支援工学 口腔と全身の基礎医学 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	3前 2前・後 1前 3前 4前	1 2 0.5 0.5 1	1 2 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 (平成29年2月)	

18	兼担	教授	ｲﾜﾅｶﾞ ｼﾞｮｳ 岩永　譲 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		口腔と全身の基礎医学	2前・ 後	2	2	東京医科歯科大学 教授 （令和4年7月）	
19	兼担	教授	ｲﾜﾀ ﾀｶﾉﾘ 岩田　隆紀 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		う蝕と歯周病	1後	1	1	東京医科歯科大学 教授 （平成31年2月）	
20	兼担	教授	ｲﾜﾓﾄ ﾂﾄﾑ 岩本　勉 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		小児歯科学	3後	1	1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年5月）	
21	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ﾏｻﾕｷ 吉田　雅幸 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		医療倫理	3後	1	1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
22	兼担	教授	ﾖｼﾀﾞ ﾅｵﾐ 吉田　直美 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成29年9月）	
23	兼担	教授	ﾊﾗﾀﾞ ﾋﾛﾕｷ 原田　浩之 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		周術期手術支援工学	3前	1	1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年4月）	
24	兼担	教授	ﾄﾊﾗ ﾊﾙｶ 戸原　玄 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		高齢者歯科学	3後	2	1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
25	兼担	教授	ｻｻｷ ﾖｼｺ 佐々木　吉子 ＜令和6年10月＞		博士 （看護 学）		多職種連携Ⅲ	4前	1	1	東京医科歯科大学 教授 （平成26年4月）	
26	兼担	教授	ﾊﾞﾝﾅｲ ﾋﾃﾞｵ 坂内　英夫 ＜令和6年10月＞		博士 （情報 理工 学）		医療とAI・ビッグデータ応用 医療とAI・ビッグデータ入門	2前 1後	1 2	1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
27	兼担	教授	ﾏﾂｵ ｺｳｲﾁﾛｳ 松尾　浩一郎 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		高齢者歯科学	3後	2	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年4月）	
28	兼担	教授	ｼﾐｽﾞ ﾋﾃﾞﾕｷ 清水　秀幸 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		医療とAI・ビッグデータ応用 生物統計学応用Ⅱ 医療とAI・ビッグデータ入門	2前 1後 1後	1 1 2	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年2月）	
29	兼担	教授	ｱｲﾀﾞ ｼﾞｭﾝ 相田　潤 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		口腔疫学基礎 疫学応用 感染予防	1前 1後 1後	1 1 2	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年8月）	
30	兼担	教授	ｵｵｶﾜ ﾘｭｳﾉｽｹ 大川　龍之介 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成31年4月）	
31	兼担	教授	ﾀｹｳﾁ ｶﾂﾕｷ 竹内　勝之 ＜令和6年10月＞		修士 （医科 学）		アントレプレナー教育	2・3・ 4通	1	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年4月）	
32	兼担	教授	ﾅｶﾊﾞﾔｼ ｼﾞｭﾝ 中林　潤 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 医療とAI・ビッグデータ応用 AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門	1通 1後 2通 3通 4通 1前 2前 1後 1後	1 2 1 1 1 1.5 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	

33	兼担	教授	ﾌｴｷ ｹﾝｼﾞ 笛木　賢治 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		部分床義歯補綴学	2後	1	1	東京医科歯科大学 教授 （令和3年9月）	
34	兼担	教授	ﾀﾅｶ ﾏｺﾄ 田中　真琴 ＜令和6年10月＞		博士 （生物科学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成28年6月）	
35	兼担	教授	ﾌｼﾞｲ ﾀﾂｵ 藤井　達夫 ＜令和6年10月＞		修士 （政治学）		人文社会科学概論 国際地域文化入門 政治学 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座	1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前	2 2 2 1 2 1 1 1 1.5	2 2 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年1月）	
36	兼担	教授	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾀｹｵ 藤原　武男 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		ポストコロナ社会における感染症対策 疫学基礎	1・2・3・4通 1前	1 1	1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成28年4月）	
37	兼担	教授	ﾅﾗ ﾏｻﾕｷ 奈良　雅之 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		化学基礎 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座	1前 1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前	1 1 1 2 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成22年4月）	
38	兼担	教授	ｸﾛﾔﾅｷﾞ ｶｽﾞﾖ 畔柳　和代 ＜令和6年10月＞		修士 （学術）		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1通 1通 1後 2通 3通 4通 1前 2・3・4通 1前 3前 4前	6 1 2 1 1 1 1.5 1～4 0.5 0.5 1	6 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成22年12月）	
39	兼担	教授	ﾋﾗｶﾜ ｱｷﾋﾛ 平川　晃弘 ＜令和6年10月＞		博士 （工学）		医療とAI・ビッグデータ応用 臨床試験方法論基礎 臨床試験方法論応用	2前 1前 1後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
40	兼担	教授	ｷﾉｼﾀ ｱﾂﾋﾛ 木下　淳博 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		医療とAI・ビッグデータ応用 メディア情報学基礎 医療とAI・ビッグデータ入門	2前 1後 1後	1 1 2	1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成25年8月）	
41	兼担	教授	ｷﾀﾆ ﾏｷｺ 木谷　真紀子 ＜令和6年10月＞		博士 （国文学）		人文社会科学概論 国際地域文化入門 民俗学 文学 社会心理学 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1前 1前 1前 1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前 1後	2 2 2 2 2 1 2 1 1 1 1.5 1	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
42	兼担	教授	ﾔｷﾞｼﾀ ｶｽﾞﾖｼ 柳下　和慶 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		フィジカルウェルビーイング フィットネスマネジメント 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座	1前 1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前	2 2 1 2 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和4年7月）	

43	兼担	教授	ｽｽﾞｷ ﾄｼﾋｺ 鈴木　敏彦 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		感染予防	1後	2	1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年7月）	
44	兼担	教授	ﾋｴﾀﾞ ﾐﾂﾉﾘ 檜枝　光憲 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 医療とAI・ビッグデータ 入門	1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前 1後	1 1 2 1 1 1 1.5 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成27年4月）	
45	兼担	教授	ｻｲﾄｳ ﾘｮｳｲﾁ 齋藤　良一 ＜令和6年10月＞		博士 （保健 学）		感染予防 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1後 1前 3前 4前	2 0.5 0.5 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年7月）	
46	兼担	教授	ﾀｶﾊｼ ｸﾆﾋｺ 髙橋　邦彦 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		生物統計学基礎 生物統計学応用Ⅰ 生物統計学応用Ⅱ 医療とAI・ビッグデータ 入門	1前 1後 1後 1後	1 1 1 2	1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （令和2年4月）	
47	兼担	教授	ﾀｶﾀﾞ ｶｽﾞｷ 髙田　和生 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		Moral and Political Philosophy for Medicine Leadership Negotiation Design Thinking オンライン異文化交流	1・2・ 3・4通 1・2・ 3・4通 1・2・ 3・4通 1・2・ 3・4通 1・2・ 3・4通	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 教授 （平成24年12月）	
48	兼担	准教授	ｷｬﾈﾙ ﾃﾞｲﾋﾞｯﾄ CANNELL DAVID ＜令和6年10月＞		PhD East Asian Languag es and Literat ures		教養選択科目	1通	1	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成26年6月）	
49	兼担	准教授	ｼﾞｬﾈﾙ ﾙﾈ ﾓﾛｽ JANELLE RENEE MOROSS ＜令和6年10月＞		准学士 （看 護）		International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L1-L3 On-demand International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L1-L3 On-line International Course for Clinical Dentistry (ICCD) Advanced グローバル口腔保健工学	2・3・ 4通 2・3・ 4通 4後 2後	1 1 0.5 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成26年2月）	
50	兼担	准教授	ｼﾞｪﾈｯﾄ ﾃﾞﾆｿﾝ JEANETTE DENNISSON ＜令和6年10月＞		修士 （理 学）		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 3通 4通 1前 2・3・ 4通	6 1 2 1 1 1 1.5 1～4	6 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成27年4月）	
51	兼担	准教授	ﾊﾟﾄﾘｯｸ ﾌｫｽ PATRICK FOSS ＜令和6年10月＞		博士 （言語 学）		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 3通 4通 1前 2・3・ 4通	6 1 2 1 1 1 1.5 1～4	6 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成22年4月）	
52	兼担	准教授	ｱｼﾀﾞ ﾋﾛｼ 芦田　浩 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		感染予防	1後	2	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成29年4月）	
53	兼担	准教授	ﾅｶﾞｲ ｼｹﾞﾉﾘ 永井　重徳 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		感染予防	1後	2	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年9月）	

54	兼担	准教授	ｺｼﾉ ｶｽﾞｷ 越野　和樹 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 医療とAI・ビッグデータ 入門	1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前 1後	1 1 2 1 1 1 1.5 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成19年4月）	
55	兼担	准教授	ｵｶﾀﾞ ﾀｸﾔ 岡田　卓也 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		Fundamentals of Global Health	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年4月）	
56	兼担	准教授	ｶﾈｺ ｴｲｼﾞ 金子　英司 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
57	兼担	准教授	ｲﾏﾂﾞ ﾖｳｺ 今津　陽子 ＜令和6年10月＞		博士 （看護 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和2年4月）	
58	兼担	准教授	ｻｻｷ ﾖｼﾕｷ 佐々木　好幸 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		メディア情報学基礎	1後	1	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
59	兼担	准教授	ﾏﾂﾔﾏ ﾕｳｽｹ 松山　祐輔 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		口腔疫学基礎 疫学応用 疫学応用	1前 1後 1後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年8月）	
60	兼担	准教授	ﾆｼﾔﾏ ｱｷﾗ 西山　暁 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		顎関節症とオーラルアプライアンス	4前	1	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年5月）	
61	兼担	准教授	ﾆｼｵ ﾐﾜｺ 西尾　美和子 ＜令和6年10月＞		博士 （保健 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和元年5月）	
62	兼担	准教授	ｶﾜｼﾏ ﾉﾌﾞﾕｷ 川島　伸之 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯冠修復学	2後	2	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和3年12月）	
63	兼担	准教授	ﾅｶｶﾞﾜ ﾐﾅ 中川　美奈 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
64	兼担	准教授	ｲﾉｺｼ ﾏｻﾅｵ 猪越　正直 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		高齢者歯科学	3後	2	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年10月）	
65	兼担	准教授	ｲﾉｸﾏ ｹｲｺ 猪熊　恵子 ＜令和6年10月＞		修士 （文 学）		英語Ⅰ 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 英語Ⅱ	1通 1通 1後 2通 3通 4通 1前 2・3・4通	6 1 2 1 1 1 1.5 1～4	6 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成24年4月）	
66	兼担	准教授	ﾂﾙﾀ ｼﾞｭﾝ 鶴田　潤 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成25年8月）	
67	兼担	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛｼ 渡邊　裕 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		画像解析学	4前	1	1	東京医科歯科大学 准教授 （平成23年4月）	

68	兼担	准教授	ﾄｸﾅｶﾞ ｼﾝｲﾁ 徳永　伸一 ＜令和6年10月＞		博士 （理学）		教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座 情報科学 医療とAI・ビッグデータ入門	1通 1後 2通 3通 4通 1前 1前 1後	1 2 1 1 1 1.5 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成19年4月）	
69	兼担	准教授	ﾅﾜ ﾉﾌﾞﾄｼ 那波　伸敏 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		ポストコロナ社会における感染症対策 医療とAI・ビッグデータ入門	1・2・3・4通 1後	1 2	1 1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年8月）	
70	兼担	准教授	ﾀﾁｶﾜ ﾉﾘｺ 立川　敬子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		インプラント歯科補綴学実習	3前	2	1	東京医科歯科大学 准教授 （令和4年1月）	
71	兼担	准教授	ｻﾜﾉ ﾖﾘｺ 澤野　頼子 ＜令和6年10月＞		博士 （農学）		化学基礎 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座	1前 1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前	1 1 1 2 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 准教授 （平成22年4月）	
72	兼担	講師	ｱﾝｻﾞｲ ﾀﾂﾋｺ 安齋　達彦 ＜令和6年10月＞		博士 （医療マネジメント学）		生物統計学基礎 生物統計学応用Ⅰ 生物統計学応用Ⅱ	1前 1後 1後	1 1 1	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年9月）	
73	兼担	講師	ｲｽﾐ ｱﾔ 伊角　彩 ＜令和6年10月＞		博士 （国際公共政策）		疫学応用	1後	1	1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年10月）	
74	兼担	講師	ｲﾂｲ ﾔｽﾋﾛ 井津井　康浩 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医療とAI・ビッグデータ入門 多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1後 1前 3前 4前	2 0.5 0.5 1	1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年4月）	
75	兼担	講師	ｵｶﾀﾞ ｴﾘｺ 岡田　英理子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		医療とAI・ビッグデータ入門	1後	2	1	東京医科歯科大学 講師 （平成26年4月）	
76	兼担	講師	ｺｳﾊﾞﾀ ﾋﾛｺ 甲畑　宏子 ＜令和6年10月＞		博士 （学術）		医療倫理	3後	1	1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年4月）	
77	兼担	講師	ﾔﾏｸﾞﾁ ｸﾐｺ 山口　久美子 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成23年4月）	
78	兼担	講師	ﾏﾂﾀﾞ ﾕｳﾍｲ 松田　悠平 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		ヘルスプロモーション	2前	1	1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年4月）	
79	兼担	講師	ﾀﾆ ﾕｶｺ 谷　友香子 ＜令和6年10月＞		博士 （生物科学）		疫学基礎 疫学応用	1前 1後	1 1	1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年7月）	
80	兼担	講師	ﾀｹｳﾁ ﾔｽｵ 竹内　康雄 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		感染予防 う蝕と歯周病	1後 1後	2 1	1 1	東京医科歯科大学 講師 （平成29年4月）	
81	兼担	講師	ﾁｭｳﾚｲ ﾋﾛｼ 中禮　宏 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		スポーツ歯科学	4前	1	1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年5月）	

82	兼担	講師	ｶﾀｷﾞﾘ ｻﾔｶ 片桐　さやか ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		人体の構造と機能	1後	2	1	東京医科歯科大学 講師 （令和2年4月）	
83	兼担	講師	ｷﾀｶﾞﾜ ﾉﾘｵ 北河　憲雄 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		口腔と全身の基礎医学	2前・ 後	2	2	東京医科歯科大学 講師 （令和4年9月）	
84	兼担	講師	ﾉｻﾞｷ ｺｳｽｹ 野崎　浩佑 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯冠修復学	2後	2	1	東京医科歯科大学 講師 （令和4年8月）	
85	兼担	講師	ﾄﾅﾐ ｹﾝｲﾁ 礪波　健一 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		コミュニケーション学	3前	1	1	東京医科歯科大学 講師 （平成25年8月）	
86	兼担	講師	ｾｷ ﾅｵｺ 關　奈央子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		Applied Critical Thinking for Health Sciences オンライン異文化交流 International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L1-L3 On-demand International Course for Clinical Dentistry (ICCD) L1-L3 On-line International Course for Clinical Dentistry (ICCD) Advanced	1・2・3・4通 1・2・3・4通 2・3・4通 2・3・4通 4後	1 1 1 1 0.5	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 講師 （令和3年4月）	
87	兼担	助教	ｱﾀﾞﾁ ﾅｵｺ 安達　奈穂子 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		ヘルスプロモーション	2前	1	1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年4月）	
88	兼担	助教	ｲﾉｳｴ ｺﾞｳ 井上　剛 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		う蝕と歯周病	1後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	
89	兼担	助教	ｼﾓｷﾞｼ ﾏｻﾋﾛ 下岸　将博 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		インプラント歯科補綴学実習	3前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
90	兼担	助教	ｴﾋﾞﾊﾗ ｱﾗﾀ 海老原　新 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		歯冠修復学	2後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成19年4月）	
91	兼担	助教	ｶﾔﾓﾘ ｺｳ 栢森　高 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		人体の構造と機能	1後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	
92	兼担	助教	ﾐﾔﾔｽ ｱﾝﾅ 宮安　杏奈 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		全部床義歯実習 デジタル全部床義歯実習	2前 2前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
93	兼担	助教	ｺﾏｶﾞﾐﾈ ﾕﾘｺ 駒ヶ嶺　友梨子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		全部床義歯補綴学	2前	1	1	東京医科歯科大学 助教 （平成26年4月）	
94	兼担	助教	ｻﾄｳ ﾋﾛﾕｷ 佐藤　宏征 ＜令和6年10月＞		博士 （工 学）		臨床試験方法論応用	1後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年4月）	
95	兼担	助教	ｶｼﾏﾀﾞ ｱﾔｺ 鹿島田　彩子 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		医療とAI・ビッグデータ入門	1後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成26年4月）	

96	兼担	助教	ｶﾂﾏﾀ ﾄｼｭｷ 勝又　敏行 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		化学基礎 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座	1前 1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前	1 1 1 2 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成19年4月）	
97	兼担	助教	ﾏﾂﾓﾄ ﾕｷﾋｻ 松本　幸久 ＜令和6年10月＞		博士 （理 学）		生物学基礎 科学基礎実験 教養選択科目 教養基礎セミナー 教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ 教養自由セミナーⅠ グローバル教養総合講座	1前 1前 1通 1後 2通 3通 4通 1前	2 1 1 2 1 1 1 1.5	1 1 1 1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年2月）	
98	兼担	助教	ﾇﾏｻﾜ ﾐﾂﾕｷ 沼沢　益行 ＜令和6年10月＞		学士 （医 学）学 士（薬 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年4月）	
99	兼担	助教	ｽﾅｶﾞ ﾏｻﾖ 須永　昌代 ＜令和6年10月＞		学士 （教 養）		メディア情報学基礎	1後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （平成22年4月）	
100	兼担	助教	ｽﾄﾞｳ ﾀｹｱｷ 須藤　毅顕 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		医療とAI・ビッグデータ応用 AI実践演習 AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門	2前 2通 1後 1後	1 1 2 2	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年9月）	
101	兼担	助教	ｽｷﾞﾓﾄ ｱｽﾅ 杉本　明日菜 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		小児歯科学実習	3後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年3月）	
102	兼担	助教	ｲｼﾏﾙ ﾐﾎ 石丸　美穂 ＜令和6年10月＞		博士 （医 学）		医療とAI・ビッグデータ応用 AI実践演習 口腔疫学基礎 AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門	2前 2通 1前 1後 1後	1 1 1 2 2	1 1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
103	兼担	助教	ｲｼﾔﾏ ﾋﾛﾕｷ 石山　裕之 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		睡眠とオーラルアプライアンス	4前	1	1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	
104	兼担	助教	ｲｼﾀﾞ ﾕｳｼﾞ 石田　雄之 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		矯正歯科学	3前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成30年4月）	
105	兼担	助教	ｿｳ ﾋﾀﾝ 曹　日丹 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		医療とAI・ビッグデータ応用 AI実践演習 AI・データサイエンスのための数学 医療とAI・ビッグデータ入門	2前 2通 1後 1後	1 1 2 2	1 1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年10月）	
106	兼担	助教	ﾉﾘﾀｹ ｶﾅｺ 則武　加奈子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯 学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成25年8月）	
107	兼担	助教	ﾄﾞｲ ｻﾄﾐ 土井　理美 ＜令和6年10月＞		博士 （臨床 心理 学）		疫学応用	1後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年10月）	

108	兼担	助教	ｸｽﾓﾄ ﾔｽｶ 楠本　康香 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		小児歯科学	3後	1	1	東京医科歯科大学 助教 （平成23年1月）	
109	兼担	助教	ｲｲﾀﾞ ﾖﾘﾂｸﾞ 飯田　頼嗣 ＜令和6年10月＞		修士 （理学）		アントレプレナー教育	2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年1月）	
110	兼担	助教	ｲｲﾉ ﾖｼｺ 飯野　由子 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		感染予防	1後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和2年3月）	
111	兼担	助教	ｷﾉ ｼﾎ 木野　志保 ＜令和6年10月＞		PhD in Epidemiology and Public Health		口腔疫学基礎 疫学応用	1前 1後	1 1	1 1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
112	兼担	助教	ﾉｸﾞﾁ ｱﾔｺ 野口　綾子 ＜令和6年10月＞		博士 （看護学）		多職種連携Ⅲ	4前	1	1	東京医科歯科大学 助教 （令和3年4月）	
113	兼担	助教	ｽｽﾞｷ ﾋﾛﾕｷ 鈴木　啓之 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		高齢者歯科学	3後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （令和4年4月）	
114	兼担	助教	ｽｽﾞｷ ﾋﾄﾐ 鈴木　瞳 ＜令和6年10月＞		博士 （口腔保健福祉学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	
115	兼担	助教	ﾊﾏ ﾖｳﾍｲ 濱　洋平 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		高齢者歯科学	3後	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	
116	兼担	歯科技工士	ｽｽﾞｷ ﾀﾂ 鈴木　達 ＜令和6年10月＞		専門士		顎関節症とオーラルアプライアンス	4前	1	1	東京医科歯科大学 歯科技工士 （平成26年4月）	
117	兼担	助教	ｺﾝ ｶｽﾞﾋﾛ 今　一裕 ＜令和6年10月＞		博士 （歯学）		インプラント歯科補綴学実習	3前	2	1	東京医科歯科大学 助教 （平成31年4月）	
118	兼任	非常勤講師	ｶｰﾙｿﾝ ﾚﾍﾞｯｶ ﾘﾝ Carlson Rebecca Lynn ＜令和6年10月＞		博士 （人類学）		Biosocial Research Topics	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
119	兼任	非常勤講師	ｵﾑ ｽﾝｼﾞｪ EOM SEUNGJAE ＜令和6年10月＞		修士 （理学）		情報科学	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
120	兼任	非常勤講師	ｲｿﾍﾞ ﾃﾂ 磯部　哲 ＜令和6年10月＞		博士 （医学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
121	兼任	非常勤講師	ｳﾀﾞｶﾞﾜ ﾏｺﾄ 宇田川　誠 ＜令和6年10月＞		修士 （文学）		教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ	2通 3通	1 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
122	兼任	非常勤講師	ﾅｶﾞﾀ ﾕｷｺ 永田　夕紀子 ＜令和6年10月＞		修士 （グローバル研究）		スペイン語Ⅱ	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
123	兼任	非常勤講師	ｵｼﾓﾄ ｶｽﾞﾄｼ 押元　一敏 ＜令和6年10月＞		修士 （芸術学）		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

124	兼任	非常勤講師	ｶｼﾞ ｼﾝﾔ 加地　真也 ＜令和6年10月＞		学士（体育）		フィットネスマネジメント	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
125	兼任	非常勤講師	ｲﾜｻ ﾔｽﾕｷ 岩佐　康行 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		高齢者歯科学	3後	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
126	兼任	非常勤講師	ﾖｼｵｶ ﾌﾐ 吉岡　文 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		顎顔面補綴学	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
127	兼任	非常勤講師	ｸﾎﾞﾀ ｺﾄ 久保田　木都 ＜令和6年10月＞		学士（美術）		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
128	兼任	非常勤講師	ﾐﾔｻﾞｷ ｻﾁｴ 宮崎　幸江 ＜令和6年10月＞		博士（Linguistics）		人文社会科学特論	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
129	兼任	非常勤講師	ﾐﾔﾀ ﾖｼﾔ 宮田　義矢 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		宗教学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
130	兼任	非常勤講師	ｺﾞﾗｲ ｱｽｶ 牛來　明日香 ＜令和6年10月＞		修士（体育科学）		フィジカルウェルビーイング フィットネスマネジメント	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
131	兼任	非常勤講師	ｸﾘﾀ ｹｲｺ 栗田　圭子 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
132	兼任	非常勤講師	ﾌﾙｶﾜ ﾀｶｺ 古川　高子 ＜令和6年10月＞		修士（学術）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
133	兼任	非常勤講師	ｺﾞﾄｳ ｱﾂｺ 後藤　敦子 ＜令和6年10月＞		博士（人文科学）		歴史学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
134	兼任	非常勤講師	ｺｳｶﾞ ﾏｻﾋﾛ 甲賀　真広 ＜令和6年10月＞		博士（日本語教育学）		日本語Ⅰ 日本語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
135	兼任	非常勤講師	ｱﾗｶﾜ ﾋﾛﾉﾘ 荒川　裕紀 ＜令和6年10月＞		博士（文学）		グローバル教養科目	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
136	兼任	非常勤講師	ﾀｶｸ ﾚｵ 高久　玲音 ＜令和6年10月＞		博士（商学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
137	兼任	非常勤講師	ｻｻｷ ﾐﾂﾔ 佐々木　充文 ＜令和6年10月＞		博士（文学）		スペイン語Ⅰ	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
138	兼任	非常勤講師	ｻﾄｳ ﾏｲ 佐藤　舞 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		心理学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
139	兼任	非常勤講師	ｻｻﾉｲ ﾓﾓ 笹野井　もも ＜令和6年10月＞		修士（美術学）		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

140	兼任	非常勤講師	ｻﾝｶ ﾏｻﾋﾛ 三家　雅弘 ＜令和6年10月＞		修士（理工学）		情報科学	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
141	兼任	非常勤講師	ﾐｶﾐ ﾘｮｳ 三上　亮 ＜令和6年10月＞		修士（美術学）		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
142	兼任	非常勤講師	ﾐﾀﾆ ｼﾞｭﾝｺ 三谷　純子 ＜令和6年10月＞		修士（Communications学）		文化人類学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
143	兼任	非常勤講師	ﾑﾛﾀ ﾅｵｺ 室田　尚子 ＜令和6年10月＞		修士（芸術学）		芸術	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
144	兼任	非常勤講師	ﾜｶﾏﾂ ｺｳｲﾁﾛｳ 若松　功一郎 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
145	兼任	非常勤講師	ﾏﾂﾓﾄ ﾐﾔ 松本　美耶 ＜令和6年10月＞		博士（文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
146	兼任	非常勤講師	ﾅﾘﾀ ﾋﾛｷ 成田　大起 ＜令和6年10月＞		修士（政治学）		社会思想史	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
147	兼任	非常勤講師	ｼﾐｽﾞ ﾁｶｺ 清水　千佳子 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		多職種連携Ⅱ	3前	0.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
148	兼任	非常勤講師	ｼﾐｽﾞ ｻﾄｼ 清水　智史 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
149	兼任	非常勤講師	ﾆｼｶﾜ ﾗﾝ 西川　蘭 ＜令和6年10月＞		博士（文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
150	兼任	非常勤講師	ｸﾗﾓﾁ ｼﾞﾝ 倉持　仁 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
151	兼任	非常勤講師	ｵｵﾀ ﾀｹﾄ 太田　岳人 ＜令和6年10月＞		博士（文学）		歴史学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
152	兼任	非常勤講師	ｵｵﾀ ﾏｻﾄ 太田　正人 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		歯の解剖学	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
153	兼任	非常勤講師	ｵｵｶﾞ ﾕｳｷ 大賀　祐樹 ＜令和6年10月＞		博士（学術）		哲学 倫理学	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
154	兼任	非常勤講師	ｵｵｸﾗ ﾋﾋﾞｷ 大倉　韻 ＜令和6年10月＞		修士（社会学）		社会学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
155	兼任	非常勤講師	ﾅｶｸﾞﾁ ｴﾂｼ 中口　悦史 ＜令和6年10月＞		博士（工学）		統計学	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

156	兼任	非常勤講師	ﾅｶﾔﾏ ﾄｼﾋﾃﾞ 中山　俊秀 ＜令和6年10月＞		博士（言語学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
157	兼任	非常勤講師	ﾂｶﾞｷ ﾏｻｵ 津垣　正男 ＜令和6年10月＞		博士（理学）		情報科学	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
158	兼任	非常勤講師	ﾀﾊﾗ ｼﾝｼﾞ 田原　慎二 ＜令和6年10月＞		博士（経済学）		経済学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
159	兼任	非常勤講師	ﾀﾅｶ ｱｶｼ 田中　丹史 ＜令和6年10月＞		修士（学術）		科学史	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
160	兼任	非常勤講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｶｽﾞｷ 渡辺　数基 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		グローバル教養総合講座	1前	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
161	兼任	非常勤講師	ﾌｼﾞｲ ｼｭﾝｺﾞ 藤井　俊吾 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
162	兼任	非常勤講師	ﾌｼﾞｴﾀﾞ ﾌﾐｴ 藤枝　史江 ＜令和6年10月＞		博士（人文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
163	兼任	非常勤講師	ﾄｸﾋｻ ﾐｵｺ 徳久　美生子 ＜令和6年10月＞		博士（社会学）		人文社会科学特論	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
164	兼任	非常勤講師	ﾆｶﾜ ﾋﾃﾞｷ 二川　浩樹 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		感染予防	1後	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
165	兼任	非常勤講師	ｲﾀｺﾞｼ ﾏｻﾋｺ 板越　正彦 ＜令和6年10月＞		修士（国際経営学）		アントレプレナー教育	2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
166	兼任	非常勤講師	ｲｲﾀﾞ ｽｸﾞﾙ 飯田　卓 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ	2通 3通	1 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
167	兼任	非常勤講師	ﾄﾋﾞﾀ ｱﾔｺ 飛田　綾子 ＜令和6年10月＞		修士（政治学）		法学	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
168	兼任	非常勤講師	ｵｻﾞﾜ ｼｮｳｺﾞ 尾澤　昌悟 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		顎顔面補綴学	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
169	兼任	非常勤講師	ｵﾓﾃ ﾀｶﾉﾘ 表　孝憲 ＜令和6年10月＞		修士（経営学）		アントレプレナー教育	2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
170	兼任	非常勤講師	ﾋﾗﾊﾀ ｺｳｲﾁ 平畑　光一 ＜令和6年10月＞		学士（医学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
171	兼任	非常勤講師	ﾐﾈｵ ﾄｼﾋｺ 峰尾　俊彦 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

172	兼任	非常勤講師	ﾎﾝﾀﾞ ﾏｻｶｽﾞ 本田　雅一 ＜令和6年10月＞		学士（経済）		フィジカルウェルビーイング フィットネスマネジメント	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
173	兼任	非常勤講師	ｵﾓﾃ ｶｽﾞﾔ 面　一也 ＜令和6年10月＞		修士（政治学）		教養セミナーⅠ 教養セミナーⅡ	2通 3通	1 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
174	兼任	非常勤講師	ﾓｸﾞｼ ｶｵﾙ 茂櫛　薫 ＜令和6年10月＞		博士（理学）		アントレプレナー教育	2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
175	兼任	非常勤講師	ﾉｸﾞﾁ ﾋﾛﾄ 野口　大斗 ＜令和6年10月＞		修士（学術）		英語Ⅰ	1通	6	6	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
176	兼任	非常勤講師	ﾊﾔｼ ﾏｻﾄｼ 林　政利 ＜令和6年10月＞		歯科技工士学校卒業		インプラント歯科補綴学実習	3前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
177	兼任	非常勤講師	ｸﾆｲ ｵｻﾑ 國井　修 ＜令和6年10月＞		博士（医学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
178	兼任	非常勤講師	ｸｫﾝ ﾃﾞｿﾝ 權　大聖 ＜令和6年10月＞		博士（現代アジア研究）		グローバル教養科目	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
179	兼任	非常勤講師	ｳｽﾞﾗﾊｼ ﾀﾂﾅﾘ 鵜橋　辰成 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		グローバル教養総合講座 アカデミック・リテラシー	1前 1後	1.5 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
180	兼任	非常勤講師	ﾀｶﾊｼ ﾕﾐﾎ 髙橋　優美穂 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		アカデミック・リテラシー	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
181	兼任	非常勤講師	ﾍﾞﾙﾁｬ ｱﾄﾞﾘｱﾝ ＢＥＲＣＥＡ ＡＤＲＩＡＮ ＜令和6年10月＞		博士（文学）		Japanese Culture and Society	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
182	兼任	非常勤講師	ｺｰﾘｽ ｼﾞｮﾅｻﾝ ＣＯＲＬＩＳＳ ＪＯＮＡＴＨＡＮ ＜令和6年10月＞		修士（人類学）		英語Ⅰ	1通	6	6	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
183	兼任	非常勤講師	ﾘｯﾄﾝ ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ﾄﾝﾌﾟｿﾝ ＬＩＴＴＥＮ ＣＨＲＩＳＴＯＰＨＥＲ Ｔ ＜令和6年10月＞		修士（教育学）		英語Ⅰ	1通	6	6	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
184	兼任	非常勤講師	ﾐﾔ ﾏﾙﾂｶ ＭＩＹＡ ＭＡＲＵＴＳＵＫＡ ＜令和6年10月＞		学士（環境資源科学）		英語Ⅰ	1通	6	6	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
185	兼任	非常勤講師	ﾘｰﾄﾞ ｼﾞｪｼｰ ﾗｲｱﾝ Ｒｅｅｄ Ｊｅｓｓｅ Ｒｙａｎ ＜令和6年10月＞		修士（教育学）		英語Ⅰ	1通	6	6	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
186	兼任	非常勤講師	ｳﾏﾘ ｱﾝﾊﾟﾛ ｱﾃﾞﾘﾅ Ｕｍａｌｉ Ａｍｐａｒｏ Ａｄｅｌｉｎａ ＜令和6年10月＞		博士（国文学）		グローバル教養科目	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
187	兼任	非常勤講師	ｴﾝ ｶｷ ＹＡＮＪＩＡ ＱＩ ＜令和6年10月＞		修士（言語学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ	1前 1前	2 2	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

188	兼任	非常勤講師	ｳﾘｭｳ ﾋﾛｼ 瓜生　博伺 ＜令和6年10月＞		専門学校卒業		デジタルデンティストリー応用	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
189	兼任	非常勤講師	ﾖｺﾔﾏ ｲｽﾞﾐ 横山　泉 ＜令和6年10月＞		博士（経済学）		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
190	兼任	非常勤講師	ﾐﾔｿﾞﾉ ｹﾝｲﾁ 宮園　健一 ＜令和6年10月＞		博士（農学）		化学基礎	1前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
191	兼任	非常勤講師	ｶﾈｺ ｶﾅｴ 金子　奏絵 ＜令和6年10月＞		修士（医療政策学）		研究実習Ⅰ	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
192	兼任	非常勤講師	ﾀｶﾊｼ ｹﾝ 高橋　健 ＜令和6年10月＞		歯科技工士学校卒業		口腔保健工学管理学	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
193	兼任	非常勤講師	ﾀｶﾊｼ ﾕﾐﾎ 高橋　優美穂 ＜令和6年10月＞		修士（文学）		グローバル教養総合講座	1前	1.5	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
194	兼任	非常勤講師	ｳﾙｼﾊﾗ ﾋｻｼ 漆原　尚巳 ＜令和6年10月＞		博士（社会健康医学）		生物統計学応用Ⅱ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
195	兼任	非常勤講師	ﾐｽﾞﾉ ﾃﾂﾔ 水野　哲也 ＜令和6年10月＞		修士（体育学）		フィジカルウェルビーイング	1前	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
196	兼任	非常勤講師	ｽｶﾞﾓﾘ ﾔｽﾀｶ 菅森　泰隆 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		硬組織薬理学	2前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
197	兼任	非常勤講師	ｶﾝﾉ ﾀｶﾋﾛ 菅野　貴浩 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		周術期手術支援工学	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
198	兼任	非常勤講師	ｾﾄ ﾋﾛﾕｷ 瀬戸　浩行 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		硬組織薬理学	2前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
199	兼任	非常勤講師	ﾎｼﾉ ﾀｶﾋﾛ 星野　崇宏 ＜令和6年10月＞		博士（学術）博士（経済学）		生物統計学応用Ⅰ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
200	兼任	非常勤講師	ｱｵｷ ｼｭｳﾏ 青木　秀馬 ＜令和6年10月＞		学士（口腔保健学）、修士（機械工学）		臨床義歯管理工学	3後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
201	兼任	非常勤講師	ｱｵｷ ﾘｮｳｲﾁ 青木　亮一 ＜令和6年10月＞		技工士学校卒業		デジタル歯冠修復学実習	3前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
202	兼任	非常勤講師	ｶﾜｶﾐ ﾁﾊﾙ 川上　千春 ＜令和6年10月＞		博士（看護学）		多職種連携Ⅰ 多職種連携Ⅱ 多職種連携Ⅲ	1前 3前 4前	0.5 0.5 1	1 1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
203	兼任	非常勤講師	ﾅｶﾉ ﾌﾐｵ 中野　文夫 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		口腔保健理工学実習	2前	3	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	

204	兼任	非常勤講師	ｱﾏﾉ ﾋﾄｼ 天野　均 ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		硬組織薬理学	2前	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
205	兼任	非常勤講師	ﾊﾌﾞ ﾒｲｱﾅ 土生　メイアナ ＜令和6年10月＞		博士（歯学）		口腔保健理工学実習	2前	3	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
206	兼任	非常勤講師	ﾋｸﾞﾁ ｶｽﾞﾋﾃﾞ 樋口　和秀 ＜令和6年10月＞		修士(MBA) 修士（スポーツ科学）		コミュニケーション学 早期臨床体験実習	3前 1後	1 1	1 1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
207	兼任	非常勤講師	ﾌｶﾜ ｱﾕﾐ 布川　あゆみ ＜令和6年10月＞		博士(社会学)		ポストコロナ社会における感染症対策	1・2・3・4通	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
208	兼任	非常勤講師	ﾊｯﾄﾘ ｻﾄｼ 服部　聡 ＜令和6年10月＞		博士(臨床統計学)		生物統計学応用Ⅰ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
209	兼任	非常勤講師	ﾉﾏ ﾋｻｼ 野間　久史 ＜令和6年10月＞		博士(統計数理学)		生物統計学応用Ⅰ	1後	1	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	
210	兼任	非常勤講師	ｽｽﾞｷ ｼﾎ 鈴木　志穂 ＜令和6年10月＞		博士(生命科学)		感染予防	1後	2	1	東京医科歯科大学 非常勤講師 （令和6年10月）	